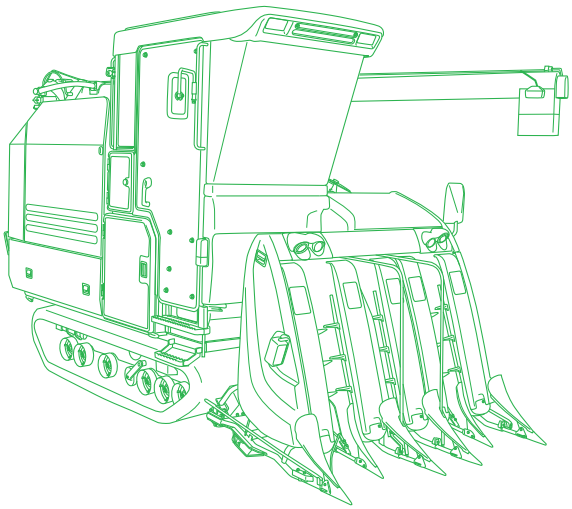
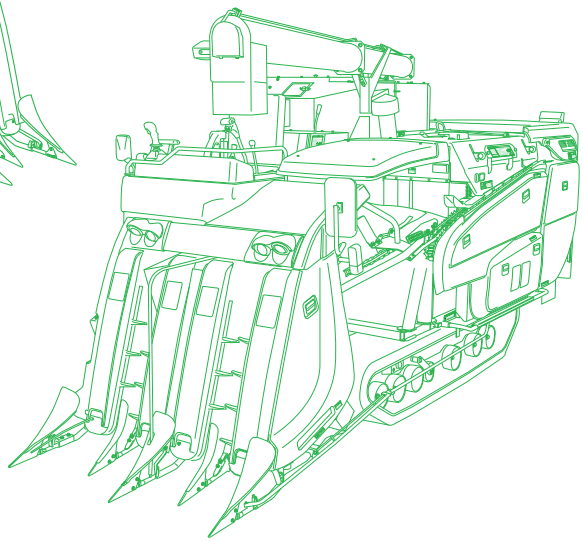
コンバイン

取扱説明書

VG563



VY463



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびはコンバインをお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は，機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れのしかた，また，守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管し，いつでも読めるようにしてください。（保管場所は 5 ページ参照）
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が，機械と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は稲・麦の収穫作業に使用してください。
・上記作業以外には使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は保証の対象になりません。（詳細は保証書をご覧ください。）

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください！

この取扱説明書は，次のように構成されています。まず，**安全作業のために**からお読みいただき，基本事項から操作，点検まで機械の正しい取扱い方を理解してください。

ページ

● **安全な作業をするための注意事項は？** **安全作業のために** 安全作業説明編

安全な作業をしていただくために，安全に関する基本事項，表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

● **使用前に知っておかなければならないことは？** **ご使用まえに** 1

機械の概要「**仕様（装備）**」等について説明しています。

● **各部のはたらきを知るには？** **各部のはたらき** 6

各部の主な名称，操作レバー，装置の取扱いを説明しています。

● **コンバインを動かすには？** **運転のしかた** 34

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
運転操作のしかた：エンジンの始動，走行のしかた，自動車への積込み・積降ろしのしかた等を説明しています。

● **収穫作業を行うには？** **作業のしかた** 43

コンバイン作業の基本操作を説明しています。作物の条件やほ場条件にあった機械の調整をして，上手な収穫作業をしてください。

● **自動装置を使用して作業するには？** **自動装置について** 72

各自動装置の取扱いについて説明しています。

● **キャビン仕様機の取扱いは？** **キャビンについて** 82

各装置の取扱いについて説明しています。

● **機械を長もちさせるには？** **手入れのしかた** 92

機械をいつも正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。
「**定期点検整備表**」に従って保守，点検してください。

● **機械を3ケ月以上格納するときは？** **長期格納のしかた** 171

機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

● **故障かなと思ったら？** **不調時の処置** 174

作業中のトラブルや不調，異常を感じた時はすぐ原因を調べ処置してください。

● **諸元・関連部品？** **付　　表** 187

機械に係る諸元表・消耗部品等を一覧表で説明しています。

もくじ

安全作業のために……(安-1)～(安-23)

(安全作業説明編)

ご使用まえに……1

1．保証とサービスについて…… 1

2．仕様（装備）について…… 2

3．用語について…… 4

4．小型特殊自動車について…… 5

1．小型特殊自動車の届出…… 5

2．公道走行するために…… 5

各部のはたらき……6

1．各部の名称…… 6

2．運転装置の取扱い…… 7

1．スイッチ・計器関係…… 7

2．ペダル・レバー関係……18

3．電装関係……31

運転のしかた……34

1．運転まえの点検……34

2．エンジンの始動と停止……36

1．エンジン始動のしかた……36

2．エンジン停止のしかた……36

3．走行・停車のしかた……37

1．走行のしかた……37

2．停車のしかた……39

4．自動車への積込み・積降ろし……40

1．自動車・アユミについて……41

2．機械の積込み要領……42

5．ほ場への出入り……42

1．ほ場への出入りのしかた……42

作業のしかた……43

1．作業まえの準備……43

1．作物の条件について……43

2．ほ場の条件について……43

3．ほ場の準備……44

4．機械の準備……44

2．刈取り作業のしかた……50

1．刈取り操作の手順……50

2．作業速度の選びかた……52

3．刈取り手順……53

4．こく粒の排出操作方法……56

5．グレンタンク補助樋口の取扱い……61

6．ツインハーモニー……62

7．リフトシャットの取扱い……63

8．夜間作業 ……63

9．エンジン自動停止の取扱い……64

10．手こぎ作業……65

11．エンジン停止スイッチの取扱い……66

12．刈取り作業終了後の取扱い……67

13．警報装置について……68

3．ワラ処理部の取扱い……69

1．カッタ作業……69

2．排ワラ作業……70

4．麦刈り作業時の調整のしかた……71

1．選別ダイヤルの調節……71

2．こぎ胴回転数のセット……71

3．引起し変速のセット……71

5．刈刃の高さ調節のしかた……71

自動装置について……72

1．こぎ深さ自動制御……72

1．運転装置……72

2．こぎ深さセンサの調整……73

3．こぎ深さ自動制御が使えない条件……73

2．方向自動制御［ディーラーオプション］…73

1．運転装置……73

2．自動での作業のしかた……74

3．方向自動制御の使えない条件……74

3．刈高さポジションコントロール……75

1．運転装置……75

2．自動での作業のしかた……75

3．手動での作業のしかた……76

4．水平自動制御……76

1．運転装置……76

2．自動での作業のしかた……77

5．選別自動制御……77

1．運転装置……77

6．排出オーガ自動制御……78
1．運転装置……79
7．送じん量自動調節……80
8．マイコン（マイクロコンピュータ）……81

キャビンについて［キャビン仕様］…82
1．各部の名称……82
2．各部の取扱い……83
1．ドア・ウインドウの開閉のしかた……83
2．スイッチ類の取扱い ……85
3．室内装備の取扱い ……86
4．エアコン ……87
5．モニタの取扱い ……90

手入れのしかた……92
1．定期点検整備……92
「定期点検整備表」……92
2．給油・注油・給水のしかた……94
「給油・注油・給水表」……95
1．燃料の補給……96
2．エンジンオイル・オイルフィルタの点検・交換 …96
3．ラジエータ冷却水の点検・交換 ……98
4．トランスミッションケースのオイル点検・交換 …99
5．油圧作動油の点検・交換および油圧オイル
フィルタ・HST（走行・搬送）オイルフィルタの交換… 100
6．脱こくギヤケースのオイル点検・交換… 102
7．こぎ胴ギヤケース…… 102
8．吸引ファンギヤケース…… 103
9．搬送HSTギヤケース …… 103
10．グレン入力ギヤケースのオイル点検･補給 … 104
11．集中注油タンク…… 104
12．給脂個所…… 104
13．ウォッシャタンク［キャビン仕様］… 105
14．各部の注油…… 106
15．集中注油装置の使い方…… 107
3．各部の点検と掃除のしかた…… 108
1．ラジエータ吸気部の掃除…… 108
2．エアクリーナの掃除…… 109
3．燃料フィルタの掃除・交換…… 110
4．燃料のエア抜きのしかた…… 111
5．ソレノイドバルブのフィルタの点検と掃除 … 112
6．エアフローセンサの点検と掃除…… 112
7．電気配線の点検と掃除…… 114
8．バッテリの点検と充電…… 114
9．グレンタンクの回動のしかた…… 119
10．こぎ胴部の開閉のしかた…… 121
11．脱こく内部の掃除…… 122
12．カッタのオープンのしかた…… 126
13．切替板の開閉のしかた…… 127
14．揺動流板の掃除…… 127
15．グレンタンク部の掃除…… 132
16．刈取部の開閉のしかた…… 133
4．各部の点検と部品交換のしかた…… 139
1．カッタ刃組品の取外しと分解…… 139
2．爪の交換のしかた…… 147
3．ホース類の点検と交換…… 147
4．ワラ切カマの手入れ…… 148
5．こぎ歯の点検と交換…… 149
6．刈刃…… 150
5．各部の点検と調整のしかた…… 151
「レバー・ペダルの点検・調整」
1．走行クラッチペダル・駐車ブレーキ… 152
2．脱こく・刈取クラッチ…… 153
3．カッタ・排ワラ切替レバー…… 154
「ベルトの点検・調整」
4．走行ベルト…… 155
5．コンプレッサ［キャビン仕様］…… 155
6．かき込みベルト（刈取部）…… 156
7．脱こく入力ベルト…… 157
8．こぎ胴伝動ベルト…… 157
9．こぎ胴ベルト…… 158
10．選別ベルト…… 158
11．１番ラセン駆動ベルト…… 159
12．排ワラ駆動ベルト…… 159
13．カッタベルト…… 160
14．グレン入力ベルト…… 160
15．横ラセン駆動ベルト…… 161
16．こく粒排出レバー…… 161
17．ファンベルト（オルタネータ）…… 162

18. ファンベルト（ラジエータ）…… 162
「チェンの点検・調整」
19. 株元搬送チェン(右)［5条型］…… 163
20. 株元搬送チェン(左)［5条型］…… 163
21. 株元搬送チェン(中)［5条型］…… 163
22. 株元搬送チェン(右)［4条型］…… 164
23. 株元搬送チェン(左)［4条型］…… 164
24. かき込み搬送チェン（左・中）
左［5条型・4条型］,中［5条型］…… 165
25. 穂先搬送チェン…… 165
26. 補助搬送チェン（上）…… 166
27. 引起しチェン…… 166
28. こぎ深さ搬送チェン…… 167
29. 脱こくフィードチェン…… 167
30. 穂先排ワラチェン…… 168
31. 排ワラチェン…… 168
32. 拡散装置駆動チェン…… 169
「クローラの点検・調整」
33. クローラ…… 170

長期格納のしかた ……171
1．機械の掃除と洗浄…… 171
2．錆止めと注油…… 171
3．エンジンの手入れ…… 171
4．点検・整備…… 171
5．格納…… 172
6．再使用にあたって…… 173

不調時の処置 ……174
1．エンジン部…… 174
2．走行・運転操作部…… 176
3．電気・自動制御部…… 178
4．刈取部 …… 179
5．脱こく部…… 180
6．ワラ処理部…… 183
7．グレンタンク部…… 184
8．キャビン部［キャビン仕様］ …… 185
9．モニタ…… 186

付　　表 ……187
1．主要諸元…… 187
2．ベルト一覧表…… 188
3．主な消耗部品…… 189
1．爪関係…… 189
2．カッタ関係…… 191
3．ヒューズ…… 191
4．刈刃・カマ関係…… 192
4．付属品一覧表…… 194
5．アタッチメント（別売り） …… 194
6．潤滑油について…… 195
1．エンジンオイル…… 195
2．油圧作動油…… 195
3．ギヤオイル…… 195
7．コンバイン関連商品…… 196

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

1．安全作業のしかた……（安-1）

⚠作業前に次のことを守りましょう！……（安-1）

⚠安全作業のポイント……（安-2）

⚠作業前の一般的な注意事項……（安-4）

⚠点検・整備及び掃除をするときは……（安-5）

⚠エンジンを始動するときは……（安-9）

⚠路上走行をするときは……（安-10）

⚠自動車への積込み・積降ろしをするときは……（安-12）

⚠ほ場で作業をするときは……（安-13）

⚠１日の作業が終わったら……（安-16）

⚠長期格納するときは……（安-17）

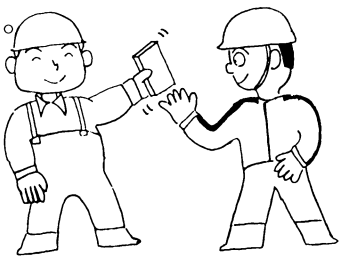
2．表示ラベルについて……（安-18）
（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）

安全作業のために

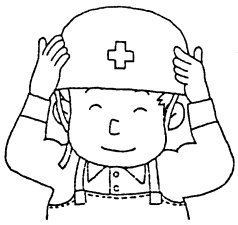
1．安全作業のしかた

・安全上の重要な事項を，⚠危険 ⚠警告 ⚠注意の3段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し，安全作業に努めてください。
・なお，この項の安全作業の説明は，**コンバイン全般**についてのものです。これ以外にも本文の中でも同様に説明していますので，よく読んで必ず守ってください。

⚠作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は，運転しないでください。 ●酒気を帯びた人 ●妊娠している人 ●16才未満の人 ●指導者のいない運転未熟練者 ●過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 ◆運転する人は，健康に気をつけて適当な睡眠と休憩をとってください。	誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。  	このような服装は，衣服が回転部に巻込まれたり，足を滑らせたりして，思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は，取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。 	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。

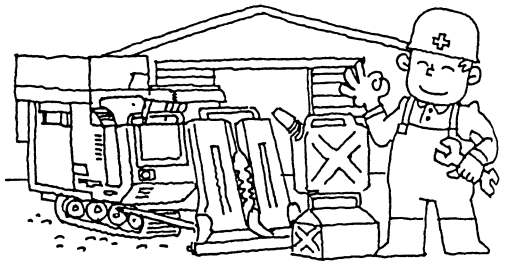
安全作業のポイント

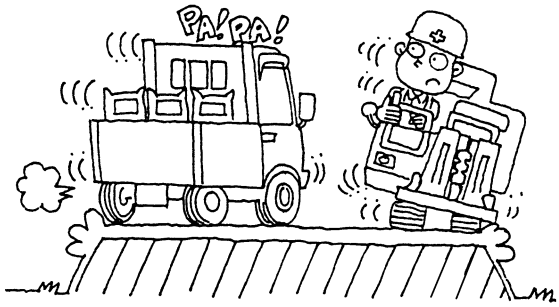


- 取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転をする。

始業・点検　準備点検

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する。
- 機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら，新しいラベルに貼り替える。
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する。
- バッテリコードや電気配線，燃料ホースを点検する。
- 集中注油作業時は，運転者以外の人を機械に近づけない。
- 給油，冷却水の点検は，エンジンが冷えているときに行う。
- 燃料補給時は，エンジンを停止し，火気を近づけない。
- 方向指示器などの保安部品の作動を確認する。
- 刈取部を上げて掃除や点検をするときは，油圧を固定して刈取部の下に固定脚を置く。
- 機械は改造しない。
- 機械の制御系に影響を与える可能性がありますので，業務用無線やアマチュア無線等の無線機器を設置しない。





エンジン始動

- 始動前にすべてのカバーを取付ける。
- 駐車ブレーキをかけ，各操作レバーを《N》《中立》または《切》にする。
- 屋内で始動するときは，窓や戸を開けて換気をする。
- 機械の周囲から人を遠ざける。
- エンジンの始動は，座席に座って行う。
- 始動のときは，周囲の人に「合図」をする。

走行・運転

- 刈取部先端部にバンパを取付ける。
- ナローガイド，排出オーガを収納する。
- 機械に子供など，人や物を乗せない。
- 走行する前に，グレンタンク内のこく粒をすべて排出する。
- 発進時は，周囲を確かめる。
- 走行時の旋回は，低速で行う。
- 後進時は，後方を確認する。
- 急発進，急ブレーキ，急旋回はしない。
- わき見運転や手放し運転をしない。
- パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にする。
- 運転中は，子供など，人を機械に近づけない。

道路（公道）走行

- ナンバープレートの交付を受ける。
- 運転免許証を携帯し，交通法規を守る。
- 取扱説明書で指定された作業機以外は取外す。
- 前後左右を確認し，低速車線を走る。
- 夜間走行は，前照灯をつける。（作業灯は消す）
- 走行中に飛び乗り，飛び降りはしない。

狭い農道・凸凹道・坂道の走行

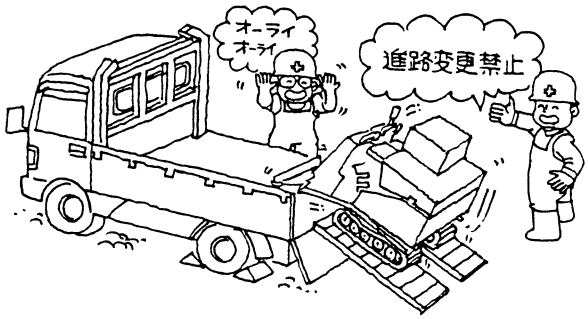
- 速度を落として走行する。
- 対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しない。
- 急な坂道でのギヤ変速操作はしない。
- 下り坂では，速度を下げて走行する。
- 急傾斜地は，走行しない。
- 坂道での旋回は，低速で行う。

停車・駐車

- 平坦な場所で刈取部を下げて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する。
- 副変速は，［標準］に入れておく。
- 傾斜地では，駐車しない。
  （やむを得ず駐車するときは，歯止めをする）
- 機械を離れるときは，始動キーを抜取る。

自動車への積込み・積降ろし

- アユミはじゅうぶんな強度，長さ（荷台の高さの 4 倍以上），幅（クローラが外れない幅）すべり止め，フック付きを使用する。
- アユミは自動車の荷台に平行にかけ，フックが外れないことを確認する。
- 周囲を確認し，機械の周囲には人を近づけない。
- パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチは《切》にする。
- 積込みは前進，積降ろしは，後進で低速で行う。
- アユミの上では，進路変更や変速操作をしない。
- キャビン仕様以外は機械から降りて行う。



ほ場作業　ほ場の出入り

- グレンタンク内のこく粒を排出して行う。
- 副変速は，標準であぜに対して直角に行う。
- あぜ，溝，急傾斜を越すときは，アユミを使用し，機械から降りて行う。
- あぜが崩れないことを確認しゆっくり行う。

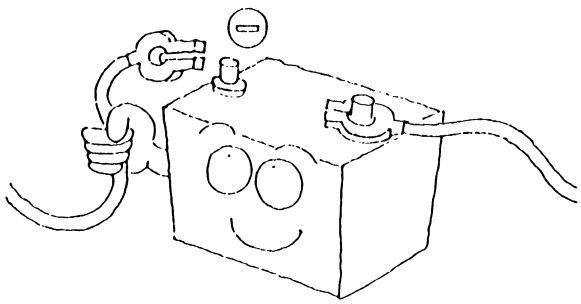


ほ場での作業

- エンジン始動，クラッチ《入》の前には，周囲を確認する。
- 刈取り作業は，機械の周囲に子供など，人を近づけない。
- 旋回時は，周囲の状況を確認し，低速で行う。
- 排出オーガの排出口内に手を入れない。
- 排出オーガの操作は，運転席から周囲の安全をよく確認してから行う。
- 運転走行中の乗り降りはしない。
- 過労にならぬよう余裕をもって，作業の間に休憩を入れる。
- あぜぎわでの旋回時は，周囲を確認する。
- ノッタの結束紐を交換するときは，エンジンを停止する。[ノッタ仕様]
- ノッタのそばに，手や身体を近づけない。[ノッタ仕様]

手こぎ作業

- パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《脱こく》にして，走行を停止して行う。
- 手袋は，使用しない。
- 手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れない。
- カッタの切ワラが溜まったら，手こぎを中断して移動する。
- ワラクズの近くに，機械を停止しない。



作業中途の点検

- 平坦な場所で刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する。
- 詰まりなどの異常時には，エンジンを停止して行う。
- こぎ胴部を開いたらストッパをかける。
- カッタやグレンタンクをオープンしたときは，ストッパをかける。
- 取外したカバー類は，すべて取付けて作業を始める。

終業・格納　1日の作業が終わったら

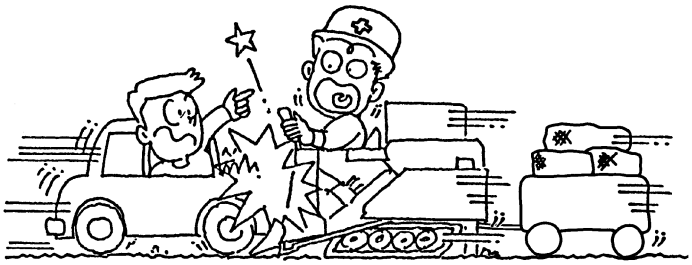
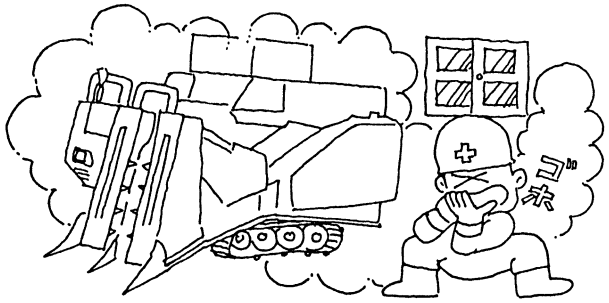
- 平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけて歯止めをする。
- 始動キーを抜取っておく。
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する。
- マフラやラジエータなどは，冷えるまで直接触れない。
- シートカバーは，エンジンが冷えてからかける。

長期格納

- 1シーズンごとに定期点検をする。
- 燃料コックを閉じる。
- バッテリコードの「㊀側」を外すか，バッテリを取外す。
- 平坦な場所で刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて，クローラに歯止めをする。

⚠作業前の一般的な注意事項

必 ず 守 っ て く だ さ い → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆機械を稲や麦の収穫作業以外には，使用しないでください。	思わぬ傷害事故を引起こす原因になります。 
⚠警告 ◆機械は，改造しないでください。	機械の機能に悪影響を与えるだけでなく，人身事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆毎日の運転まえには,「運転まえの点検表」の項目を点検し，異常があれば整備してから運転してください。 ◆１年ごとに定期点検整備を行い，各部の保守を行なってください。	整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆屋内での始動は，窓や戸を開けて換気してください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害を起こしたり，死亡することがあります。 

⚠点検・整備及び掃除をするときは……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠危険

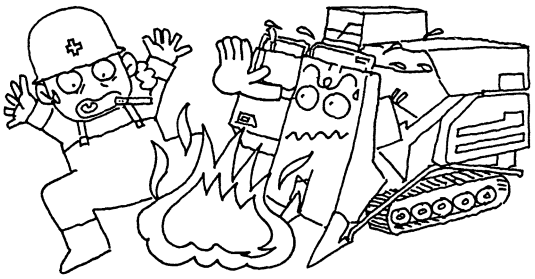
◆燃料補給時は，くわえタバコなど火気を近づけないでください。

- 燃料を補給したときは，燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいに拭き取る。
- エンジン回転中や，エンジンが熱い間は給油，注油をしない。

◆燃料ホースの破損や燃料漏れがないか，点検してください。

- 燃料ホースは 2 年ごとに交換する。

燃料などに引火し，火傷や火災の原因となることがあります。



⚠警告

◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，各部の回転が止まってから行なってください。

機械が動き出し，思わぬ事故を起こすことがあります。

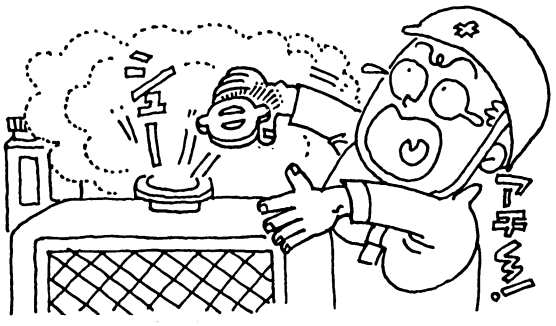


⚠警告

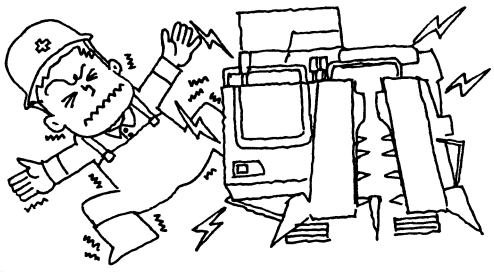
◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。

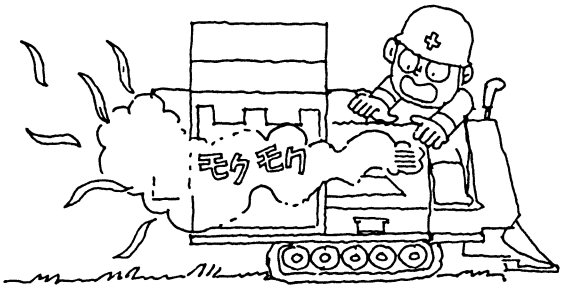
- ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。
- 冷却水の点検は，補助タンクで行う。

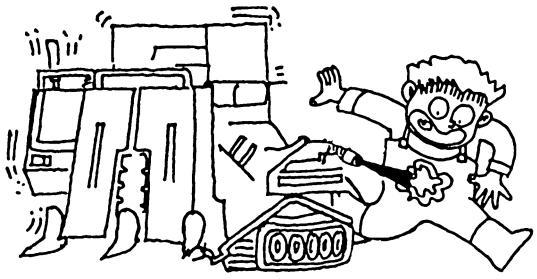
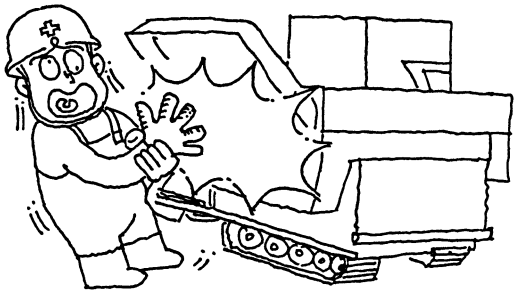
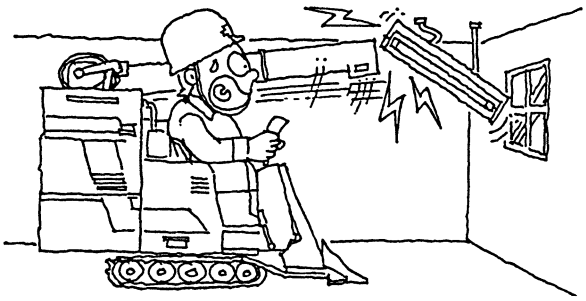
熱湯が吹きだし，火傷することがあります。



必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

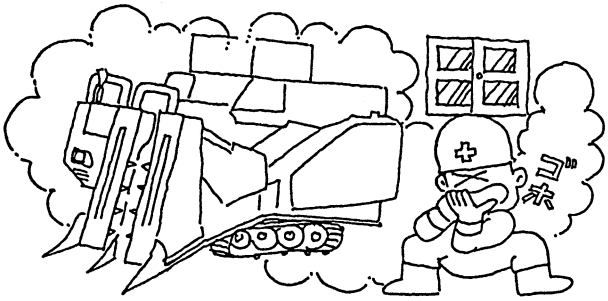
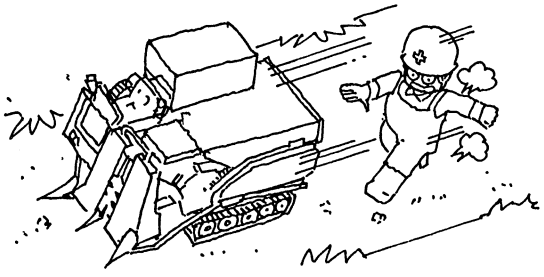
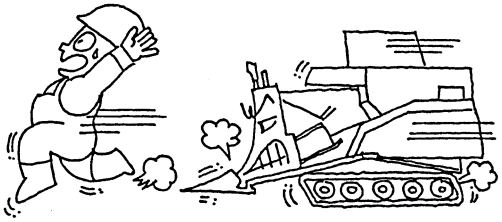
⚠危険 ◆バッテリの点検時，火気（タバコ・ライターなど）を近づけないでください。	バッテリから水素ガスが出ますので，引火により爆発して，傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠危険 ◆バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。 ◆バッテリ液が，目，皮膚，衣服，物に付いたときは，すぐに多量の水で洗い，飲み込んだときは，すぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは，医師の診断を受けてください。	バッテリ液（希硫酸）で服が破れたり，失明や火傷をすることがあります。 
⚠警告 ◆バッテリ端子からコードを取外すときは，㊀側を先に取外してください。取付けは㊉側を先に取付けてください。 ●バッテリは，指定されたバッテリを使用する。 ●㊉，㊀を逆に接続しない。	ショートして，火傷や火災の原因となります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆電気配線が他の部品に接触していないか，剥れや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。 ● クランプや固定金具のゆるみがないか点検する。	火災事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲にワラクズやゴミなどが付着していないか，作業前に点検して，付着していれば取除いてください。 ● ベルトカバー内のワラクズを取除く。	火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆方向指示器などの保安部品の作動確認は，機械を動かす前に行なってください。	交通事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆マルチステアリングレバーの効き具合や，片効きなどがないか点検し，異常であれば「お買いあげ先」で整備を受けてください。	正常な走行ができず，事故を引起こす原因となります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆油圧関係の部品を点検したり取外す前に，エンジンを停止し，油圧リフト部をいっぱい下げた状態にして，残圧を抜いてから作業をしてください。 ◆もし，高圧噴油に触れたら，直ちに医師の診断を受けてください。	圧力がかかって噴出した油は，皮膚に浸透し傷害の原因になります。 油が皮膚に浸入した場合，取除かないと壊疽（えそ）になる恐れがあります。 
⚠注意 ◆点検・整備などで外したカバーなどは，すべて取付けてください。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こすことがあります。 
⚠注意 ◆排出オーガの作動確認は，周囲にゆとりのある広い場所で行なってください。 ●屋外では，電線などに引掛けない。	屋内などの狭い場所で旋回すると，排出オーガの先端で電灯などを引掛けて，損害事故を起こすことがあります。 

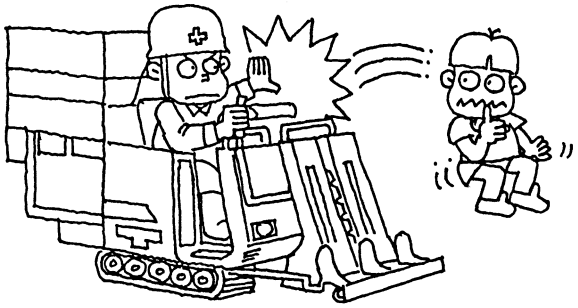
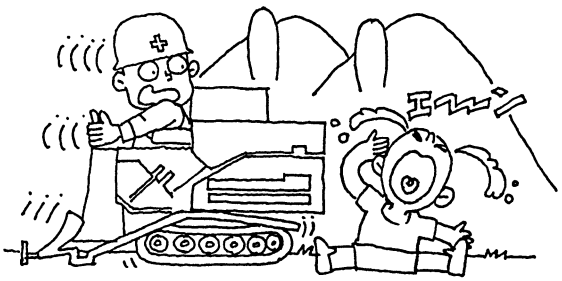
⚠エンジンを始動するときは……

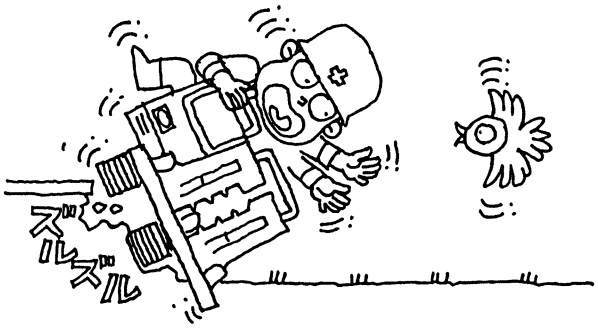
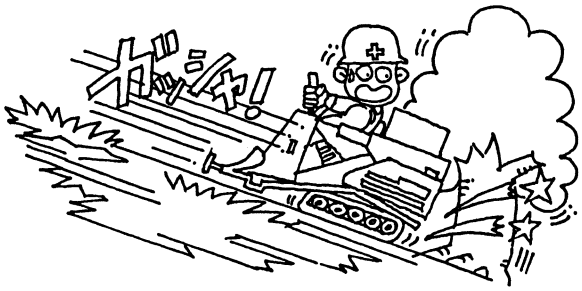
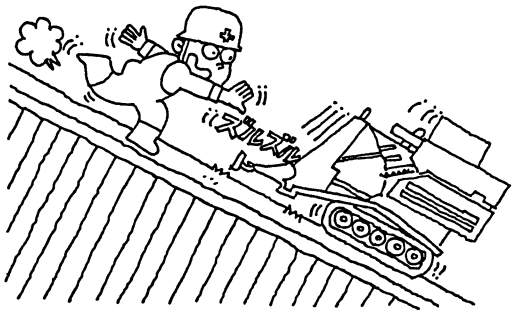
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆屋内での始動は，窓や戸を開けて換気をしてください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害を起こしたり，死亡することがあります。 
⚠警告 ◆駐車ブレーキをかけてください。 ◆変速を《N》《中立》にしてください。 ◆取外したカバーなどは，すべて取付けてください。 ●変速レバーが《N》《中立》になっているか手で動かして確認する。 ●周囲を確認し，合図してから始動する。	変速やクラッチが入っていると機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆始動は，運転席の座席に座って行なってください。	機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆暖機運転は，駐車ブレーキをかけ，主変速，副変速を《N》《中立》，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にして行なってください。	急に発進したりして，思わぬ事故の原因となります。 

⚠路上走行をするときは……

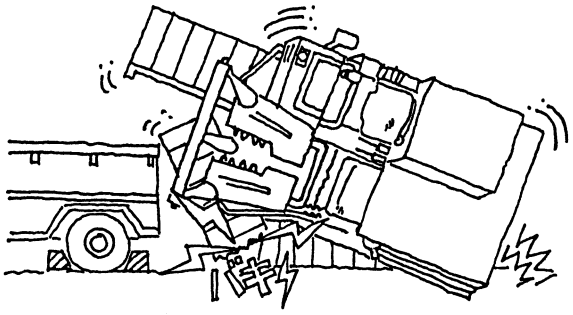
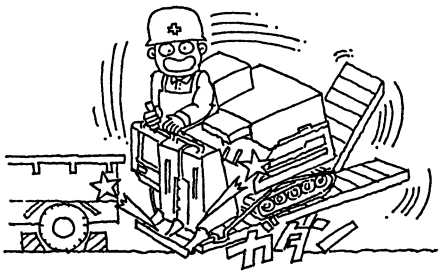
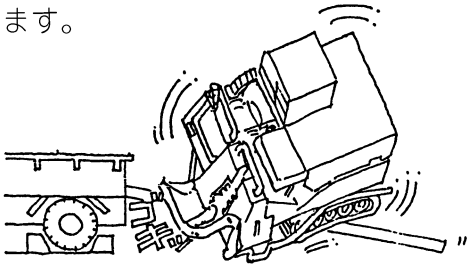
必 ず 守 っ て く だ さ い → **守らないとこんな事故が！**

⚠警告 ◆路上走行時は，交通法規を守り，ヘルメットを着用してください。 ●夜間の走行は，前照灯をつけ，作業灯は消す。	思わぬ傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆子供など，人や物を機械に乗せないでください。 ●荷物は，別の自動車（運搬車）などで運ぶ。 ◆走行時は，サイドステップ，ナローガイド，排出オーガを収納してください。 ◆グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆発進するときは，機械の周囲から人を遠ざけて，低速で発進してください。 ◆パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチが《切》になっていることを確認してください。 ●急発進，急ブレーキ，急旋回しない。 ●前後,左右の確認をし,わき見運転はしない。	傷害事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆路上走行するときは，刈取部の先に指定されたバンパを取付けてください。 ◆取扱説明書で指定された作業機以外は，取外してください。 ●刈取部先端を50cm程度上げます。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆道路の端には，寄りすぎないようにしてください。 ●対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。 ●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しない。 ●雨天，雨あがりのときは，低速で慎重に走行する。 ●凸凹道路，下り坂は速度を落とし，慎重に走行する。	路肩が崩れ，横転事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道の途中で，走行クラッチを切ったり変速レバーを操作しないでください。 ●坂の手前で一旦停止して，副変速を《標準》に入れ変えてから，登り降りする。 ●坂道での旋回は，低速で行う。 ●急傾斜地を走行しない。	エンジンブレーキが効かず思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道では，駐車しない。やむを得ず坂道の途中で駐車するときは，駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，木片などで歯止めをしてください。 ●刈取部は，下げておく。 ●機械から離れるときは，始動キーを抜取る。	機械が動き出し，事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆業務用無線やアマチュア無線等の無線機器は機械の制御系に影響を与える可能性がありますので機械に設置しないでください。	思わぬ事故を引起こすことがあります。 

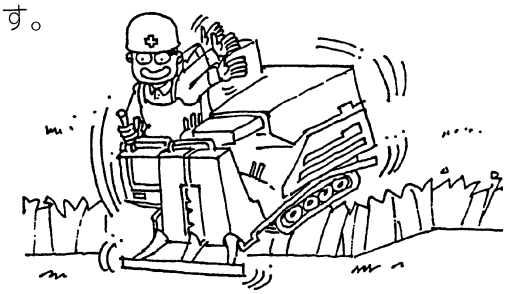
⚠自動車への積込み・積降ろしをするときは……

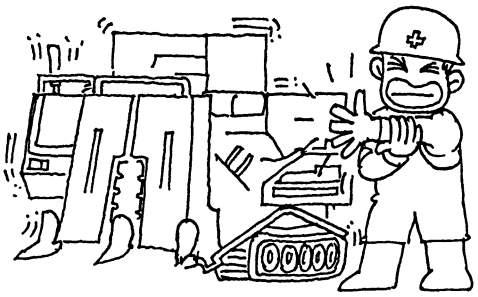
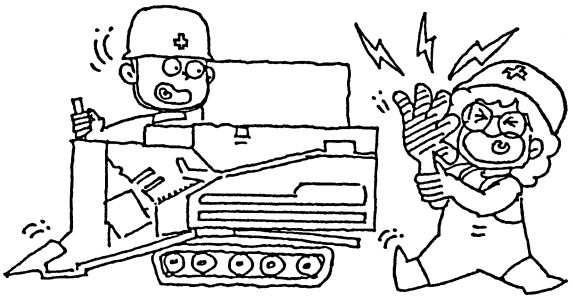
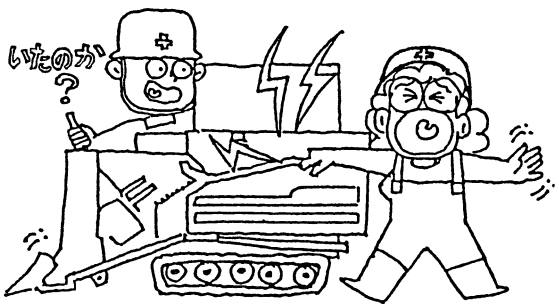
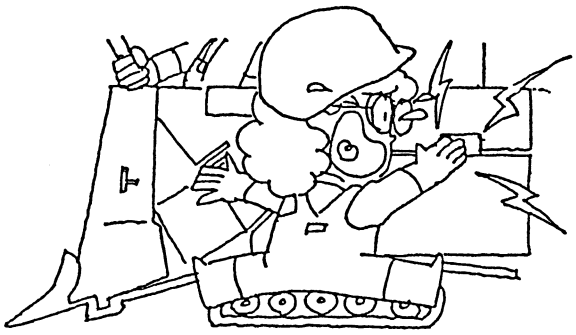
必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

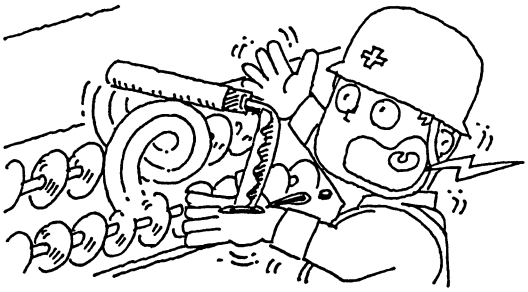
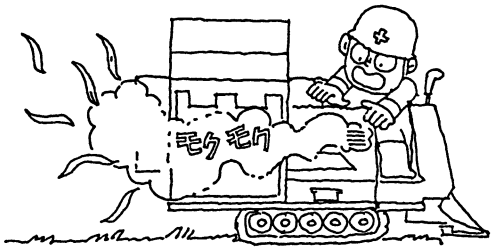
<table>
<tr>
<td>⚠警告
◆自動車は，最大積載量を超えない車で，荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。
●自動車は，駐車ブレーキをかけエンジンを停止し，変速を１速か後進に入れ，タイヤに歯止めをする。
◆アユミは，じゅうぶんな強度，長さ，幅のある基準に合ったすべり止め，フック付きを使用してください。
●アユミの幅は，クローラ幅に合ったものを使う。</td>
<td rowspan="2">アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。
</td>
</tr>
<tr>
<td>⚠警告
◆アユミを機械のクローラ間隔に合わせ，自動車の荷台に平行に真直ぐにかけてください。
●荷台にアユミのフックをかけ，外れないことを確認する。</td>
</tr>
<tr>
<td>⚠警告
◆グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。
◆積込みは前進，積降ろしは後進で，副変速は標準で行なってください。
●補助者立合誘導のもとに行う。機械の周囲に子供など，人を近づけない。
◆キャビン仕様以外の積込み・積降ろしは，機械から降りて行なってください。
◆水平自動スイッチを「切」にして，機体を一番下げた状態で行なってください。
◆方向自動機付きの機械は，方向自動スイッチを「切」にして行なってください。</td>
<td>万一のときに逃げることができなくなり，傷害事故の原因となります。
</td>
</tr>
<tr>
<td>⚠警告
◆アユミの上では，進路変更や変速操作をしないでください。
●機械をアユミに対して真直ぐに止め，左右のクローラがアユミの中央にあることを確認し，アユミの途中で機械を止める必要がないようにする。</td>
<td>急旋回したり，急降下したりして転倒事故を起こすことがあります。
</td>
</tr>
</table>

⚠ほ場で作業をするときは……

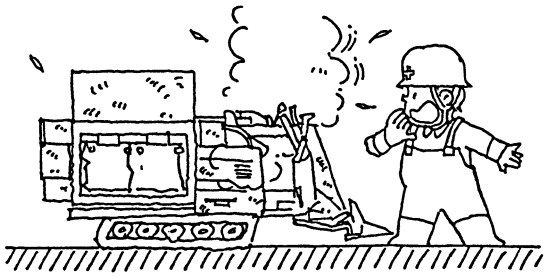
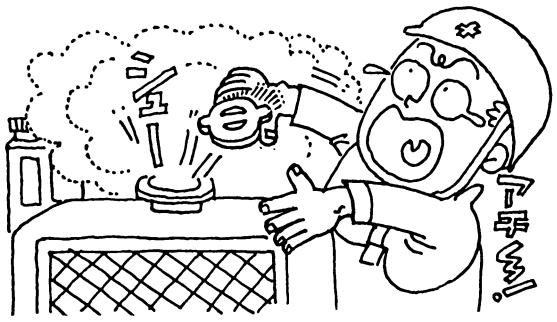
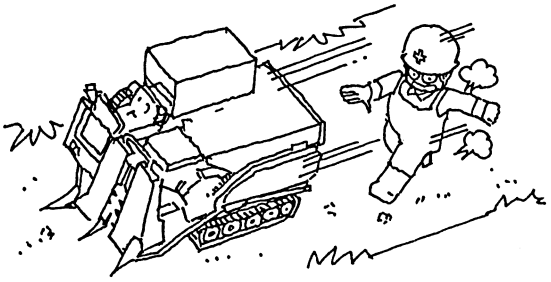
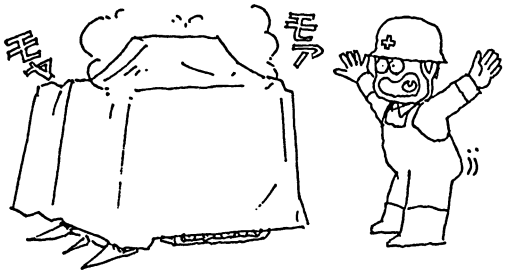
必ず守ってください → **守らないとこんな事故が！**

⚠警告 ◆10cm以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りは，アユミを使ってください。 ●グレンタンク内のこく粒を排出して行う。 ●キャビン仕様以外は機械から降りて行う。 ●アユミ上では，進路変更しない。	バランスを崩したりして，転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆あぜ越えは，副変速を《標準》にして，あぜに直角に横切るようにしてください。 ●キャビン仕様以外は機械から降りて行う。 ●あぜが崩れないことを確認して行う。	転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆補助者との共同作業が多いので，作業前によく打合わせをしてください。 ●エンジン始動や発進するとき，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを入れるときは，ホーンで合図する。 ◆作業時の旋回は，低速で行なってください。 ●旋回するときは，周囲を確認し，低速で行う。 ●機械の周囲に人を近づけない。	傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆手こぎ作業のときは，手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れないでください。 ◆手こぎ作業をするときは，そで口はきっちり止めて，巻きタオル，腰タオルは着用しないでください。 ●手袋は，使用しない。 ●供給口が見えなくなるほど，多量の作物を供給しない。 ●カッタ切ワラが溜まったら，手こぎ作業を中断して移動する。 ●手こぎ作業は，走行を停止してパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《脱こく》にして行う。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こします。 

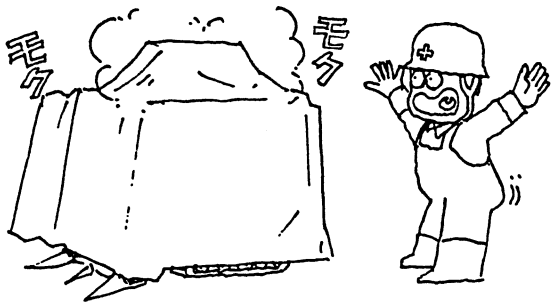
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆詰まり等の除去や，ノッタのひも交換（ノッタ仕様）をする時は，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行ってください。 ●脱こく部やカッタの詰まり，チェンやベルトのワラの巻付き，垂れ穂などに気付いても，作動中は手を出さない。 ●エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行う。 ●こぎ胴部を開いたときは，《ロック》位置まで持ち上げる。	傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆補助者は，作業中にワラの巻付き，詰まりを取除かないでください。 ◆補助者は，機械に近づく時運転者に合図をして，確認を取ってください。 ◆人が機械の近くにいないことを確認してからエンジン始動，脱こくクラッチ操作をしてください。 ●カッタでの事故が一番多く発生していることを，作業者は認識しておく。 ●エンジンが作動中は，カッタのそばに手・足・衣服を近づけない。 ●補助者に，機械の機構，運転や操作のしかたをよく知らせておく。 ●作業中は，機械に人を近づけない。 ●運転者は，常に補助者の状態を確認しながら作業をする。 ●特に，カッタや搬送部・脱こく部・刈取部付近には，作業中は近づかない。 ●ワラなどの巻付き・詰まりなどが発生しても，作動中は手を出さない。 ●運転者と補助者は，常に「合図」し合いながら作業する。	傷害事故を引起こすことがあります。   

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業中にカマなどを使って，脱こく部やカッタの掃除をしないでください。 ●カッタにワラが巻付いても，回転中は掃除をしない。カッタのカバーを開閉するときは，エンジンを停止する。 ●カッタをオープンしたときは，ストッパをかける。	カマなどが跳ね飛ばされて，傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆ワラクズの近くには，機械を止めないでください。 ●エンジン排気による火災を防ぐため，ワラのないところに機械を止める。 ●手こぎ作業時，ワラの上に機械を止めて作業をしない。	マフラの排気で火災になることがあります。 
⚠警告 ◆エンジンやマフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲，ベルトカバーにワラクズが溜まった場合は，エンジンを停止して掃除をしてください。	火災の原因となることがあります。 
⚠注意 ◆排出オーガの排出口内には，手を入れないでください。 ◆排出オーガの操作は，運転席から周囲の安全を確認してから行なってください。 ●走行の前に，排出オーガがオーガ受けに収納され，固定されているか確認する。	ラセンに巻込まれたりして，負傷することがあります。排出オーガが周囲の人に当り，負傷したりすることがあります。 

⚠1日の作業が終わったら……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業が終了したら，平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い，掃除をしてゴミなどを取除いてください。 ●高温部が冷えてから，エンジン・マフラ・バッテリ・燃料タンクの周囲のワラクズを除去・掃除する。	火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ●冷却水の点検は，補助タンクで行う。	熱湯が吹きだし，ヤケドすることがあります。 
⚠警告 ◆保管は，平坦な場所に置き，刈取部を下げて，駐車ブレーキをかけてください。 ●副変速レバーを《標準》に入れ，駐車ブレーキをかける。 ●スタータスイッチ（始動キー）を抜取っておく。	機械が動き出し，思わぬ事故の原因となります。 
⚠警告 ◆エンジンが熱いときは，シートカバーをかけないでください。	火災の原因となることがあります。 

⚠長期格納するときは……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆バッテリコードの「㊀側」を外すか，バッテリを取外してください。 ● 1ケ月に1回程度補充電をする。 ◆燃料コックを閉じてください。		思わぬ火災事故を起こす場合があります。 
⚠警告 ◆平坦な場所に置き，刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて歯止めをしてください。 ●副変速を《標準》に入れ，クローラに歯止めをする。 ●始動キーを抜取っておく。		機械が動き出し，思わぬ傷害事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆シーズン終了後には，定期点検を受けてください。 ● 1年ごとに定期点検・整備を**「お買いあげ先」**で，純正部品を使用して行なって，各部の保安を確保してください。 		整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。

2．表示ラベルについて

この機械には各運転装置の近くやカバーに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また，機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを「**お買いあげ先**」に注文して購入し貼り替えてください。

②

⚠ 警 告 09603200060

■路上走行する時は
- デバイダ先端にバンパを取付けてください。
- ナローガイド，サイドステップを収納してください。
- カッタ下部カバーを収納してください。
- カッタ右側の穂先開閉カバーを閉じてください。
- 脱こく・刈取クラッチ，自動スイッチを《切》にしてください。
- マルチステアリングレバーで刈取部先端を50cm程度上げてください。
- 油圧固定スイッチを《油圧固定》にして、フックをかけてください。
- 急発進，急ブレーキ，急旋回はしないでください。
- デコボコ道，下り坂では速度を落して走行してください。
- 公道では作業機など突起物となるものは装着しないでください。

①

⚠ 警 告 35868531700
- 路上走行をする時は、スピンドライブターンは、使用しないでください.
- スピンドライブターンの入，切は，前進走行しながら副変速レバーを左右に確実に切替えてください.
- 確実に切替わっていないと、マルチステアリングレバーを操作しても旋回できません.

③

⚠ 注 意
- ■走行，あぜ越え，自動車への積込み，積降ろしの時は，グレンタンクを空にし，排出オーガは収納位置にしてください。
- ■排出オーガを上げた状態での刈取作業，路上走行はしないでください。
- ■傾斜地でエンジンを停止する時は，排出オーガを収納してください。
- ■排出オーガの操作は、周囲を確認し、作動範囲内に頭や手を近づけないで行なってください。

■オーガ旋回自動の取扱い
- ●格納位置でオーガ旋回スイッチを押すと機体後方まで自動的に旋回します。
- ●格納位置以外でオーガ旋回スイッチを押すと格納位置へ戻ります。

35838555200

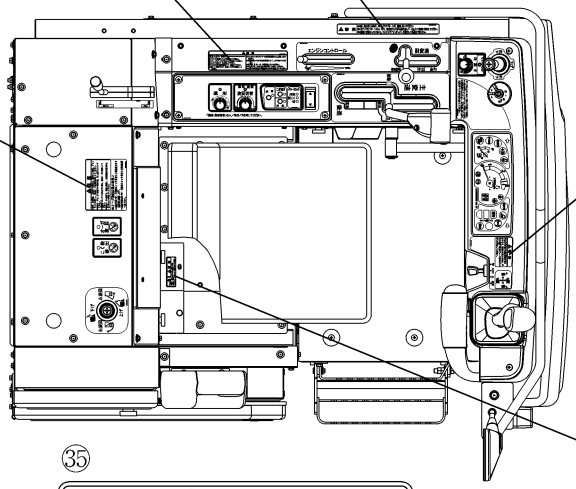
④

⚠ 警 告

中立《N》位置でも動く場合がありますので、機械から離れる時は、平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止してください。

切 ACC 入 始動

36068531600



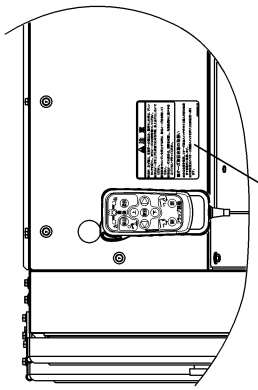
36060015a

⑤

⚠ 警 告

09603200013

●エンジンが熱い時は
キャップを開けないでください。



［D仕様］

㉟

⚠ 注 意
- ■走行，あぜ越え，自動車への積込み，積降ろしの時は，グレンタンクを空にし，排出オーガは収納位置にしてください。
- ■排出オーガを上げた状態での刈取作業，路上走行はしないでください。
- ■傾斜地でエンジンを停止する時は，排出オーガを収納してください。
- ■排出オーガの操作は，周囲を確認し，作動範囲内に頭や手を近づけないで行ってください。

■オーガ旋回自動の取扱い
- ■排出位置を選択してオーガ旋回スイッチを押すと選んだ排出位置まで自動的に旋回します。
- ■収納位置以外でオーガ旋回スイッチを押すと収納位置へ戻ります。

36598555100

⑭

⚠ 警 告

ケガや死亡事故を起さないために

■エンジンを始動する前に
- ●機械の周囲から人を遠ざけてください。
- ●各部のカバーをすべて取付けてください。
- ●座席に座り、駐車ブレーキをかけてください。
- ●変速レバーを《中立》、脱こく・刈取クラッチは《切》にしてください。
- ●屋内での始動は、窓や戸を開けて換気してください。

■正しい操作方法で
- ●機械に運転者以外の人や物をのせないでください。
- ●エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください。
- ●発進及び旋回する時は、機械から人を遠ざけてください。
- ●緊急停止が必要なときは、ブレーキペダルをすみやかに、いっぱい踏み込んでください。
- ●刈取作業時以外（特に、あぜ越え時・移動走行時・運搬時・格納時）は『もみ』はすべて排出、あるいは降ろしてください。
- ●詰まりを取除く時は、各クラッチを《切》にし、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行なってください。

■転倒防止
- ●発進、旋回操作、荒地での運転は低速で行なってください。
- ●傾斜地及び急な坂道では旋回しないでください。

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。
- ●軟弱な路肩、草の生い茂っている所は転倒・転落の恐れがあるので走行しないでください。
- ●あぜを横切る時は、低速であぜに対して直角に走行してください。

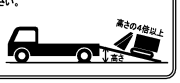
■停止する時は
- ●平坦な場所で駐車ブレーキをロックし、刈取部を下げ、変速レバーを《中立》、脱こく・刈取クラッチは《切》にした後、エンジンを停止してください。
- ●機械から離れるときは『始動キー』を抜いてください。また、止むを得ず坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防いでください。

■清掃・点検・整備・燃料補給
- ●エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。
- ●火災防止のためエンジン、マフラ、燃料タンク、バッテリ周囲のワラクズ等を掃除してください。
- ●刈取部が不意に下降してはさまれる危険があるので、刈取部を上げて点検・調整するときは油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にしフックを掛けてください。
- ●火災の危険があるので燃料補給時は必ずエンジンを停止してください。
- ●燃料補給時はタバコなど一切の火気は厳禁です。
- ●こぼれたディーゼル軽油は必ずふき取ってください。

35868525101

⚠ 警 告

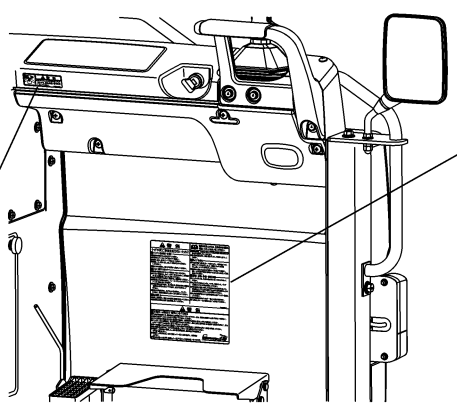
■自動車への積込み・積降ろしをする時は
- ●平坦な場所を選んで、補助者の立会誘導のもとに行なってください。また、機械の周囲に人を近づけないでください。
- ●積込む前にグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。
- ●アユミは機械の重量に耐えられる強度で長さは、自動車荷台高さの4倍以上のものを使用してください。
- ●アユミの上では進路変更、変速操作を行なわないでください。旋回（左右）操作をすると転倒する危険があります。左右のクローラをアユミの中央にまっすぐにセットしてください。
- ●車への積込みやあぜ越えは前進で、車から降ろすときは後進で、運転席から降りて低速で移動してください。
- ●結束機仕様の場合は、上がるときは後進で、降ろすときは前進で行ってください。
- ●自動車への積込み・積降しは、主変速《前進低速》、副変速を《車両積降し》の位置で操作します。
- ●自動車への積込みは、昇降・旋回レバーを《上る》に操作し、刈取部を上げます。
- ●積込みが終ったら昇降・旋回レバーを《下る》にして刈取部を一杯下げます。



⑥

⚠ 警 告

●排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないでください。 09603200029



36060159

A矢視

⑩
⚠ 注 意
●開閉する時はエンジンを停止してください。
掃除口
35868537500

⑪
⚠ 注 意 路上走行時および
カッター作業時は閉じてください。
35448656000

⑫
⚠ 危 険
● カッター部の点検・調整、わら・雑草などの巻付きや詰りを取除く際は、各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行なってください。
● 回転中は、カバーの中に手を入れないでください。
● 点検・調整などが終わったら、危険ですのでカバーを必ず元通りに戻してください。
キリカエバンの開閉
キリカエバン　レバー　固定ピン
● キリカエバンを開くときは
1. レバーを手前に引き固定ピンから外します。
2. キリカエバンを後方に開きます。
● キリカエバンを閉めるときは
1. キリカエバンを持ち上げながらレバーを手前に引きます。
2. キリカエバン側の固定ピンにレバーを差し込みます。
35928557000

⑧
⚠ 注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017

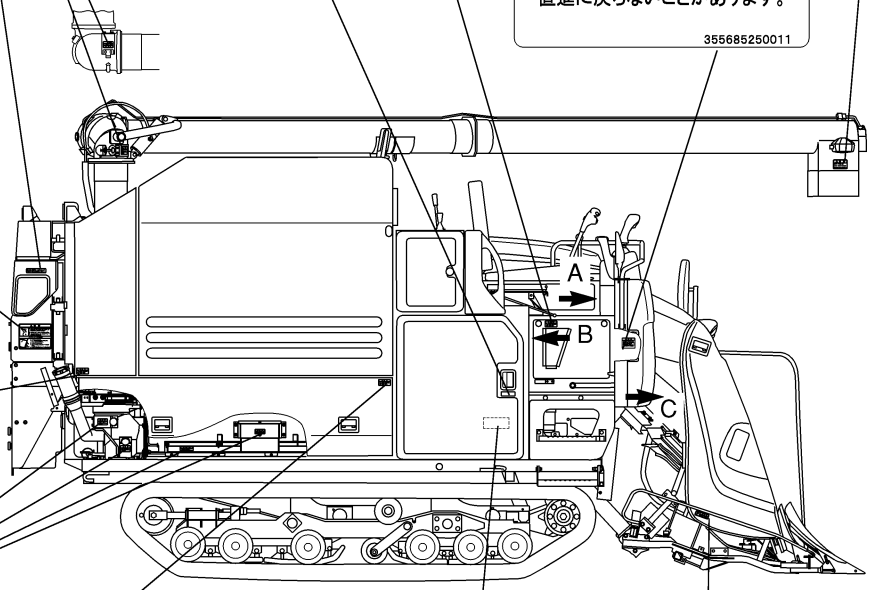
⑩
⚠ 注 意
●開閉する時はエンジンを停止してください。
掃除口
35868537500

⑧
⚠ 注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017

⑧
⚠ 注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017

⑦［D仕様］は左側
⚠ 注 意
●排出オーガは手押し厳禁
●排出オーガの旋回は周囲を確認
●排出中は手を排出口に近づけない
35448538300

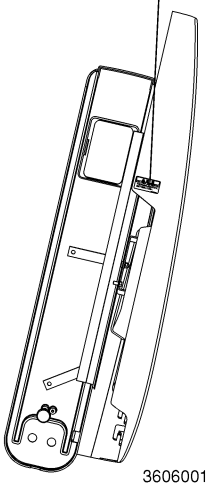
⑯
⚠ 警 告
● マルチステアリングレバー又はジャストディレクタで旋回（左右）操作をする時は走行クラッチペダルに足を乗せないでください。
● ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。
355685250011

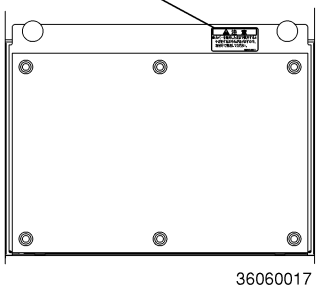


36060005a

⑬
⚠ 危 険
●刃部に手をかけないでください。
●着脱作業時は手袋をしてください。
09603000019

㉞（エンジンカバー内側）
⚠ 警 告
●ファンは自動的に始動します。手を触れないでください。
26737142000


36060018
C矢視


36060017
B矢視

⑮

⚠ 注 意

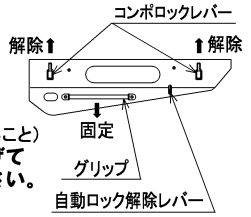
●開閉する時はエンジンを停止してください。
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

ワラ切鎌交換力所

こぎ胴の開閉

●こぎ胴部を開く時は
1. コンポロックレバーを **左右同時に**《開く》の方向に上げ、固定を解除します。
2. グリップでこぎ胴を持ち上げ『カチッ』という音を確認して、ゆっくり手をはなします。

●こぎ胴部を閉める時は
1. グリップでこぎ胴を一杯持ち上げ、自動ロック解除レバーを押し上げたままこぎ胴を下げます。
2. グリップでこぎ胴をおろすと自動固定します。
（コンポロックレバーを持って、こぎ胴を上げ下げしないこと）
3. **コンポロックレバー（２ヶ所）を必ず下にさげてコンポロック位置にあることを確認してください。**
4. コンポロックレバーがコンポロック位置にない場合は開く・閉めるの動作を繰り返してください。



35868536400

⑱

手をのせないでください
35448541100

⑯

⚠ 警 告

●こぎ胴が回転しているときは、手・衣服等を近づけないでください。
09603200034

⑰

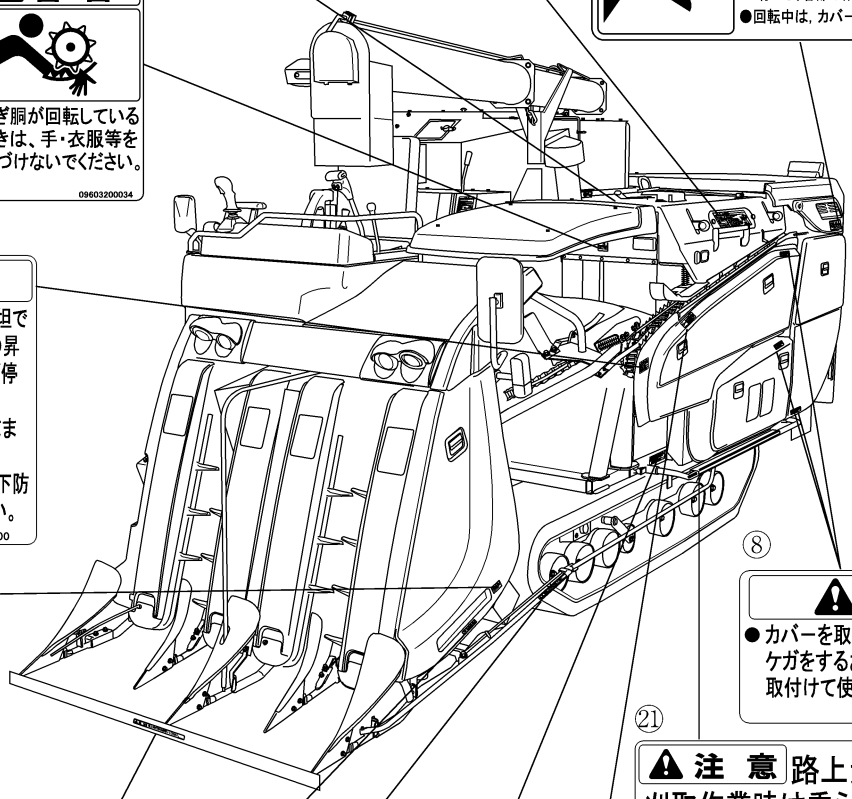
⚠ 危 険

● カッター部点検の際は，各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行なってください。
●回転中は，カバーの中に手を入れないでください。
35518658000

⑲

⚠ 警 告

●刈取オープン作業は平坦で安全な場所で、刈取部の昇降以外はエンジンを必ず停止して行ってください。
●刈取部をオープンしたまま走行しないでください。
●枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをしてください。
35838518100



36060006a

⑧

⚠ 注 意

● カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017

⑧

⚠ 注 意

● カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017

㉑

35448528100
⚠ 注 意 路上走行時は収納
刈取作業時は乗らないでください。

㉛

⚠ 注 意 路上走行時は装着してください。
09603100023

㉒



35878524000

⚠ 警 告

●ワラ等の巻付き・詰まり除去のときは、エンジンを必ず止めてください。
●手こぎ作業をする時は、手・衣服を供給口に入れたり、フィードチェンに触れたりしないでください。

⑬



09603000019

⚠ 危 険

●刃部に手をかけないでください。
●着脱作業時は手袋をしてください。

㉓



火気厳禁メガネ着用こども禁止 硫酸注意説明書熟読爆発注意

⚠ 危険

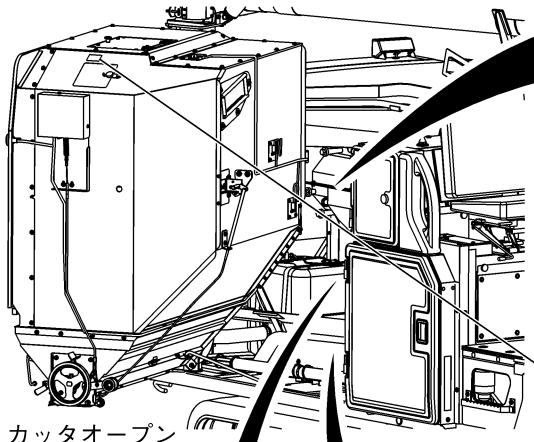
● 水素ガス発生、取扱いを誤ると引火爆発の恐れあり
● 充電は風通しのよいところで行う。（充電時火気厳禁）
ショートやスパークをさせない。
● バッテリー液（硫酸）で失明ややけどの恐れあり
液がついたらすぐに多量の水で洗い、目の場合は医師の治療を受ける。
● バッテリー液注入済（横倒し厳禁　液漏れ注意）
● 急速充電厳禁 ● 開封厳禁（密封タイプ）

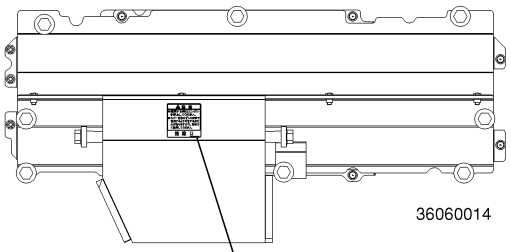
00000030600

密封タイプ

⑳

⚠ 注 意 路上走行時は収納してください。
09603100024





⑨

⚠ 注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

09603100015

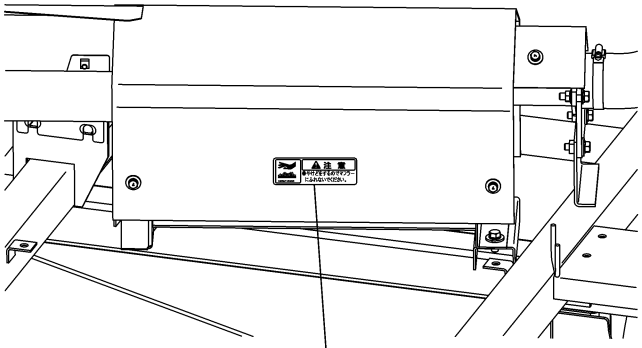
㉔

⚠ 注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。
●カバーを取はずしたままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

掃 除 口

35868527100



㉕

09603100027

⚠ 注 意

●やけどをするのでマフラー、フィンなどの高温部にふれないでください。

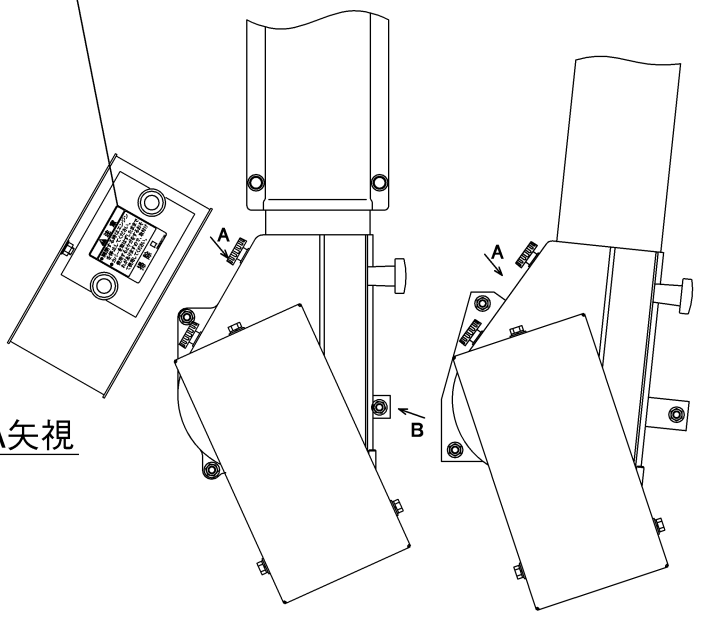
㉔

⚠ 注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。
●カバーを取はずしたままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

掃 除 口

35868527100



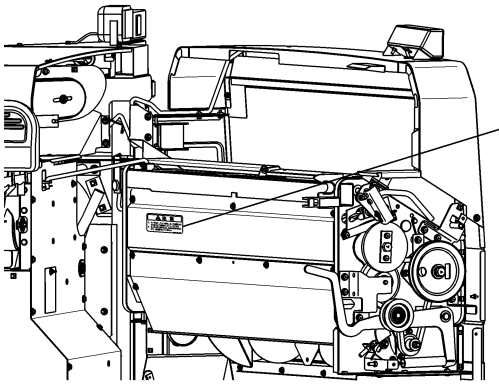
㉔

⚠ 注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。
●カバーを取はずしたままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

掃 除 口

35868527100



カッタオープン 36060140

㉝

注 意

1．カッタをオープンした時は、カッタを固定させるためロッドで確実にロックしてください。
2．カッタの刃に触れると手、指を切る恐れがあるので、刃に触れないでください。

35728592000

㉖

警 告

火気厳禁

●火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めてください。

ディーゼル軽油

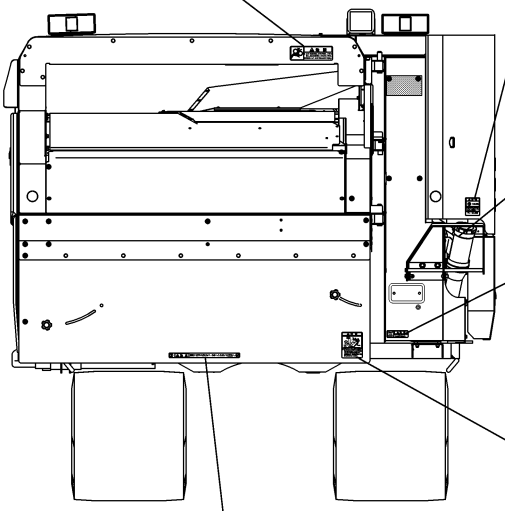
35878542000

⑰

危 険

● カッター部点検の際は，各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行なってください。
●回転中は，カバーの中に手を入れないでください。

35518658000



36060008

㉗

35598523500

注 意 乗らないでください

㉕

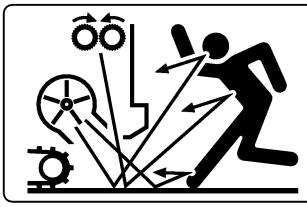
注 意

●やけどをするのでマフラー、フィンなどの高温部にふれないでください。

09603100027

㉘

注 意



● 排じんファンやカッタにより飛散する排出物（作物屑や小石等の異物）でケガをするおそれがあります。
脱穀運転中は，排出物が飛散する付近に近づかないでください。

35328557000

㉙

注 意 回転中は手や足をカバーの中へ入れないでください。

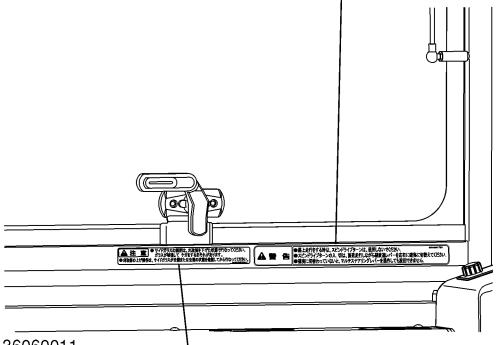
09603100020

①

警 告

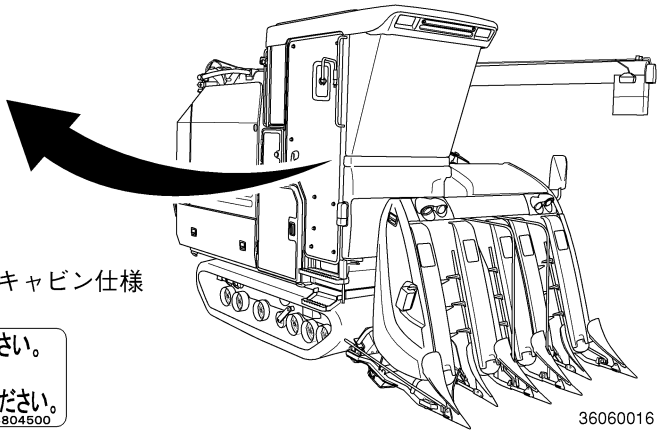
●路上走行をする時は、スピンドライブターンは、使用しないでください.
●スピンドライブターンの入. 切は、前進走行しながら副変速レバーを左右に確実に切替えてください.
●確実に切替わっていないと、マルチステアリングレバーを操作しても旋回できません.

35868531700



36060011

キャビン仕様



36060016

㉚

注 意

● サイドガラスの開閉は、刈取部を下げた状態で行なってください。
ガラスが破損して ケガをするおそれがあります。
●刈取部の上げ操作は、サイドガラスが全開または全閉の状態を確認してから行なってください。

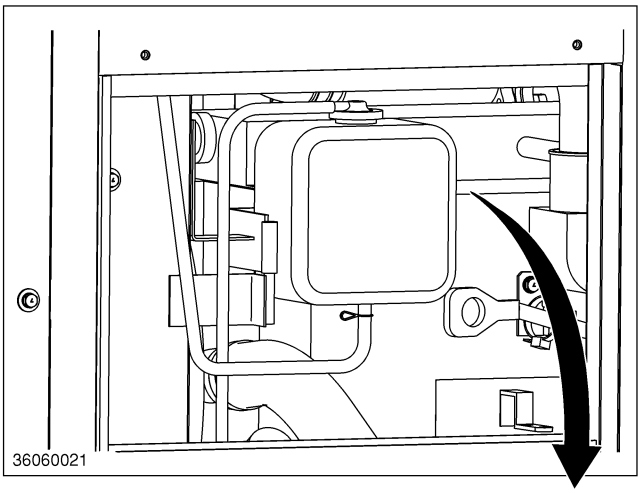
35833804500

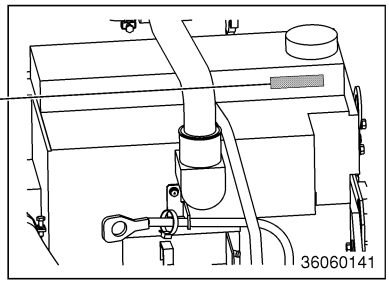
No.	部　品　名　称	部　品　番　号	備　　考
①	ケイコクマーク	3586 8531 700	
②	LABEL W LOAD	0960 3200 060	
③	トリアツカイマーク	3583 8555 200	
④	トリアツカイマーク	3606 8531 500	
⑤	ケイコクラベル・ラジエータ	0960 3200 013	
⑥	ケイコクラベル・ハイキ	0960 3200 029	
⑦	チュウイマーク	3544 8538 300	
⑧	チュウイラベル・カバー	0960 3100 017	
⑨	チュウイラベル・カイヘイ	0960 3100 015	
⑩	チュウイラベル	3586 8537 500	
⑪	チュウイマーク	3544 8656 000	
⑫	キケンラベルカッタ	3592 8557 000	
⑬	キケンラベル・カリハ	0960 3000 019	
⑭	ケイコクラベル	3586 8525 101	
⑮	トリアツカイマーク	3586 8536 400	
⑯	ケイコクラベル・コギドウ	0960 3200 034	
⑰	キケンラベル・カッタ	3551 8658 000	
⑱	チュウイマーク	3544 8541 100	
⑲	ケイコクラベル	3583 8518 100	
⑳	チュウイラベルシュウノウ	0960 3100 024	
㉑	チュウイマーク	3554 8528 100	
㉒	ケイコクラベル　チェン	3587 8524 000	
㉓	キケンラベル・バッテリ	0960 3000 020	
㉔	チュウイラベル	3586 8527 100	
㉕	チュウイラベル	0960 3100 027	
㉖	ケイコクラベル・ケイユ	3587 8542 000	
㉗	チュウイラベル	3559 8523 500	
㉘	チュウイラベル・ハイジン	3532 8557 000	
㉙	チュウイラベル・カッタカバー	0960 3100 020	
㉚	チュウイラベル	3583 3804 500	
㉛	チュウイラベル・バンパ	0960 3100 023	
㉜	ケイコクラベル	3556 8525 001	
㉝	チュウイマーク	3572 8592 000	
㉞	ケイコクラベル・ファン	2673 7142 000	
㉟	トリアツカイマーク	3659 8555 100	［D仕様］

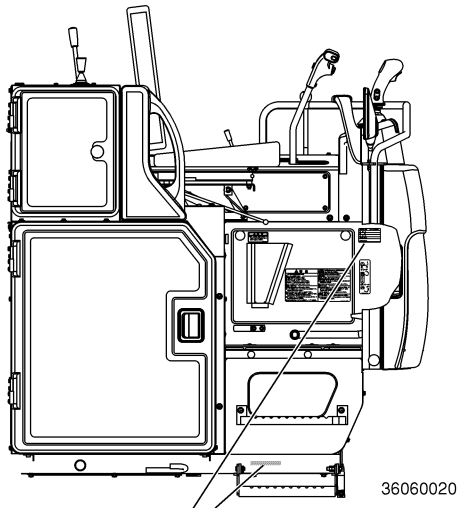
ご使用まえに

1．保証とサービスについて

・この機械には，保証書が添付されていますので，ご使用前によくお読みください。
・この機械のサービスについてのお問い合わせや，部品などのご用命のときは，「**お買いあげ先**」にご相談ください。その際「**型式名**」・「**機械番号（製造番号）**」と「**エンジン番号**」をお知らせください。







・補修用部品の供給年限について

・この製品（機械）の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後 9 年といたします。
但し，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期および価格についてご相談させていただきます。

・機械の使用目的について

・この機械は，**稲・麦の収穫作業**以外には使用しないでください。
・この機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は，保証の対象となりませんのでご注意ください。

⚠警告
◆機械を使用目的以外の作業に，使用しないでください。
◆機械を改造しないでください。
◆使用目的以外の作業や改造すると，本来の機能を発揮できないばかりか，人身事故の原因になることがあります。

2．仕様（装備）について

・主な仕様（装備）は，次のようになっています。
仕様の異なる型式の場合は，都度［○○**仕様**］表示で型式を示し追加説明していますので，お買いあげの機械の型式をお確かめのうえ，お間違えのないようにお読みください。

・お買いあげの機械の型式と主な仕様の違いを，次の表でお確かめください。

［5条型］

型式名 ＼ 仕様（装備） 区分	エンジン 型式	エンジン 出力（参考）	HST+副変速2段	クローラ ハイラグクローラ450mm	クローラ ハイラグクローラ500mm	クローラ ハイラグクローラ550mm	フルモードターン	電動集中注油	ジャストディレクタ	増速ツインこぎ胴	ハーモニーシステム	ニューコンポアップ	揺動スライドオープン	グレンサイドオープン	刈取部サイドオープン	モミ満杯予告シグナル	負荷モニタ	モミ充填モニタ	リフトシャット	緊急エンジン停止スイッチ	防じんカバー	刈高ポジションコントロール	ナローガイド手元操作	畦際刈取り・倒伏刈スイッチ	排ワラ切替手元操作	湿田ダイヤル	撥水揺動	オーガ排出手動クラッチ	拡散ラセン	自動化機構 こぎ深さ自動	自動化機構 方向自動	自動化機構 選別自動・MAC−Air	自動化機構 オーガ自動旋回・自動収納	自動化機構 水平自動	自動化機構 フィードチェン同調自動	送じん量自動調節	グレンタンク1500L	カッタ マルチカッタ60／180mm	カッタ マルチカッタ40／160mm	CD・オーディオ付キャビン	バックモニタ
三菱VG563	S4Q2−T	63.4PS	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○		
	FLYM		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○		
	FLDM		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○		
	FLDMB		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○		○	
	FLYDM		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○		
	FLYWDM		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○		
	FCLYDM		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○			○	○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○	○	
	FCLYWDM		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○			○	○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○		○
	SLM		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○		
	SLYM		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○		
	SLDM		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○		
	SLDMB		○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○		○	
	SLYDM		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○		
	SLYWDM		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○		
	XSLYDM		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	XSLYWDM		○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○	○	○

OP：ディーラーオプション

・型式記号の説明

L ＝水平制御

M ＝マルチカッタ（切断長60／180㎜）

MB ＝スーパーマルチカッタ（切断長40／160㎜）

Y ＝ハイラグクローラ・500㎜（湿田仕様）

YW ＝ハイラグクローラ・550㎜（湿田仕様）

YW ＝ハイラグクローラ・550㎜（湿田仕様）

D ＝ダブルリモコン，オーガフラップ，排出電動クラッチ

F ＝送じん量自動調節

S ＝送じん量自動調節，撥水揺動

C ＝キャビン

X ＝キャビン，バックモニタ

［4条型］

型式名	仕様（装備）／区分	エンジン 型式	エンジン 出力（参考）	HST+副変速2段	クローラ ハイラグクローラ450mm	クローラ ハイラグクローラ500mm	フルモードターン	座席シート（DX）	可動転輪	電動集中注油	ジャストディレクタ	増速ツインこぎ胴	ハーモニーシステム	ニューコンポアップ	揺動スライドオープン	グレンサイドオープン	刈取部サイドオープン	モミ満杯予告シグナル	負荷モニタ	モミ充填モニタ	リフトシャット	緊急エンジン停止スイッチ	防じんカバー	刈高ポジションコントロール	ナローガイド手元操作	排ワラ切替手元操作	畦際刈取り・倒伏刈スイッチ	湿田ダイヤル	撥水揺動	オーガ排出手動クラッチ	オーガ排出電動クラッチ	オーガ操作有線リモコン	オーガ先端操作有線リモコン	オーガフラップ	拡散ラセン	自動化機構 こぎ深さ自動	自動化機構 方向自動・MAC—Air選別自動	自動化機構 選別制車速感知	自動化機構 オーガ自動旋回・自動収納	自動化機構 水平自動	自動化機構 フィードチェン同調自動	送じん量自動調節	グレンタンク1500L	カッタ マルチカッタ60／180mm	カッタ マルチカッタ40／160mm	CD・オーディオ付キャビン	バックモニタ
三菱VY463	FLM	S4Q2—T	63.4(PS)	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○					○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○	○			
	FLDM			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○	○			
	FLDMB			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○		○		
	FLYDM			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○	○			
	FCLDM			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	FCLYDM			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	SLM			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○					○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○	○			
	SLDM			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○	○			
	SLDMB			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○		○		
	SLYDM			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○	○			
	XSLDM			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	XSLYDM			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

OP：ディーラーオプション

型式記号の説明

L＝水平制御

M＝マルチカッタ（切断長60／180㎜）

MB＝スーパーマルチカッタ（切断長40／160㎜）

Y＝ハイラグクローラ・500㎜（湿田仕様）

Y＝ハイラグクローラ・500㎜（湿田仕様）

D＝ダブルリモコン，オーガフラップ，排出電動クラッチ防じんカバー

F＝送じん量自動調節

S＝送じん量自動調節，撥水揺動

C＝キャビン

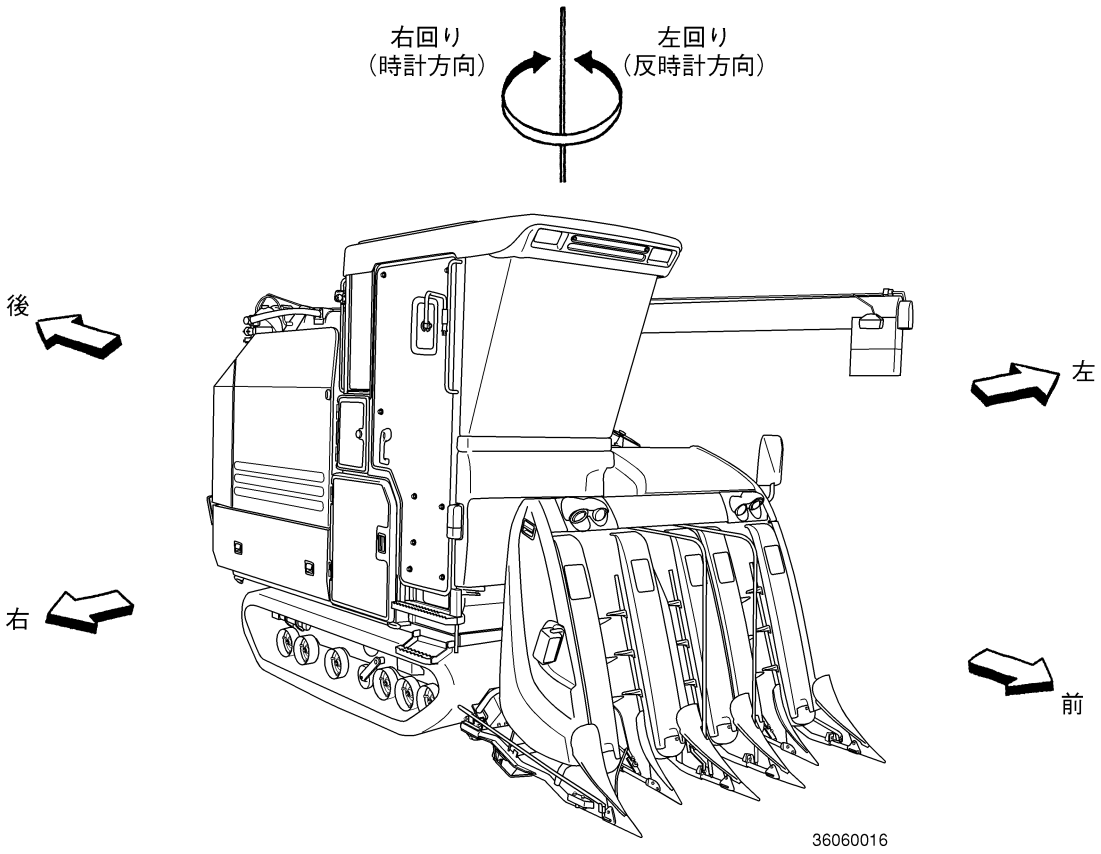
X＝キャビン，バックモニタ

取扱いのポイント

- **これらの機械は工場から出荷のときは，「稲作業セット」に調整してあります。**
  麦作業のときは，「取扱説明書」の71ページ「麦刈り作業時の調整のしかた」の項を参考に調整しご使用ください。

3．用語について

⑴　この取扱説明書に使用している「**前後・左右・右回り・左回り**」などの用語は，図示のとおりです。



⑵　**型式表示**

・この取扱説明書は，VG563型を基本に説明しています。

・区分により仕様（装備）が異なるため，取扱い方法が変わる点は，そのつど［**D仕様**］などで表示し，追加説明しています。

型　式　名	本文表示
三菱VG563	［5条型］
三菱VY463	［4条型］

⑶　**マークの説明**

この取扱説明書では，その都度守っていただきたい事柄を，次のマークを使用して説明しています。

・危険 警告 注意 ……安全上重要な事項を,3段階に分けて説明していますので,必ず読んでください。

・**取扱いのポイント** ……機械の機能・性能上に関する説明です。守らないと，故障の原因になることがあります。

4．小型特殊自動車について

このコンバインは，「**小型特殊自動車**」に該当し，道路運転車両法に適合していますので公道走行が行えます。

1．小型特殊自動車の届出

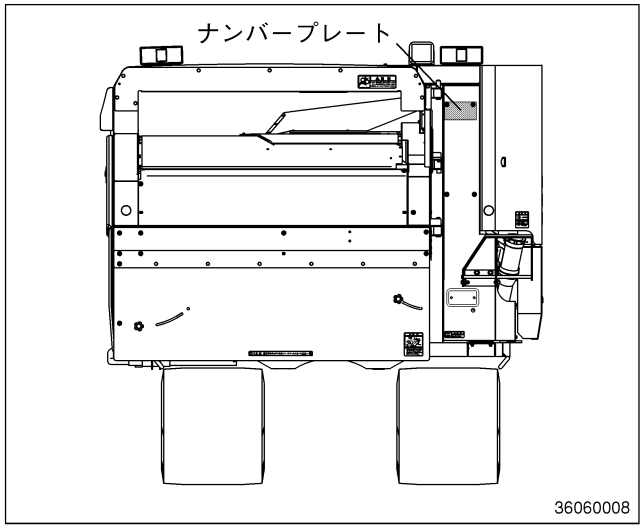
❶　小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たに小型特殊自動車を購入された方，または所有者となられた方は，市（町・村）条例により，その取得を市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは市（町・村）により多少異なりますので，詳しいことは「**市（町・村）役所**」または「**お買いあげ先**」に相談してください。

小型特殊自動車の取得証明書または売渡・販売証明書等（「**お買いあげ先**」で準備します）をそえて市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けます。

ナンバープレートは，機械の指定された位置に取付けます。



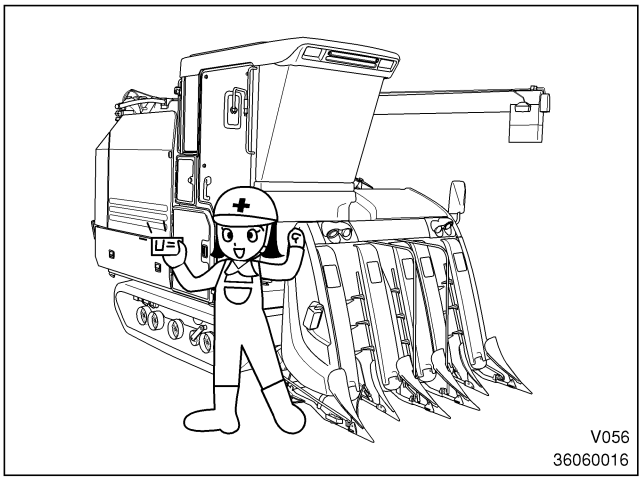
2．公道走行するためには

❶　このコンバインは下記の基準を越えますので，公道を走行するときは，「**大型特殊自動車の運転免許**」が必要です。運転免許証を所持してください。

「**小型特殊自動車**」の運転免許で運転できる自動車の基準。

車体の大きさ	全　長	4.7m以下
	全　幅	1.7m以下
	全　高	2.0m以下 （注１）
最　高　速　度		15km／時以下
原動機の総排気量		制限なし

（注１）ただし，キャビンを除いた部分の高さが2.0m以下のものは2.8m以下。



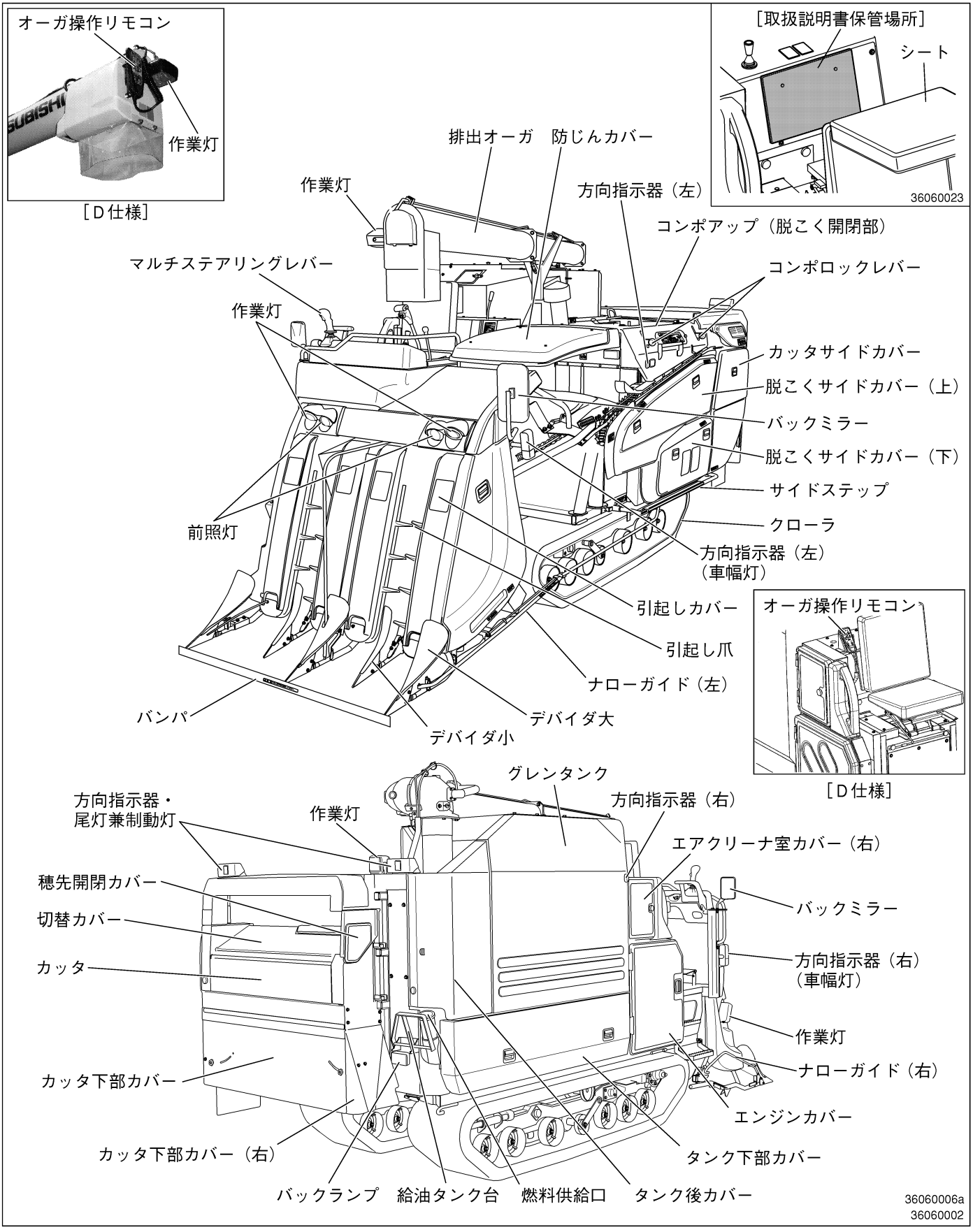
❷　指定の作業機（カッタ）以外の作業機を取付けた状態では，公道走行はできません。

❸　任意保険のお勧め

万一の交通事故に備え，任意保険に加入されるようお勧めします。

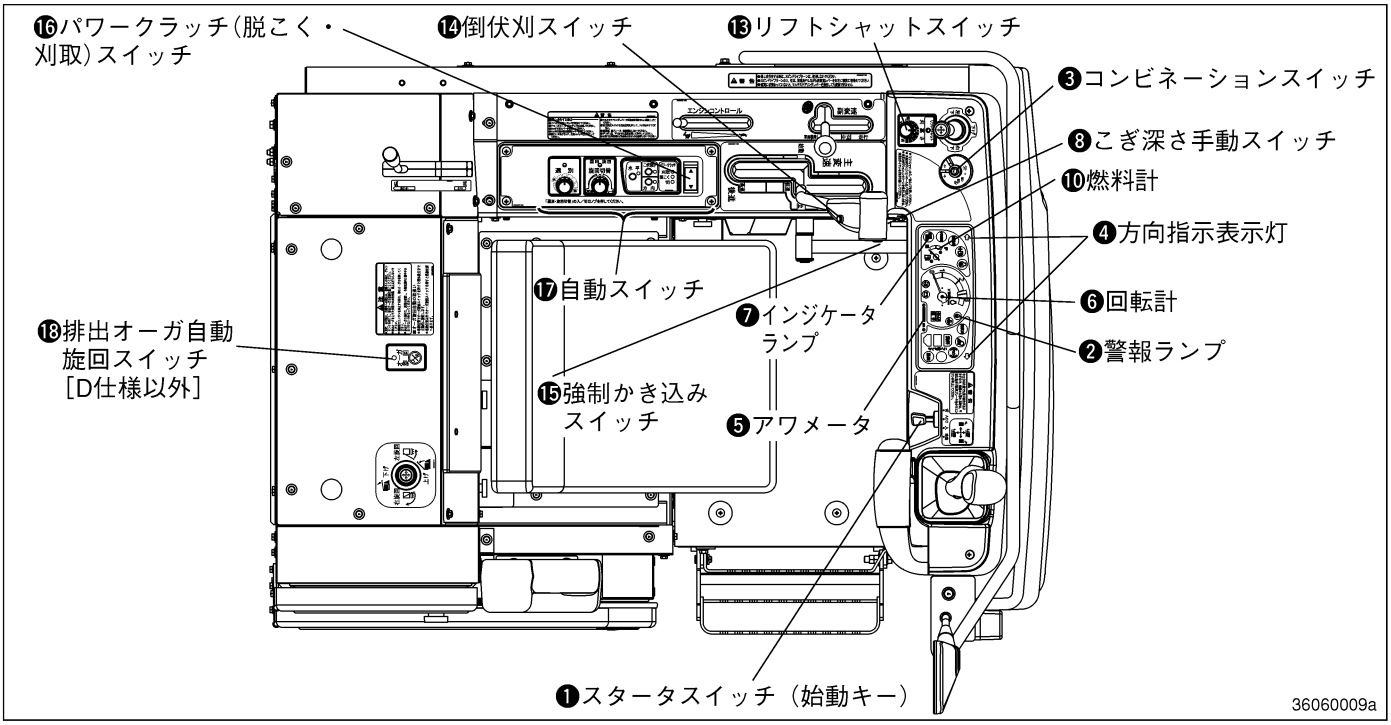
各部のはたらき

1．各部の名称



2．運転装置の取扱い

1．スイッチ・計器関係



❶　スタータスイッチ（始動キー）

《**切**》……電源切（エンジン停止）

スタータスイッチを《**切**》にするとエンジンが停止します。

《ＡＣＣ》……アクセサリ

カーステレオとシガライターが使用できます。

《**入**》……電源入（運転中・予熱）

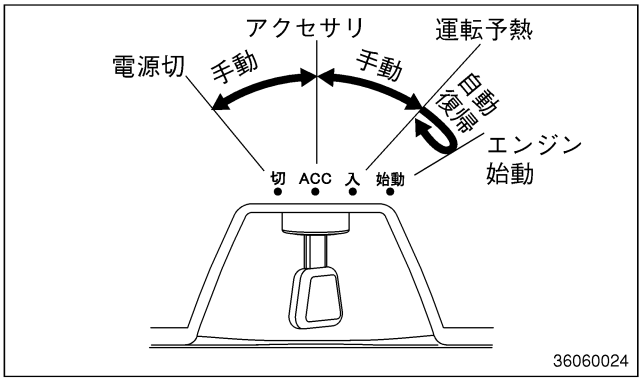
スタータスイッチを《**入**》にすると，メータ内の予熱ランプが点灯し，エンジンを予熱します。

約 6 秒後に消灯して，予熱が完了します。

《**始動**》……エンジン始動

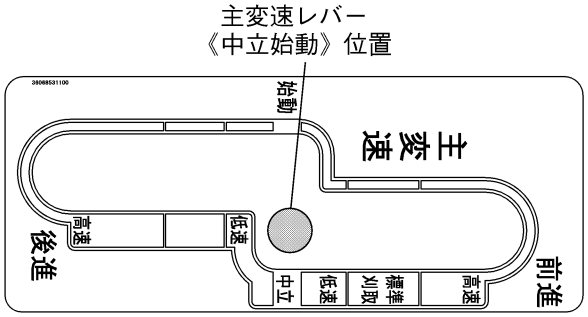
スタータスイッチを《**始動**》位置に回すと，エンジンが始動します。

手を放せば，自動的に《**入**》位置に戻ります。



取扱いのポイント

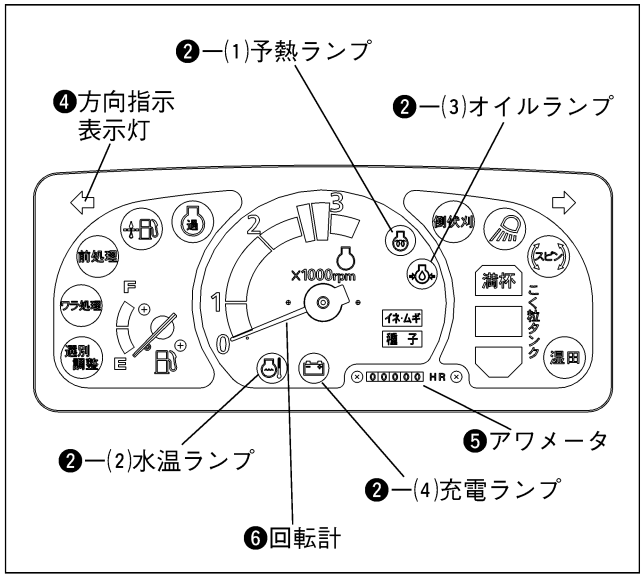
- **主変速レバーを《中立始動》（前進側中立）位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。**



❷ 警報ランプ

(1) 予熱ランプ

スタータスイッチを《**入**》位置にすると，点灯してエンジンの予熱の状態を示します。約6秒後に消灯し予熱が完了します。



(2) 水温ランプ

エンジンの冷却水温度が異常に上昇（**オーバーヒート**）すると，「**点灯**」し，警報ブザーが鳴ります。

取扱いのポイント

- **運転中にランプが点灯し警報ブザーが鳴ったら直ちに作業を中止し，温度が下がるまでエンジンのみ「低速運転」してください。(警報ブザーは連続音から断続音になります)**
- **冷却水温度が下がり，ランプが消灯したら，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからエンジンカバー，ラジエータフィン，オイルクーラフィン等のラジエータ吸気部のゴミ付着 (108〜109ページ参照)・ファンベルト（オルタネータ）の張り（162ページ参照)，および冷却水（補助タンク）の水量などを点検してください。**

(3) オイルランプ

エンジン運転中，エンジンの潤滑系統に異常があれば「**点灯**」します。

正常なときは，スタータスイッチを《**入**》位置にすると点灯し，エンジンが始動すると消灯します。

取扱いのポイント

- **運転中に点灯したときは，直ちにエンジンを停止しエンジンオイル量を点検してください。（96〜97ページ参照）**
  オイル量が適量であれば，ほかに異常があります。「お買いあげ先」にて点検を受けてください。

(4) 充電ランプ

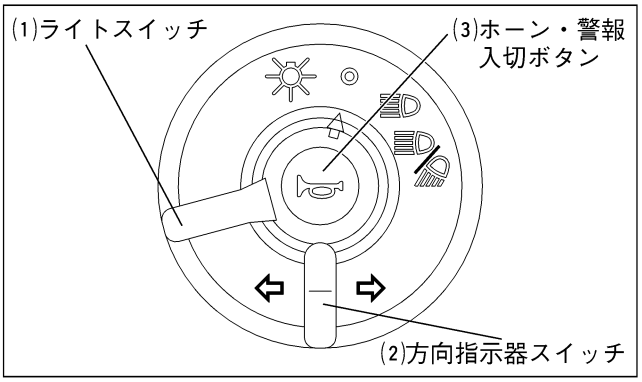
エンジン運転中，充電系統に異常があると点灯します。

正常なときは，スタータスイッチを《**入**》位置にすると「**点灯**」し，エンジンが始動すると消灯します。

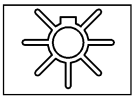
取扱いのポイント

- **エンジンの運転中に連続点灯するときは，エンジンを停止し，ファンベルト（オルタネータ）の張りを点検し，調整してください。(162ページ参照)**
- **エンジンファンベルトが正常であれば，ほかに異常があります。直ちに「お買いあげ先」にて点検を受けてください。**

❸ コンビネーションスイッチ



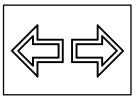
(1) **ライトスイッチ**



《 ◎ 》……消灯

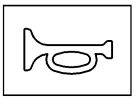
《  》……回転計の照明・前照灯が点灯します。

《  》……回転計の照明が点灯し，前照灯およびすべての作業灯が点灯します。



(2) **方向指示器スイッチ**

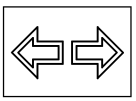
右折，左折のときに使用します。



(3) **ホーン・警報入切ボタン**

・スタータスイッチを《**入**》の位置にして，ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。走行するときの警報，作業時の合図に使用します。

・こく粒タンクランプの点灯（タンク満杯），および警報ブザーが鳴ったとき，このボタンを押すと警報ブザーが鳴り止みます。



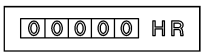
❹ 方向指示表示灯

方向指示器が点滅すると同時に点滅します。

取扱いのポイント

●つぎの場合は，警報入切ボタンを押しても鳴り止みません。右記の方法で警報を解除してください。

警報機能	解除方法
・水温ランプ点灯（オーバーヒート）	水温が下がるまでエンジンを「低速運転」し，スタータスイッチ（始動キー）を《切》位置にする。
・ワラ処理ランプ点灯 （排ワラ詰まり，脱こく搬送詰まり，排ワラ切替カバー後方オープン） ランプ点滅 （ノッタひも切れ）	パワークラッチ(脱こく・刈取）スイッチを《切》にする。
・エンジン負荷ランプ点滅 （10ページ参照）	走行速度を下げる。
・倒伏刈ランプ点滅	刈取部または脱こくフィードチェン搬送部の前部の詰まりを取除きます。
・前処理ランプ点灯	こぎ深さ搬送の始端部または終端部の詰まりを取除きます。
・燃料フィルタランプ点灯	（フィルタの水抜き）スタータスイッチを《切》位置にする。



❺ アワメータ

機械の運転の積算時間（スタータスイッチ《**入**》時間）を示します。

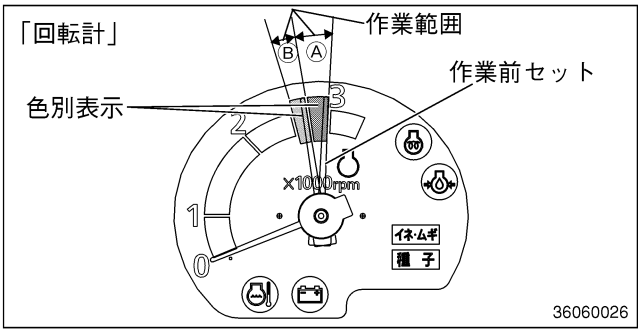
積算時間を目安に定期点検整備を行います。

❻ 回転計

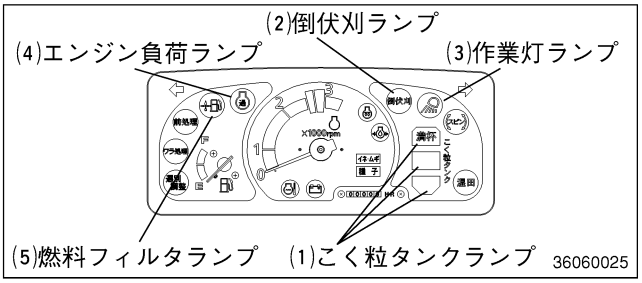
１分間のエンジン回転数を示します。

回転数は，イネ・ムギ（大麦・小麦・ビール麦・裸麦），種子など，刈取る作物によって変えます。

・イネ・ムギ（大麦・小麦・ビール麦・裸麦）の場合……Ⓐの範囲（黄色）
・種子の場合……Ⓑの範囲（緑色）



❼ インジケータランプ



(1) こく粒タンクランプ

グレンタンク内のこく粒量を表示するランプで，こく粒量が増していくと，ランプも □ → □ → 満杯 の順に点灯します。

□ ランプが点灯した後，しばらく刈取作業を続けると，方向指示器全てが点滅します。

満杯時には，ランプの点灯と警報ブザーの断続音で知らせます。

そのまま作業を続けると，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **最初の警報ブザーが鳴ったら，刈取り作業を中止し，グレンタンク内のこく粒を排出してください。**
- **最初の警報ブザーは，警報入切ボタンを押すと鳴り止みます。**
- **エンジンが停止した場合は，主変速レバーを《中立始動》位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，エンジンを再始動できます。その後，こく粒を排出してください。**

(2) 倒伏刈ランプ



主変速グリップの倒伏刈スイッチを押して《**入**》にすると，倒伏刈ランプが点灯し，刈取部の搬送速度が通常より速くなります。

刈取部の搬送部または脱こくフィードチェン搬送部の前部に詰まりが発生すると，ランプが点滅し，警報ブザーの断続音が鳴り，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **通常の刈取りで刈取部の搬送速度が最高速に達しているときは倒伏刈スイッチを《入》としても，それ以上は速くなりません。**
- **搬送部に詰まりが発生した場合は，スタータスイッチを《切》位置にし，詰まりを取除いてください。**
- **主変速レバーを《中立始動》位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，エンジンを再始動できます。**

(3) 作業灯ランプ



スタータスイッチを《**入**》位置にし，コンビネーションスイッチを２段回すと作業灯表示ランプが点灯し，作業灯が点灯します。

・路上走行時は，作業灯を消灯します。

(4) エンジン負荷ランプ



エンジンの過負荷状態を知らせるランプです。刈取り作業中，過負荷運転でエンジン回転が下がると，モニタランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。エンジン回転が下がり，モニタランプが点滅し警報ブザーの断続音が鳴ったら，主変速レバーで走行速度を下げます。

取扱いのポイント

- **エンジン回転負荷の警報ブザーは，警報入切ボタンを押しても鳴り止みません。走行速度を下げて，エンジンの負荷を軽くすると，ブザーは鳴り止みます。**

⑸ 燃料フィルタランプ

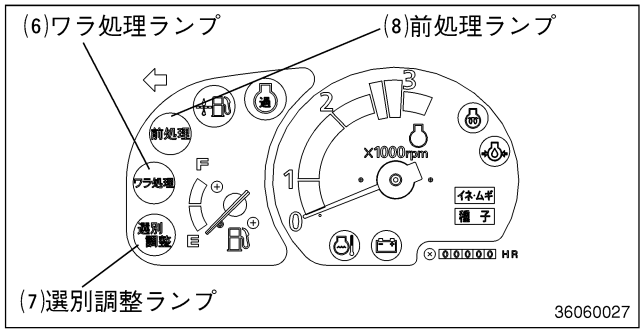

V177

燃料フィルタに一定量の水が溜まったことを知らせるランプです。

燃料フィルタに水が溜まるとランプの点灯と警報ブザーの連続音で異常を知らせます。

警報ブザーは警報入切ボタンを押しても鳴り止みません。(水抜きは110ページ参照)

⑹ ワラ処理ランプ



脱こくフィードチェン終端部または排ワラチェン終端部の詰まり発生や排ワラ切替カバーが後方オープンしていると，ワラ処理ランプが点灯し，警報ブザーの連続音が鳴り，エンジンが停止します。

⑺ 選別調整ランプ

選別部に処理能力以上のこく粒等がある時に点滅します。作業速度を下げるか，選別ダイヤルを「**開**」側に回します。

取扱いのポイント

- **処理後もランプが点滅する時は,「お買いあげ先」で点検を受けてください。**

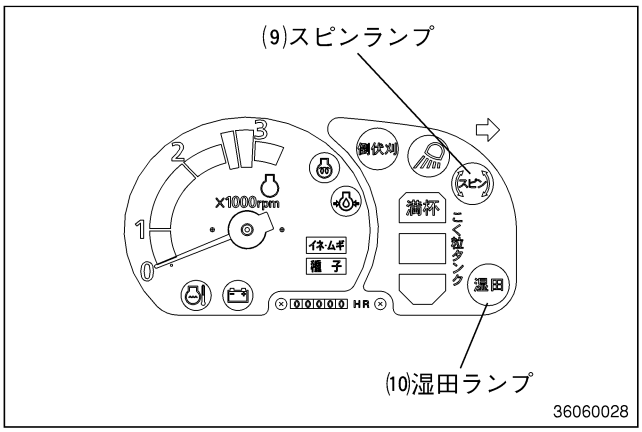
⑻ 前処理ランプ

こぎ深さ搬送の始端部または終端部に詰まりが発生すると，ランプが点灯し，警報ブザーの連続音が鳴り，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **エンジンが停止したら，スタータスイッチを《切》位置にし，詰まりを取除いてください。(ワラ処理ランプ・前処理ランプ)**
- **主変速レバーを《中立始動》位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，エンジンを再始動できます。(ワラ処理ランプ・前処理ランプ)**

⑼ スピンランプ



副変速レバーをスピン位置にするとランプが点灯し,マルチステアリングレバーを左,右にいっぱいに倒した状態にするとスピンターンが作動します。

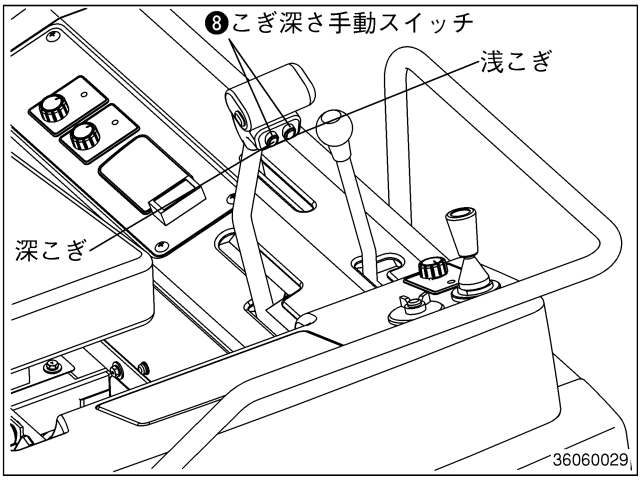
⑽ 湿田ランプ

湿田スイッチを《**入**》にすると点灯します。

湿田などでの緩旋回時に旋回側クローラが停止するようなときに使用します。

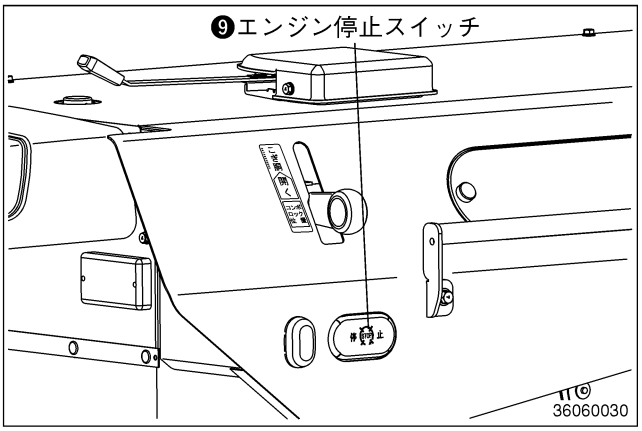
❽　こぎ深さ手動スイッチ

作物の長さに合わせて，脱こく部へ供給される作物の穂の位置を，手動で調整するスイッチです。



❾　エンジン停止スイッチ

手こぎ作業時などのトラブル発生時に，このスイッチを押すと，エンジンが停止します。

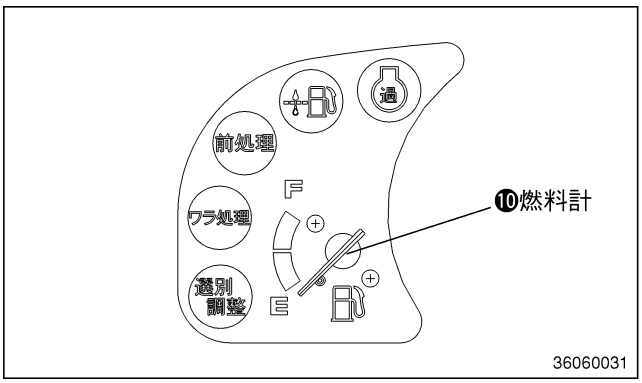


取扱いのポイント

- **エンジン停止スイッチでエンジンを停止したときは，スタータスイッチを《切》位置にしてください。そのまま放置すると，バッテリが上がります。**

❿　燃料計

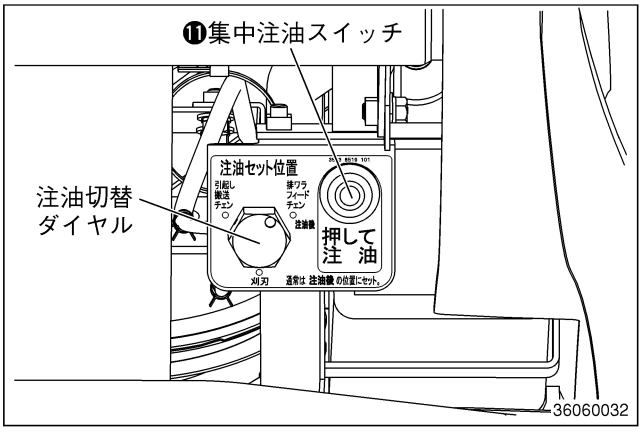
スタータスイッチが《**入**》位置のとき作動し，タンク内の燃料の量を示します。《**F**》は満量（約60L），《**E**》（ラベル下限）では約10Lの油量を示します。



取扱いのポイント

- **燃料計が《E》近くになったら早目に燃料を補給してください。**

⓫　集中注油スイッチ（注油切替ダイヤル）



- 集中注油スイッチを押している間だけモータが作動し、刈刃やチェン類に注油します。
- 注油切替ダイヤルを回し，注油個所（搬送チェン，引起しチェン，刈刃，排ワラフィードチェン，注油後）の切替えを行います。（詳細は，107ページ参照）

⑫ 油圧固定スイッチ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈取部を上げて，その下で整備等するときは，エンジンを停止し，油圧固定スイッチを《油圧固定》の位置にし，フックをかけてください。さらに刈取部が下がらないように刈取部の下に固定脚などをおいて作業してください。

◆油圧固定スイッチを《下る》の位置にすると，マルチステアリングレバーの操作に関係なく,刈取部は下がります。通常はスイッチを《下る》の位置にしないでください。

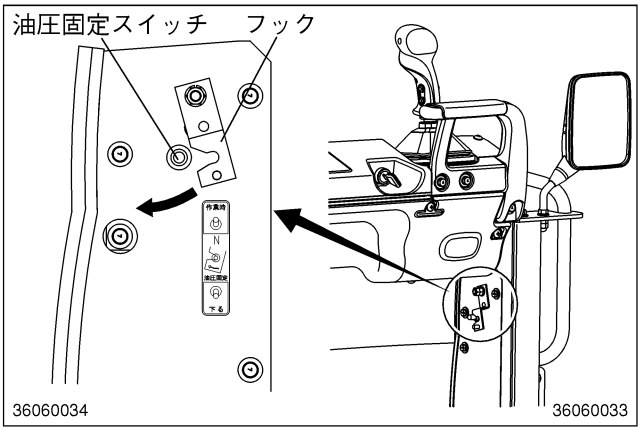
◆油圧固定スイッチを操作するときは，刈取部付近に人がいないことを確認してください。

刈取部の「**上げ**」・「**下げ**」を固定します。

・《**油圧固定**》位置にすると，マルチステアリングレバーを操作しても作動しません。《**油圧固定**》位置にしたときはフックをかけてください。路上を走行するときは,《**油圧固定**》位置で使用します。

・作業時には，油圧固定スイッチを《**作業時**》の位置で使用します。

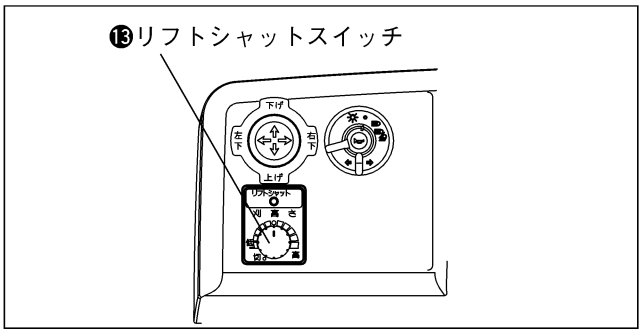
・刈取部をオープンするときは，油圧固定スイッチを《**下る**》の位置で使用します。



⑬ リフトシャットスイッチ〈ダイヤル一体型〉

刈取部を上げると刈取り搬送，脱こくフィードチェンが停止する機構がリフトシャットです。刈高さダイヤルを押してリフトシャットの《**入**》《**切**》の切替えを行います。

リフトシャット《**入**》時はランプが点灯します。

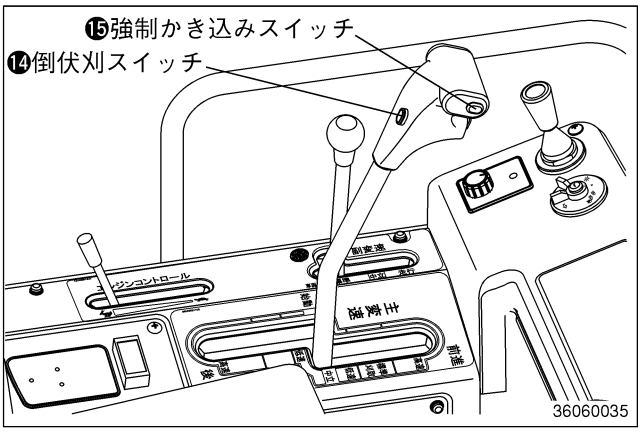


取扱いのポイント

- **あぜぎわや枕地刈りのときは，リフトシャットを《切》にして行なってください。**
- **刈取り作業をする前に，リフトシャットの作動を確認してから，作業を始めてください。**

⓮　倒伏刈スイッチ

倒伏刈取作業などで，刈取部の搬送速度を通常より速くしたいときは，倒伏刈スイッチを押してください。音が鳴ると同時に前パネルの倒伏刈ランプが点灯します。再度倒伏刈スイッチを押すと，音が鳴り倒伏刈ランプが消灯し通常の搬送速度になります。



取扱いのポイント

- **倒伏刈スイッチは，主変速《標準刈取》範囲で使用すると搬送姿勢が安定した刈取作業ができます。**

⓯　強制かき込みスイッチ

パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチが《**刈取**》のとき，走行停止状態，リフトシャット作動時または後進時に刈取搬送および脱こくフィードチェンを作動させたいときは，強制かき込みスイッチを押してください。押しているあいだ作動します。

取扱いのポイント

- **刈取走行中は強制かき込みスイッチを操作しないでください。搬送部の詰まりなどの原因になることがあります。**

⓰　パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ

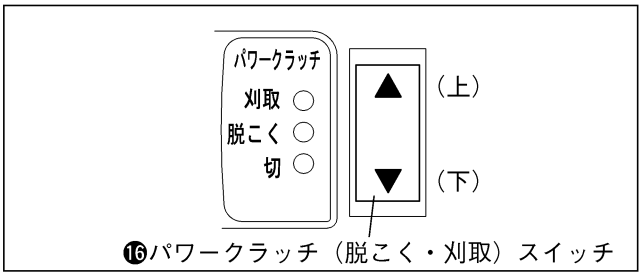
⚠警告　傷害事故防止のために

◆パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《脱こく》,《刈取》に操作するときは，コンバインの周囲から人を遠ざけてください。

◆スタータスイッチを《入》位置にしてパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《脱こく》または《刈取》にすると，エンジンを始動していなくてもエンジンカバー部の防塵ファンが定期的に回転します。パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを操作するときはエンジンカバーを開けないでください。

・パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチの▲(上)を１回押すと《**脱こく**》インジケータが点灯し脱こく部が作動します。

・パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチの▲(上)をさらにもう１回押すと《**脱こく**》と《**刈取**》インジケータが点灯し脱こく部に連動して刈取部が作動します。



・パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチの▼(下)を１回押すと《**刈取**》インジケータが消灯し《**脱こく**》インジケータのみ点灯し，脱こく部のみが作動します。

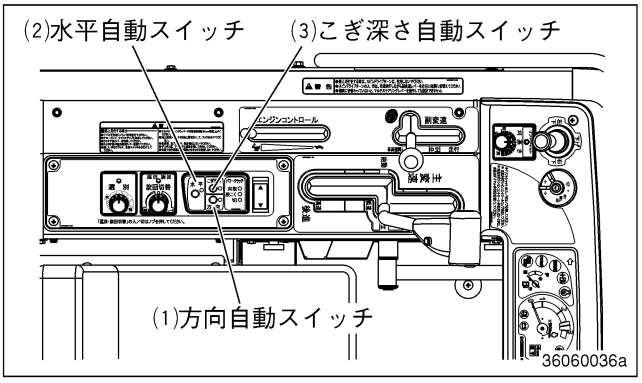
・パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチの▼(下)をさらにもう１回押すと《**切**》インジケータが点灯し脱こく部が停止します。

・パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチの▲(上)▼(下)スイッチを長押しするとインジケータが連続して切替わります。

取扱いのポイント

- 刈取り作業を行うとき，回転計のそれぞれの「色別表示」（作業範囲）以下では《刈取》位置にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。
- 停止時のパワークラッチ（脱こく・刈取）の位置により再始動時にスタータスイッチ《入》で２～３秒の準備時間がかかることがあります。ブザー音でお知らせしますが，異常ではありません。

⑰ 自動スイッチ



(1) 方向自動スイッチ［ディーラーオプション］

方向自動を使用するときは，スイッチを押して，ランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。（詳細は，73～74ページ参照）

(2) 水平自動スイッチ

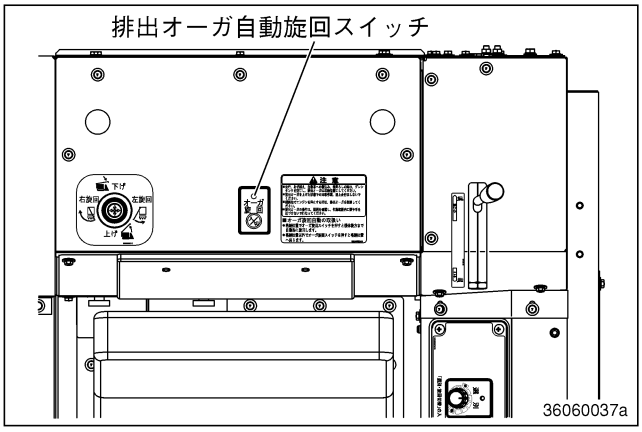
水平自動を使用するときは，スイッチを押して，ランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。

水平自動スイッチを「切」（ランプ消灯）にしたら，水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。（詳細は，76～77ページ参照）

(3) こぎ深さ自動スイッチ

スタータスイッチを《入》位置にすると，ランプが点灯し，こぎ深さ自動が「入」になります。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。
（詳細は，72～73ページ参照）

⑱ 排出オーガ自動旋回スイッチ［D仕様以外］



排出オーガ自動旋回スイッチ

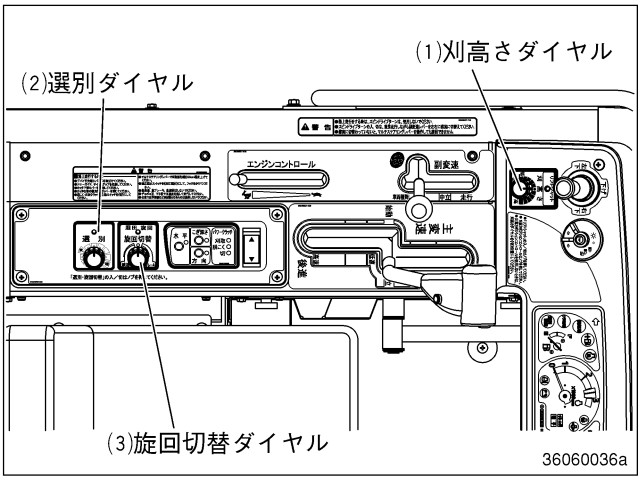
- 排出オーガ収納位置で，自動スイッチを押すと，排出オーガが機体後方まで，自動的に旋回します。
- 排出オーガ収納位置以外で，自動スイッチを押すと，排出オーガ収納位置へ戻ります。
- 排出オーガ自動旋回中，または自動収納途中で旋回停止を行う場合は，再度，自動スイッチを押すと停止します。（詳細は，78～79ページ参照）

取扱いのポイント

- こく粒を排出する場合は，エンジン回転を回転計の「色別表示」に合わせて行なってください。回転が低いと，詰まりの原因となります。

⑲ 自動調整ダイヤル

各自動制御の調整ダイヤルが,装備されています。



(1) 刈高さダイヤル

刈高さポジションコントロールを使用するときはダイヤルを回して《切》位置以外で使用します。

・刈高さの調節は，刈高さダイヤルの操作によって，希望する「刈高さ位置」を設定することができます。

・刈高さダイヤルは，通常《標準》（●マーク）位置で使用します。

取扱いのポイント

- 刈高さポジションコントロールを使用しないときは，ダイヤルを《切》位置で使用します。
- ほ場の凹凸が多い場合には，マルチステアリングレバーで手動操作してください。
- 刈高さダイヤルをどの位置にセットしても，刈高さポジションコントロールが設定できないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。

(2) 選別ダイヤル（スイッチ一体型）

スタータスイッチを《入》位置にすると，ランプが点灯し，選別自動が「入」になります。点灯状態からダイヤル（スイッチ一体型）を押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。
（詳細は，77～78ページ参照）

刈取る作物に合わせて，選別ダイヤルをいずれかの位置にセットします。

《麦》－通常のムギ刈り作業は，この位置で行います。

《稲》－通常のイネ刈り作業は，この位置で行います。

取扱いのポイント

- 選別自動スイッチ「入」（ランプ点灯）状態で作業すると，刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。
- 選別自動スイッチ「切」（ランプ消灯）状態で作業するときも，選別ダイヤルを作物に合わせてセットしてください。
- 選別自動スイッチは「切」（ランプ消灯）の状態でも作業に支障はありませんが，良好な選別状態を得られない場合があります。
- スタータスイッチを《入》にして，選別自動スイッチのランプが点灯しないときは，作業を中止しエンジンを停止して，ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検してください。
- ⑰,⑱,⑲の詳細は,自動装置についての項(72～81ページ）を参照してください。
- ダイヤル付自動スイッチはダイヤルノブを押すことにより自動の「入」・「切」ができます。

(3) 旋回切替ダイヤル（スイッチ一体型）

湿田旋回を使用するときは，ダイヤル（スイッチ一体型）を押して，ランプ点灯で使用します。点灯状態から再びダイヤルを押すと，ランプが消灯し，標準旋回となります。

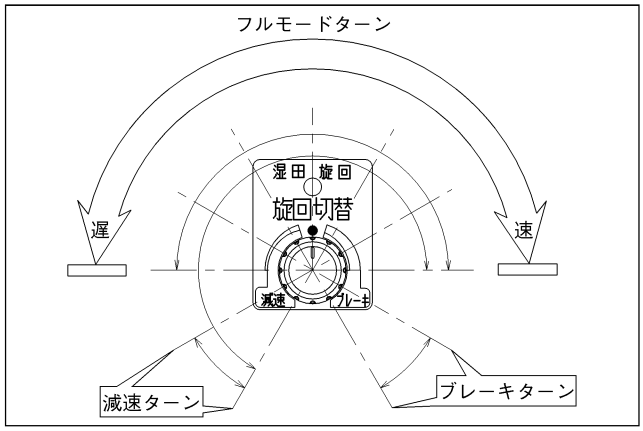
・湿田旋回は湿田などでの緩旋回時に旋回側クローラが停止するようなときに使用します。「**入**」にすると，減速ターン領域での旋回側の駆動力がアップして，確実な減速ターンができます。

ダイヤル操作によって，希望する「**旋回モード**」を設定することができます。

・《**標準**》位置（●印位置）およびその左右 3 ノッチ位置がフルモードターン（マルチステアリングレバー倒し角度により，減速ターン→ブレーキターン）となります。

・《減速》位置（最左およびその手前位置）が減速ターンになります。

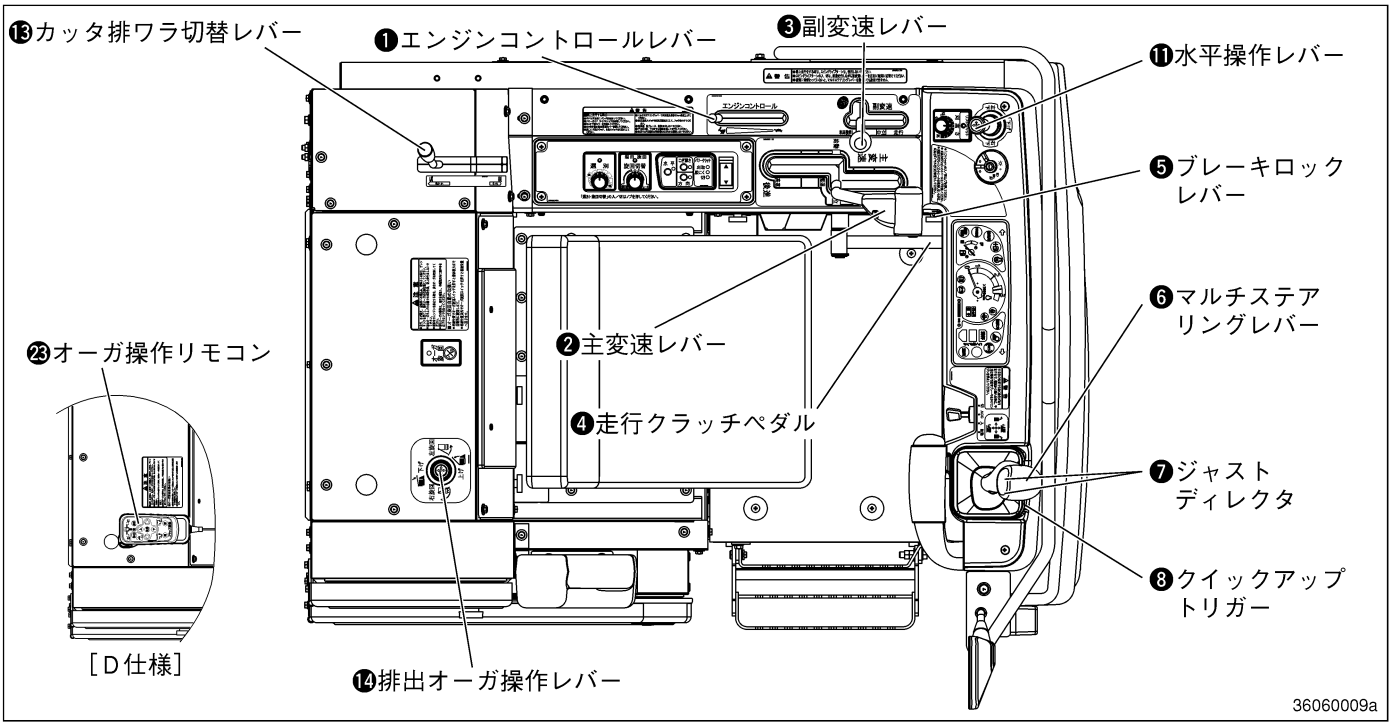
・《ブレーキ》位置（最右およびその手前位置）がブレーキターンになります。



取扱いのポイント

- **フルモードターンは通常《標準》位置で使用します。ダイヤルは，マルチステアリングレバーの操作角度に対して右に回すと旋回動作が速くなり，左に回すと遅くなります。**
- **フルモードターン，あるいは減速ターンを設定していても，路上走行時には自動的にブレーキターンとなります。**

2．ペダル・レバー関係



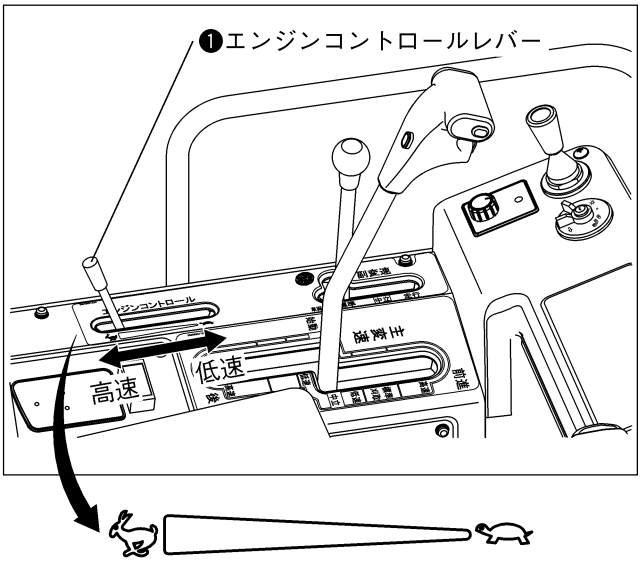
❶　エンジンコントロールレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。

・「**始動**」のときは……エンジンコントロールレバーを手前に引き，《 》（**高速**）の位置にしてエンジンを始動します。

・「**作業**」のときは……適正回転数になるよう回転計の指針を合わせます。

・「**停止**」のときは……《 》（**低速**）の位置にしてエンジンを停止します。



❷　主変速レバー

⚠警告　傷害事故防止のために

◆機械から離れるときは，《中立》（N）でも動く場合があるので，平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止してください。

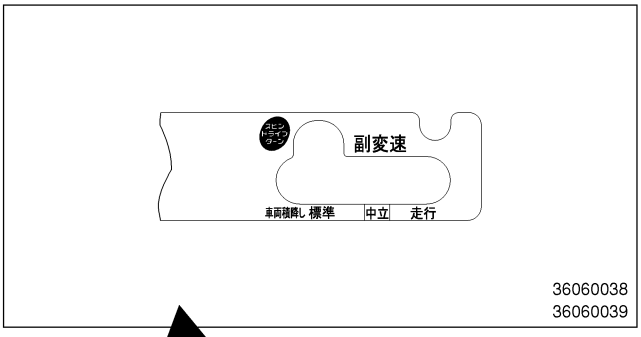
◆走行中，主変速レバーを急激に増速・減速の操作をしないでください。

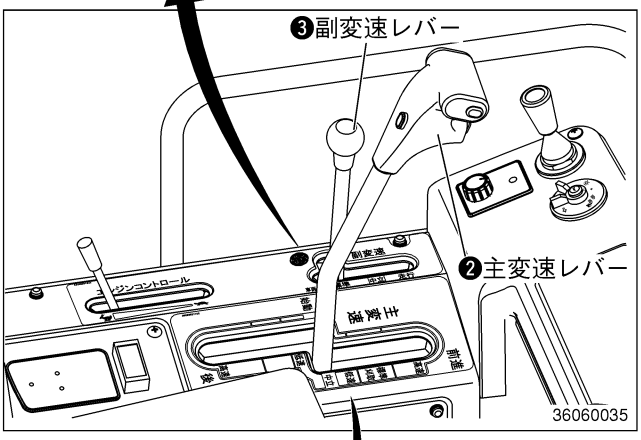
◆前後進の切替えは，機械が停止してから行なってください。

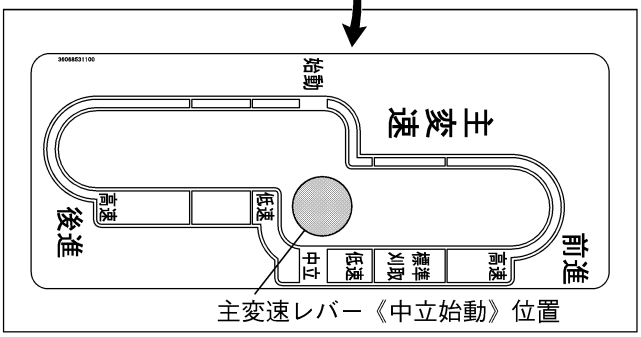
◆自動車等への積込み・積降ろしのときは，アユミの上で変速操作，クラッチ操作をしないでください。

走行クラッチペダルを踏まないで走行速度の変速ができます。前進・後進いずれも任意の位置に操作するだけで，作業に適した速度が得られます。

エンジンの始動は，主変速レバーを《**中立始動**》（**前進側中立**）位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとできません。







作業内容	副変速	主変速
積込み，あぜ越え	車両積降し 標準	[中立]から[前進・低速]
積降ろし		[中立]から[後進・低速]
路上，ほ場走行(前進)	標準　走行	[中立]から発進し，その場の状況に応じ順次速度を上げる。
路上，ほ場走行(後進)	標準	
刈取時の後進		
標準刈取り	標準	[中立]から[標準刈取]
倒状刈取り	標準	[中立]から[低速]または[標準刈取]
集中注油	N［中立］	[中立]から[標準刈取]

取扱いのポイント

●副変速レバー《走行》で急旋回すると，主変速レバーが戻ることがありますので，《走行》では急旋回しないでください。

❸　副変速レバー

⚠警告　傷害事故防止のために

◆スピンドライブターンの「入，切」は，ゆっくり前進走行しながら副変速レバーを左右に確実に切替えてください。確実に切替わっていないと，マルチステアリングレバーを操作しても旋回できません。

◆路上走行するときはスピンドライブターンは使用しないでください。

作業目的や刈取り条件により《**標準・車両積降し**》，《**走行**》(**高速**) の 2 段に変速ができます。

・副変速レバー操作は，主変速レバーを《**中立**》にして，走行を停止してから走行クラッチペダルを踏込んで行います。

・自動車への積込み・積降ろし，ほ場への出入りは《**標準・車両積降し**》位置で行います。

・刈取り作業は《**標準・車両積降し**》位置で行います。《**走行**》位置での刈取り作業はできません。

・見通しが良く平坦な道路では《**走行**》位置で走行します。狭い道路や凹凸のある道路は《**標準・車両積降し**》で走行します。

・「**スピンドライブターン**」とは，左右のクローラが逆転して旋回します。小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用します。

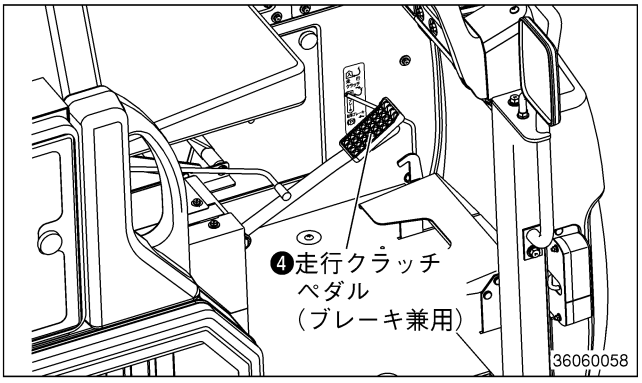
《**スピンドライブターン**》への切替えは《**標準**》位置で，走行クラッチペダルを踏まずにゆっくり前進走行しながら副変速レバーを左に確実に切替えます。

❹ 走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行クラッチペダルは自動車への積込み・積降ろしなどアユミの上では操作しないでください。転落事故を起こすことがあります。

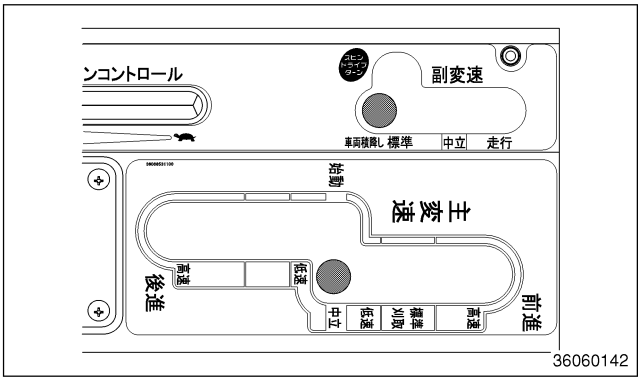
◆走行クラッチペダルに足を乗せたまま旋回操作をしないでください。
ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。



機械の始動，停止(ブレーキ)，副変速レバーの操作に使用します。

(1) **エンジンの始動に使用します。**
・エンジンを始動するときは走行クラッチペダルをいっぱいに踏込みます。

(2) **走行の停止（ブレーキ）に使用します。**
・走行クラッチペダルをいっぱいに踏込むと，主変速レバーが《**中立**》に戻りトランスミッションへの動力が絶たれ，ブレーキがかかる構造になっています。



(3) **機械の副変速レバーの操作に使用します。**
・副変速レバーを操作するときは，走行クラッチペダルをいっぱいに踏込みます。

取扱いのポイント

- **走行クラッチペダルを踏んだままですと，主変速レバーは操作できません。**
- **作業中，走行クラッチペダルを踏むと走行と同時に刈取部も停止します。**

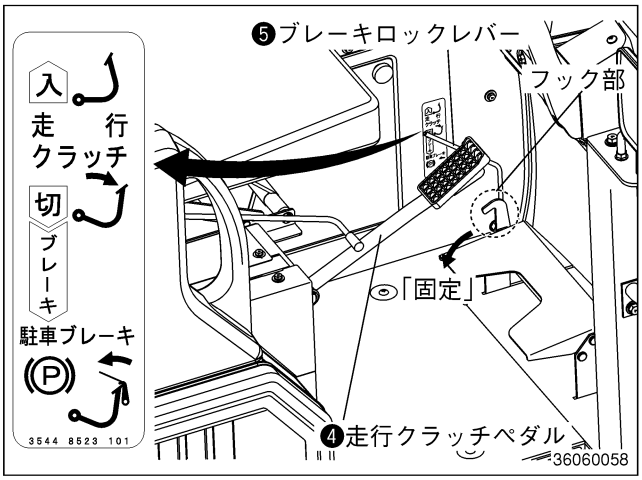
❺ ブレーキロックレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆坂道など傾斜のある所では，駐車しないでください。やむをえず駐車する場合には，駐車ブレーキをかけ，木片などでクローラに「歯止め」をします。

◆ブレーキロックレバーは，自動車への積込み，積降ろしなどアユミの上では操作しないでください。機械がずり落ちることがあります。

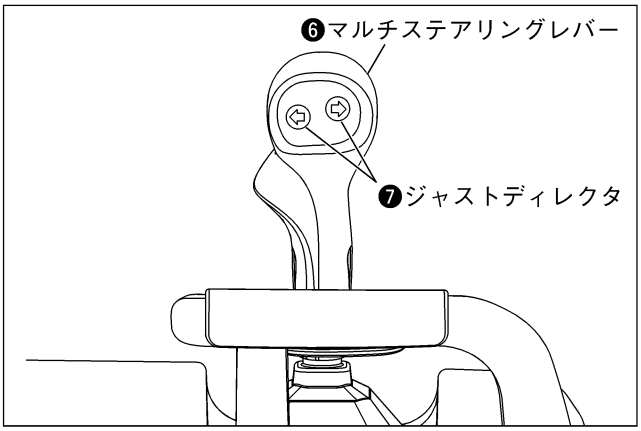
・駐車するときに使用します。走行クラッチペダルをいっぱい踏込み，ブレーキロックレバーを操作してフックをペダルに掛けます。
・解除するときは，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，自動的にブレーキロックレバーのフックが外れます。



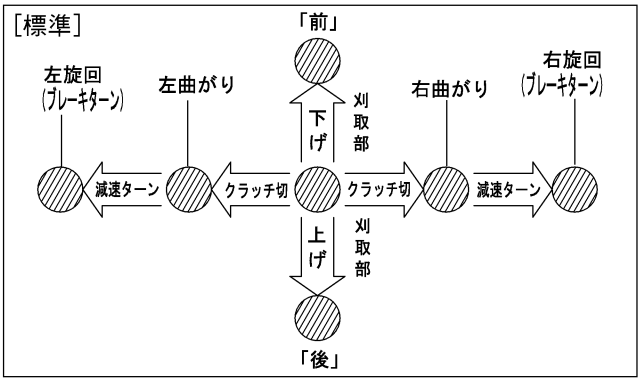
❻ マルチステアリングレバー

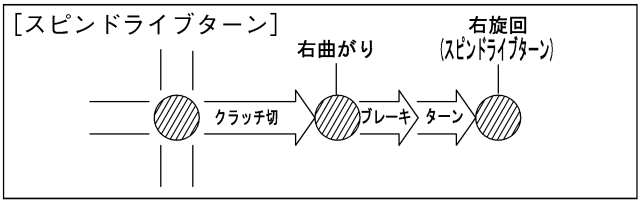
⚠警告 傷害事故防止のために

◆旋回するときは，主変速レバーで速度を落として行なってください。
◆自動車等への積込み・積降ろしのときは，アユミの上でマルチステアリングレバーを左右操作しないでください。レバー操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。



・レバーの左右操作で「**旋回**」，前後操作で刈取部の「**上げ**」「**下げ**」ができます。





・マルチステアリングレバーを浅く倒すと機械は倒した側に徐々に曲がり，深く倒すと旋回します。

取扱いのポイント

- **マルチステアリングレバーを斜め方向に操作すると，刈取部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行えます。**

❼ ジャストディレクタ

⚠警告 傷害事故防止のために

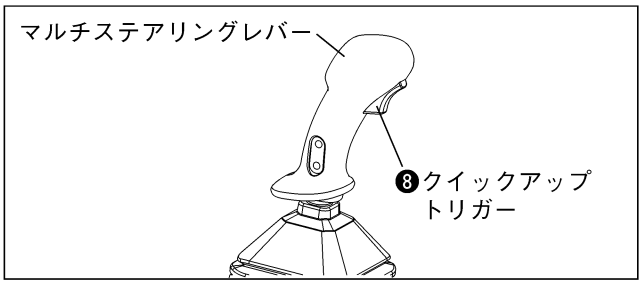
◆自動車等への積込み・積降ろしのときは，アユミの上でジャストディレクタを操作しないでください。ジャストディレクタを操作すると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。

マルチステアリングレバーに内装されています。
・ジャストディレクタの《⇦》を押すと左方向に，《⇨》を押すと右方向に機械の進行方向を修正します。
・刈始めの条合わせや，刈取り中の微調整に使用します。

取扱いのポイント

- **ジャストディレクタと，マルチステアリングレバーとの併用はできません。マルチステアリングレバー操作が優先します。**
- **ジャストディレクタは旋回力が小さいので，旋回には使用しないでください。**

❽ クイックアップトリガー



① **クイックアップ機能**

旋回時の刈取部の上げ・下げ操作を容易にする機能です。

クイックアップトリガーを押しながらマルチステアリングレバーを軽く(一瞬)上げ･下げ操作をすると刈取部が設定された高さまで自動的に動きます。

② **刈高解除機能**

刈高さポジションコントロールで設定された刈高さを解除する機能です。

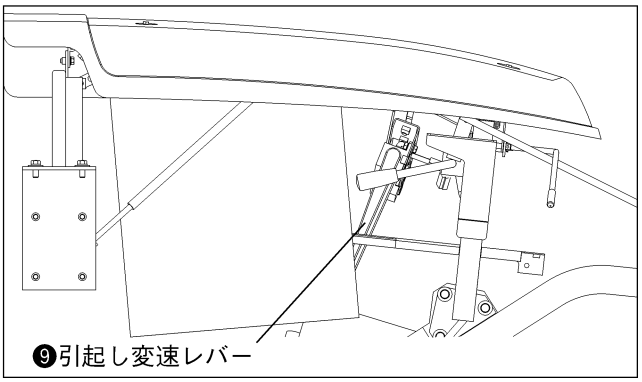
刈高さセット位置よりもさらに刈取部を下げたいときはクイックアップトリガーを押しながらマルチステアリングレバーを下げ操作します。

詳しい操作については「刈高さポジションコントロール」を参考にしてください。

❾　引起し変速レバー

作物の倒伏状態，稈の強弱等により引起し速度を変速します。

レバー操作はパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**切**》か，または走行クラッチペダルを踏込んで行います。

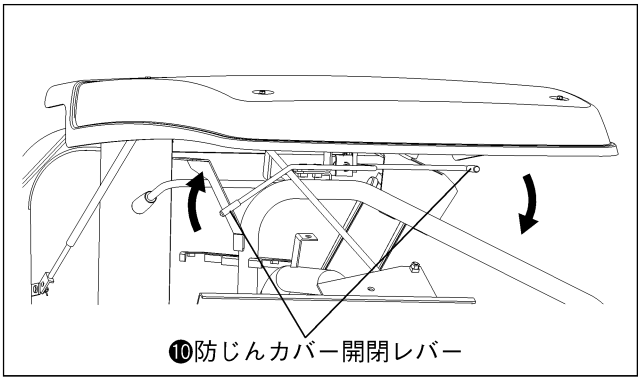


❿　防じんカバー開閉レバー

［5条型：C仕様，X仕様を除く］

［4条型：LM仕様，C仕様，X仕様を除く］

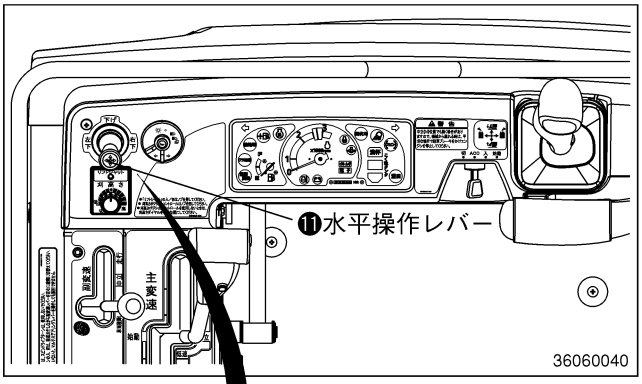
防じんカバーを上げるときに使用します。このレバーは運転席側と機体左側（下図）で操作できます。下げるときはカバー上部を持って押し下げます。

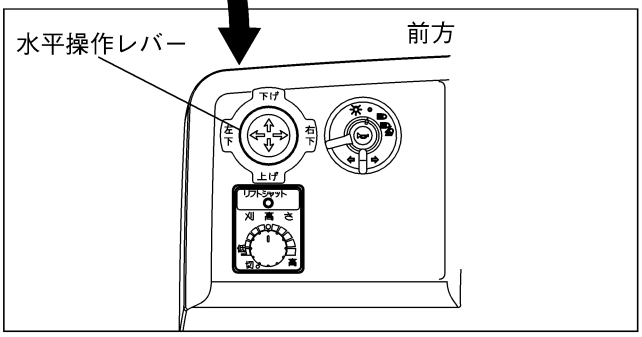


⓫　水平操作レバー

機体の「**上げ**」「**下げ**」「**右下げ**」「**左下げ**」をします。

・レバーを《**上げ**》の方向に倒すと，機体が上がります。
・レバーを《**下げ**》の方向に倒すと，機体が下がります。
・レバーを《**右下**》の方向に倒すと，機体が右傾斜します。
・レバーを《**左下**》の方向に倒すと，機体が左傾斜します。



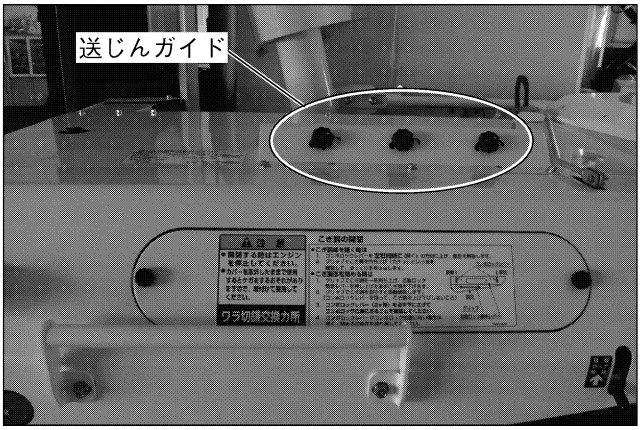


取扱いのポイント

- **刈取り作業時以外は，水平操作レバーで機体を一番下まで下げて使用してください。**

⑫　送じんガイド

・こぎ室内の発生クズ量に応じて送じんガイドの位置を自動で調整し，こぎ室内の負荷を軽減する機構です。



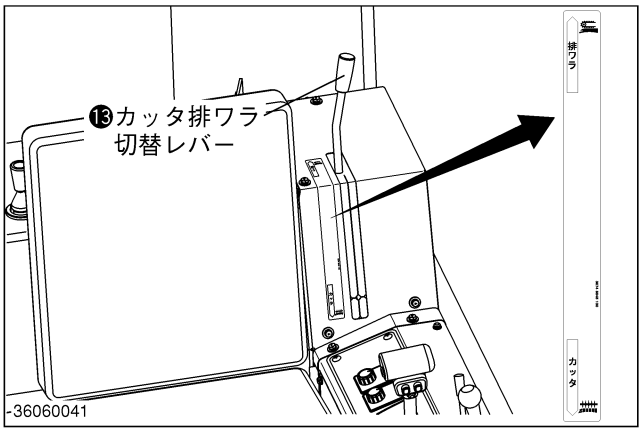
・送じん量の手動調節のしかたは80ページを参照してください。

⑬　カッタ排ワラ切替

①　カッタ排ワラ切替レバー

カッタ作業または排ワラ作業の切替えをするレバーです。

・切替え操作は作物が搬送途中にないことを確認してから行います。



《**カッタ**》……ワラをカッタで切断します。

《**排ワラ**》……ドロッパ作業，ワラをそのまま排出する作業。

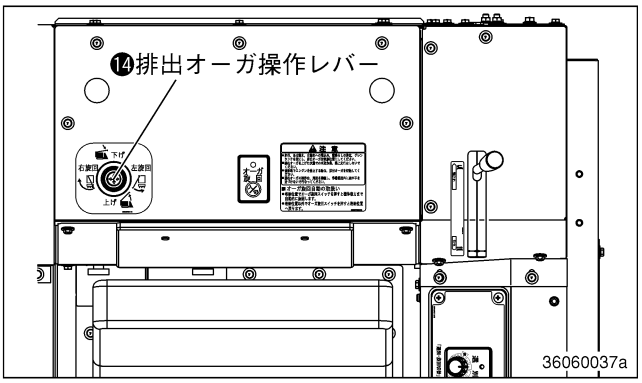
⓮　排出オーガ操作レバー［D仕様以外］

⚠警告　傷害事故防止のために

◆排出オーガを操作するときは，排出オーガ固定リングをフックから外して周囲の障害物と衝突しないように行ってください。

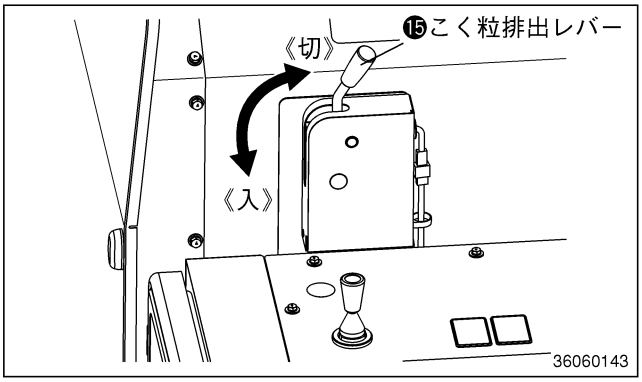
◆排出オーガを上げたままでの路上走行や，ほ場の移動はしないでください。上げたままで走行しますと，障害物との衝突により事故となることがあります。また，故障の原因にもなります。

排出オーガを《**上げ**》,《**下げ**》および《**左**》旋回,《**右**》旋回させるレバーです。



・排出オーガを旋回するときは，排出オーガを上限まで《**上げ**》てから行います。

⓯　こく粒排出レバー［D仕様以外］



グレンタンク内のこく粒を排出するレバーです。

取扱いのポイント

- こく粒を排出する場合は，エンジン回転を回転計の「作業の上限(黄色)」に合わせてください。回転が低いと詰まりの原因となります。
- 排出オーガを動かすときはフックから排出オーガ固定リングを外してください。
- 水平位置より下げた状態で排出オーガを旋回しないでください。
- エンジンを始動するとき，こく粒排出レバーが《**入**》位置にあると始動できません。

⑯　タンク固定・タンク回動

①　タンク固定レバー・タンク回動レバー

⚠警告　傷害事故防止のために

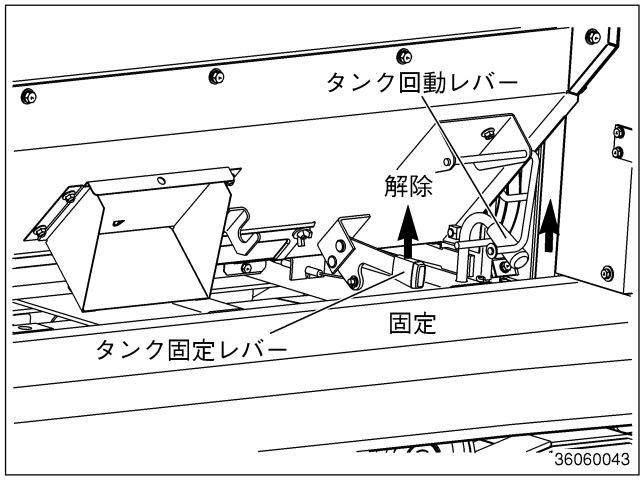
◆グレンタンク固定レバーを《解除》するときは，平坦な場所で各クラッチを切り，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆グレンタンク内にこく粒が入っていないことを確認してから行ないます。
タンク内にこく粒が入った状態でグレンタンク固定レバーを《解除》するとグレンタンクが不意に回動し，事故となることがあります。また故障の原因となります。

◆エンジンを始動する前に，グレンタンクが固定レバーで固定されていることを確認します。グレンタンクが固定されていない状態でエンジンを始動するとグレンタンクが不意に回動し，事故となることがあります。また故障の原因となります。

グレンタンクを定位置に固定するためのレバーです。

グレンタンクを回動（オープン）（119～120ページ参照）するときは，タンク回動レバーを持ち上げると同時にタンク固定レバーのロックを解除します。



タンクを収納しタンク回動レバーのピンがフレームの穴に入るとタンク固定レバーは固定状態になります。

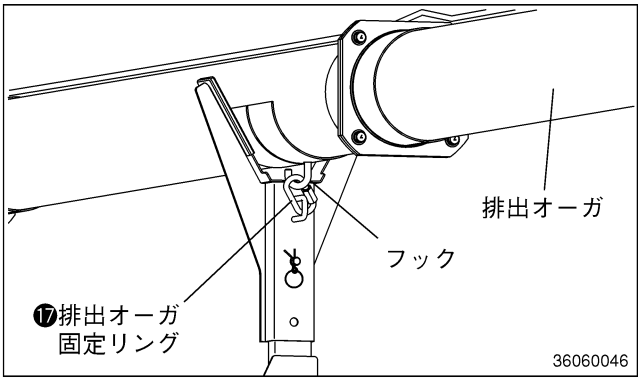
取扱いのポイント

- **タンク固定レバーを先に外すとタンク回動レバーが外れにくくなりますので必ずタンク回動レバーを先に外してください。**

⑰　排出オーガ固定リング

排出オーガを収納状態で固定するリングです。

排出オーガを操作する前に，固定リングをフックより外します。排出オーガ収納時は，固定リングをフックにかけておきます。



⑱　ナローガイド

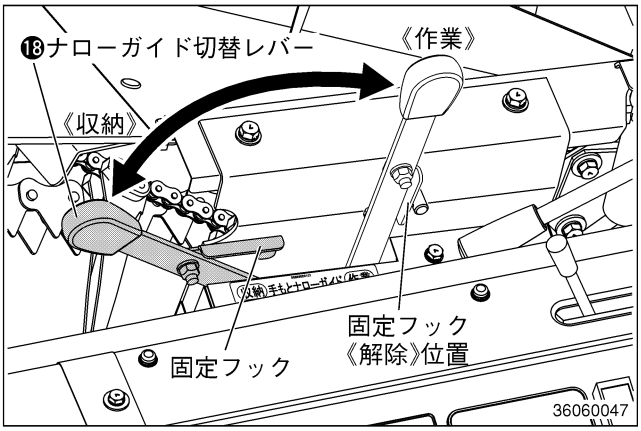
①　ナローガイド切替レバー

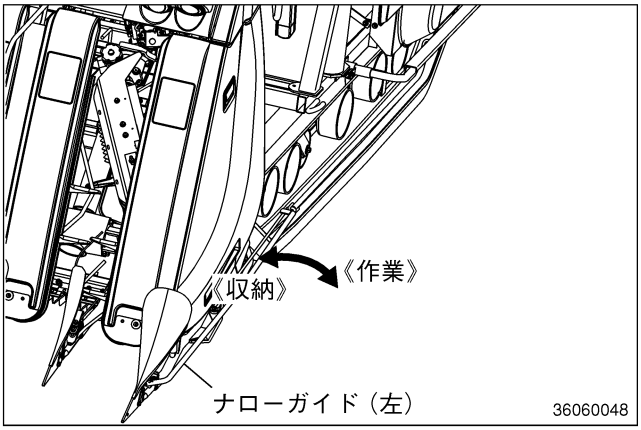
ナローガイド（左）を運転席に座ったまま操作するレバーです。

・ナローガイド切替レバーを《**作業**》にすると，ナローガイド(左)が引出され作業状態になります。

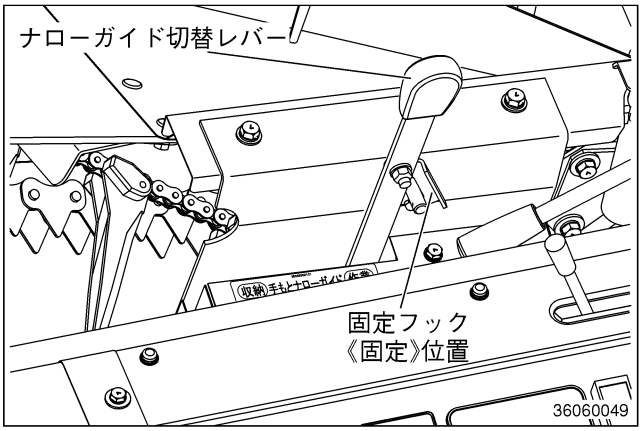
・通常固定フックは《**解除**》の位置で作業します。

・通常走行時には《**収納**》位置にします。





・作業時，レバーが戻る場合は固定フックで《**固定**》にしてください。



⑲ シート

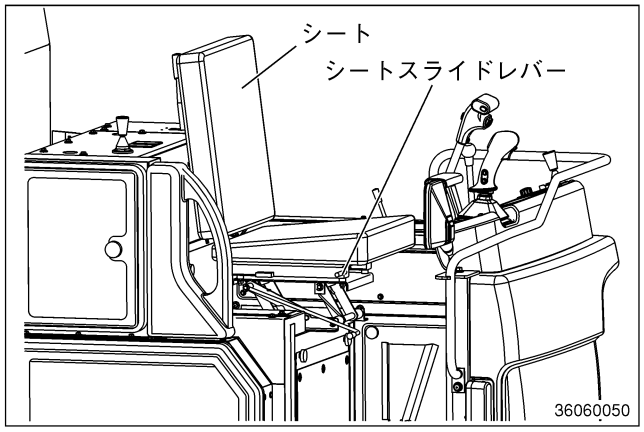
① シートスライドレバー

運転者の体格に合わせ着座位置を前後にスライドさせます。

(1) レバーを上方に回動します。この状態で固定が外れます。

(2) シートを前後にスライドさせ，最適位置でレバーから手をはなします。

(3) その位置で固定されます。

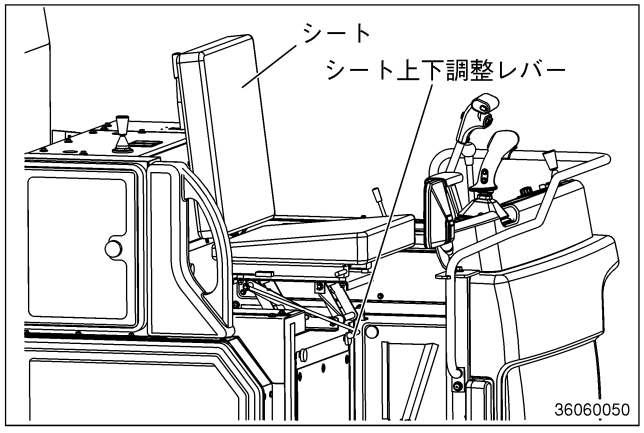


② シート上下調整レバー

運転者の体格に合わせ着座位置を上下させます。

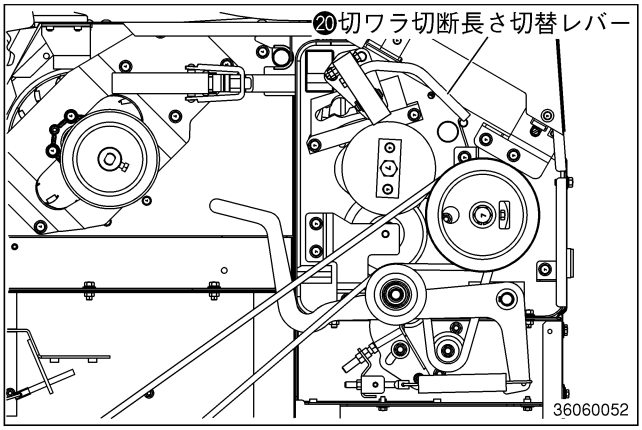
(1) レバーを押しながら腰をうかせます。バネにより，シート位置が上がります。

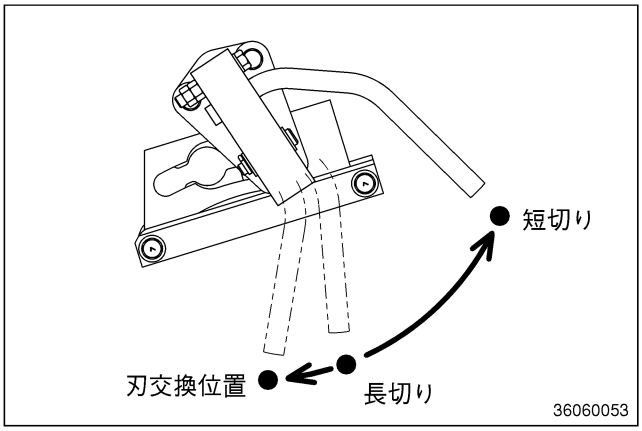
(2) レバーを押しながら腰をおろします。運転者の体重により，シート位置が下がります。



⑳ 切ワラ切断長さ切替えレバー

切断長さ切替レバーを手前に引いて位置を変えることにより「**短切り**」,「**長切り**」と「**刃交換位置**」に切替操作ができます。

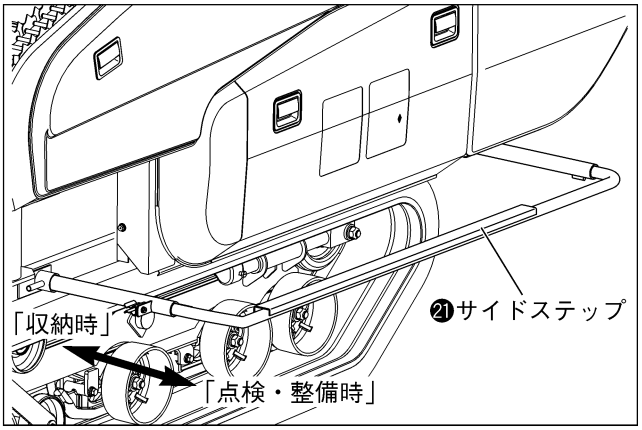




㉑ サイドステップ

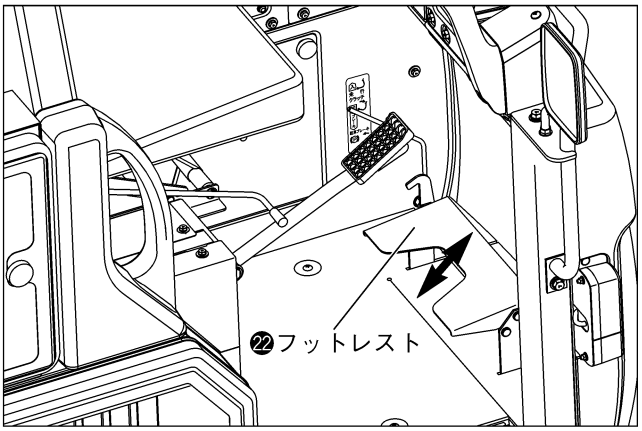
点検や整備のときだけサイドステップを引出して使用します。

作業時，路上走行時は収納します。



㉒ フットレスト

必要に応じて切換えてください。



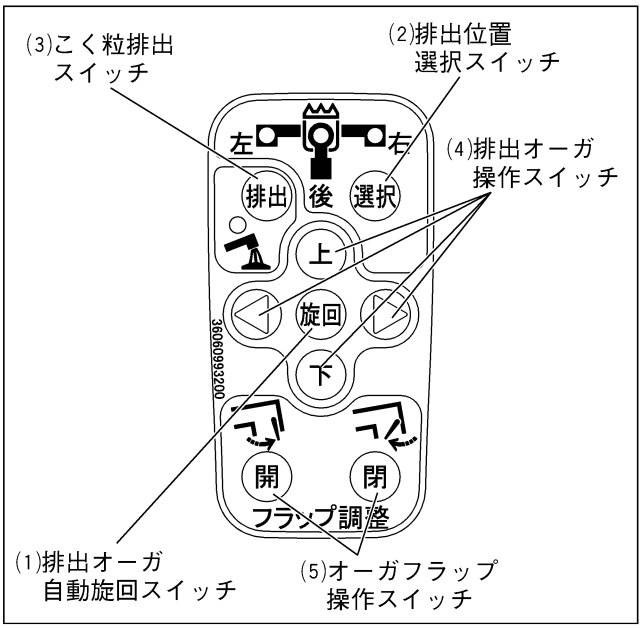
㉓ オーガ操作リモコン［D仕様］

⚠警告 傷害事故防止のために

◆排出オーガを操作するときは，排出オーガ固定リングをフックから外して周囲の障害物と衝突しないように行ってください。

◆排出オーガを上げたままでの路上走行や，ほ場の移動はしないでください。上げたままで走行しますと，障害物との衝突により事故となることがあります。また，故障の原因にもなります。

オーガ操作リモコンのイラストは，運転席側オーガ操作リモコンを示します。



(1) 排出オーガ自動旋回スイッチ

［運転席側オーガ操作リモコン］

・排出オーガ収納位置で，自動スイッチを押すと，排出オーガが排出位置まで，自動旋回します。

・排出オーガ収納位置以外で，自動スイッチを押すと，排出オーガ収納位置へ戻ります。

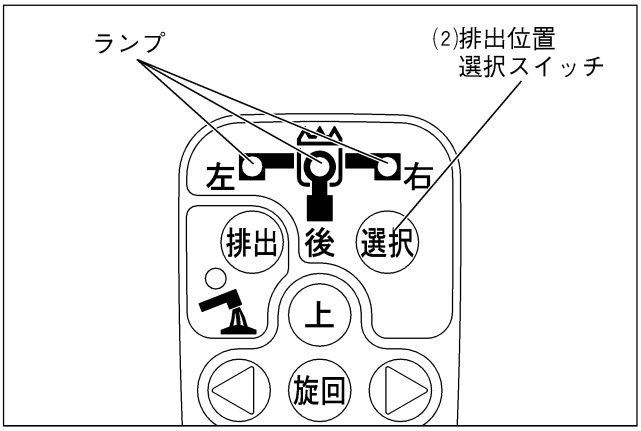
・排出オーガ自動旋回中，または自動収納途中で旋回停止を行う場合は，再度，自動スイッチを押すと停止します。(詳細は，78～79ページ参照)

(2) 排出位置選択スイッチ

［運転席側オーガ操作リモコン］

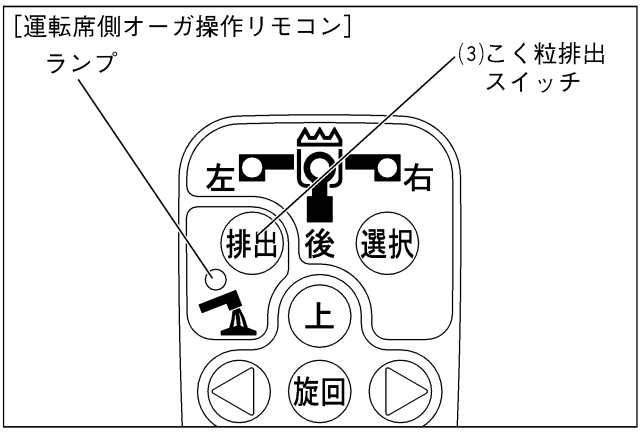
・自動スイッチを押すと排出オーガが自動旋回し，停止する排出位置（「後」「右」「左」の 3 方向）の選択を行うスイッチです。

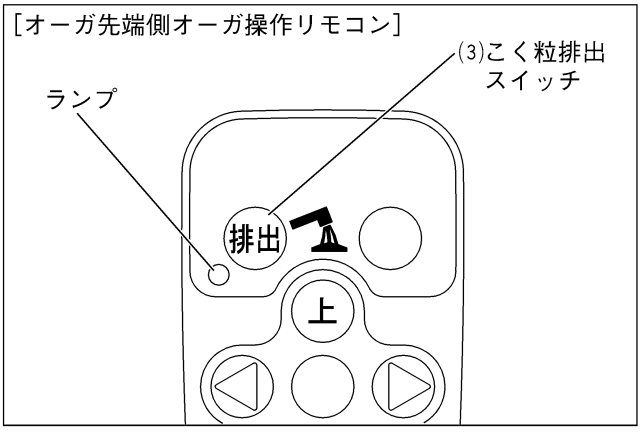
・排出位置選択スイッチを押すと「後」→「右」→「左」→「後」→の順に切換り，ランプが点灯します。



(3) こく粒排出スイッチ

・このスイッチを押すとランプが点灯し，グレンタンク内のこく粒を排出します。再度スイッチを押すとランプが消灯し，排出を停止します。



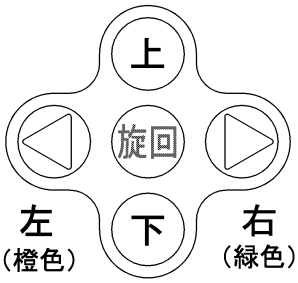


(4) 排出オーガ操作スイッチ

・排出オーガの旋回および上昇・下降の操作を行うスイッチです。

・排出オーガを旋回するときは，排出オーガを上限まで上げてから行います。

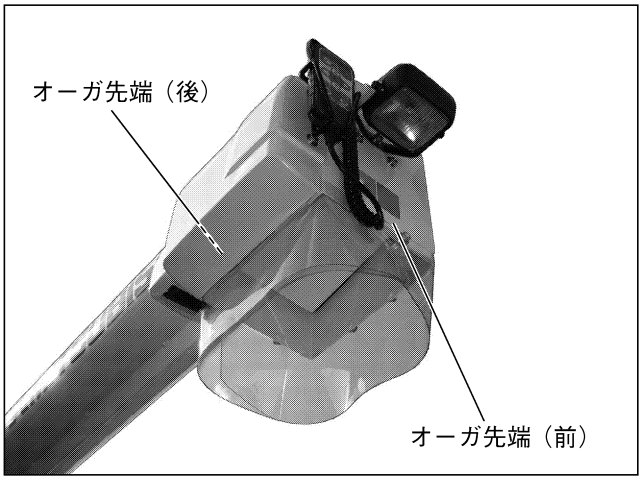
運転席側オーガ操作リモコン



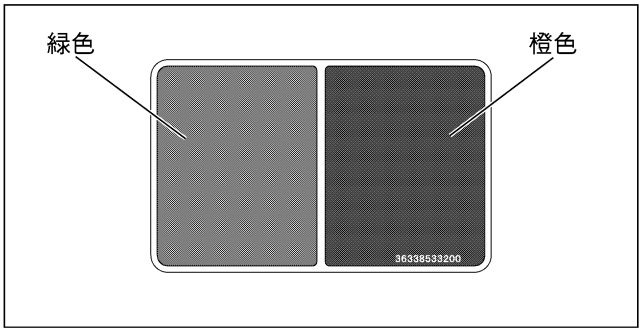
スイッチの操作方向	オーガの動き
上	上昇
下	下降
左	左回り（反時計方向）に旋回
右	右回り（時計方向）に旋回

※オーガ先端側のオーガ操作リモコンは，左スイッチが「緑色」，右スイッチが「橙色」と運転席側のリモコンとは異なります。

オーガ操作方向識別ラベル貼付位置（ 2 カ所）

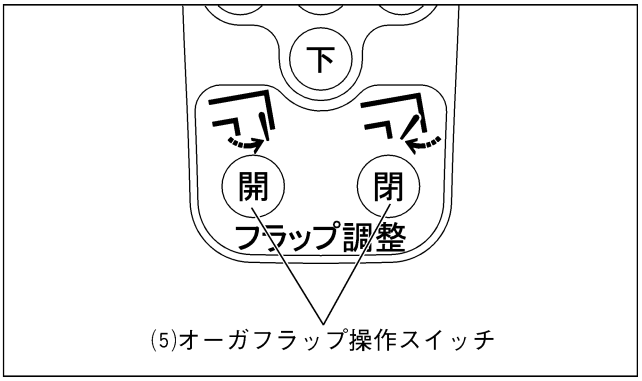


オーガ操作方向識別ラベル

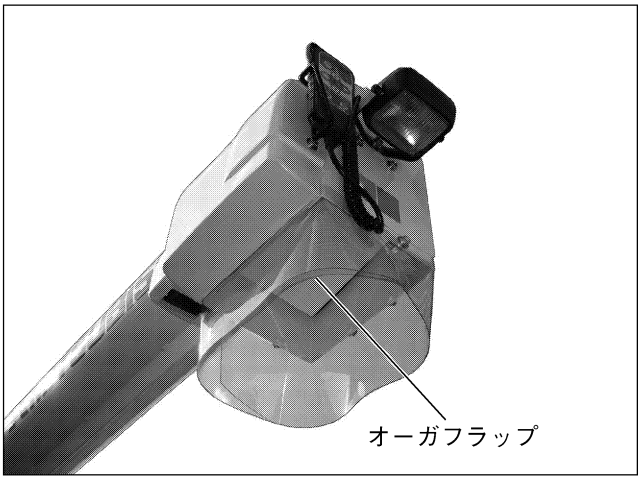


⑸ オーガフラップ操作スイッチ

・オーガフラップの開閉操作を行うスイッチです。
・オーガフラップを開閉操作し，こく粒排出位置の微調整ができます。
（こく粒排出範囲のみ）



⑸オーガフラップ操作スイッチ



取扱いのポイント

- こく粒を排出する場合は，エンジン回転を回転計の「作業の上限（黄色）」に合わせてください。回転が低いと詰まりの原因となります。
- 排出オーガを動かすときはフックから排出オーガ固定リングを外してください。
- 水平位置より下げた状態で排出オーガを旋回しないでください。

3．電装関係

⚠警告 火災防止のために

◆取付けてあるヒューズと,同じ容量のヒューズを使用してください。針金，銀紙などを使用すると，配線の過熱焼損の原因になります。

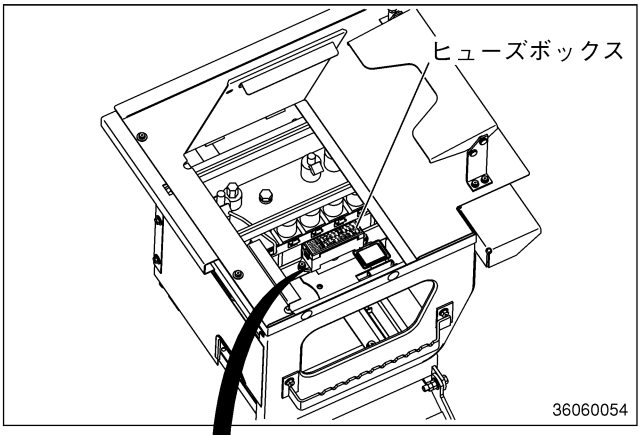
配線の回路に異常を生じたとき，事故を未然に防止するために，ヒューズが設けてあります。

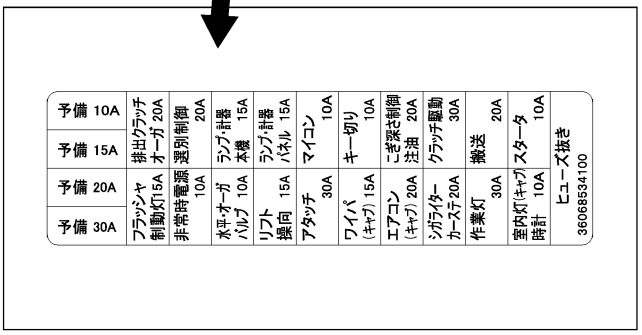
運転中，電気系統の異常を確認したときは，ヒューズの状態をチェックします。

❶ ブレード（板）ヒューズ

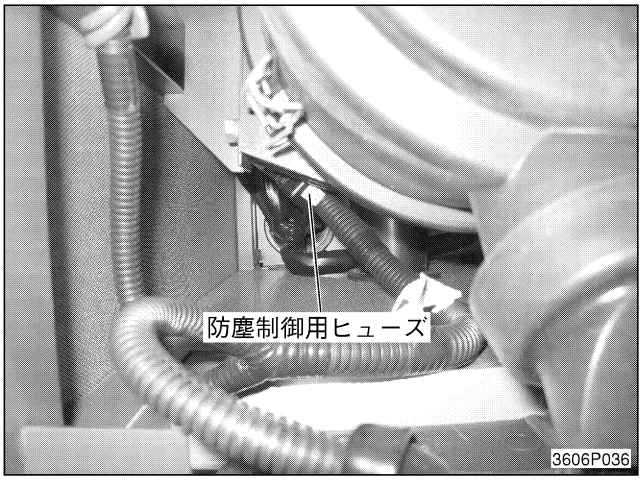
(1) ヒューズボックス内の各種ヒューズ

運転席のステップをめくるとヒューズボックスがあります。





(2) 防塵制御用ヒューズ



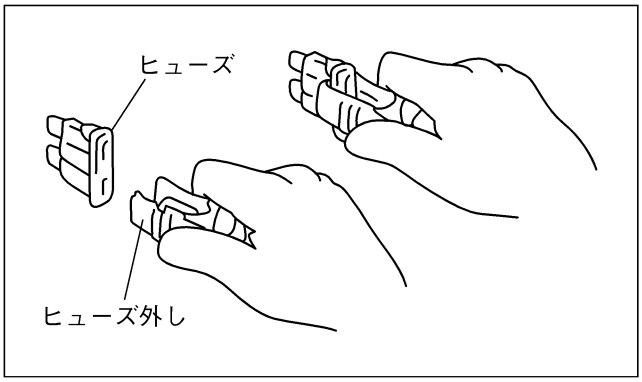
・ブレード（板）ヒューズの交換

ヒューズボックス内の各種ヒューズおよび防塵制御用ヒューズは，ブレードヒューズを使用しています。

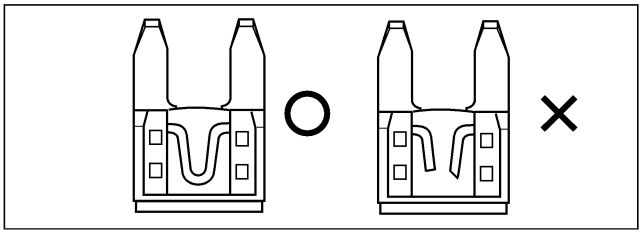
各ヒューズの該当する装置が作動しないときは,次のように処置してください。

① スタータスイッチを《切》位置にします。

② ヒューズボックスのフタを開き，ヒューズ外しを使って，ヒューズを引抜きます。(ヒューズ外しはヒューズボックスの中に入っています)



③ ヒューズが切れていれば，スペアのヒューズと交換してください。



(3) ヒューズボックス内のヒューズの点検・交換が終わったら，足元プレートを元どおり閉めておきます。

❷ 大電流用ヒューズ

・大電流用ヒューズが切れたときは,「**お買いあげ先**」で点検を受けてください。

座席シートの下の足元カバーと左側のカバーを外すと大電流用ヒューズがあります。ヒューズ点検後はカバーを元どおり取付けてください。

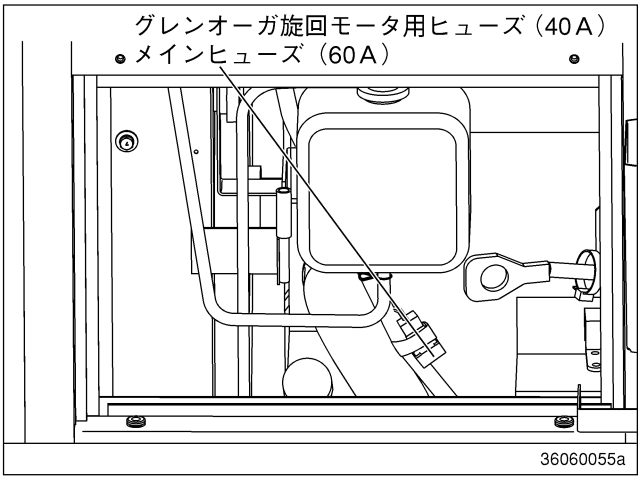
⑴ グレンオーガ旋回モータ用ヒューズ（40A）

> ⚠警告 火傷防止のために
>
> ◆作業直後はエンジン部が高温になっています。各ヒューズの点検はエンジンが冷えてから行ってください。

オーガ旋回モータ用保護ヒューズです。

⑵ メインヒューズ（60A）

エンジンルーム内の電気配線に直接取付けてあります。全ての電気装置の安全装置となっていて,メインヒューズが切れると全ての電気装置が作動しなくなります。

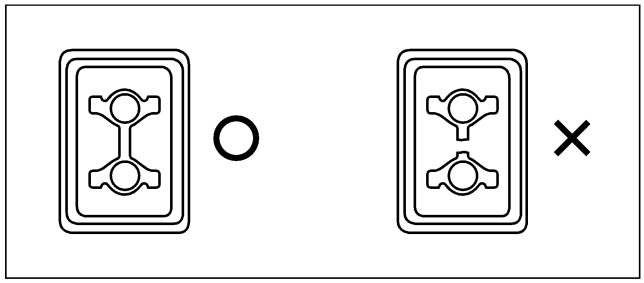


・メインヒューズの交換

> ⚠警告 火災防止のために
>
> ◆取付けてあるメインヒューズと異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金,銀紙などをメインヒューズのかわりに使用しないでください。使用すると電線の過熱焼損の原因になります。

① バッテリ（−）端子を外します。

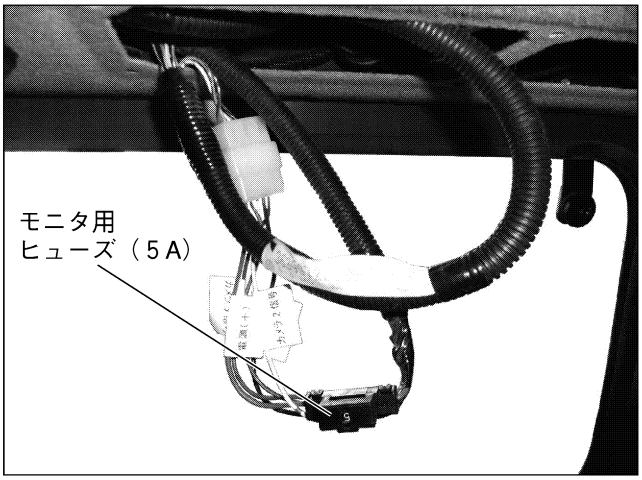
② メインヒューズが下図右側（×印）のようであればヒューズ切れです。指定のメインヒューズと交換します。



③ モニタ用ヒューズ（5A）［X仕様］

・キャビン内，上部後方のエアコンフィルタを外すとモニタ用ヒューズがあります。このヒューズが切れるとバックモニタが使用できなくなります。

ヒューズが切れている場合は指定のヒューズに交換してください。



❸ ヒューズの機能

・ヒューズが溶断した場合，下記の機能が作動不能となります。　　×：作動不能

No			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
	影響の出る機能 / ヒューズの種類［A］		エンジン始動	エンジン停止	燃料の供給	予熱	計器類のモニタランプ	前照灯	作業灯	制動灯	尾灯	車幅灯	方向指示器	ホーン	バック警報	マルチステアリングレバー	ジャストディレクタ	方向制御	こぎ深さ制御	選別制御	水平制御	刈高さ制御	刈取・フィードチェン駆動	排出オーガ旋回	排出オーガ上下	こく粒排出	警報装置	集中注油	エアコン	カーステレオ	ルームランプ	ワイパ・ウォッシャ	シガライタ	結束位置自動モータ	ファンベルト制御	防塵電動ファン	モニタ
No	オプション設定																	OP								OP			OP	OP	OP	OP	OP	OP			
1	アタッチ	30																															×			
2	水平・オーガバルブ	10																			×				×											
3	キー切り	10	×																																	
4	ワイパ［キャビン仕様］	15																													×					
5	エアコン［キャビン仕様］	20																											×							×
6	リフト・操向	15														×	×	×				×														
7	作業灯	30							×																											
8	スタータ	10	×																																	
9	シガライター・カーステ［キャビン仕様］	20																												×		×				
10	室内灯・時計［キャビン仕様］	10																													×					
11	排出クラッチ・オーガブレーキ	20																								×										
12	こぎ深さ制御・油圧ポンプ	30																	×									×								
13	フラッシャ・制動灯	15								×			×																							
14	選別制御	20																		×																
15	クラッチ駆動	30																					×													
16	搬送	20																					×													
17	ランプ・計器（パネル）	15				×	×	×			×	×																								
18	ランプ・計器（本機）	15			×									×	×																					
19	マイコン	10												×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×							×	×	
20	非常時電源	10																																		
21	メイン	60	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
22	オーガモータ	40																						×												
23	ファンベルトクラッチ	20																																×	×	
24	防塵電動ファン	30																																	×	
25	モニタ	5																																		×

（OP……オプション）

取扱いのポイント

●取換えしてもヒューズが切れるときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください。

運転のしかた

1．運転まえの点検

安全作業のために，毎日の運転前に「**運転まえの点検表**」を参考に点検してください。

⚠危険 火傷や火災防止のために

◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油をしないでください。
◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給したときは燃料キャップを締め，こぼれた燃料はきれいに拭取ってください。
◆燃料タンクや燃料ホースの劣化や，傷による漏れなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，傷や漏れがあれば交換してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときには機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し駐車ブレーキをかけてから行なってください。
◆ラジエータキャップの取外しは，エンジンが冷えてから行なってください。
◆点検整備などで取外したカバー類は，すべて取付けてください。

「**運転まえの点検表**」

点検個所	内　　容	処　　置	参照ページ
エンジンカバー および ラジエータフィン オイルクーラフィン クーラコンデンサ［キャビン仕様］	・ラジエータフィン，オイルクーラフィン，コンデンサフィンの目詰まりはありませんか。	・やわらかいブラシなどで，掃除をする。 ・ラジエータフィン，オイルクーラフィン，クーラコンデンサフィンは，コンプレッサでエアを吹き付ける。	108〜109
マフラやエンジン回り，サイドカバー（上）（下）	・ワラクズが溜まっていませんか。	・掃除をする。	—
各部の損傷，汚れ，ボルトのゆるみ	・エンジン始動後の異常音の原因となります。	・ボルトのゆるみを締付ける。 ・損傷したものは交換してください。	—
油漏れ	・各給油個所部に油漏れがありませんか。	・給油，排油，検油栓のゆるみを締付ける。 ・直らないときは，点検を受けてください。	96〜104
燃料ホース	・損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ）や燃料漏れがありませんか。	・ホースを交換してください。 ・継ぎ部をしっかり締付ける。	147
電気配線	・他の部品に接触していませんか。 ・損傷はありませんか。	・傷んだ配線を交換修理してください。 ・電気配線回りのワラクズなどを取除く。	114

点検個所	内　　容	処　　置	参照ページ
エアクリーナ	・エレメントが目詰まりしていませんか。	・エレメントを軽くたたくか，コンプレッサで内側からエアを吹きつける。	109
エンジンオイル (エンジンクランクケース)	・オイルがレベルゲージの上・下限の間にありますか。	・エンジンオイルを適量補給する。	96～97
冷却水（ラジエータ）	・補助タンクに適量ありますか。 （給水レベルの上・下限の間にあること。）	・清水を補助タンクに適量補給する。	98～99
エンジン	・エンジン始動後の異音がありませんか。 ・排気ガスの色はきれいですか。	・点検を受けてください。	—
燃料（燃料タンク）	・作業に必要な量の燃料が入っていますか。	・ディーゼル軽油を補給する。 タンク容量：60 L	96
ホーン	・ホーンボタンを押せば鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	31～33
方向指示器などの保安部品	・正常に作動しますか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	31～33
バックブザー（ホーン）	・主変速レバーを「**後進**」位置にしたとき，バックブザーが鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	31～33
インジケータランプ	・オイル，充電，予熱ランプは消灯しますか。(エンジン始動後)	・異常個所を調べ，処置する。 ・エンジンオイルを補給する。 ・バッテリを充電する。	96～97 114～119
回転計	・正常に作動しますか。(エンジン始動で)	・点検を受けてください。	—
マルチステアリングレバー	・ゆっくり走行してレバー操作したとき，正常に旋回，刈取部が上下しますか。	・副変速レバーのスピンドライブターン変速を確実に切替る。 ・異常個所を調べ，処置する。	— 21
走行クラッチペダル (ブレーキ兼用)	・ゆっくり走行してペダル操作したとき，正常に機械が停止しますか。	・走行クラッチペダルの調整をしてください。	152
チェン，ベルト，ワイヤ，クローラ	・たるみ，損傷はありませんか。	・正常に調整するか交換をしてください。	151～170

2．エンジンの始動と停止

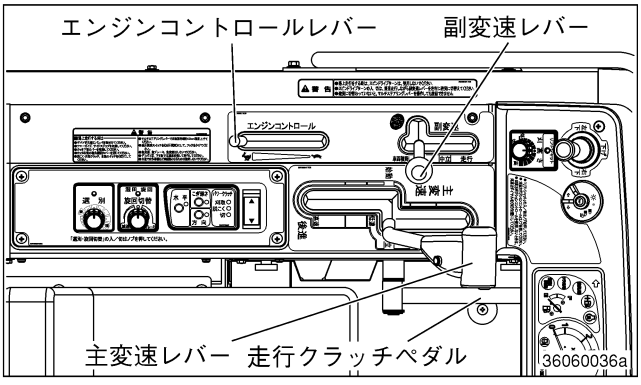
⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検整備などで取外したカバー類は，すべて取付けてください。
◆変速レバーが《N》《中立》，位置であることを確認してください。
●機械の周囲から人を遠ざけてください。
◆始動は座席に座って行なってください。
◆屋内での始動は，窓や戸を開け換気をしてください。
◆暖機運転は主変速レバー,副変速レバー《N》《中立》にして,パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《切》で駐車ブレーキをかけて行なってください。
●運転者はエンジンをかけた状態で機械の周囲から離れないでください。
●外気温が「0℃以下」の時は暖機運転を10分間以上行ってください。行わないと油圧装置が正常に作動しなくなり，方向変換ができないことがあります。
◆空運転するときは，こぎ胴部およびカッタ部を開かないでください。

1．エンジン始動のしかた

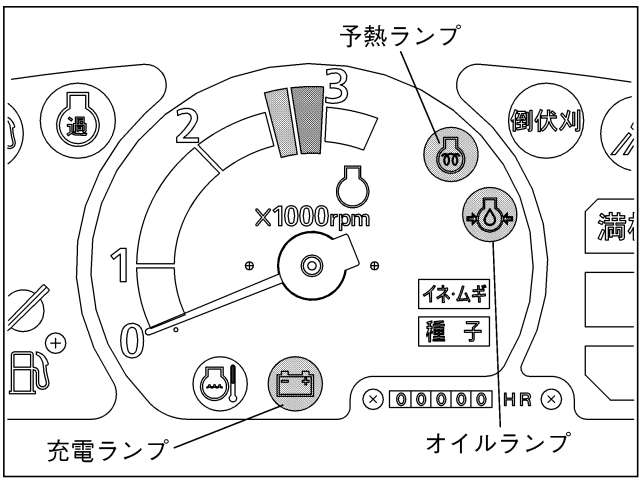
❶ 体格に合わせ着座位置を調節します。(27ページ参照)

❷ 主変速レバーを《**中立始動**》(**前進側中立位置**)，副変速レバーを《**N**》(**中立**）にします。



❸ エンジンコントロールレバーを《🐇》(**高速**)位置にセットします。

❹ スタータスイッチを《**入**》位置にし,「**オイル**」「**充電**」「**予熱**」のランプが点灯することを確認します。



❺ 走行クラッチペダルをいっぱい踏込み,スタータスイッチを《**始動**》位置に回し，エンジンを始動します。

❻ 始動後，駐車ブレーキをかけ，エンジン回転を「**2000回転**」程度にセットし，暖機運転をします。

取扱いのポイント

- **主変速レバーを《中立始動》(前進側中立位置)にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。**
- **エンジン始動後,「オイル」「充電」のランプが消灯することを確認してください。**
- **スタータスイッチは，５秒以上の連続使用はしないでください。**
  セルモータは短時間に大きな電力を消費します。５秒以上の連続使用は，バッテリ故障の原因となりますので避けてください。

2．エンジン停止のしかた

❶ エンジンコントロールレバーを《🐢》(**低速**)にします。

❷ スタータスイッチを《**切**》位置にすると，エンジンが停止します。

3．走行・停車のしかた

1．走行のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆公道走行は交通法規を守って運転してください。
- 走行する前に機械を「収納状態」にしてください。
- グレンタンク内のこく粒はすべて排出します。
- バンパを取付けます。
- ナローガイドを収納します。
- 排出オーガを「下セット」にし，固定リングをフックに掛け固定します。
- グレンタンク固定レバーでグレンタンクを固定します。
- 方向自動スイッチを《切》(ランプ消灯）にします。[ディーラーオプション]
- カッタ以外のアタッチメントを取外します。
- 防じんカバーを下げます。（D仕様：22ページ参照）

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし時には水平自動スイッチを《切》にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてください。

◆路上走行するときは，作業灯は消灯してください。

◆運転者の他に子供等，人や物を機械にのせないでください。

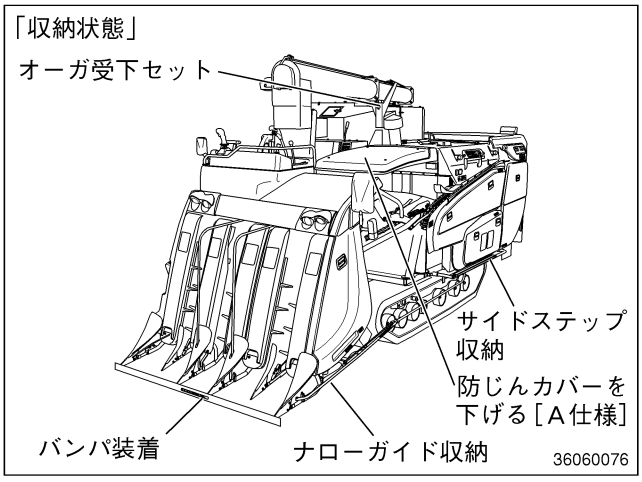
◆ヘルメットをかぶってください。

◆発進，停止および旋回するときは周囲を確認し速度を落としてください。

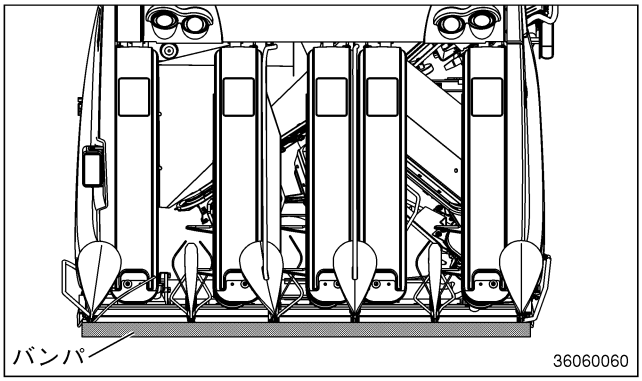
◆狭い農道や傾斜地では,路肩に寄りすぎないようにして低速走行し，軟弱な路肩や草の生い茂っている所は走行しないでください。

◆あぜ越え，路上走行等ではジャストディレクタを使用しないでください。

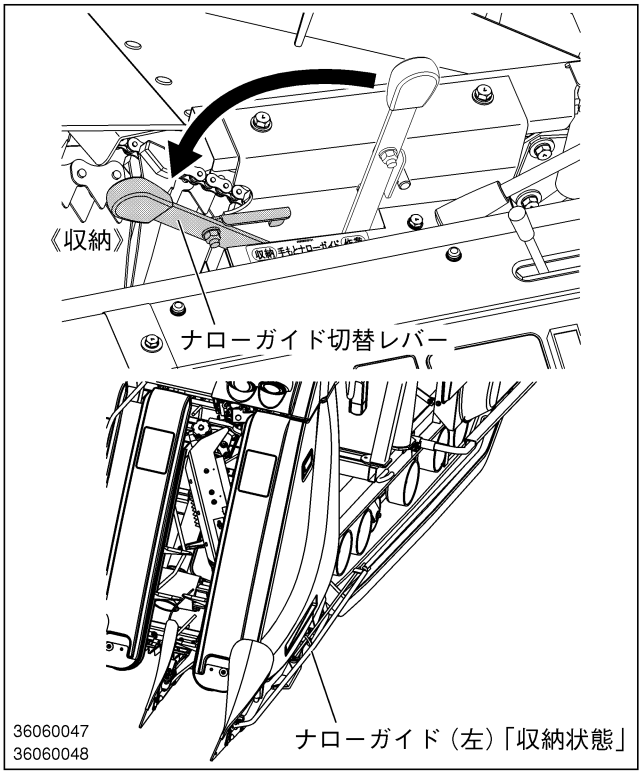
❶ 走行するときは機械を「**収納状態**」にして「**安全な速度**」で走行します。



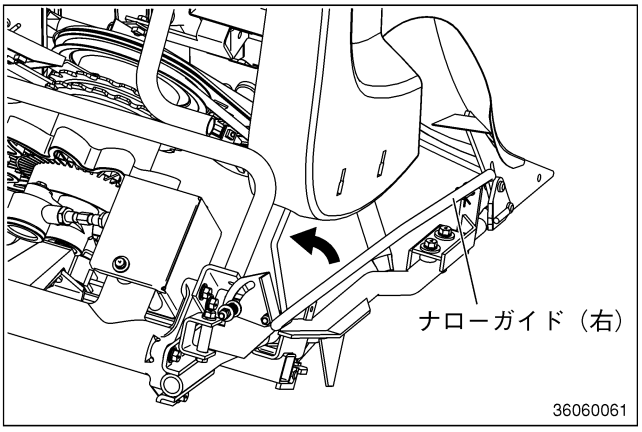
❷ デバイダ先端に「**バンパ**」を取付けます。



❸ ナローガイド切替レバーを《**収納**》位置にします。

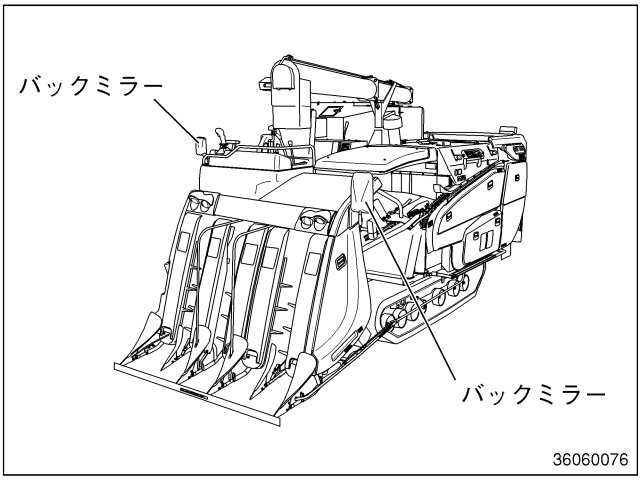


・ナローガイド(右)を内側に収納します。[4条型]

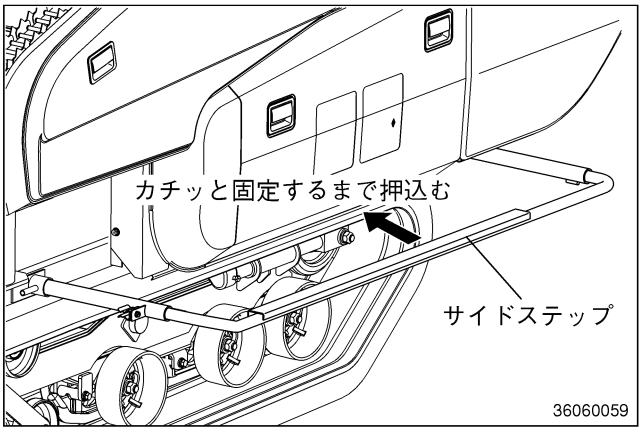


❹　バックミラーの調整

バックミラーは上下，左右に角度調整ができますので運転席に座って見やすい位置に調節してください。

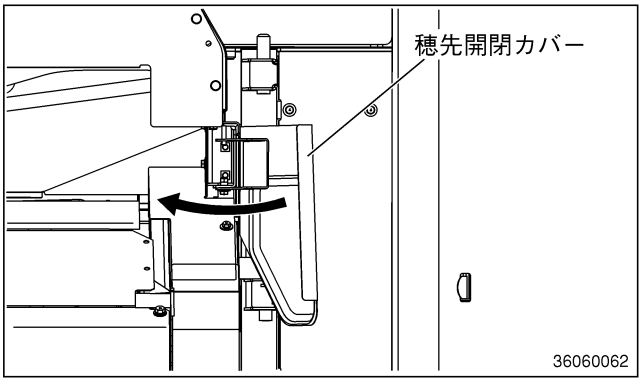


❺　「サイドステップ」を収納します。(点検，整備時のみ,サイドステップを引出して使用します。)

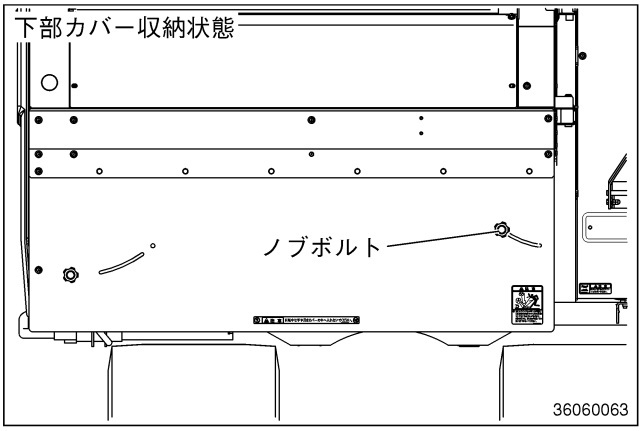


❻　公道を走行するときは，カッタ以外のアタッチメント（ノッタ等）を取外します。

・カッタ右側の穂先開閉カバーを閉じます。

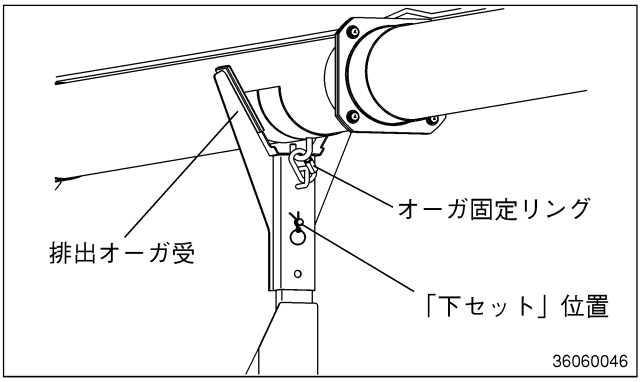


・カッタは下部カバーのノブボルトをゆるめて収納状態にします。



❼　グレンタンク内のこく粒をすべて排出します。

❽ 排出オーガ受を「**下セット**」にして，「**固定リング**」がかかっていることを確認します。

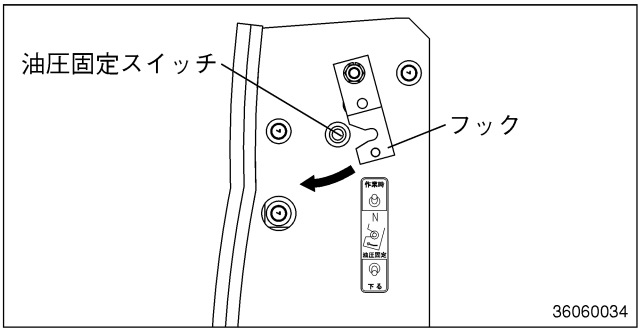


❾ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**切**》にし，自動スイッチをすべて「**切**」にします。

❿ エンジンを始動し，エンジン回転を「**2000回転**」以上にセットします。

⓫ マルチステアリングレバーで刈取部先端を「**50 cm**」程度上げます。

⓬ 油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にして，フックをかけ刈取部を固定します。



⓭ 水平自動スイッチを「**切**」にして，水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。

⓮ 副変速レバーを走行する条件に合った位置にします。

⓯ 主変速レバーをゆっくり操作し，適正な走行速度にします。

⓰ 路上走行で方向を変えるときは，方向指示器を点灯し合図をします。

取扱いのポイント

- **副変速レバーを動かすときは，必ずクラッチペダルを踏んでクラッチを切った状態で行なってください。**

⓱ 発進するときや作業開始の合図は，ホーンボタンを押して，ホーンで行います。

⓲ 路上走行時，作業灯は消灯します。

2．停車のしかた

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，刈取部を下げ，排出オーガを収納位置に戻して，各操作レバーを《N》《中立》に入れてください。エンジン停止後，副変速レバーを《標準》に入れてください。

◆機械を燃えやすいものの近くに，止めないでください。

◆機械から離れるときは平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止し，スタータスイッチ（始動キー）を抜取ってください。

❶ 主変速レバーを《**中立**》，副変速レバーを《**N**》（**中立**）にします。

❷ 駐車ブレーキをかけます。

❸ エンジンコントロールレバーを《🐢》（**低速**）の位置に戻してしばらく空運転をし，エンジン温度を下げてから，副変速レバーを《**標準**》に入れて停止します。

❹ 副変速レバーが《**標準**》に入っていることと，駐車ブレーキレバーがかかっていることを確認します。

取扱いのポイント

- **駐車ブレーキを解除するときは，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで駐車ブレーキレバーを離してください。**

4．自動車への積込み･積降ろし

・自動車への積込み・積降ろしは，周囲に障害物のない平坦で硬い場所を選び，運転者は誘導する補助者と協力して，次のことを守り慎重に行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆自動車は積載重量を超えない車で荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。

●自動車は平坦で硬い場所に停止し，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，変速を１速か後進（バック）に入れ，タイヤに歯止めをしてください。

●アユミは，機械の重量に耐える強度，幅，（クローラが外れない幅）長さ（荷台高さの４倍以上）のある，すべり止め，フック付きのものを使用します。

◆アユミを機械のクローラ間隔に合わせ自動車の荷台に平行にはずれないようにかけます。

●機械は積込む前に,「収納状態」にしてください。

●グレンタンク内のこく粒はすべて排出します。

●バンパを取付けます。

●ナローガイドを収納します。

●排出オーガを「下セット」にし，オーガ固定リングをフックに掛け固定します。

●グレンタンク固定レバーでグレンタンクを固定します。

●水平自動スイッチを《切》にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。

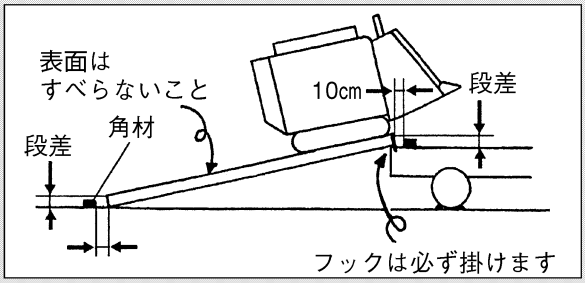
●方向自動スイッチを《切》(ランプ消灯) にします。[ディーラーオプション]

●防じんカバーを下げます。[D仕様]

◆積込み・積降ろしは補助者立会誘導のもとに行ってください。また機械の周囲に人を近づけないようにしてください。

●アユミの上での進路変更がないように，左右のクローラをアユミの中央にまっすぐにセットします。

◆アユミと路面および自動車の荷台との段差が６cm以上ある場合は段差の半分程度の高さの角材などを置いてください。



◆自動車への積込み・積降ろし中は，つぎの操作はしないでください。操作をすると，急に方向転換し転落する恐れがあります。

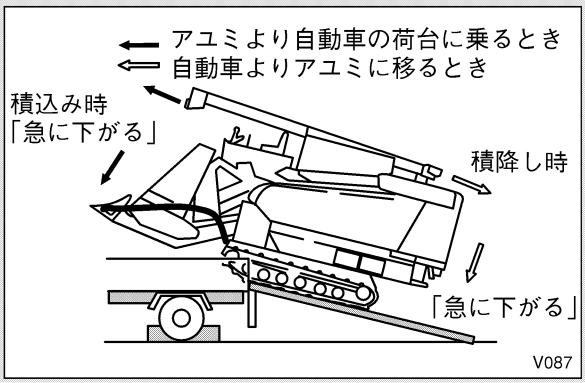
・主変速レバー
・副変速レバー
・マルチステアリングレバー
・走行クラッチペダル
・ブレーキロックレバー
・ジャストディレクタ

は，アユミの上では操作しないこと。

◆積込みは前進，積降ろしは後進で，主変速レバー《低速》位置，副変速レバー《標準》位置で行ってください。

◆［キャビン仕様］以外は機械に乗らないでください。また，機械の直前・直後には立たないでください。

◆機械が自動車に乗る直前や降りる直後では，急に姿勢が変わることがありますので，機械が自動車に乗って（降りて）から近づいてください。

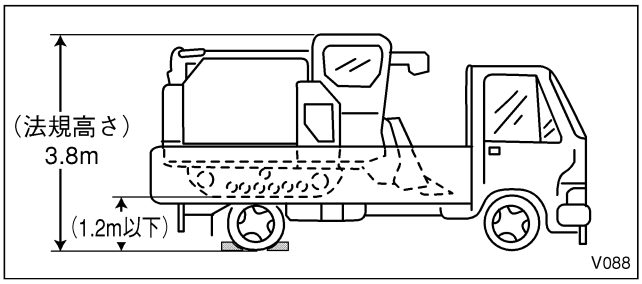


◆各カバーの固定が確実か確認してください。
◆防じんカバーが開いていると，風圧で防じんカバーが破損・脱落のおそれがありますので，閉じてロープなどで浮上がりを防いでください。［D仕様］
◆積込みが終わったらコンバインのフレームの４隅のフックにロープまたはワイヤをかけて機械を固定してください。
このフックは他の物のけん引には使用しないでください。

１．自動車・アユミについて

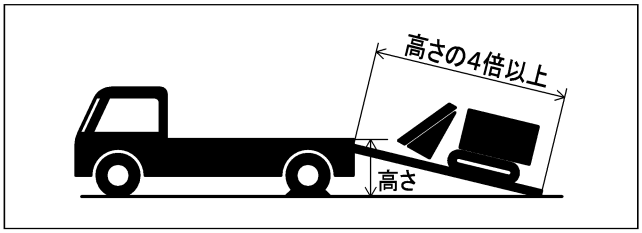
❶　最大積載量3,500kg以上の自動車で荷台から機械がはみ出さない車を使用します。

・トラックに積んだ場合，「**車両制限令**」により地上からの高さが3.8m以下に規制されています。3.8mを越える場合は許可が必要になりますので所轄の警察署で緩和申請を受けてください。
・［**キャビン仕様**］の場合は，荷台高さが1.2m以下の自動車を使用します。



❷　自動車は駐車ブレーキをかけ，タイヤに「**歯止め**」をします。

❸　アユミは，機械の質量に耐える強度，幅（クローラが外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のあるすべり止め付き，フック付きのものを使用します。



アユミの基準

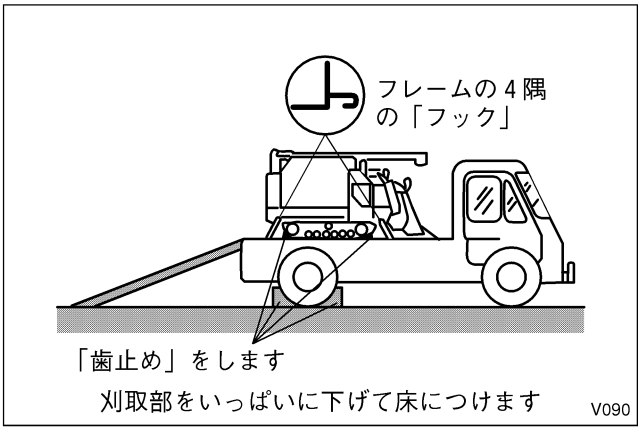
長さ	自動車の荷台の高さの４倍以上
幅	60㎝以上
数量	２枚
強度	１枚が2,000kg以上の重量に耐えるもの

❹　アユミは，機械のクローラに合わせ自動車の荷台と平行に「**段差**」のないようにかけ，「**横ずれ**」したり，「**外れ**」たりしないようにセットします。

❺　機械輸送時の自動車の運転で，急発進・急停止・急ハンドルなどの操作は行わないでください。荷くずれや自動車の転倒事故につながります。

2．機械の積込み要領

❶ ナローガイドを収納します。
グレンタンク，排出オーガの固定を確認します。
❷ エンジンを始動して，エンジンコントロールレバーでエンジン回転を「**2000回転**」程度にします。
❸ 刈取部をいっぱい上げます。
❹ 積込みは，主変速レバー《**前進・低速**》，副変速《**標準・車両積降ろし**》で行います。
❺ 積降ろすときは，主変速レバー《**後進・低速**》，副変速《**標準・車両積降ろし**》で行います。
❻ ［**キャビン仕様**］以外の積込み・積降ろしは，機械からおりて行います。
❼ 積込み・積降ろしの途中では，進路変更，走行クラッチ操作，変速操作はしない。
❽ 補助者の立会誘導のもとに，周囲を確認して行います。
❾ 自動車に積込みが終わったら，機械のクローラに「**歯止め**」をし，駐車ブレーキをかけ，機械のフレームの４隅のフックにロープ，またはワイヤをかけて固定します。
❿ 刈取部は完全に下げて床につけます。こぎ深さは，深こぎ側へいっぱいに上げておきます。



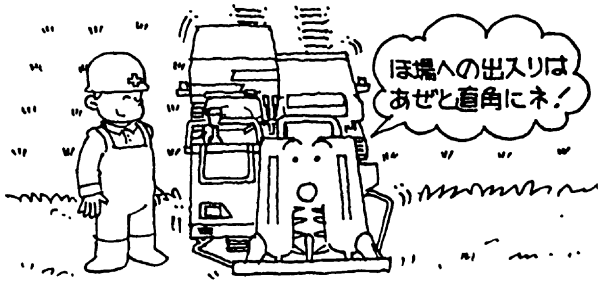
⓫ ［**キャビン仕様**］を輸送するときはドアと窓を閉めて，ロックしておきます。

5．ほ場への出入り

⚠警告 傷害事故防止のために

◆10cm以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りは，アユミを使用し「低速」であぜに「直角」に行なってください。
◆ほ場への出入りをする前に，グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。
◆水平自動スイッチを「切」にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてください。
◆方向自動スイッチを「切」にしてください。
［ディーラーオプション］
◆あぜが崩れないことを確認してから，ゆっくり行なってください。

1．ほ場への出入りのしかた



❶ 刈取部を上げ，エンジン回転を「**2000回転**」程度にセットし，副変速を《**標準・車両積降ろし**》，主変速を《**低速**》または《**後進・低速**》にしてあぜに直角に走行します。
❷ アユミを使用するときは，「**自動車への積込み・積降ろし**」の内容に従って行います。

作業のしかた

1．作業まえの準備

作物やほ場の条件が刈取り作業に適していないと，脱こく精度が低下するおそれがあります。次の条件を整えて作業に入ります。

1．作物の条件について

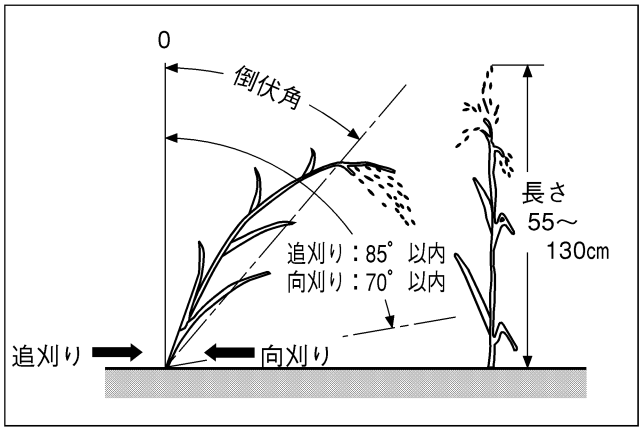
❶ 作物の長さと倒れ

・長さ…55～130㎝まで刈取りできます。

・倒れ（倒伏角）

…追刈り：85°以内まで刈取りできます。

向刈り：70°以内まで刈取りできます。



❷ 作物の濡れ

・濡れた作物（雨あがり・朝露）の刈取りは，次のようなことがありますので，乾燥するのを待って刈取ります。

・能率があがらない

・選別不良

・詰まりやすい

・乾燥処理時間の増加

❸ 病害虫に侵された作物

病害虫に侵された作物の刈取りは，次のようなことがありますので，刈取り作業の速度を遅くするか，またはできるだけその部分は「**手刈り**」をしておきます。

・こく稈が折れやすい

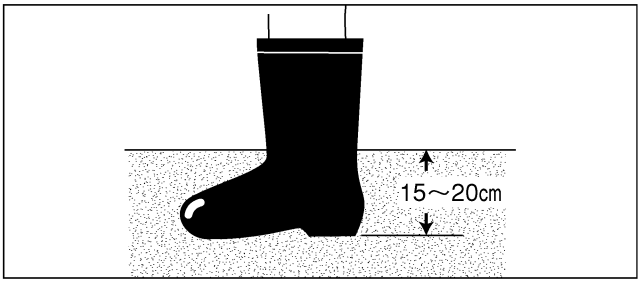
・刈取り・搬送部の詰まり

・脱こく部の詰まり

2．ほ場の条件について

❶ 湿田ほ場のぬかるみ程度

沈下量が「**15～20㎝**」までは作業ができます。

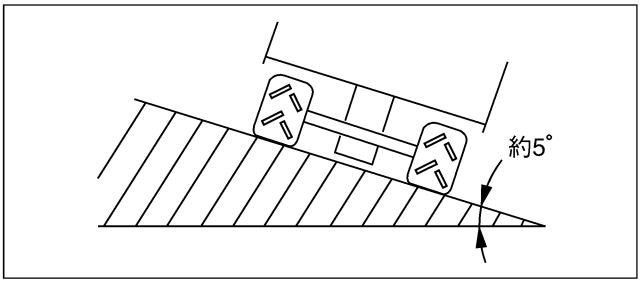


取扱いのポイント

●一度通ったクローラ跡はなるべく通らないようにしてください。

❷ 機械の傾斜

機械の傾斜角度５°以上では，刈取り作業はできません。



取扱いのポイント

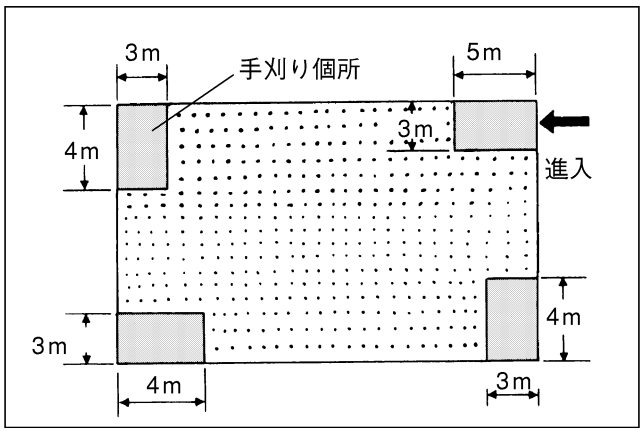
●適応範囲をこえての作業はできません。行わないでください。

●ほ場内に雑草が多いと，刈取り作業ができない場合があります。ほ場内の除草に心がけてください。

3．ほ場の準備

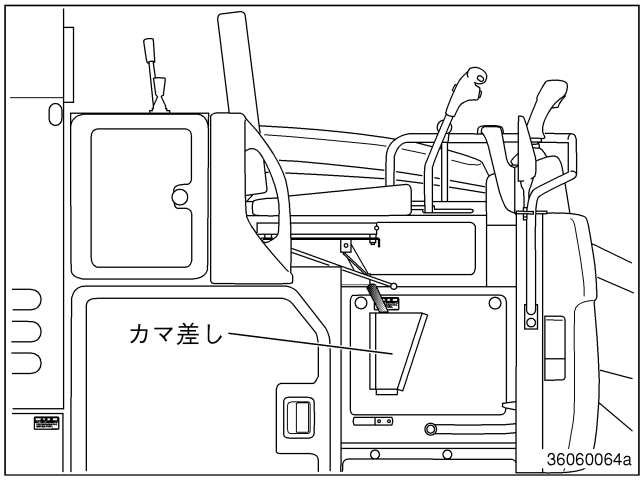
手刈り

・機械をほ場に入れる前に，あらかじめ四隅を「**旋回できる程度**」手刈りします。



取扱いのポイント

- **ほ場の周囲がコンクリートあぜ，または高あぜで，あぜぎわいっぱいに植付けされているときは，作業に支障がないように手刈りしてください。**
- **カマ差しは，運転席左側下部にあります。**



4．機械の準備

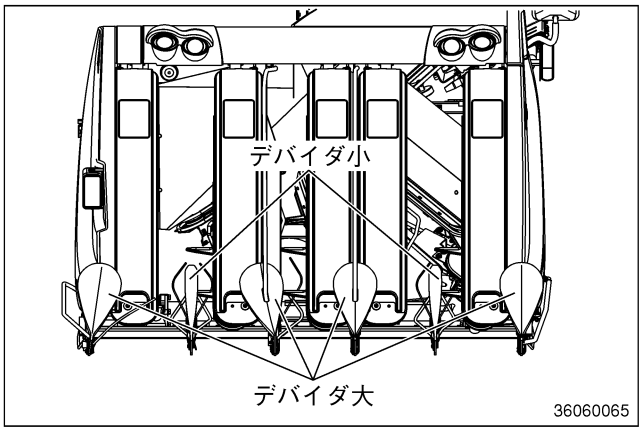
❶ デバイダの上下調整

調整の前にバンパを取外します。

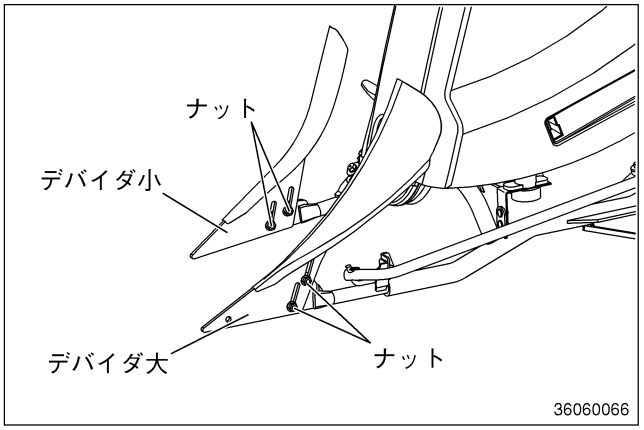
次のような場合は，デバイダを「**下側**」にセットします。

・刈取部を下げたときに，デバイダよりも先に刈刃が地面に着く場合。

・刈取部をいっぱいに下げても，デバイダが地面より離れている場合。



デバイダ取付のナットをゆるめて，デバイダが適正な高さとなるように調整し，締付けて固定します。



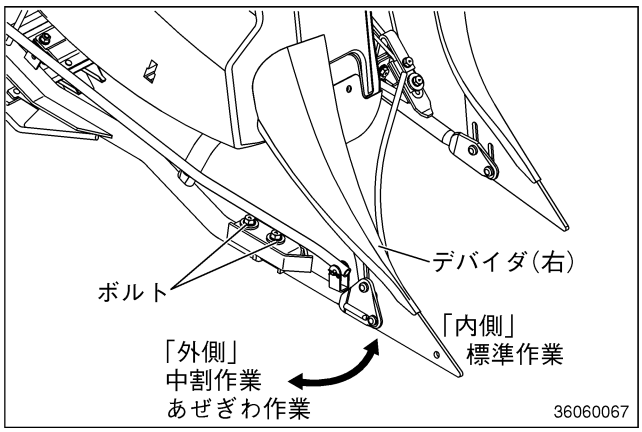
取扱いのポイント

- **デバイダは，すべて同じ高さになるようにセットしてください。**

❷ デバイダ（右）の調整

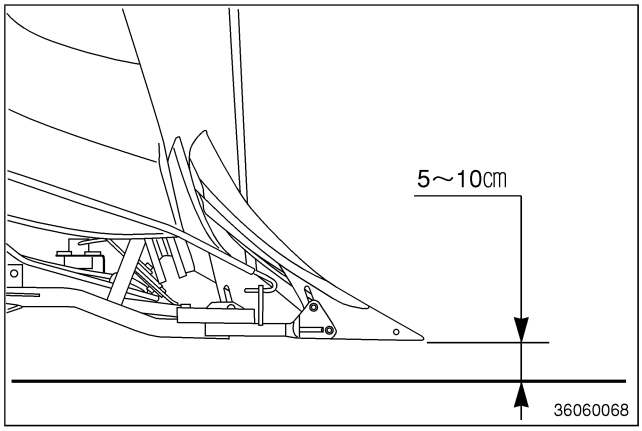
・デバイダ（右）は「**内側**」位置が標準です。

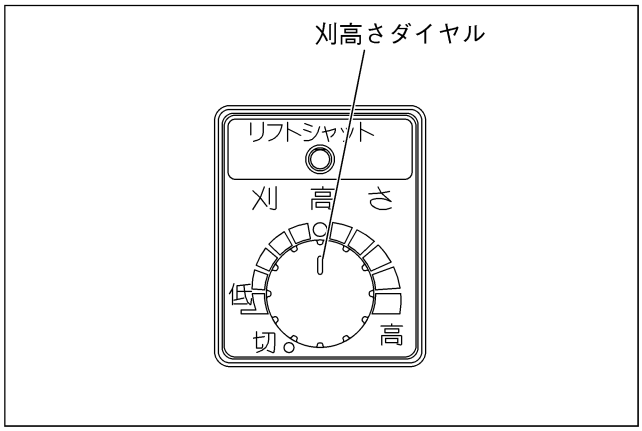
・中割作業やあぜぎわ作業をするときは，２本のボルトをゆるめて「**外側**」の位置にいっぱい広げ，締付けて固定します。



❸ 刈取り高さの調整

刈取部を下げ，デバイダ先端がほ場表面から「５～10㎝」になるように刈高さダイヤルで調整します。





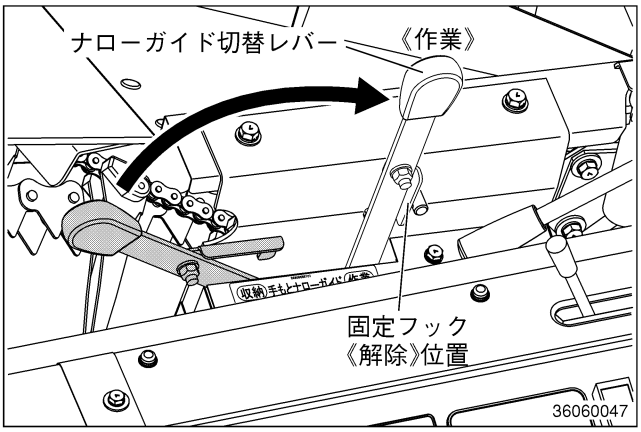
・倒伏および短い作物の場合は，デバイダ先端を地面すれすれに調節します。

❹ ナローガイドの調節

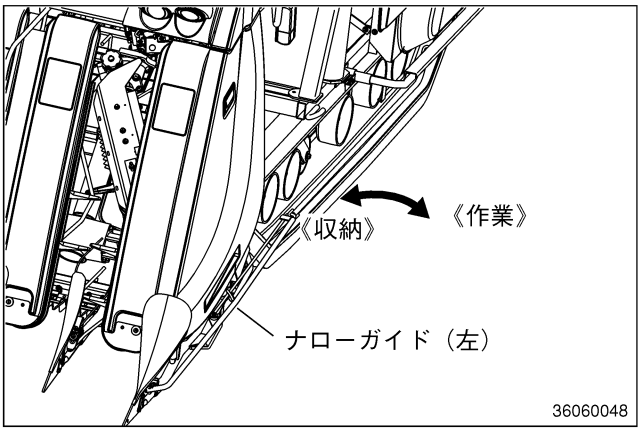
① ナローガイド（左）の調節

・ナローガイド切替レバーを《**作業**》にすると，ナローガイド（左）が引出され，作業状態になります。

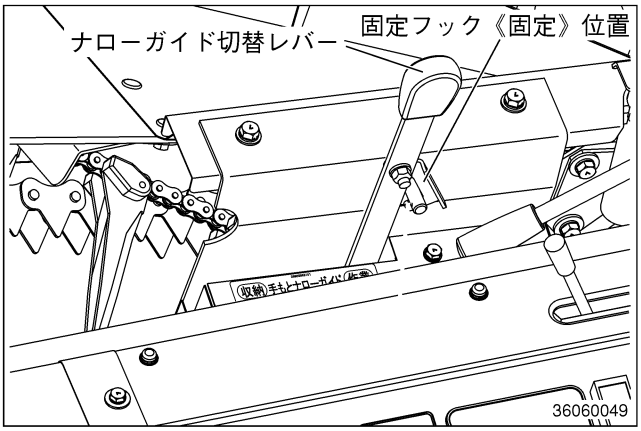
・通常固定フックは《**解除**》の位置で作業します。



・右まわり，あぜぎわ刈取など，障害物があるときは，収納してください。



・作業時，レバーが戻る場合は固定フックで《**固定**》してください。



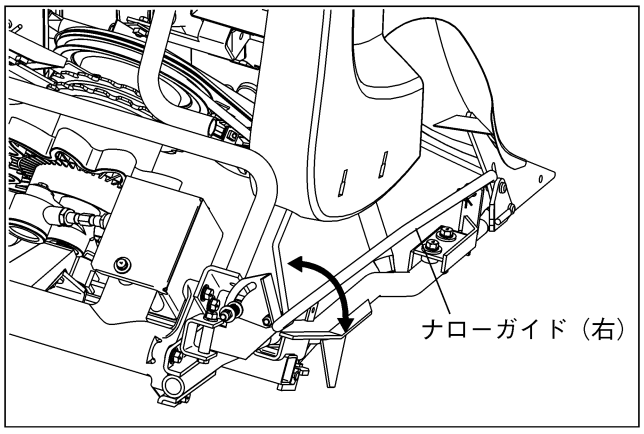
取扱いのポイント

- **長稈材等で未刈稈が倒れ込み，脱こく入口部の搬送に支障がある場合は，「上向きセット」にして作業を行います。**
- **ナローガイドを引出した状態で上に引上げます。こうする事で，ナローガイドは上向きになったまま固定されています。（上向セット）**

❺ ナローガイド（右）の調整［4条型］

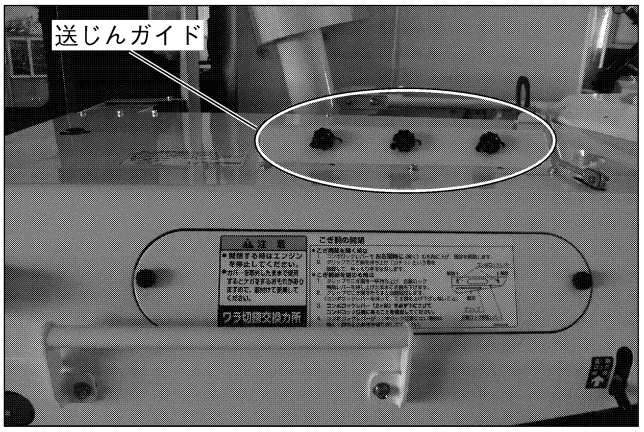
通常作業をするときは，ナローガイドをいっぱいに倒します。

あぜぎわ作業をするときは，ナローガイドを必要に応じた角度にします。



❻ 送じんガイド

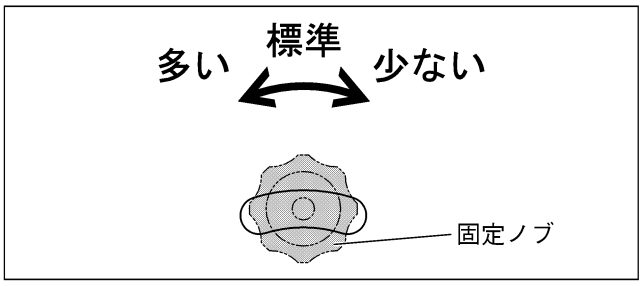
こぎ室内の送じん量を調節します。



送じんガイド［S仕様］

こぎ室内の送じん量を調節します。

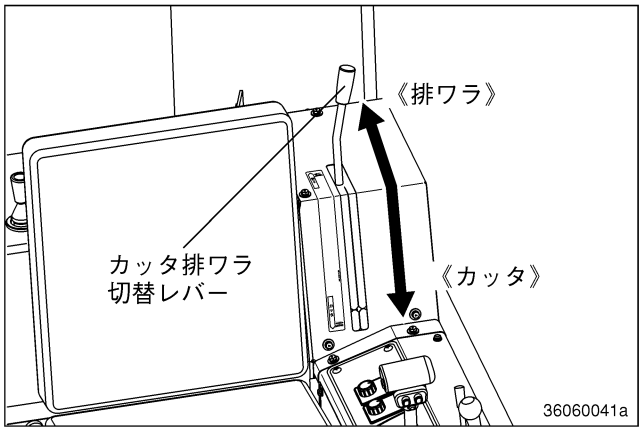
・送じん量固定ノブは，《標準》位置にします。



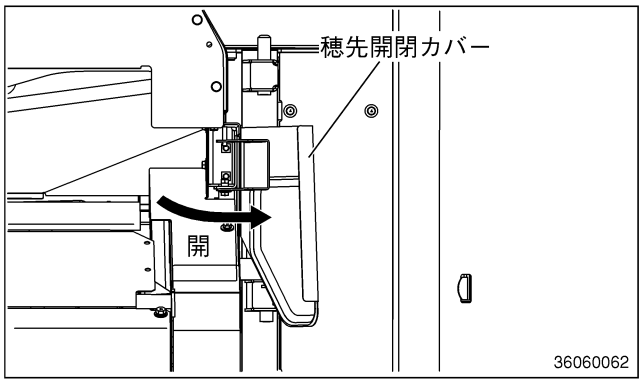
・送じん量の手動調節のしかたは80ページを参照してください。

❼ カッタ・排ワラ切替レバーの調節

(1) 作業内容に合わせて，切替レバーで《**カッタ**》・《**排ワラ**》の切替えを行います。



(2) 排ワラ作業の場合は，穂先開閉カバーを開きます。(70〜71ページ参照)



❽ 排出オーガ受のセット［キャビン無し仕様］

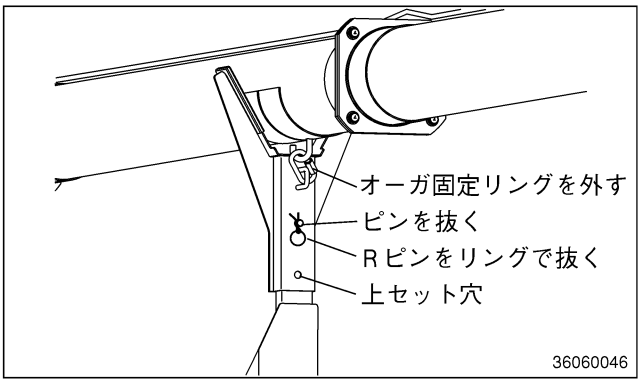
> ⚠注意 ◆こく粒排出作業時以外は，排出オーガを固定リングで，固定してください。
> ◆路上走行時は，排出オーガ受を「下セット」にしてください。

工場出荷時に排出オーガ受は，「**下セット**」で出荷されています。

(1) オーガ固定リングを外し，排出オーガを《**上げ**》ます。

(2) 排出オーガ受を止めているピンのRピンをリングで抜き，ピンをブラケットから抜きます。

「**出荷状態（下セット）**」

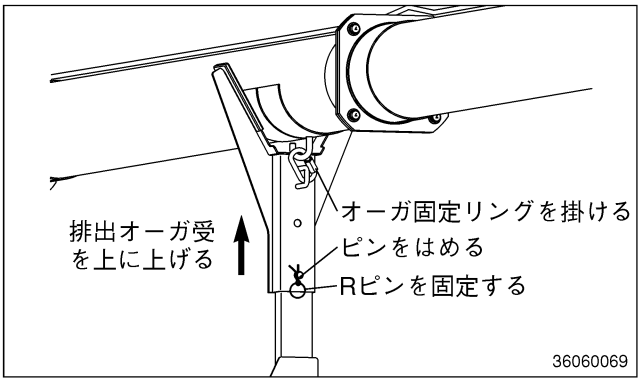


(3) 排出オーガ受「**上位置**」のセット穴と，ブラケットの穴を合わせます。

(4) ピンを差込んで，Rピンで止めます。

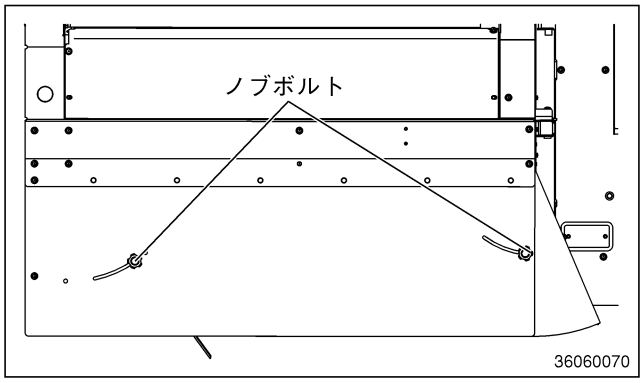
(5) 排出オーガを《**下げ**》フックにオーガ固定リングを掛けます。

「**上位置セット**」



❾ カッター下部カバーの調整

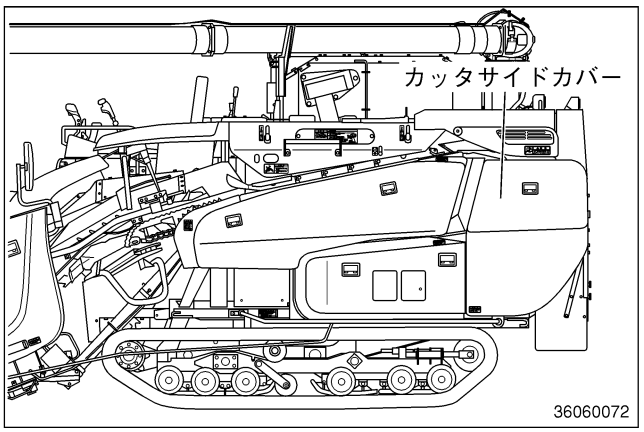
・カッター下部カバー（右)(左）のノブボルトをゆるめカバーを開閉します。

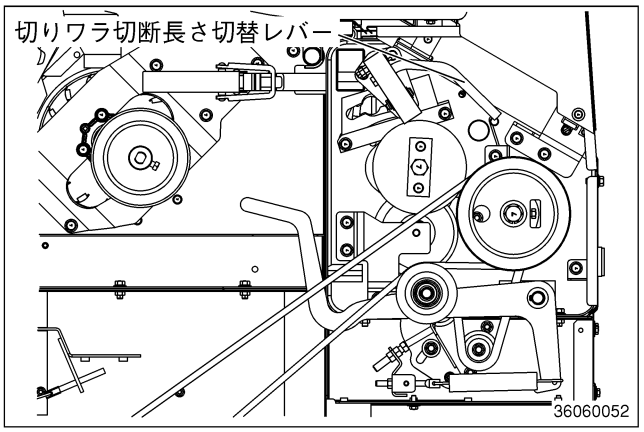


❿ ワラ切断長さの調節

「**カッタ**」作業の場合は「**切ワラ長さ**」を切ワラ切断長さ切替レバーで「**長切り**」「**短切り**」に好みに応じて調節します。(69～70ページ参照)

・カッタサイドカバーを外すと，レバーが見えます。

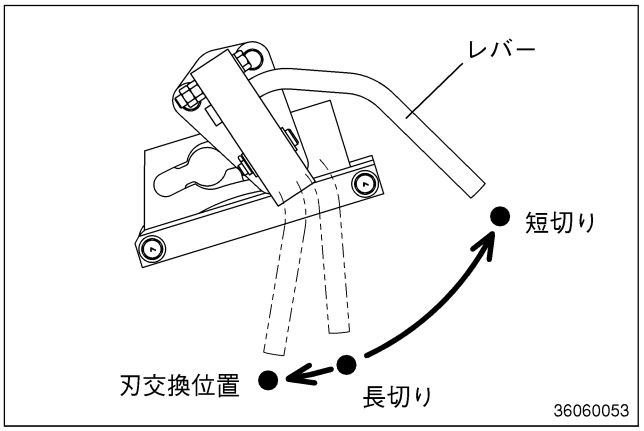




(1) レバーを手前に引いて「**長切り**」，または「**短切り**」の位置に回します。

(2) 回動後はレバーを押戻し，確実にロックしてください。

刃交換位置では作業できません。



切替後はカッタサイドカバーを取付けます。

⓫ 旋回方式の選択

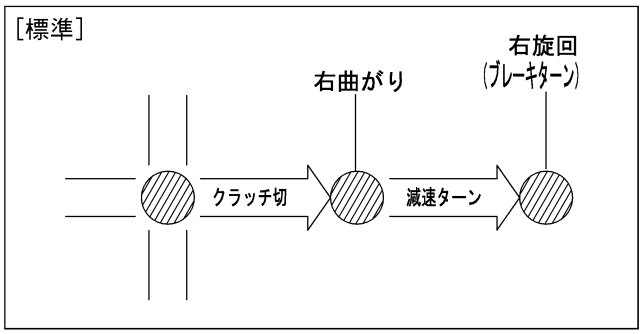
⚠警告 傷害事故防止のために

◆スピンドライブターンは急旋回しますので路上走行するときは使用しないでください。

作業条件に応じて次の旋回方式が選択できます。

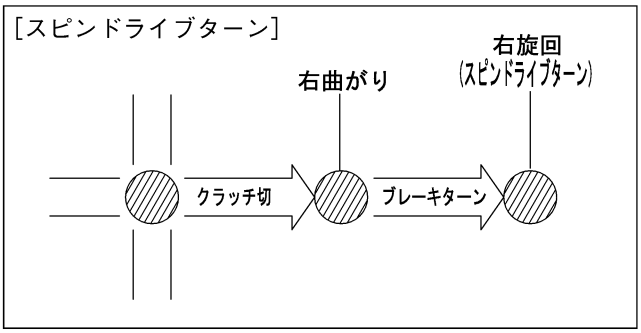
《減速ターン・ブレーキターン》

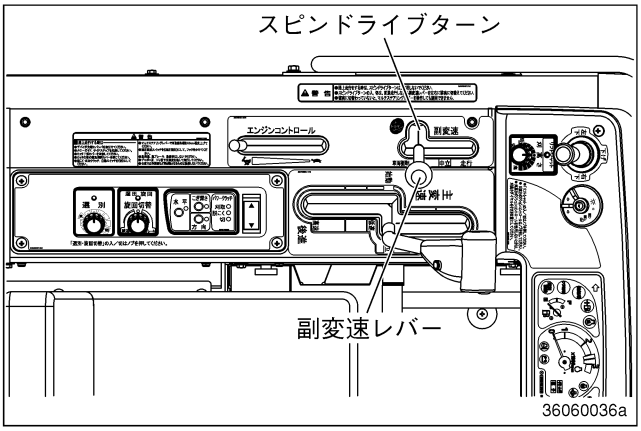
ステアリングレバーを倒すとサイドクラッチが切れ，さらに倒すと片側のクローラが減速し，減速ターンとなります。ほ場の荒れを少なくして作業する場合に使用します。さらに倒すと旋回側のドライブシャフトをブレーキで停止させて旋回します。(ブレーキターン)



《スピンドライブターン》

副変速レバーがスピンドライブターン位置のときステアリングレバーをいっぱい倒すと左右のクローラが逆転して旋回します。小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用します。





2．刈取り作業のしかた

麦刈り作業時の調整のしかたは71ページを参照してください。

各自動装置の取扱いは **自動装置について** の項を参照します。

1．刈取り操作の手順

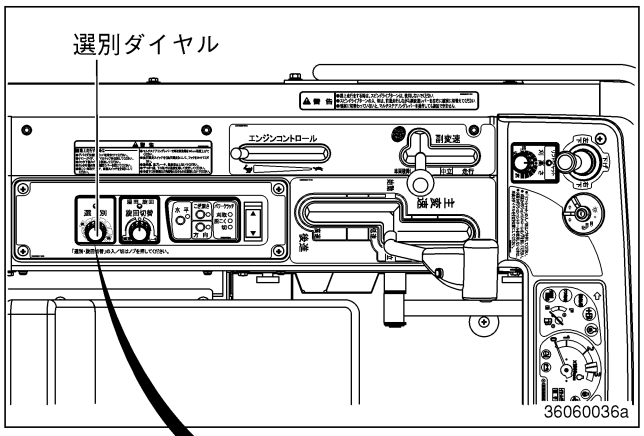
⚠警告 傷害事故防止のために

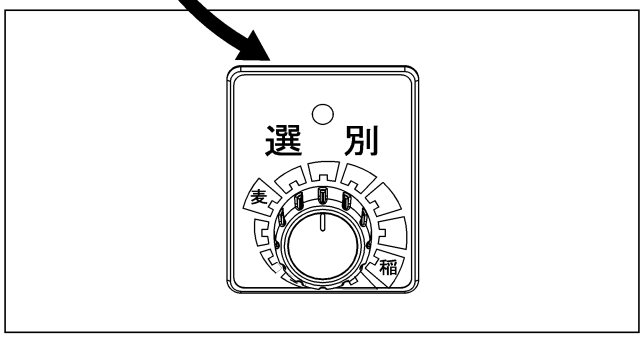
◆刈取り作業をするときは，周囲を確認し，機械に人を近づけないでください。

◆作業中に走行クラッチペダルを踏んで停止したときは，主変速レバーを《中立》に戻してください。発進するときは低速から順次に速度を上げてください。

❶ エンジンを始動し，各自動スイッチが点灯していることを確認します。使用したい自動スイッチが消灯している場合は，スイッチを押して点灯させます。

❷ 選別ダイヤルを刈取る作物に合った位置にセットします。

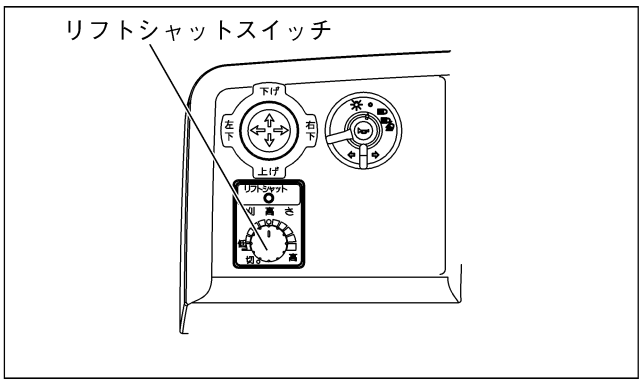




・選別ダイヤルのセット方法は,「**選別自動制御の取扱い**」の項77～78ページを参照。

各自動装置の取扱いは72～81ページを参照します。

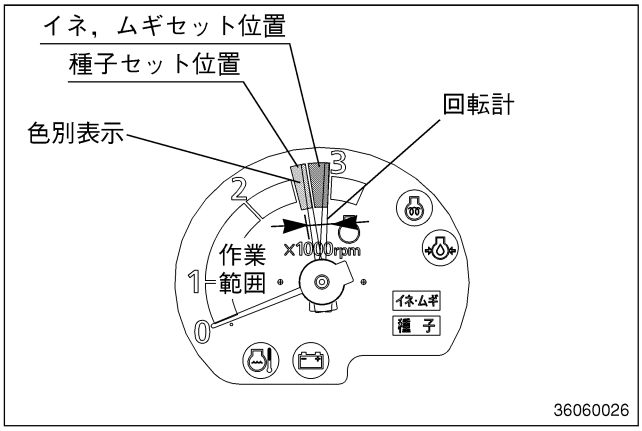
❸ リフトシャットスイッチを作業に応じて《**入**》，または《**切**》にします。(取扱い方法は63ページ参照)



❹ 刈取り条件に合わせ副変速レバーをセットします。(52ページ参照)

❺ エンジン回転を調整します。

パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**刈取**》位置に入れ，回転計の指針が「**色別表示の上限**」になるように，エンジンコントロールレバーで調整します。



取扱いのポイント

- 刈取り作業中は,「色別表示」の範囲内に常時指針があるように，主変速レバーとエンジンコントロールレバーで作業速度を調整してください。
- 規定の回転より低いと，こぎ残しが多くなったり，脱こく内部にこく粒が詰まったりすることがあります。
  また，回転が高すぎると，こく粒が損傷したり飛散が多くなることがあります。

- **パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《切》→《脱こく》としますと，脱こく部が回転すると同時に脱こくフィードチェン搬送が一定速(手こぎ）回転となります。**
- **パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《刈取》にしますと，刈取搬送と脱こくフィードチェン搬送が車速に同調した回転速度となります。走行停止状態では刈取搬送および脱こくフィードチェン搬送は停止します。**

❻　最初は低速で発進し，刈取り条件に合わせ，主変速レバーで適正な速度を選びます。(作業速度の選びかた52ページ参照)

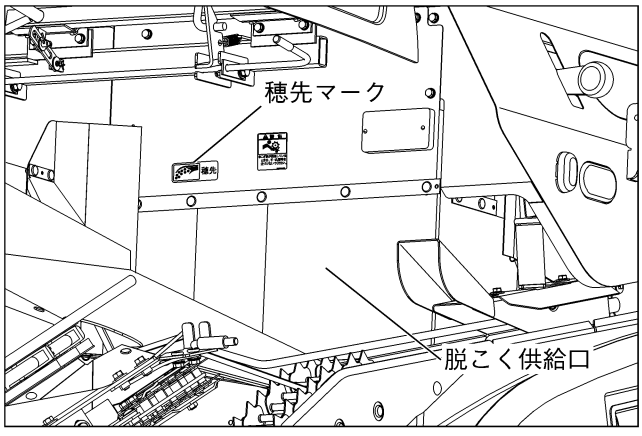
❼　方向修正は，マルチステアリングレバーまたはジャストディレクタを操作して行います。

[ディーラーオプション]

・方向自動制御を使用する場合は，「**方向自動制御の取扱い**」の項73～74ページを参照。

❽　**適正こぎ深さの調整**

作物が脱こく供給口に搬送され始めたら，作物の穂先が「**穂先マーク**」の位置になるように，こぎ深さ手動スイッチで調整します。



取扱いのポイント

- **こぎ深さ自動制御は,「こぎ深さ自動制御の取扱い」の項72～73ページを参考にし，適正こぎ深さになるよう調整してください。**

❾　作業中は，回転計の指針が,「**色別表示の範囲内**」に位置するように，主変速レバーで適正な速度に調整します。

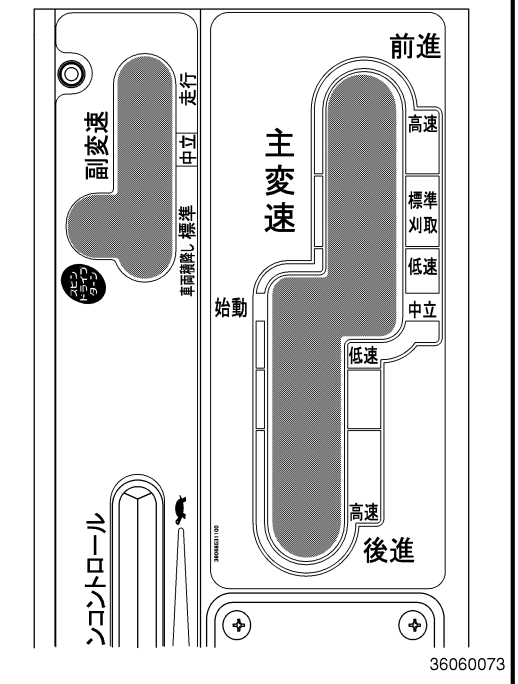
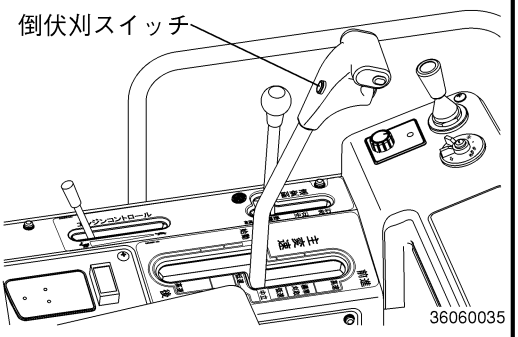
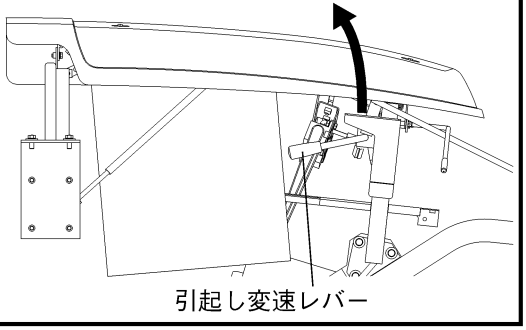
刈取り作業中，エンジン回転が下がると，エンジン回転負荷ランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。主変速レバーで走行速度を下げ，適正負荷レベルにして作業を行います。(18～19ページ参照)

取扱いのポイント

- **規定の回転より低いと，こぎ残しが多くなったり，脱こく内部にこく粒が詰まったりすることがあります。また，回転が高すぎると，こく粒が損傷したり飛散が多くなることがあります。**
- **エンジン回転負荷の警報ブザーは，警報入切ボタンを押しても鳴り止みません。**
  走行速度を落としてエンジンの負荷を軽くすると，ブザーは鳴り止みます。

2．作業速度の選びかた

・作物の状態など，作業内容に合わせて，副変速・主変速レバーの速度を選び，最適の状態で作業してください。

No.	使用条件（作物の状態）	変速レバー位置				
		副変速	引起し変速	倒伏スイッチ	主変速	各レバー略図
①	1. 直立。 2. 半倒伏の場合。	標準	低速 標準	《切》	「中立」位置から発進してください。 「標準刈取」の範囲で刈取作業を行い，稈の搬送状態，及びエンジンの馬力の余裕に応じて順次速度を上げてください。	 36060073
②	1. 倒伏追い刈りなどで穂先が極端に遅れている場合。または整然と搬送されない場合。	標準	標準	《切》 《入》		
③	1. 全倒伏の場合。 2. 周囲刈りで，低速作業をする場合。	標準	標準	《入》		
④	1. 脱粒しやすい品種を刈取る場合。 2. 倒伏向刈りなどで株抜けや，稈の浮き上がりが目立つ場合。 3. 根腐れや根付きが悪く，株抜けが発生する場合。	標準	低速	《切》		 36060035
⑤	1. 路上走行 2. 長距離の走行	走行	－	－		
⑥	1. 積込み，積降ろし 2. あぜ越え	標準	－	－	「中立」から低速，エンジン2000回転程度。	
⑦	1. 集中注油	中立	－	－	「中立」から「標準刈取」	

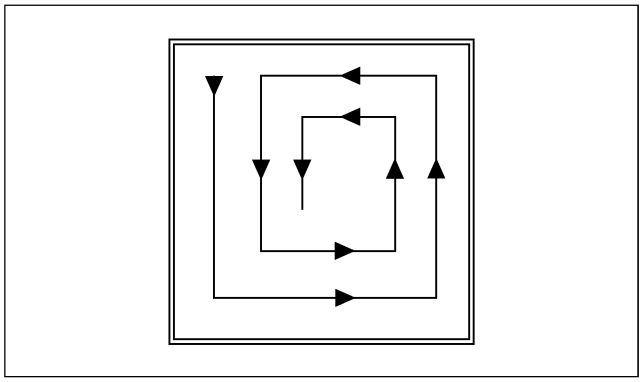
3．刈取り手順

❶ 回り刈り（左回り）

・このコンバインでの刈取りは,「**左回り刈り**」が基本です。

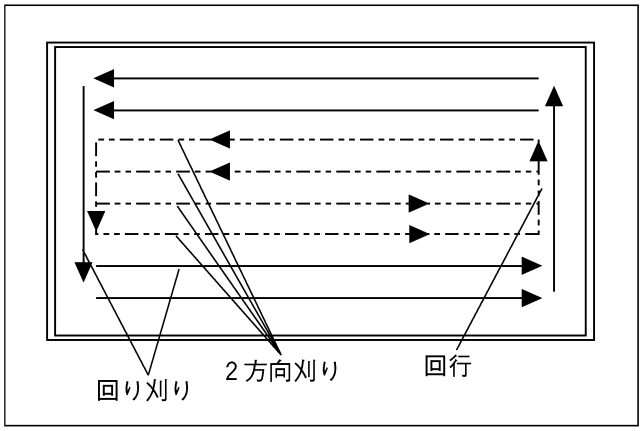
ほ場の形状・大きさにより，つぎのような刈取りをします。

⑴ 正方形に近いほ場



⑵ 長方形に近いほ場

・回行部分が広くなったら，長い２方向のみ刈取ると能率的です。

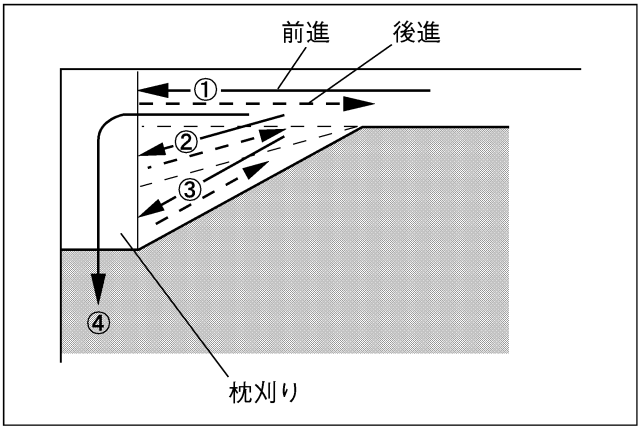


⑶ あぜぎわ刈り

あぜの草等により，デバイダが見づらい場合がありますので，右デバイダをあぜに当てたり，デバイダ先端を突っ込んだりしないように刈取りします。

⑷ コーナー部の刈取り

回り刈り時機械が旋回できるコーナー部が狭い場合の刈取りは，下図のようにします。

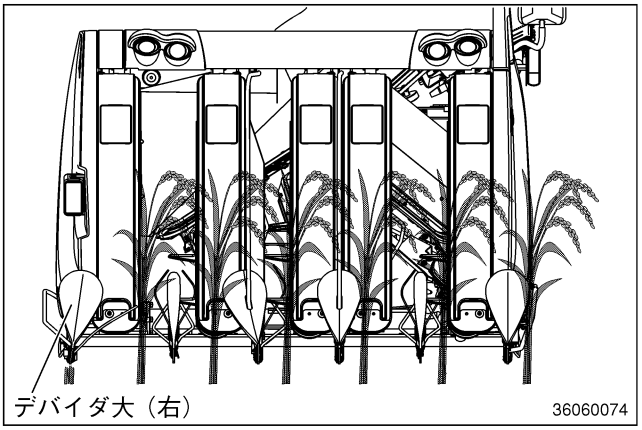


取扱いのポイント

- **コーナー部の刈取り中に方向修正しないでください。途中で方向修正すると稈が倒れ稈長が不揃いになりこぎ残しの原因になります。**
- **②③の斜め刈りで回行しにくいときや湿田では斜め刈りの回数をふやして刈取りしてください。**

⑸ 条合わせ刈り

・デバイダ大（右）を基準に「**左回り**」で刈残しのないように刈取りします。

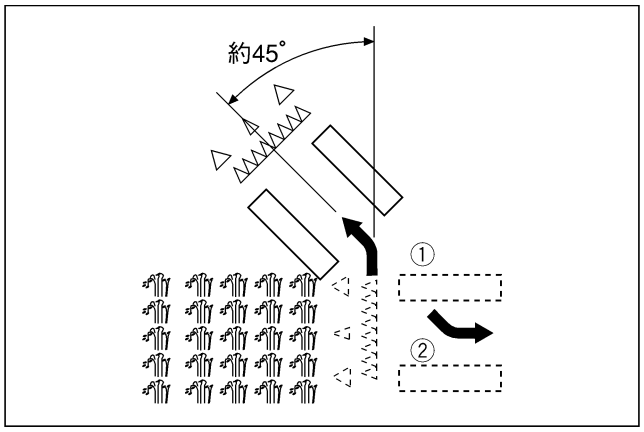


⑹ **旋回のしかた（左回り刈り）**

・刈り終わったら,刈取部を40㎝程度上げます。
　パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**切**》にしないで，エンジン回転はそのまま，連続作業の状態で旋回します。(湿田では，大きく旋回します。)

・左に「**約45°**」向きを変えて停止します。

・後進しながら向きをかえ，次の刈取る方向に機械が真直ぐになるように「**条合わせ**」をします。



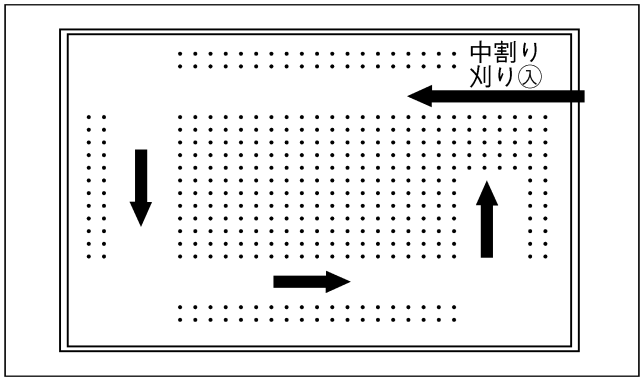
取扱いのポイント

●**旋回のときには，エンジン回転を下げたり，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。**

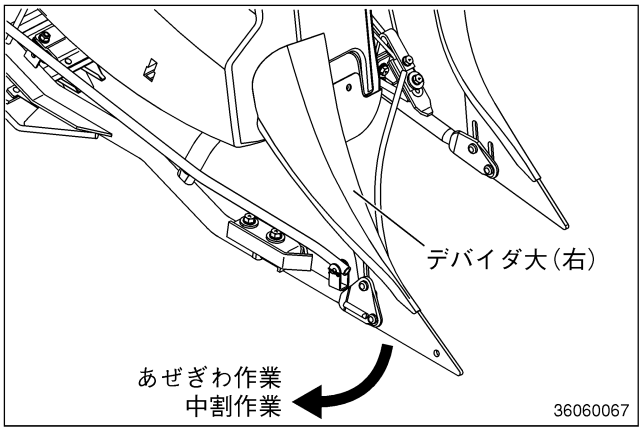
❷ **中割り刈り**

・あぜぎわ刈りや，ほ場の状態により部分的に刈取りするとき，「**中割り刈り**」をします。

・中割り刈りは,《**標準刈取**》よりやや「**低速**」で行います。



⑴ デバイダ大（右）を，あぜぎわ作業，中割作業位置にセットします。



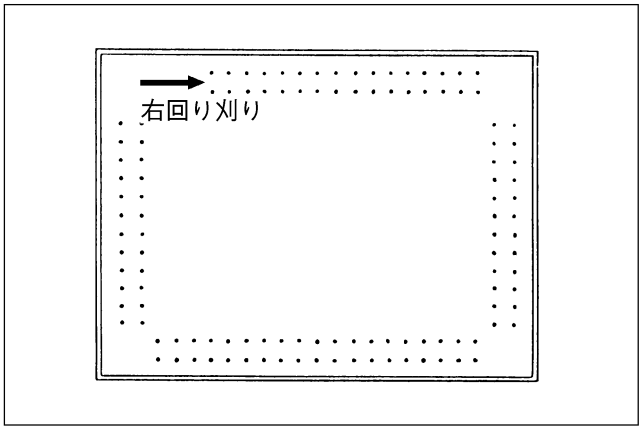
⑵ デバイダ大（右）を，刈取りする株元の右側に合わせ，刈取ります。

❸ **右回り刈り**

⑴ 回りのあぜが高く，あぜぎわまで植付けされているときは，あぜぎわ4条を残し「**中割り・左回り**」で刈取りをします。

⑵ 残した4条を最後に「**右回り**」で刈取ります。

⑶ あぜぎわを「**右回り刈り**」するときは，「**ナローガイド（左)**」を収納し，「**デバイダ（左)**」をあぜに突込まないようにします。

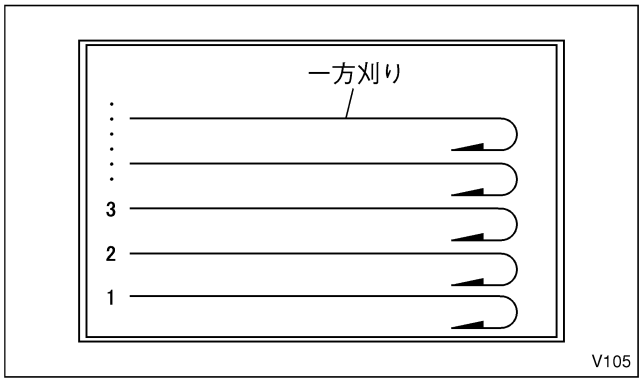


取扱いのポイント

●**ほ場の状態によっては，最初にあぜぎわを「右回り」で刈取り，次から正常な「左回り」で刈取りするのが良い場合もあります。**

❹ 倒伏作物の刈取り

・倒伏した作物は，状態にあわせて「**一方刈り**」を行います。



(1) 刈取り方向

・倒伏した作物の刈取りは，下と右の図表を参考にして行います。

1．倒伏，中倒伏の場合の副変速は《**標準**》で，倒伏刈スイッチは倒伏している場所でのみ《**入**》にして刈取作業を行ってください。

※中倒伏および倒伏共，主変速レバーは，《**標準刈取**》の範囲で使用してください。搬送姿勢が安定した刈取作業ができます。

2．②右倒伏刈りが困難なときは，「**④左倒伏刈り・③追刈り**」となるように「**一方刈り**」をします。

「方向自動を使用しないとき」

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
①→ ③→ ②→ ④→	①向い刈り	×	△	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	△	○	○
	④左倒伏刈り	△	○	○

○刈取り可能
×刈取り不可能
△走行速度を落として刈取り可能

「方向自動で刈取りするとき」

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
①→ ③→ ②→ ④→	①向い刈り	×	×	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	×	○	○
	④左倒伏刈り	×	○	○

○刈取り可能
×刈取り不可能（倒伏刈取りできません）

(2) スーパーデバイダ（別売り）

スーパーデバイダは稲の倒伏方向が一定でないとき（右倒伏・向い倒伏刈りとなるとき），倒伏材の引起し性能をさらにアップさせます。

取扱いのポイント

- **倒伏した作物を刈取るときは，引起し爪が最も下がった状態（地面に近い位置）で作用するようにデバイダを調整してください。**
- **デバイダは全て同じ高さになるようにセットしないと刈残しの原因となります。**
- **デバイダ先端が土に突込まないようにしてください。**
  土に突っ込むと株の引抜きが発生し，詰まりの原因となります。
- **倒伏した作物の，中割り刈りは避けてください。**
- **クローラで穂先を踏まないようにしてください。脱こく部の詰まりなどの原因になることがあります。**
- **倒伏した作物を刈取る際，刈取部の速度を通常より速くしたいときは，倒伏刈スイッチを押し，ランプ点灯状態で作業をしてください。**

4．こく粒の排出操作方法

⚠警告 傷害事故防止のために

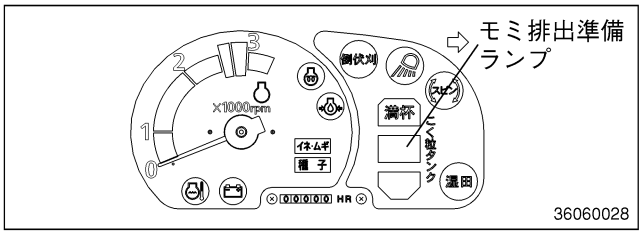
◆排出オーガの操作は運転席から，後方を向いて周囲の安全を確認してから行なってください。
◆排出オーガの作動範囲に頭や手を近づけないでください。
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをするときは，グレンタンク内のこく粒を排出してください。
◆傾斜地でのこく粒の排出作業はしないでください。
◆こく粒の排出作業をするときは,駐車ブレーキをかけて行なってください。
◆排出オーガ先端部に溜まったこく粒を取除く場合は,こく粒排出スイッチ［D仕様］またはこく粒排出レバー［D仕様以外］を「切」にしエンジンを停止してください。
◆旋回範囲近くに障害物がある場合は，自動スイッチを使用しないで，排出オーガ操作レバーで排出オーガを操作してください。［D仕様以外］
◆旋回範囲近くに障害物がある場合は排出オーガ自動旋回スイッチを使用しないで，排出オーガ操作スイッチで排出オーガを操作してください。［D仕様］
◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定リングで固定してから行なってください。
◆水平自動スイッチを「切」にして，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてから，排出作業をしてください。
◆排出オーガが収納位置にない場合，スタータスイッチを《入》にしてこく粒排出スイッチ［D仕様］を《入》にするとエンジンが回転していなくてもエンジンカバー部の防塵ファンが回転します。こく粒排出スイッチを操作するときはエンジンカバーを開けないでください。
◆オーガ操作リモコンをリモコンホルダへ戻してください。［D仕様］

⚠注意

◆排出オーガ排出口のビニールカバーは，人や物に接触したときに，相手を傷つけないように装備されています。ビニールカバーが破損したときは，直ちに「お買いあげ先」にて交換してください。

❶ モミ排出準備ランプ

・モミ排出準備ランプが点灯すると,方向指示器全てが点滅し補助者にモミ排出準備をしらせます。



❷ グレンタンクのモミ警報

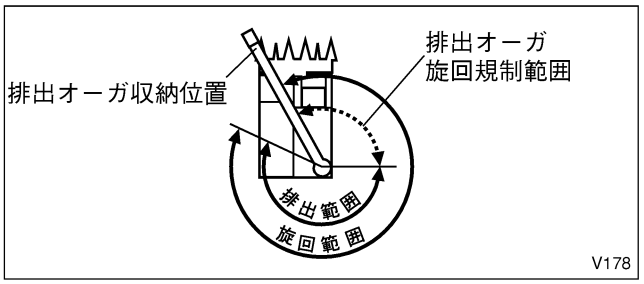
・グレンタンクにこく粒が充満すると，こく粒タンクランプの「**点灯**」と警報ブザーの「**断続音**」で知らせます。刈取り作業を中止し，こく粒の排出を行います。
・警報ブザーは，警報入切ボタンを押すと止まります。

取扱いのポイント

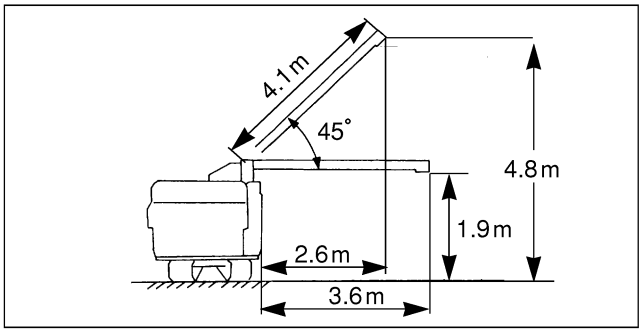
●警報ブザーが鳴ったあと，そのまま作業を続けると，警報ブザーの連続音が鳴り，自動的にエンジンが停止します。

❸ こく粒排出範囲（排出オーガ旋回範囲）

こく粒排出位置まで移動し，平坦な場所を選び，主変速レバーを《**中立**》にし，駐車ブレーキをかけて機械を停止します。

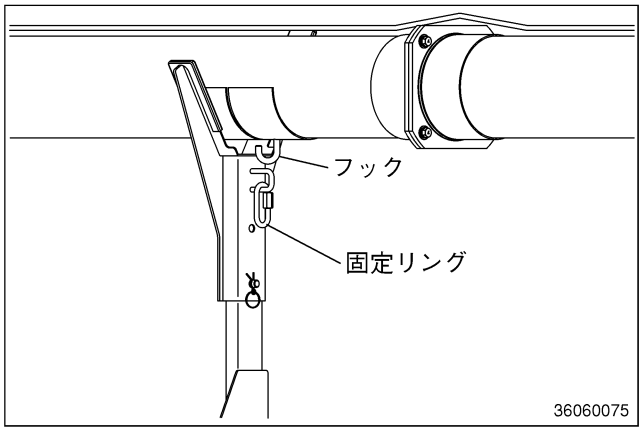


「排出オーガ高さと距離」



❹ こく粒排出操作手順

① 排出オーガ固定用リングをフック部より外す。

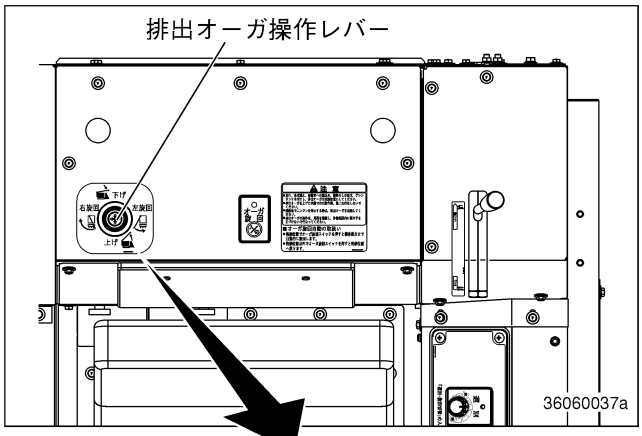


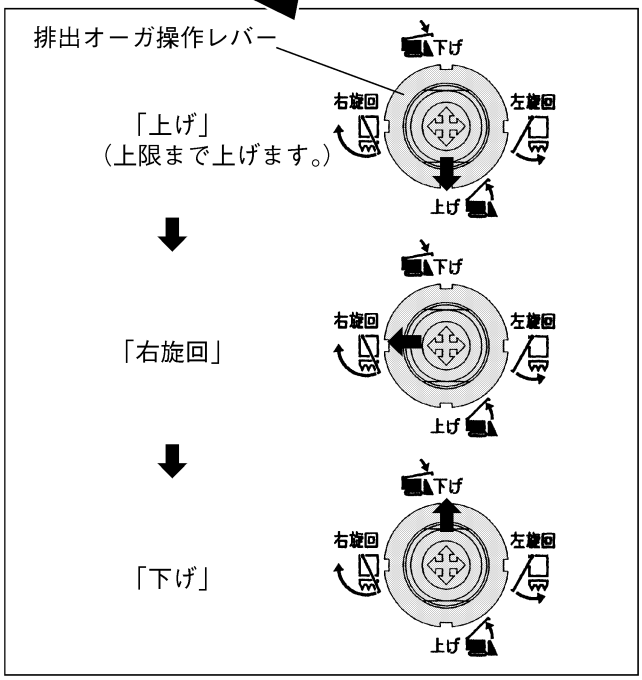
② こく粒排出オーガの先端部を排出位置にセットする。

位置セットする場合，「手動」と「自動」の二通りの操作が可能です。

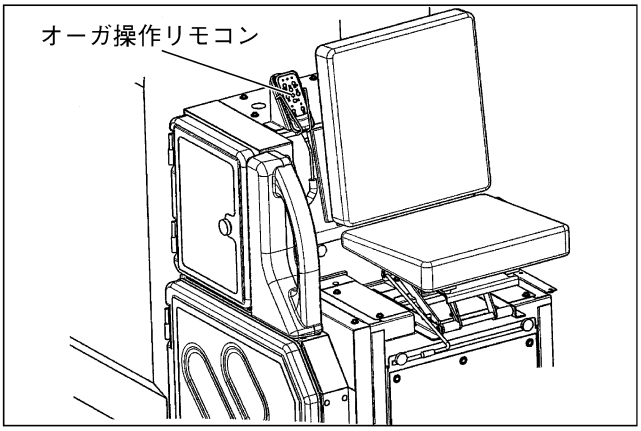
手動操作のとき

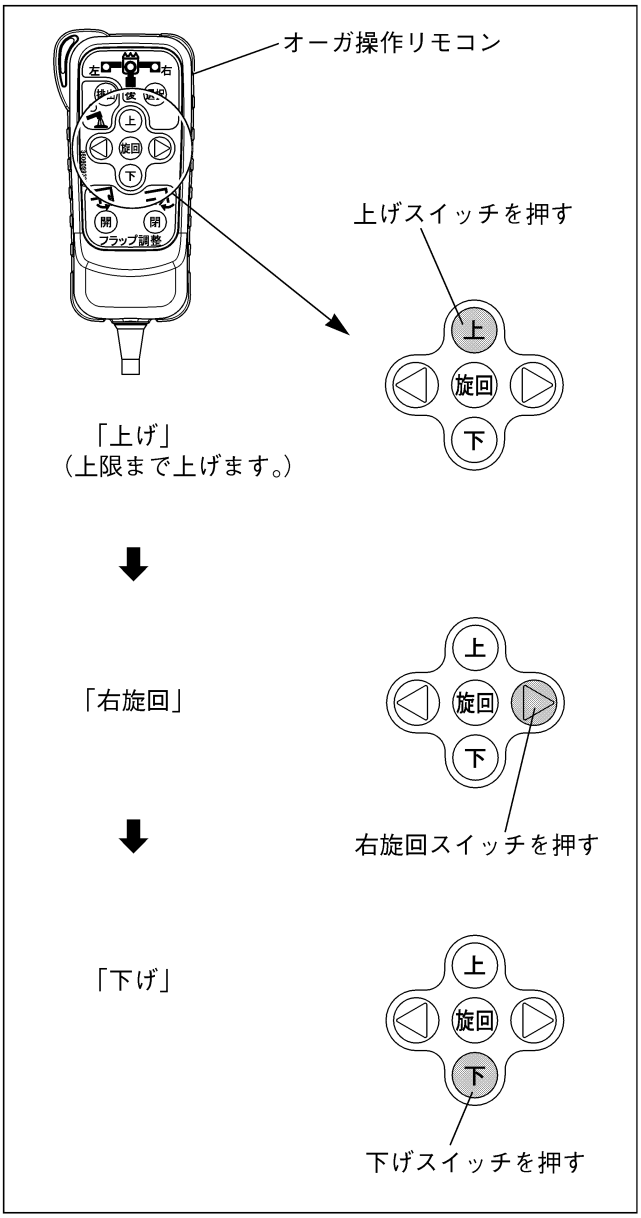
［D仕様以外］





［D仕様］





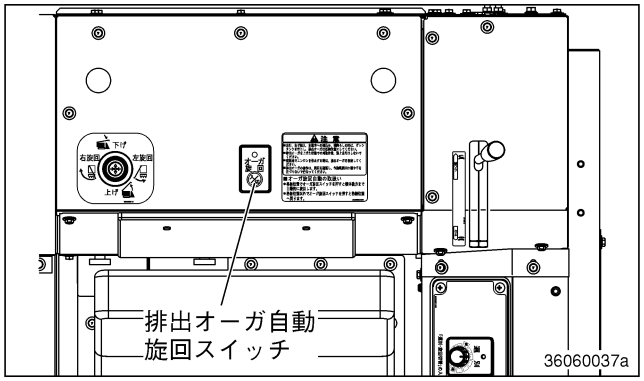
自動操作のとき　［排出時］

［D仕様以外］

・排出オーガ自動旋回スイッチを「押」す。

……自動旋回開始

→ 真後で停止→手動で高さを合わせる



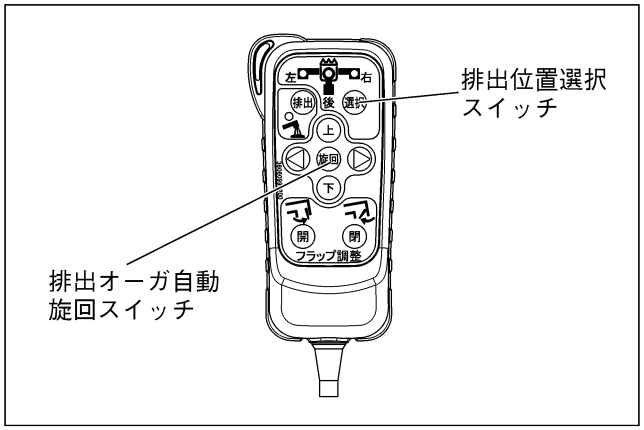
［D仕様］

・排出位置選択スイッチにて排出位置を設定する。

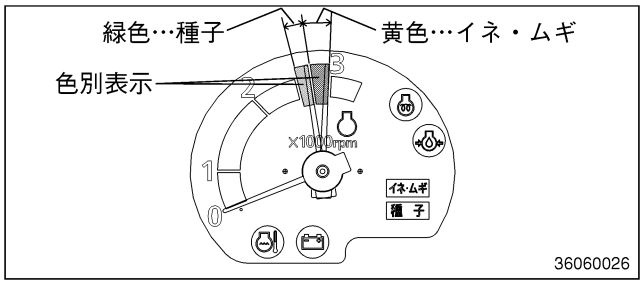
・排出オーガ自動旋回スイッチを「押」す。

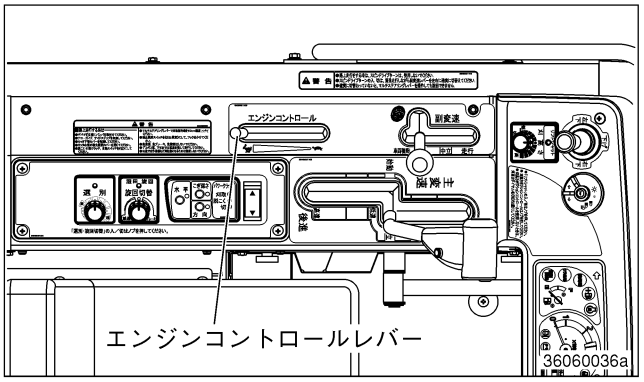
……自動旋回開始

→ 設定した位置で停止→手動で高さを合わせる



③　こく粒を排出する場合は，エンジン回転を回転計の「色別表示」に合わせて行なってください。





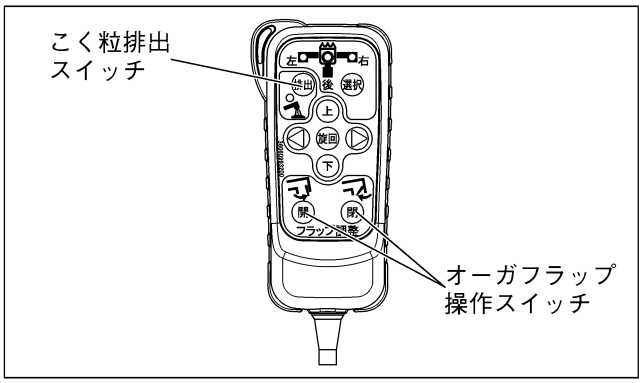
［D仕様］

④－1　こく粒排出スイッチを「入」にする。

……こく粒排出開始

④－2　オーガフラップ操作スイッチ

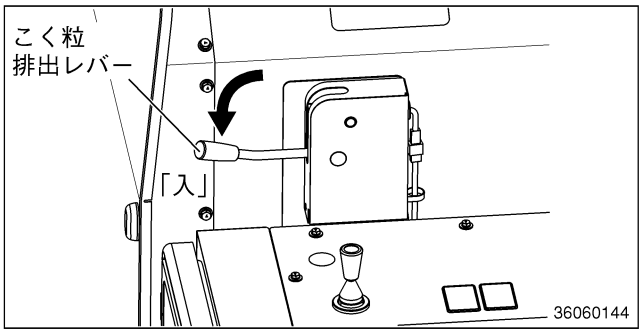
フラップを「開」「閉」操作し，こく粒排出位置を微調整・均一排出できます。



［D仕様以外］

④－3　こく粒排出レバーを「入」にする。

……こく粒排出開始



［D仕様］

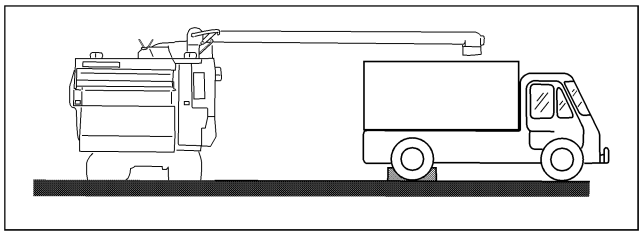
⑤ー１　こく粒排出スイッチを「切」にする。

……こく粒排出終了

［D仕様以外］

⑤ー２　こく粒排出レバーを「切」にする。

……こく粒排出終了

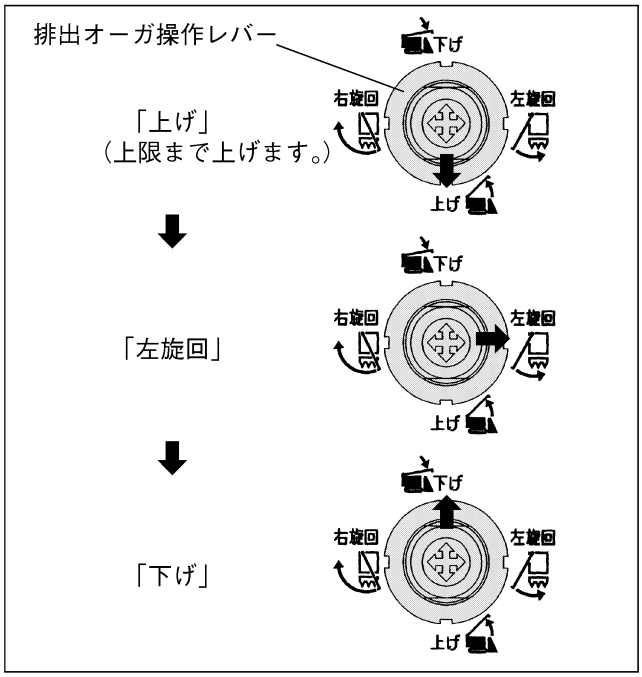


⑥　こく粒排出オーガを収納する。

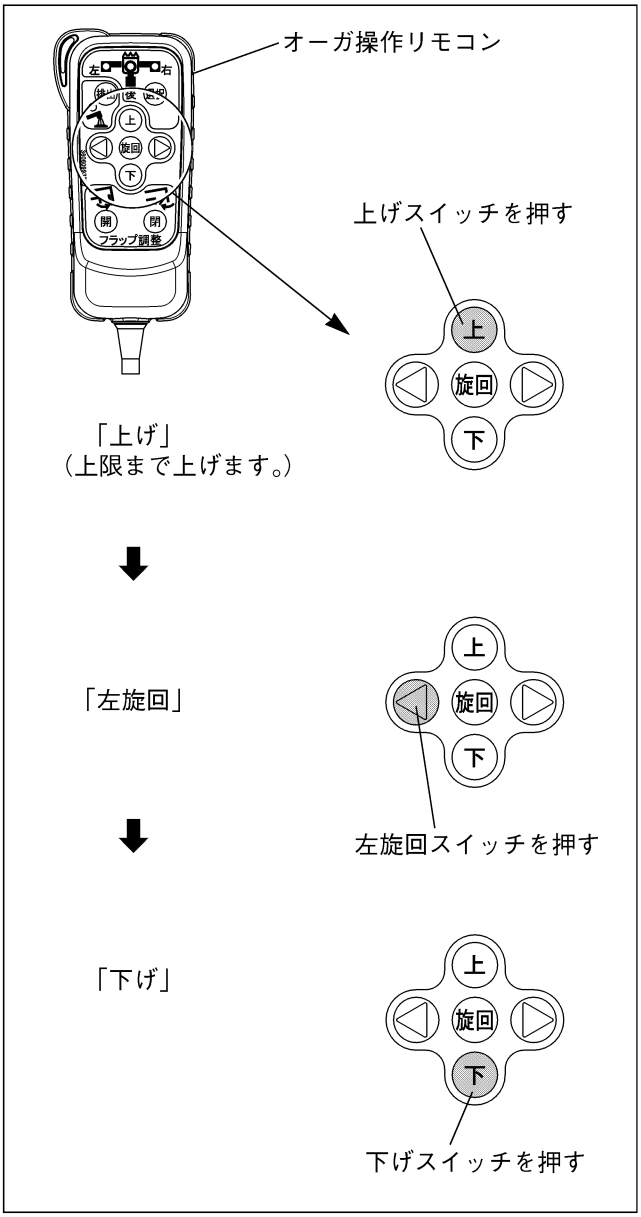
収納する場合，「手動」「自動」の二通りの操作が可能です。

手動操作のとき

［D仕様以外］



［D仕様］



自動操作のとき　［収納時］

・排出オーガ自動旋回スイッチを「押す」す。

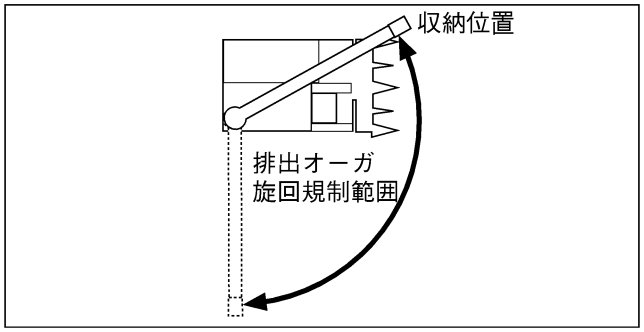
……自動収納開始

→ 収納位置で停止→自動収納終了

⑦　排出オーガ固定用リングをフック部にかける。

取扱いのポイント

- こく粒の排出は，排出オーガの先端部をこく粒で塞がないようにして，排出位置を変えながら行なってください。
- 排出位置の変更は，機械を止めた状態で，排出オーガを少しずつ回動させて行なってください。
- 機械が傾いた状態では，オーガの旋回が遅くなったり，旋回ができなくなったり（サーキットブレーカ作動）します。また，自動収納時，排出オーガ受けに納まらない場所がありますので旋回操作は平坦な場所で操作してください。
- 排出オーガは手で押して動かさないでください。故障の原因になります。
- 排出オーガ旋回規制範囲内では，排出オーガを最上げ状態にしなければ旋回できません。また，この範囲内では，排出オーガの下降はできません。



⑧　オーガ先端側オーガ操作リモコン［D仕様］

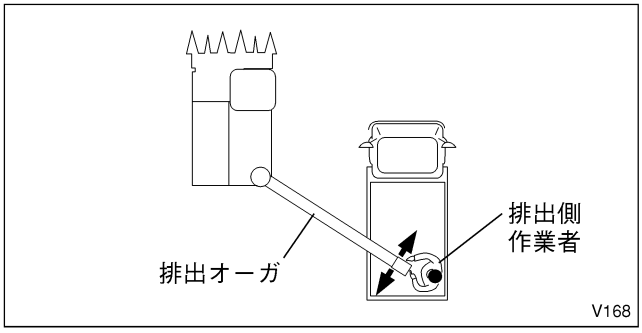
⚠警告　傷害事故防止のために

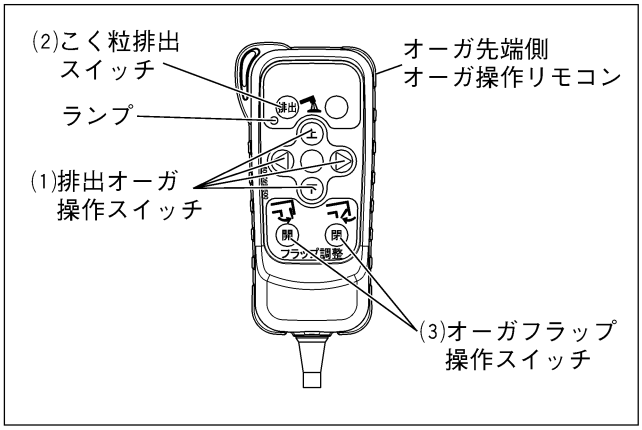
◆コンバイン運転者は，トラック等の排出側に作業者がいる場合に排出オーガを操作しないでください。

◆排出側の作業者はコンバイン運転者が排出オーガを操作しているときに排出オーガに近づかないでください。

排出オーガの先端のホルダにオーガ操作リモコンが装備されています。

このリモコンでトラックなどの排出側にいるオペレータ（作業者）がオーガ位置の微調整，こく粒排出のタイミングを決定することができます。





(1)　**排出オーガ操作スイッチ**

・排出オーガの上昇・下降および左右旋回の操作を行うスイッチです。押している間だけその方向に排出オーガが移動します。

(2)　**こく粒排出スイッチ**

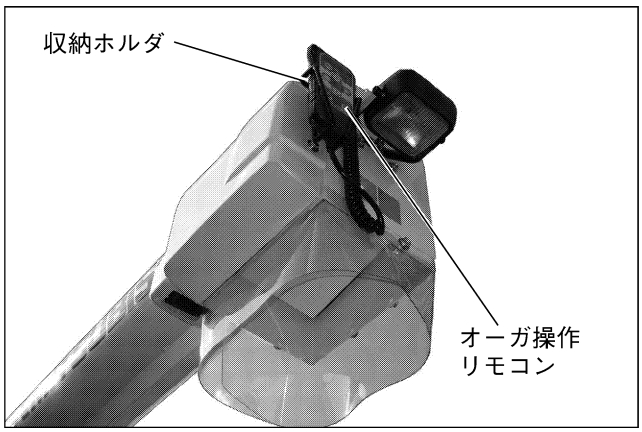
・押すと排出ランプが点灯し，グレンタンク尚のこく粒を排出オーガから排出します。

・排出を停止する場合は，再度スイッチを押すとランプが消灯し，排出が停止します。

⑶ **オーガフラップ操作スイッチ**

・オーガフラップの開閉操作を行うスイッチです。

・オーガフラップを開閉操作し，こく粒排出位置の微調整ができます。



排出が終わると，オーガ操作リモコンを収納ホルダに収納します。

5．グレンタンク補助樋口の取扱い

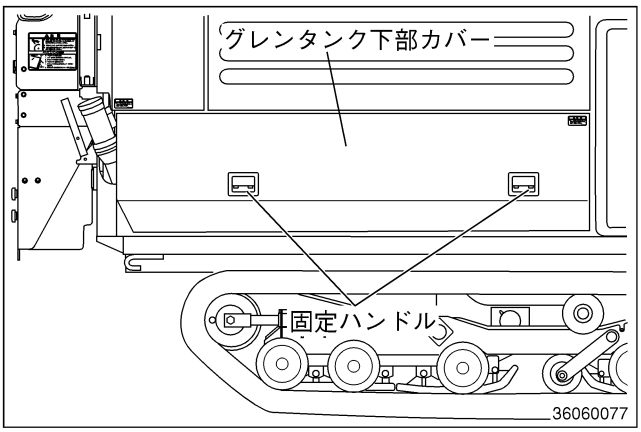
故障などにより，グレンタンク内のこく粒が排出不可能になったときに使用します。樋口はグレンタンク下部カバーを取外すと，その内側にあります。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆補助樋口からこく粒を取出すときは，エンジンを停止してください。

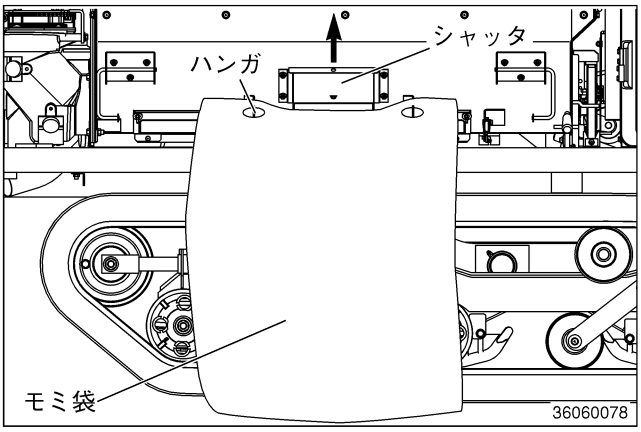
◆カバーを取外したままで使用すると，ケガをするおそれがありますので，取付けて使用してください。

❶ グレンタンク下部カバーの固定ハンドルを引いて，カバーを外します。



❷ ハンガにモミ袋をかけます。

❸ シャッタを引上げ，タンク内のこく粒をモミ袋に取出します。



❹ こく粒の取出しが終了したら，シャッタを閉め，グレンタンク下部カバーを取付けます。

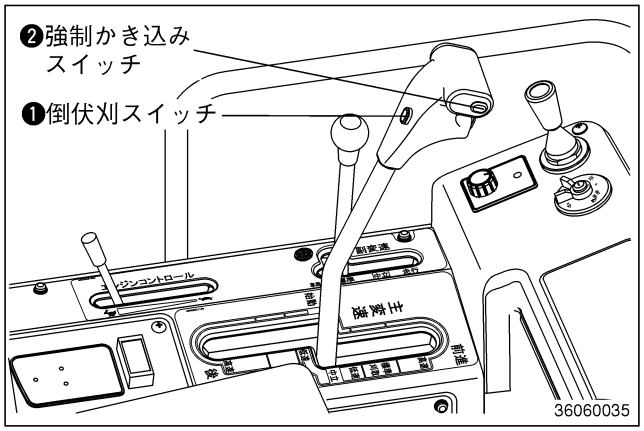
6．ツインハーモニー

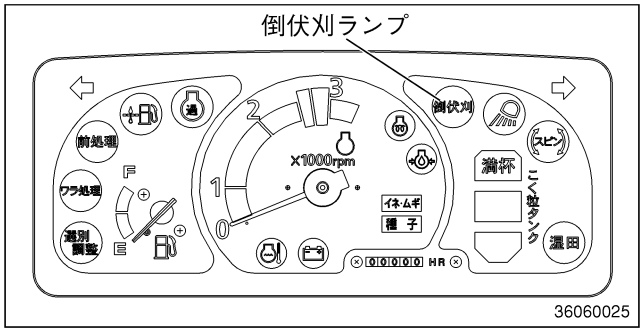
⚠警告 傷害事故防止のために

◆詰まりなどの異常が発生したときに，詰まったワラクズなどを取除く場合や，搬送部の点検をする場合には，刈取搬送，脱こくフィードチェンが突然回転するおそれがあります。
パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にしてから平坦な場所でエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆強制かき込みスイッチの操作は，周囲の安全を確かめてから行なってください。

・刈取速度に応じて，刈取搬送，脱こくフィードチェンの搬送速度を同調制御します。
・手こぎ作業時および，強制かき込み作動中は刈取搬送，脱こくフィードチェンは一定速で回転します。





❶ 倒伏刈スイッチ

「入」……押すと倒伏刈ランプが点灯し，刈取搬送，脱こくフィードチェンの搬送速度が通常より速くなります。

❷ 強制かき込みスイッチ

走行停止状態または後進時に押している間，刈取搬送，脱こくフィードチェンが作動します。

取扱いのポイント

- パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《切》→《脱こく》にすると，脱こく部が回転すると同時に脱こくフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となります。
- パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《脱こく》→《刈取》にすると，刈取搬送と脱こくフィードチェン搬送が車速に同調した回転速度となります。走行停止状態では刈取搬送および脱こくフィードチェン搬送は停止します。
- 刈取走行中は強制かき込みスイッチを操作しないでください。搬送部の詰まりなどの原因になることがあります。

7．リフトシャットの取扱い

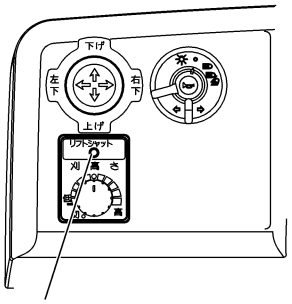
⚠警告 傷害事故防止のために

◆リフトシャットスイッチを《入》にしてパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチが入っていると，刈取部を下げたときに，刈取部，脱こくフィードチェンが回転します。刈取部，脱こく部に近づかないでください。

◆リフトシャットが作動し，刈取部，脱こくフィードチェンが停止していても，強制かき込みスイッチを押せば，刈取部，脱こくフィードチェンが回転します。強制かき込みスイッチを押すときは，周囲に人がいない事を確認してください。

リフトシャットとは，リフトシャットスイッチを《**入**》にして刈取部を上げると，脱こく・刈取クラッチが入った状態で自動的に刈取り搬送，脱こくフィードチェンが停止する機構です。刈取部を下げると自動的に回り始めます。

・リフトシャットスイッチを《**切**》にすると，リフトシャットは機能せず，刈取部の上下位置に関係なく，刈取部・脱こく部は回転します。



次の場合は，リフトシャット《**切**》位置で使用します。

・手刈りのしてないほ場の回り刈り作業
・あぜ越え直後からの刈取り作業
・あぜぎわなどを高刈りする場合
・湿田などで刈取部を上げた状態で作業する場合

8．夜間作業

⚠警告 傷害事故防止のために

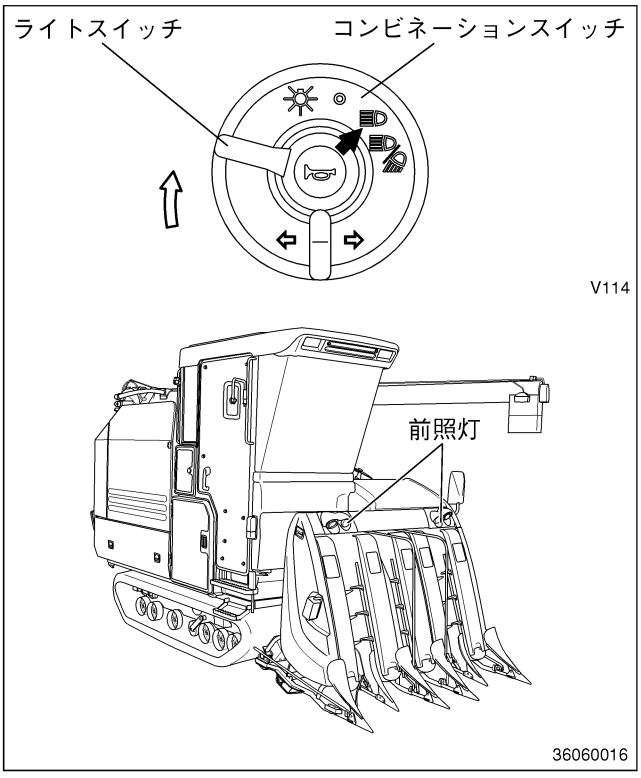
◆夜間作業をするときは，前照灯，作業灯を点灯してください。

◆作業灯電源を他の電源に使用しないでください。

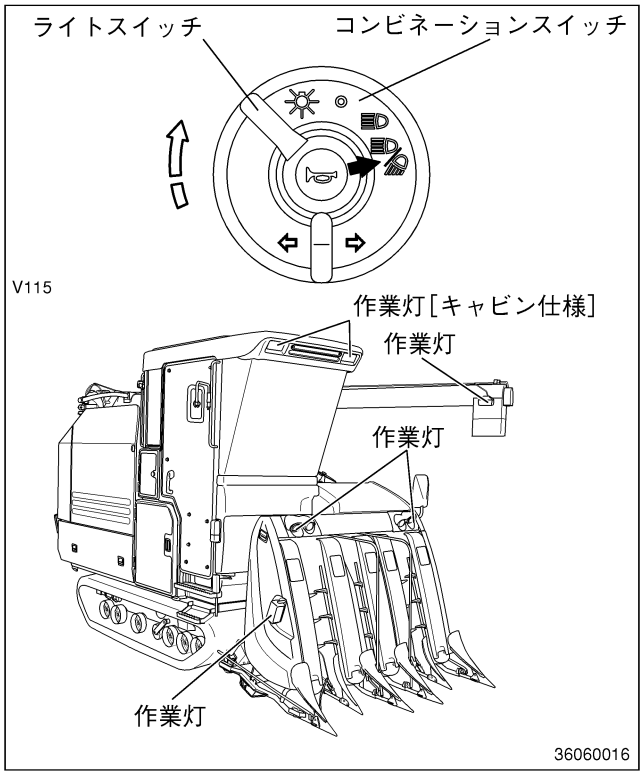
◆路上走行するときは，作業灯を消灯してください。

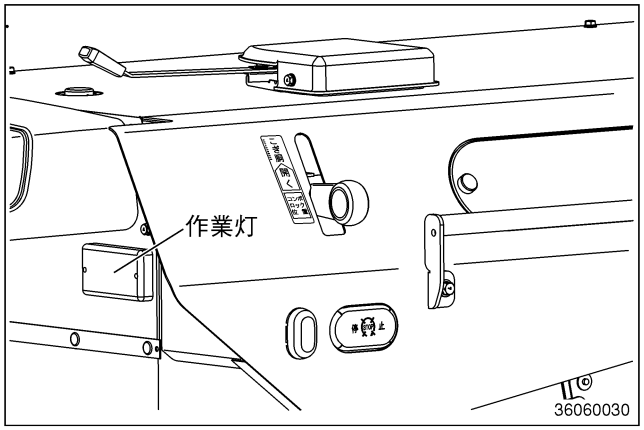
コンビネーションスイッチのライトスイッチと各作業灯スイッチの操作で，前照灯と作業灯を点灯または消灯します。

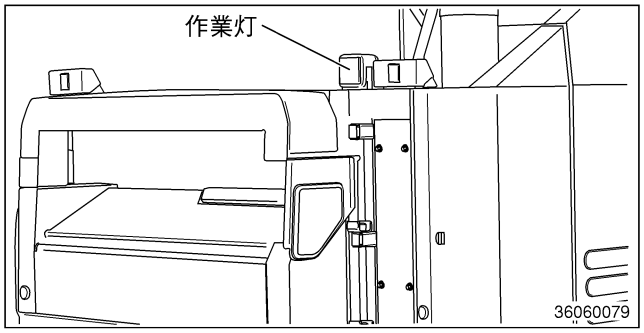
❶ ライトスイッチを１段回すと前照灯が点灯します。



❷ ライトスイッチを２段回すと，前照灯および全ての作業灯が点灯します。







９．エンジン自動停止の取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

◆詰まりなどの異常が発生しエンジンが自動停止した場合は，スタータスイッチを《切》位置にしてから，詰まりを取除いてください。

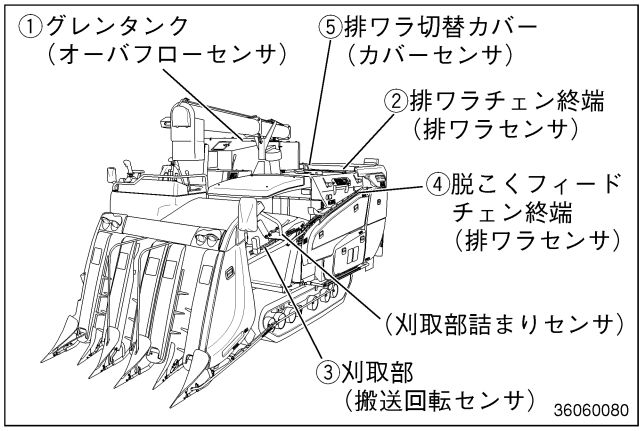
◆脱こくフィードチェンの詰まりの掃除・点検作業は，こぎ胴部を持ち上げ，「カチッ」という音を確認して（こぎ胴部は自動ロックされます），ゆっくり手を離してから行なってください。

◆排ワラチェン詰まりやカッタ詰まりの掃除・点検作業は，こぎ胴部やカッタをオープンしてストッパをかけてから行なってください。（121～122，126ページ参照）

◆詰まりを取除いて，回転確認を行う前に，全てのカバーを取付け，こぎ胴部を閉めて，機械の周囲に人がいないことを確認してから，低速で回転確認を行なってください。

刈取り作業中に異常（詰まりなど）が発生したときは，機械の破損や変形を未然に防ぐため，次の個所のセンサが作動して，警報ブザーが鳴り，ワラ処理ランプ，前処理ランプ，またはこく粒タンクランプが点灯あるいは，倒伏ランプが点滅してエンジンが自動停止します。

No.	センサ設置部	停止条件	センサ名
①	グレンタンク	オーバーフロー	オーバーフローセンサ
②	排ワラチェン終端	詰まり	排ワラセンサ(排ワラチェン)
③	刈取部	詰まり	搬送回転センサ 刈取部詰まりセンサ
④	脱こくフィードチェン終端	詰まり	排ワラセンサ(脱こくフィードチェン)
⑤	排ワラ切替カバー	オープン	カバーセンサ



❶ エンジンが停止したら，スタータスイッチを《**切**》位置にして，詰まりやオーバーフローを取除きます。

❷ 詰まりを取除き，副変速レバーを《**N**》（**中立**）にし，エンジンを始動します。エンジンコントロールレバーを《 》（**低速**）にし，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**刈取**》位置にして，主変速レバーを《**低速**》に操作し，搬送部が正常に作動することを確認してから作業を開始します。

取扱いのポイント

- **こぎ胴部を閉じるときは，脱こくフィードチェン，排ワラチェン部のワラを取除いてから行なってください。**
- **停止時のパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチの位置により再始動時にスタータスイッチ《入》で 2 ～ 3 秒の準備時間がかかることがあります。ブザー音でお知らせしますが，異常ではありません。**

10. 手こぎ作業

⚠警告 傷害事故防止のために

◆手こぎ作業は，機械を停止し駐車ブレーキをかけて行なってください。
◆手こぎ作業は，手や衣服を脱こく供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れたりしないでください。
◆手こぎ作業をするときは，手袋を使用しないでください。
◆機械を走行しながらの手こぎ作業は，しないでください。機械の走行を停止して行なってください。
◆手こぎ作業をするときは，機械をワラクズの近くに止めないでください。（火災予防）
◆手こぎ作業は，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《脱こく》にし，刈取部の作動停止を確認してから行なってください。
◆パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチは，周囲の人に合図してから操作してください。

⚠注意

◆カッタの切ワラが溜まったら作業を中断し，機械を移動するか，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にし，エンジンを停止してから，切ワラを取除いてください。

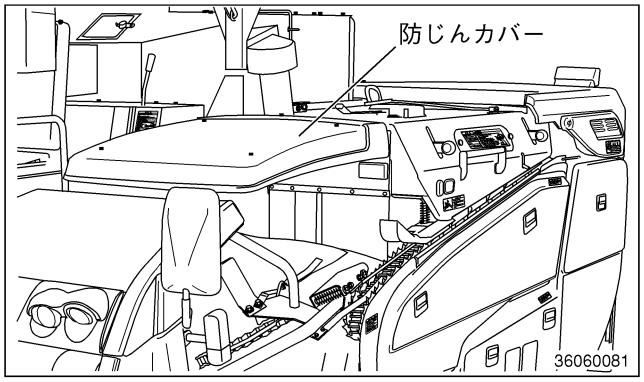
❶ 主変速レバーを《**中立**》および副変速レバーを《**N**》（**中立**）にし，走行を停止します。

❷ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**切**》にします。

❸ 水平自動ダイヤルを「**切**」にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。

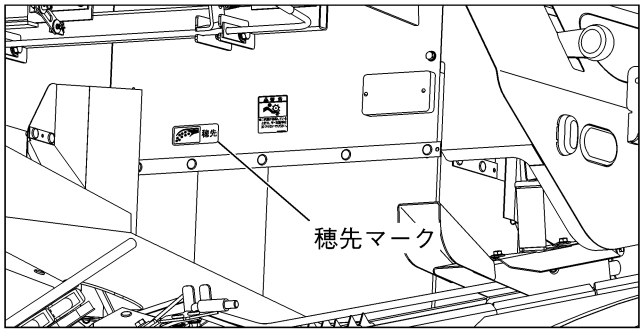
❹ 刈取部をいっぱいに「**下げ**」ます。

❺ 防じんカバーを上方に開きます。［**D仕様**］



❻　パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《脱こく》にして，エンジン回転を回転計の「色別表示の上限」(刈取る作物の回転数上限)にセットします。

❼　作物の穂先を穂先マーク位置に合わせ，手こぎ作業をします。



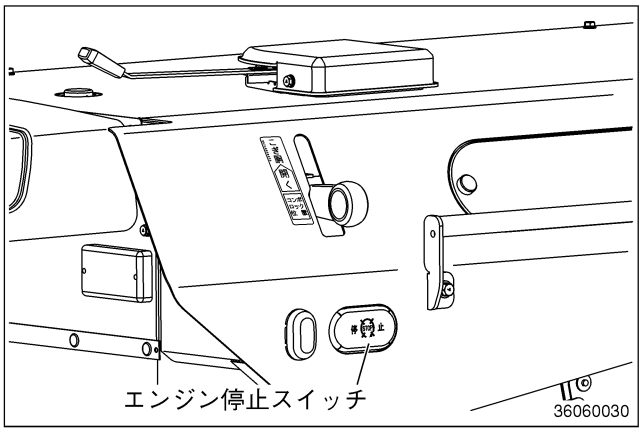
❽　手こぎ作業が終わったら，パワークラッチ(脱こく・刈取）スイッチを《切》にして，防じんカバーを元の位置に戻し，こぎ深さ搬送体をこぎ深さ手動スイッチで適正位置に調整します。

取扱いのポイント

- バラこぎで平均に供給します。結束した作物は供給しないでください。
- パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《脱こく》にしますと，脱こく部が回転すると同時に脱こくフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となります。
- パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《刈取》にしますと，刈取搬送と脱こくフィードチェン搬送が車速に同調した回転速度となりますが走行停止状態では刈取および脱こくフィードチェン搬送は回転しません。手こぎ作業では，パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《脱こく》で使用してください。

11．エンジン停止スイッチの取扱い

このスイッチを押すと，エンジンが停止します。手こぎ作業中などに万一トラブルが発生したときは，このエンジン停止スイッチを押して，エンジンを停止します。



取扱いのポイント

- エンジン停止スイッチでエンジンを停止したときは，スタータスイッチを《切》にしてください。そのまま放置するとバッテリが放電します。
- エンジン停止スイッチは緊急時以外は使用しないでください。

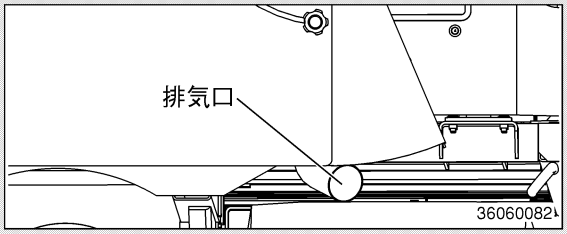
12．刈取り作業終了後の取扱い

⚠警告 火災防止のために

◆機械をワラクズの溜まった近くに止めないでください。マフラ排気口にワラクズが触れ火災になることがあります。

◆シートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行なってください。

◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズなどを掃除してください。



❶ 平坦な場所で主変速レバーを《**中立**》の位置にします。

❷ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**切**》にします。

❸ 駐車ブレーキをかけます。

❹ エンジンコントロールレバーを《🐢》（**低速**）の位置に戻してしばらく空運転をし，エンジン温度を下げてから，副変速レバーを《**標準**》に入れて停止します。

❺ **作業後の手入れ**

・機械をきれいに洗車し，各回転部・摺動部に注油をします。

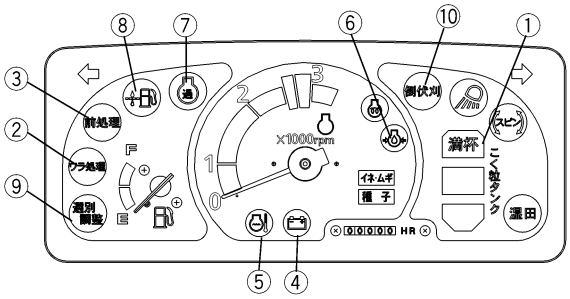
取扱いのポイント

- **パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチは，脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで,《脱こく》にし，空運転してから《切》にします。**
- **水洗いするときは，エンジン回り，電気配線部，マイコン装着部，運転パネル部および脱こく内部には水をかけないでください。故障の原因となります。**

13．警報装置について

つぎの個所に異常が発生した場合は，警報点灯，警報ブザー，エンジン停止などで警告します。

異常個所を確認して，つぎの処置を行います。



No.	名称	現象	警告の方法			解除方法	点検と処置	参照ページ
			警報ランプ	ブザー	エンジン			
①	モミ処理	満杯	点灯	断続音の断続	－	警報切入ボタン「**押す**」またはパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**切**》	こく粒が満杯になっていますので，こく粒を排出します。	56～61
		モミオーバーフロー	点滅	断続音の連続	停止	パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**切**》		
②	ワラ処理	脱こくフィードチェン詰まり	点灯	連続	停止	パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**切**》	脱こくフィードチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	11 122～124
		排ワラ詰まり					排ワラチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	
		排ワラカバーオープン					排ワラ切替カバーを閉め，作業状態（カッタまたはドロッパ）とします。	
		ノッタひも切れ	点滅		－		ひもが切れているか，ひもがなくなっていますので点検します。	ノッタの取扱説明書
③	前処理	こぎ深さ搬送終端部の詰まり	点灯	連続	停止	パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**切**》	こぎ深さ搬送部にワラが詰まっていますので取除きます。	11
		刈取搬送部の詰まり		断続	－		刈取搬送部の詰まりを取除きます。	
		こぎ深さ位置の異常				スタータスイッチ《**切**》	こぎ深さセンサにワラクズが溜まっている場合はワラクズを取除き，適正こぎ深さとなるよう調整します。	73
④	充電	充電不足	点灯	－	－	スタータスイッチ《**切**》	・スタータスイッチ《**入**》で点灯し，エンジンが始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯はバッテリへ充電されていませんので，エンジンを止め，ファンベルト等を点検します。	114～119
⑤	水温	オーバーヒート	点灯	連続「**低速運転**」中は断続	－	水温が下がるまでエンジンを「**低速運転**」	・エンジンの冷却水温度が異常に上昇（オーバーヒート）しています。作業を中止し，エンジンを低速運転し，温度を下げます。 ・エンジンを停止し，ラジエータ吸気部，ファンベルトの張り，冷却水（補助タンク）の水量などを点検します。	8 98～99 108～109 162
⑥	オイル	エンジンオイル量不足	点灯	－	－	スタータスイッチ《**切**》	・スタータスイッチ《**入**》で点灯し，エンジン始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯は，エンジンオイル量を点検して補給します。	8 96～97
⑦	エンジン回転負荷モニタ	エンジン回転が下がる	点滅	断続	－	走行速度を下げる	・作業速度を下げてエンジンの過負荷をなくします。 ・こぎ深さ，送じんガイドの調整がよいか確認します。 ・ワラ切りカマが損耗していないか確認します。	10 18 50～51 148～149
⑧	燃料フィルタ	燃料フィルタ内に水が溜まる	点灯	連続	－	スタータスイッチ《**切**》	ドレンコックを開き，中に溜まった水を抜きます。	110～111
⑨	選別調整	選別部の過負荷	点滅	－	－	－	作業速度を下げるか，選別ダイヤルを「**開**」側に回します。	11，78
⑩	倒伏刈	刈取部詰まり	点滅	断続	停止	－	刈取搬送部の詰まりを取除きます。	10
		搬送HST異常					異常を取除きます。	

その他ランプあるいは自動スイッチランプが点滅するときには「**お買いあげ先**」で点検を受けてください。

3．ワラ処理部の取扱い

⚠警告　傷害事故防止のために

◆回転部にワラなどの巻付きが発生し，または異物が混入したときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから，カッタをオープンし，ストッパをかけて，ワラなどを取除いてください。

◆巻付きなどを取除くときは，カマなどを使用し,手ではカッタ刃に触れないでください。

取扱いのポイント

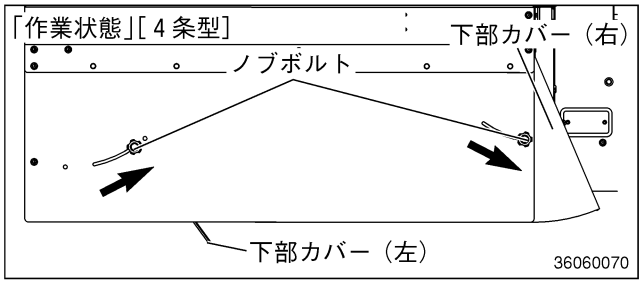
- **カッタ・排ワラ切替レバー操作は，搬送経路のワラを完全に排出してから行います。**
- **脱こく作業中の切替え操作は，しないでください。詰まりの原因となります。**
- **こぎ胴部を開いた状態でカッタ排ワラ切替レバーの切替えは行わないでください。**

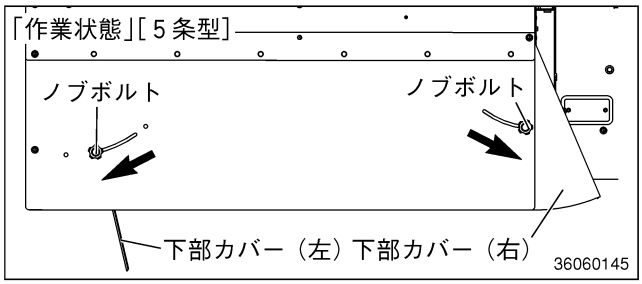
1．カッタ作業

・工場出荷時は下部カバーが収納状態にセットしてあります。

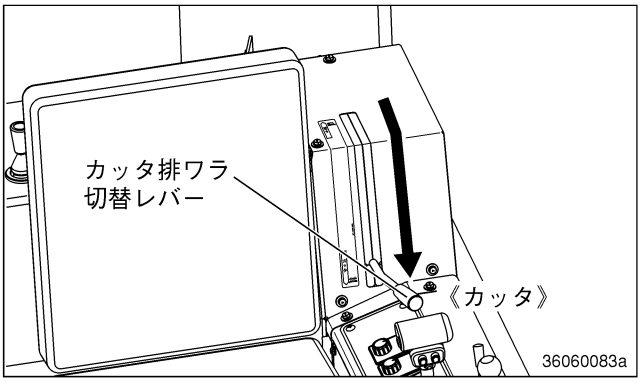
❶　下部カバー（右），（左）を作業状態にします。

・左右のノブボルトをゆるめ下部カバーを長穴一杯後方に開きノブボルトを締付けます。





❷　カッタ排ワラ切替レバーを《**カッタ**》位置にします。



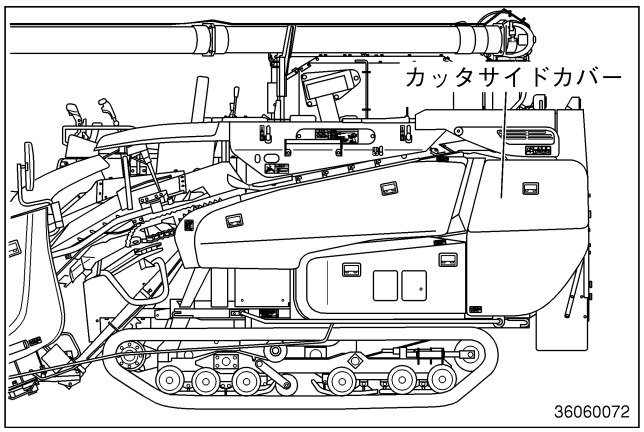
❸　カッタサイドカバーを取外し，カッタの切ワラ切断長さをセットします。

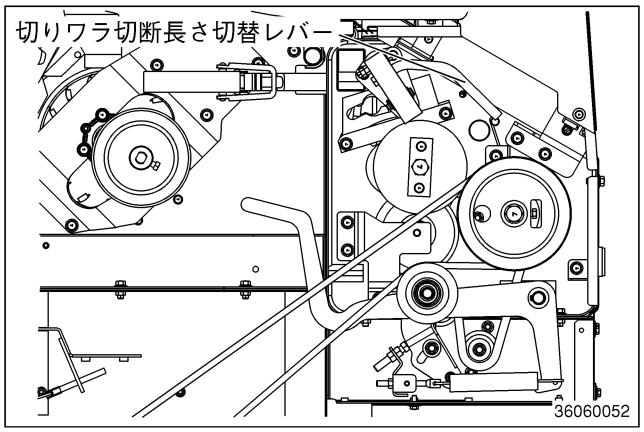
・出荷時は切ワラ切断長さのセット位置は《**短切り**》位置にしてあります。

・《**長切り**》位置に切替える場合は，切ワラ切断長さ切替レバーを《**長切り**》位置にセットします。

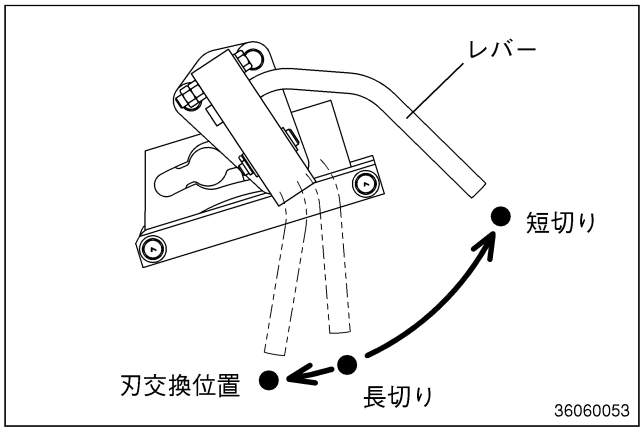
・切断長さ切替レバーはロックレバーを手前に引いた後，回動します。

《**短切り**》……切断長さ約60（40）㎜
《**長切り**》……切断長さ約180（160）㎜
（（　）寸法は［**スーパーマルチカッタ仕様**］の切断長さを示します。）
切替後はカッタサイドカバーを取付けます。





⑴　レバーを手前に引いて「**長切り**」，または「**短切り**」の位置に回動します。
⑵　回動後はレバーを押戻し，確実にロックしてください。
刃交換位置では作業できません。



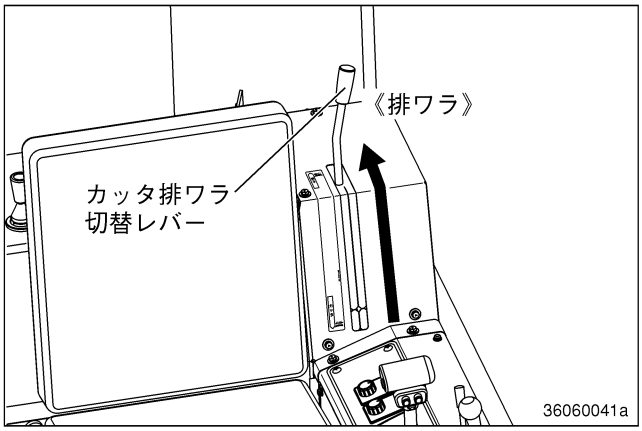
取扱いのポイント

- **刃の切れ味が低下すると，巻付きが発生しやすくなりますので，刃の交換を行なってください。**
- **倒伏した作物の刈取り作業を行う場合，ワラがカッタの回転軸に巻付くことがあります。巻付いたまま長時間作業しますと，巻付き防止パイプが変形するおそれがありますので，50ａ（アール）作業ごとにエンジンを停止してカッタ内を点検し，巻付いている場合は巻付きを除去してください。**
- **カッタの点検，掃除はカッターをオープンし，ストッパをかけてから行います。（オープンのしかたは，119～120ページ参照）**

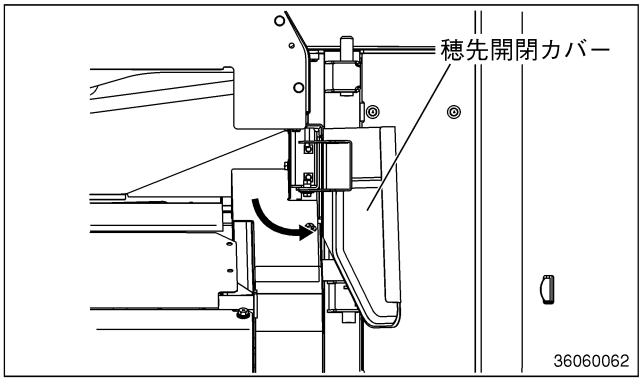
2．排ワラ作業

排ワラ作業には，①脱こくされたワラをそのまま排出する作業，②ドロッパ作業，③ノッタ作業があります。

❶　カッタ排ワラ切替レバーを《**排ワラ**》位置で使用します。



❷　穂先開閉カバーを開きます。



取扱いのポイント

●ノッタおよびドロッパは別売りです。取扱いについては，それぞれの「取扱説明書」をお読みください。

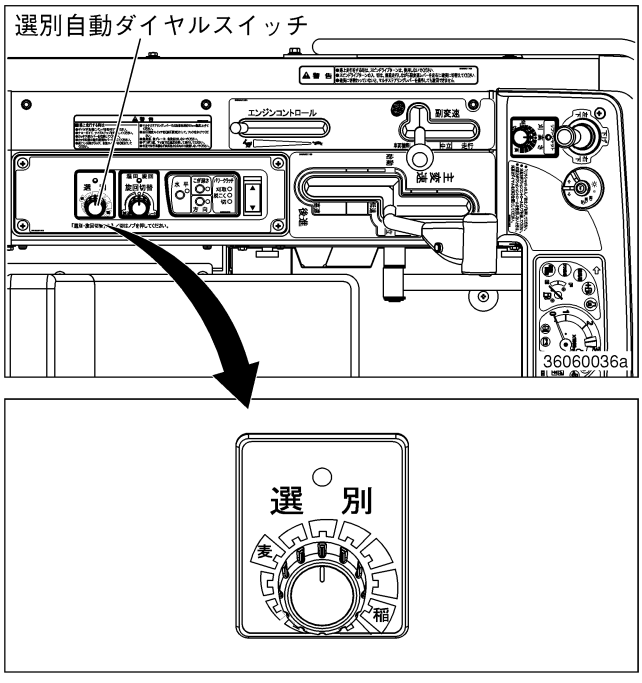
4．麦刈り作業時の調整のしかた

工場から出荷のときは，「稲作業セット」にしてあります。

麦刈り作業をするときは，次の個所を「麦作業セット」に切替え調整します。

1．選別ダイヤルの調節

麦刈り作業をするときは，ダイヤルを《ムギ標準》位置にセットします。なお作業条件により，次のように使いわけてください。



・選別ダイヤルのセット方法は，「選別自動制御の取扱い」の項77～78ページを参照。

取扱いのポイント

●選別ダイヤルの操作は，脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで脱こく部を空運転し，ワラクズなどが排出された後に行なってください。

●脱こく内部にワラクズなどが溜まっていると，選別自動が作動しない場合があります。

●選別自動スイッチ「切」(ランプ消灯）状態で作業するときも，選別ダイヤルを作物に合わせてセットしてください。

●選別自動スイッチ「入」(ランプ点灯）状態で作業すると，刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。

●選別自動スイッチ「切」(ランプ消灯）状態でも作業に支障はありませんが，良好な選別状態を得られない場合があります。

●スタータスイッチを《入》にして，ランプが点灯しないときは，作業を中止しエンジンを停止して，ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検してください。

2．こぎ胴回転数のセット

こぎ胴回転は，回転計で作業範囲確認しながら主変速レバーとエンジンコントロールレバーで調整します。（9～10，18ページ参照）

3．引起し変速のセット

引起し変速は低速にします。

5．刈刃の高さ調節のしかた

・出荷のときは，「下セット」になっています。うね栽培の麦刈りの場合および刈刃が土をかむことが多い刈取り時は，刈刃のカラーを入れ替えて「上セット」にします。

・セット方法は，150～151ページを参照します。

自動装置について

1．こぎ深さ自動制御

こぎ深さ自動は，刈取った作物の長さを搬送の途中に設けたセンサで検出して，適正なこぎ深さとなるように自動的に調整します。こぎ深さ自動使用中に，手動スイッチで手動操作すると，手動が優先となります。

1．運転装置

こぎ深さ調整は,「**自動制御**」と「**手動**」の二通りの操作が可能です。

・**自動制御中は，手動スイッチによる調整の必要はありません。**

但し，倒伏角45°以上の倒伏材，および雑草の多い材料で極端に作物の長さが変動するときは，自動制御を解除して，こぎ深さ調整をこぎ深さ手動スイッチで行います。

❶　こぎ深さ自動スイッチ

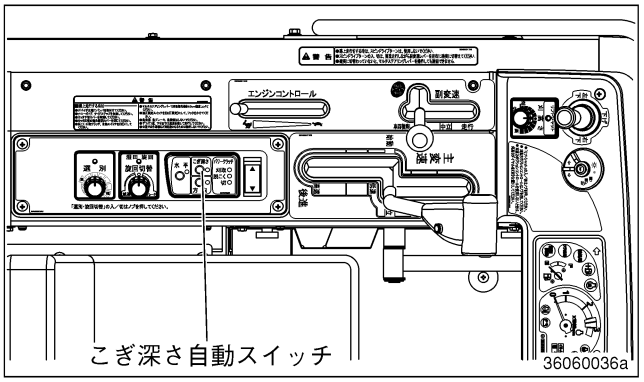
スタータスイッチを《**入**》位置にすると，ランプが点灯し，こぎ深さ自動が作動状態になります。

・「**切**」……ランプが点灯しているときに，こぎ深さ自動スイッチを押すと，ランプが消灯し，こぎ深さ自動は作動しません。



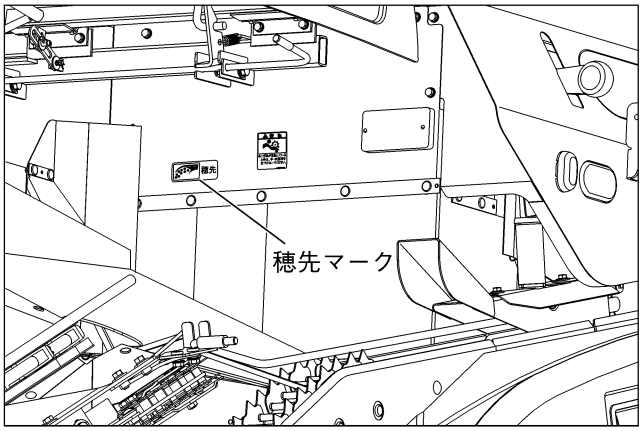
・「**入**」……再度，こぎ深さ自動スイッチを押すと，ランプが点灯し，こぎ深さ自動が作動状態となります。

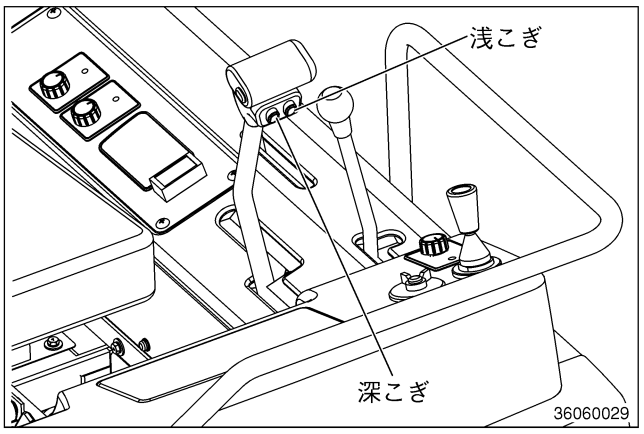




❷　こぎ深さ手動スイッチ

脱こく供給口の「**穂先マーク**」位置に作物の穂先がくるように，こぎ深さ手動スイッチで調整します。





《**深こぎ**》……《**深こぎ**》側を押すと，作物の穂先が深い位置に移動します。

《**浅こぎ**》……《**浅こぎ**》側を押すと，作物の穂先が浅い位置に移動します。

取扱いのポイント

● **自動制御が故障のときは，こぎ深さ手動スイッチによって，手動で操作してください。**

❸ ヒューズ

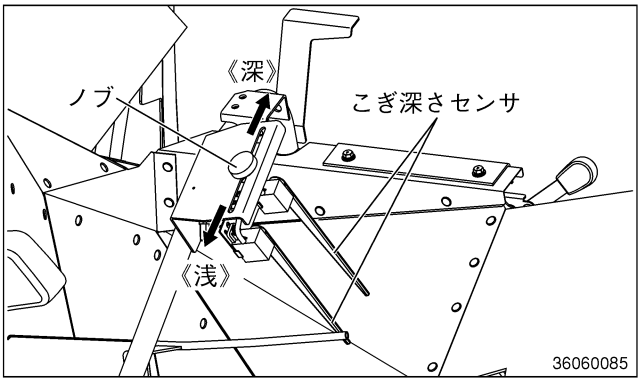
取扱い方は，31～33ページを参照します。

取扱いのポイント

- **こぎ深さ自動ランプが点灯してもこぎ深さ自動が作動しないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。**

2．こぎ深さセンサの調整

こぎ深さセンサは，工場からの出荷のとき，「**標準**」(合わせマークの中央）の位置に調整してあります。



・次のようなときは，ノブをゆるめセット位置を調整します。

こぎ深さを「**深く**」したいときは，センサケースを《**深**》方向へ移動します。

こぎ深さを「**浅く**」したいときは，《**浅**》方向へ移動します。

・調整後は，ノブを確実に締めます。

3．こぎ深さ自動制御が使えない条件

・次の状態では，こぎ深さ自動スイッチを「**切**」（ランプ消灯）にし，手動スイッチでこぎ深さを調整します。

○**倒伏角45°以上の倒伏作物**
○**腐れ状態の作物**
○**雑草が多いとき**
○**作物の長さが極端に変動するとき**

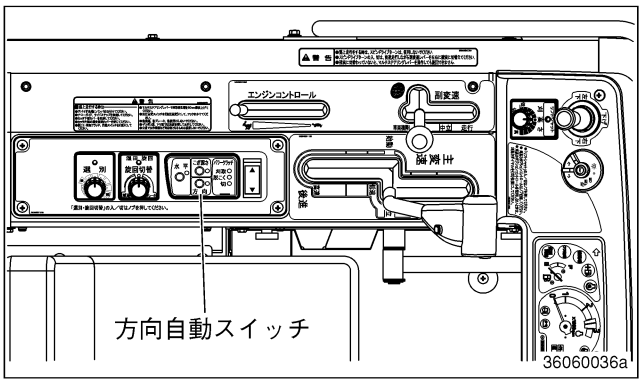
2. 方向自動制御 [ディーラーオプション]

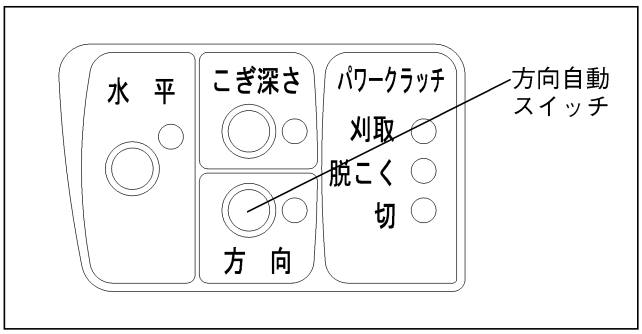
方向自動は，刈取部に取付けた方向センサで条の曲がりを感知し，条列に沿って自動操行します。また，マルチステアリングレバーを操作すると，一旦，方向自動制御は「**解除**」され，手動操作優先となります。

⚠警告

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしするときは方向自動スイッチを「切」にしてください。

1．運転装置





方向自動スイッチ

・「**入**」……押すとランプが点灯し，方向自動スイッチが「**入**」の状態であることを表示します。



・「**切**」……「**入**」の状態から，再び押すとランプが消え，方向自動制御は作動しません。



取扱いのポイント

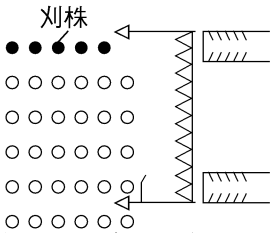
- **方向自動スイッチ内ランプが点灯しても，方向自動が作動しないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。**

2．自動での作業のしかた

❶　スイッチの操作・条合わせのしかた

⑴　方向自動スイッチを「**入**」(ランプ点灯）にします。

⑵　機械が条列に真直ぐになるようにマルチステアリングレバーの操作で条合わせをします。

	方向自動スイッチ	条合わせのしかた
条刈り	スイッチのランプを「**点灯**」にする	

❷　刈取り作業中の手動操作

方向自動制御中でも,マルチステアリングレバー,ジャストディレクタを手動操作すると,「**手動優先**」で進路を変えることができます。

❸　旋回時の操作

旋回するときは，マルチステアリングレバーで手動操作します。

このときに，方向自動スイッチを「**切**」にする必要はありません。

取扱いのポイント

- **条合わせは，機械が条列に真直ぐになるようにしてください。斜めになったときは，条外れすることがあります。**

3．方向自動制御の使えない条件

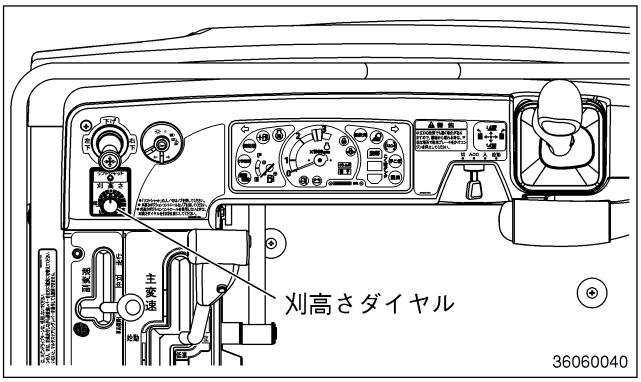
次の条件では，方向自動スイッチを「**切**」にして，マルチステアリングレバーで手動操作します。

- 横刈り
- 中割り
- 斜め刈り
- あぜぎわ刈り
- 雑草が多いとき
- バラまきほ場
- 湿田
- 条間および株間が極度に乱れているとき
- 稈量が少ないとき
- 欠株が多いとき
- 植付条間が25㎝未満の場合
- 植付条間が33㎝以上
- 植付株間20㎝以上の場合
- 倒伏材は，「**❹倒伏作物の刈取り**」項（55ページ）を参照

3. 刈高さポジションコントロール

刈高さダイヤルにより,シートに座ったまま手元操作で,刈取部の下限高さを設定することができます。

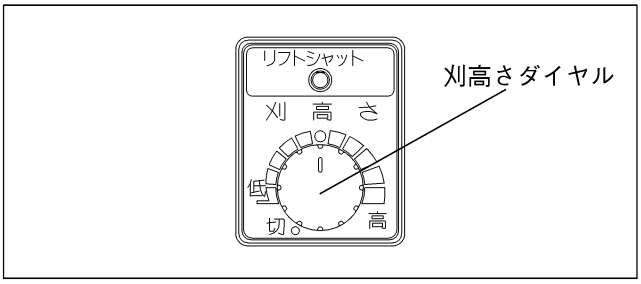
1. 運転装置



❶ 刈高さダイヤル

刈高さダイヤルを《切》位置以外にすると刈高さポジションの設定ができます。

刈高さの調節は，刈高さダイヤルの操作によって，お望みの「刈高さポジション」を設定することができます。



・刈高さダイヤルは通常,《●》位置で使用します。

❷ ヒューズ

取扱いは，31～33ページを参照します。

取扱いのポイント

- 刈高さポジションコントロールを使用しないときは，ダイヤルを《切》位置で使用します。
- ほ場の凹凸が多い場合には，マルチステアリングレバーで手動操作してください。
- 刈高さダイヤルをどの位置にセットしても，刈高さポジションが設定できないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。

2. 自動での作業のしかた

刈高さダイヤル《切》位置の状態とパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《切》位置状態ではこの機能は働きません。

❶ 乾田での標準刈高さセット

ほ場・作物条件に合わせて，低く刈取るときは《低》の方向に，高く刈取るときは《高》の方向にダイヤルをセットします。

(1) 刈高さダイヤルを標準《●》位置にセットします。

(2) パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチ《刈取》でマルチステアリングレバーを《下げ》に操作して刈取部を下げます。刈取部が停止した位置が刈高さポジションの設定位置です。

❷ 刈高さが高すぎる場合

(1) 刈高さダイヤルを少し《低》側へ回します。

(2) 刈取部が下がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

❸ 刈高さが低すぎる場合

(1) 刈高さダイヤルを少し《高》側へ回します。

(2) 刈取部が上がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

取扱いのポイント

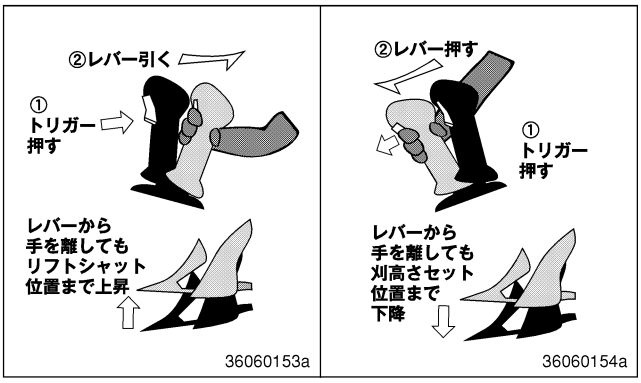
- 刈高さポジションコントロール中に，マルチステアリングレバーを瞬間的にでも《上げ》操作すると，ポジションコントロールが解除されます。再度ポジションコントロール状態にしたいときは，マルチステアリングレバーを《下げ》操作してください。
- 刈高さダイヤルを《切》位置以外に設定しているときは,マルチステアリングレバーを《下げ》操作しても，刈高さセット位置より低くすることはできません。

❹ クイックアップトリガーの使用

① クイックアップ機能

・クイックアップトリガーを押しながらマルチステアリングレバーを軽く（一瞬）上げ操作をすると自動的に刈取部がリフトシャット位置まで上がります。

・クイックアップトリガーを押しながらマルチステアリングレバーを軽く(一瞬)下げ操作をすると自動的に刈取部が刈高さポジションコントロールで設定された位置まで下がります。

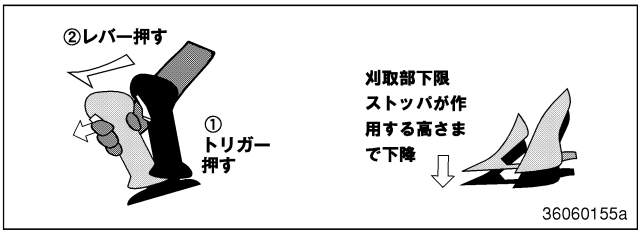


② 刈高さ解除機能

刈高さセット位置よりもさらに刈取部を下げたいときはクイックアップトリガーを押しながらマルチステアリングレバーを下げ操作します。

ただし，刈取部の下限ストッパが作用する高さ以下には下がりません。

クイックアップトリガーの操作をやめると約１秒後に元の刈高さポジションコントロール位置に戻ります。



取扱いのポイント

- **クイックアップトリガー操作中に元の刈高さポジションコントロール位置より高くした場合には元の高さに戻りません。**
- **再度ポジションコントロール状態にしたいときには，マルチステアリングレバーを《下げ》操作してください。**

3．手動での作業のしかた

刈高さダイヤルを《**切**》位置にすると，刈高さポジションコントロールは作動しません。

マルチステアリングレバー操作によって，刈取部の高さを任意の位置に合わせることができます。

4．水平自動制御
（ジャストマチック）

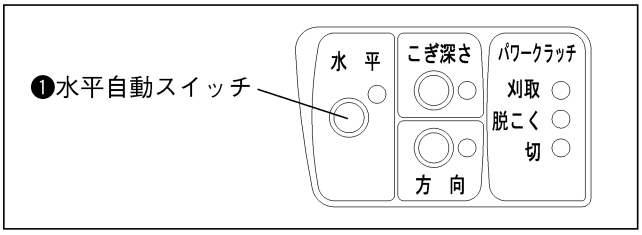
・水平自動は湿田などで機体が傾斜した場合，自動的に機体を水平に修正します。「**水平操作レバー**」で機体全体を持上げることもできます。

・あぜぎわや溝のある麦刈作業時および傾斜地での作業では，ほ場条件に合わせ水平ダイヤルで一定の角度に傾斜させて作業ができます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし，こく粒の排出時は，水平自動スイッチを「切」にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げて行なってください。

1．運転装置



❶ 水平自動スイッチ

・「**入**」……押すとランプが点灯し，水平自動スイッチが「**入**」の状態であることを表示します。



・「**切**」……「**入**」の状態から再び押すとランプが消え，水平自動制御は作動しません。



取扱いのポイント

- **水平自動スイッチランプが点灯しても，水平自動が作動しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。**

❷ ヒューズ

取扱い方は，31～33ページを参照します。

❸ 水平操作レバー

取扱い方は，22ページを参照します。

2．自動での作業のしかた

❶ 刈取り作業

(1) パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチ《**刈取**》位置で水平自動制御が作動します。

(2) 傾斜角を変えるときは，水平操作レバー「**右下げ**」「**左下げ**」を操作し，設定します。
傾斜角を保持するように自動制御(傾斜角制御)します。
水平操作レバーで機体傾斜角を変えたときは，水平自動ランプは点滅します。

(3) 傾斜角制御状態から水平制御状態に戻すには水平自動スイッチを入れ直す（入→切→入）か水平手動操作（上下）操作を行うと戻ります。
（傾斜角制御のときは「ピッ」，水平制御のときには「ピッ，ピッ」とブザー音がし，切替ったことがわかります）

(4) パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチ《**切**》位置にしたとき，機体が左右どちらか低い方に合わせて，地面に平行になります。

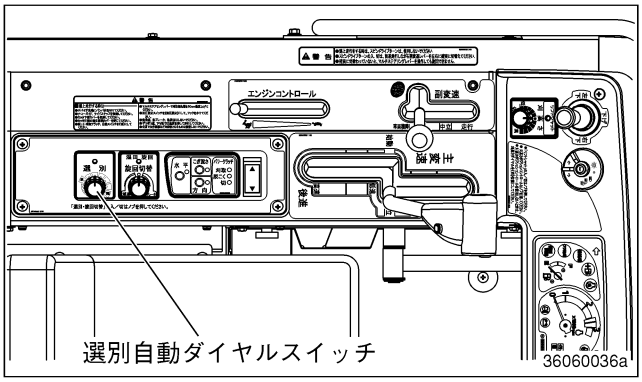
取扱いのポイント

- **水平自動スイッチが「入」でも水平操作レバーを操作すると，「手動優先」で機体高さ，機体傾斜角を変えることができます。**
- **機体旋回中は水平自動制御は作動しません。**

5．選別自動制御

選別自動は，脱こくしたこく粒の量に応じて自動的に揺動板を調整し，刈取り条件に合ったきめ細かい選別となるように自動的に調整します。

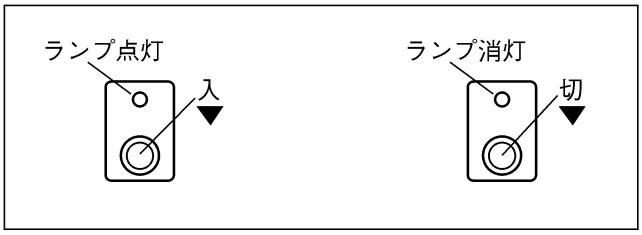
1．運転装置



❶ **選別自動ダイヤルスイッチ**

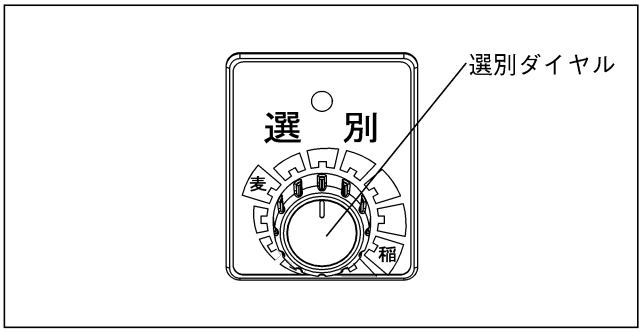
スタータスイッチを《**入**》位置にするとランプが点灯し，選別自動が作動状態になります。

- 選別自動スイッチ内ランプが点灯時に選別自動スイッチを押すと，ランプが消灯し，選別自動は作動しません。
- 再度，選別自動スイッチを押すと，スイッチ内ランプが点灯し，選別自動が作動状態となります。



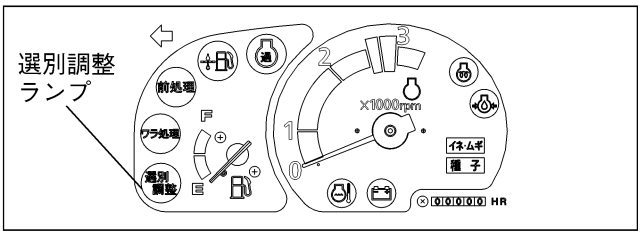
❷ **選別ダイヤル**

刈取る作物に合わせて，選別ダイヤルをいずれかの位置にセットします。



作業内容		選別ダイヤル
稲刈り作業	通常の刈取り作業	《稲》
	《稲》で選別が悪いとき	《稲》より《左》側にダイヤルを回します。
	高収量材料または，脱こく負荷が大きいとき	《稲》より《右》側に回します。
麦刈り作業	通常の刈取り作業	《麦》
	《麦》で選別が悪いとき	《麦》より《左》側にダイヤルを回します。
	高収量材料または，脱こく負荷が大きいとき	《麦》より《右》側に回します。

❸　選別自動ランプ



選別部に処理能力以上のこく粒等があるときに点滅します。作業速度を下げるか，選別ダイヤルを「開」側に回します。

取扱いのポイント

- **処理後もランプが点滅するときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください。**

❹　ヒューズ

取扱い方は，31～33ページを参照します。

取扱いのポイント

- **選別ダイヤルの操作は，脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで，脱こく部を空運転し，ワラクズなどが排出された後に行なってください。**
- **脱こく内部にワラクズなどが溜まっていると，選別自動がセットできない場合があります。**
- **選別自動スイッチ「入」（ランプ点灯）状態で作業すると，刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。**
- **選別自動スイッチ「切」（ランプ消灯）状態で作業するときも，選別ダイヤルを作物に合わせてセットしてください。**
- **選別自動スイッチは「切」（ランプ消灯）の状態でも作業に支障はありませんが，良好な選別状態を得られない場合があります。**
- **スタータスイッチを《入》にして，ランプが点灯しないときは，作業を中止しエンジンを停止して，ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検してください。**

6．排出オーガ自動制御

・排出オーガ自動は，自動スイッチの操作により，排出オーガが自動的に収納位置から自動旋回停止位置まで動き，排出位置から収納位置まで動きます。

⚠警告　傷害事故防止のために

◆排出オーガの運転操作は運転席から，周囲の安全をよく確認してから行なってください。
◆排出オーガの作動範囲に，頭や手を近づけないでください。
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをするときは，グレンタンク内のこく粒を排出してください。
◆傾斜地でのこく粒の排出作業は，行わないでください。
◆こく粒の排出作業をするときは，駐車ブレーキをかけて行なってください。
◆排出オーガ先端部に溜まったこく粒を取除く場合は，こく粒排出スイッチ［D仕様］，こく粒排出レバー［D仕様以外］を「切」にして，エンジンを停止してください。
◆旋回範囲近くに障害物がある場合は，自動スイッチを使用しないで，排出オーガ操作レバーで排出オーガを操作してください。
◆排出オーガ自動旋回中に緊急停止する場合は，排出オーガ自動旋回スイッチ，排出オ

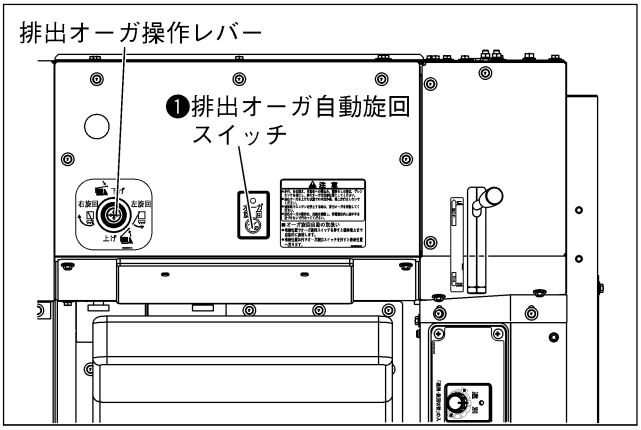
ーガ操作レバーの何れかを操作して止めてください。

◆[キャビン仕様]は，キャビンの窓から頭や手を出して排出オーガの操作をしないでください。

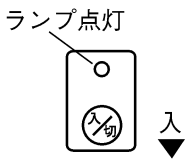
◆走行中に排出オーガを操作しないでください。こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定リングで排出オーガを固定してから行なってください。

◆水平自動スイッチを「切」にして，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてから，排出作業をしてください。

1．運転装置

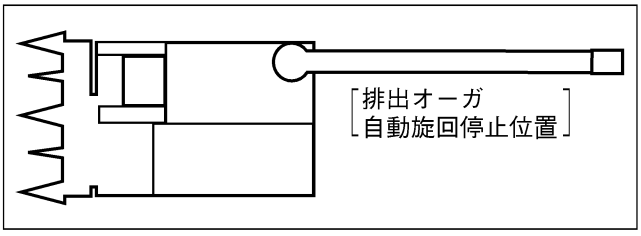


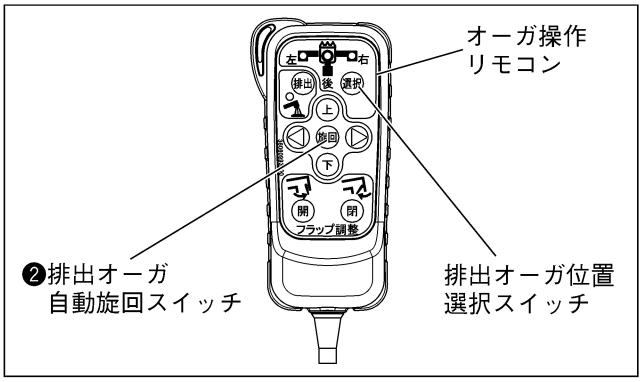
❶ 排出オーガ自動旋回スイッチ［D仕様以外］



・「入」……押すとランプが点灯し，排出オーガは自動的に収納位置から自動旋回停止位置まで旋回します。収納位置以外でスイッチを押すと，自動的に旋回収納します。自動収納後，ランプは消灯します。

・排出オーガ自動旋回中，または自動収納途中で旋回停止を行う場合は，再度，自動スイッチを押すと停止します。



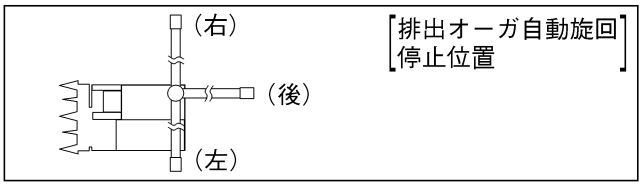


❷ 排出オーガ自動旋回スイッチ［D仕様］

・排出オーガ収納位置で，自動旋回スイッチを押すと，排出オーガが排出位置選択スイッチで設定した排出位置まで，自動旋回します。

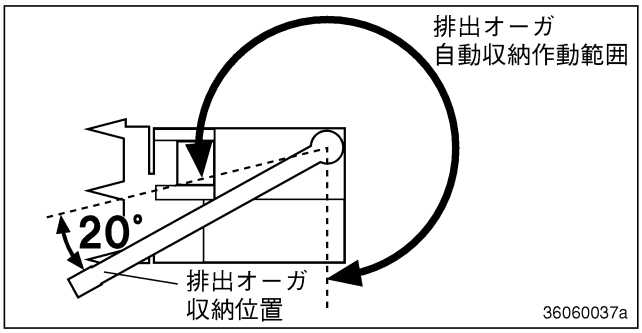
・排出オーガ収納位置以外で，自動スイッチを押すと，排出オーガ収納位置へ戻ります。

・排出オーガ自動旋回中，または自動収納途中で旋回停止を行う場合は，再度，自動スイッチを押すと停止します。



取扱いのポイント

- **自動収納は，排出オーガが下図の範囲にあるときだけ作動します。**



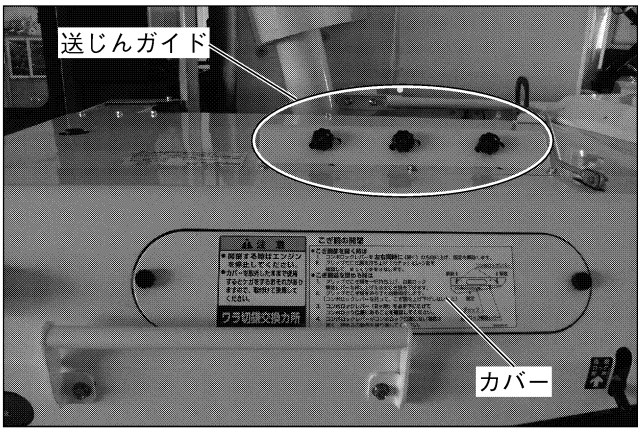
- **自動旋回は，排出オーガが収納位置にあるときにだけ作動します。排出オーガ自動旋回スイッチの操作は，排出オーガの固定リングを外してから行なってください。**
- **スイッチを「入」にして，ランプが点灯しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。**
- **自動が故障のときは，排出オーガ操作レバーによって，手動で操作してください。**

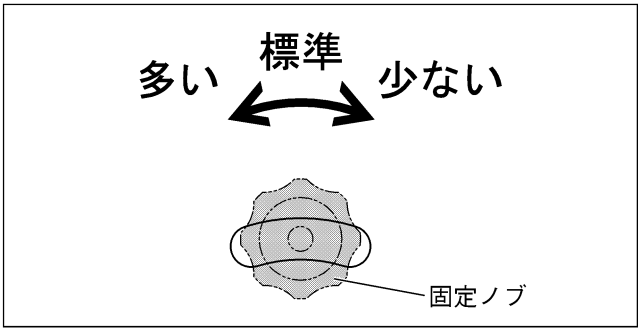
❸ ヒューズ

取扱い方は，31～33ページを参照します。

7．送じん量自動調節

・送じん量は《**標準**》位置で出荷しています。
送じん量調節は，こぎ室内の発生クズ量に応じて送じんガイドの位置を自動で調整し，こぎ室内の負荷を軽減する機構です。





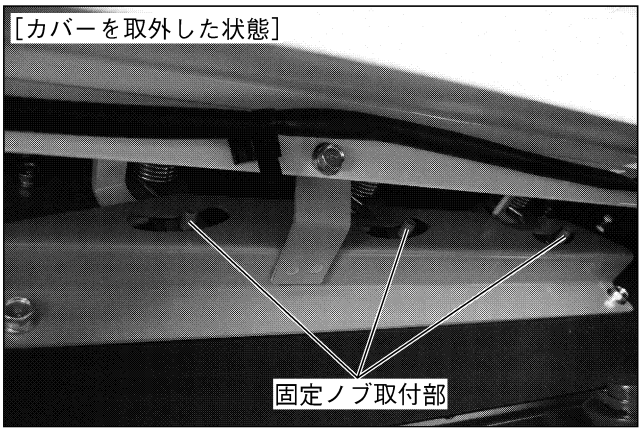
取扱いのポイント

- **ほ場の条件に合せて自動初期位置を変えることができます。**
- **モミに枝梗の付着が多いときや，こぎ室内で「ゴトゴト音」がする場合は送じん量を調節することができます。**

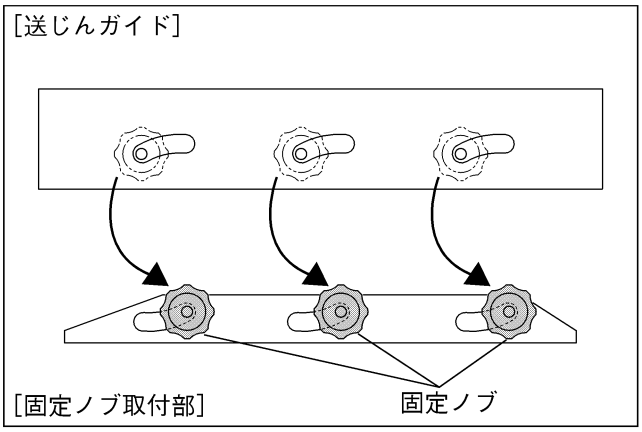
作業状態	送じん量調節位置
こぎ室内で「ゴトゴト音」がする場合	《多　い》
通常の刈取りの場合	《標　準》出荷位置
枝梗の付着が多い場合	《少ない》

手動調節のしかた（送じんガイドの固定）

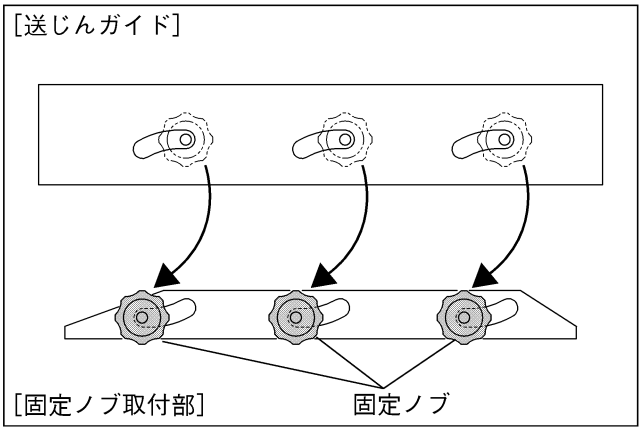
・作業状態に応じて送じん量調節位置の固定ができます。
固定ノブ位置を入替えて取付けます。固定ノブで作業状態に応じた位置に固定します。固定ノブ取付部は，カバーを取外したところにあります。



送じん量調節位置《**多い**》のときの固定位置



送じん量調節位置《**少ない**》のときの固定位置



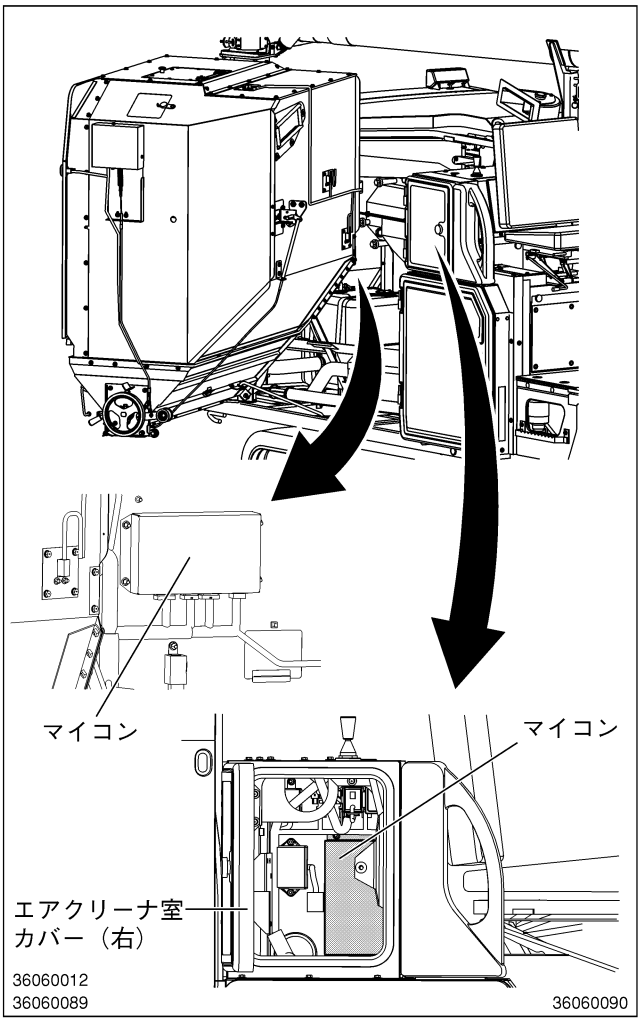
8. マイコン（マイクロコンピュータ）

高性能マイクロコンピュータが2個搭載されています。これにより下記の制御が集中コントロールされ，オペレータの作業が軽減されます。

❶ マイコンによる制御機能

・エンジン停止制御
・マルチステアリングレバー
・方向自動制御［ディーラーオプション］
・水平自動制御
・リフトシャットシステム
・刈高さポジションコントロール
・こぎ深さ自動制御
・選別自動制御
・ツインハーモニーシステム
・排出オーガ自動旋回（旋回＋収納）
・ホーン・モミ警報・その他各種警報

マイコンユニットの設置場所



❷ ヒューズ

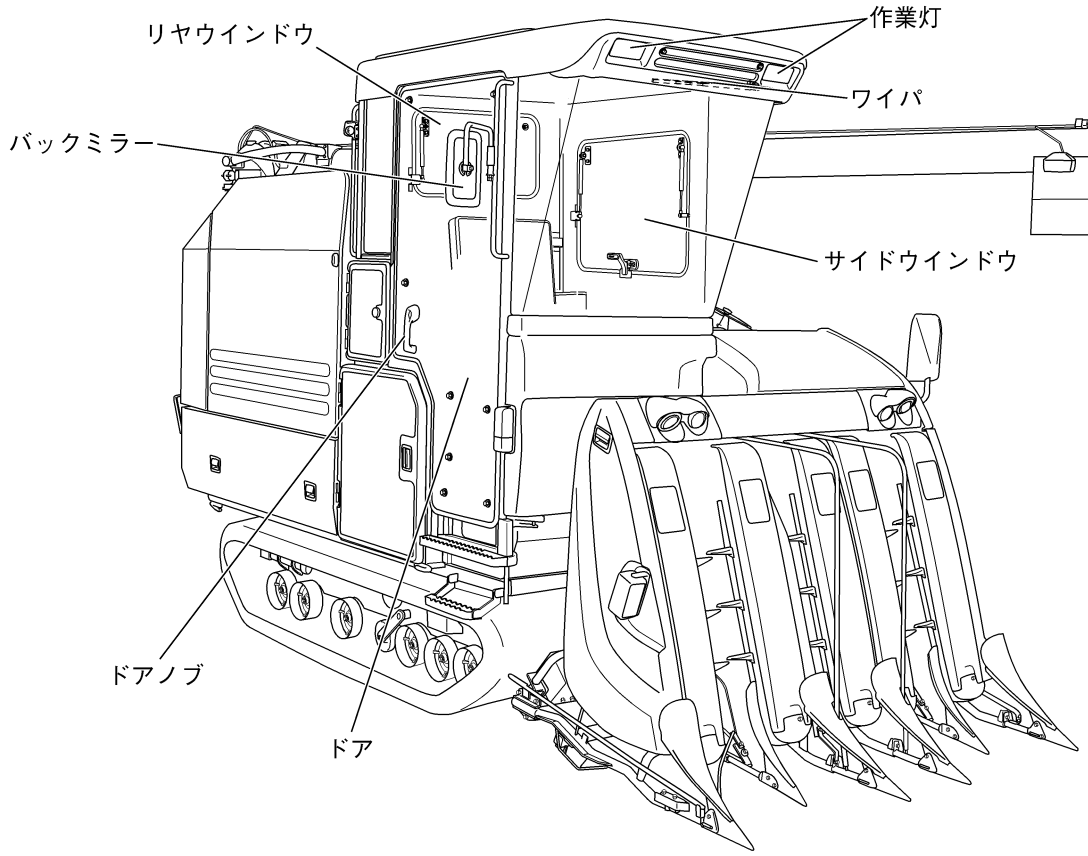
「マイコン」の10Aヒューズが溶断しているときは，マイコンによる各制御機能が停止状態となります。（31～33ページ参照）

取扱いのポイント

- **マイコンユニットは，洗車時に水やスチームがかからないようにしてください。**
- **ヒューズを交換しても再発するとき，また制御不能のときは，「お買いあげ先」に相談してください。**

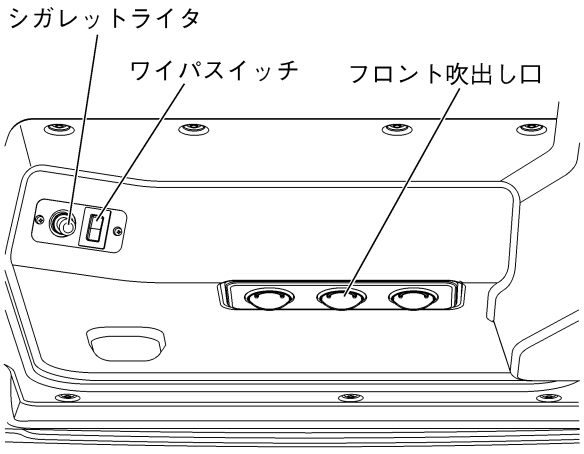
キャビンについて［キャビン仕様］

1．各部の名称

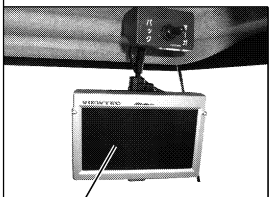


36060086

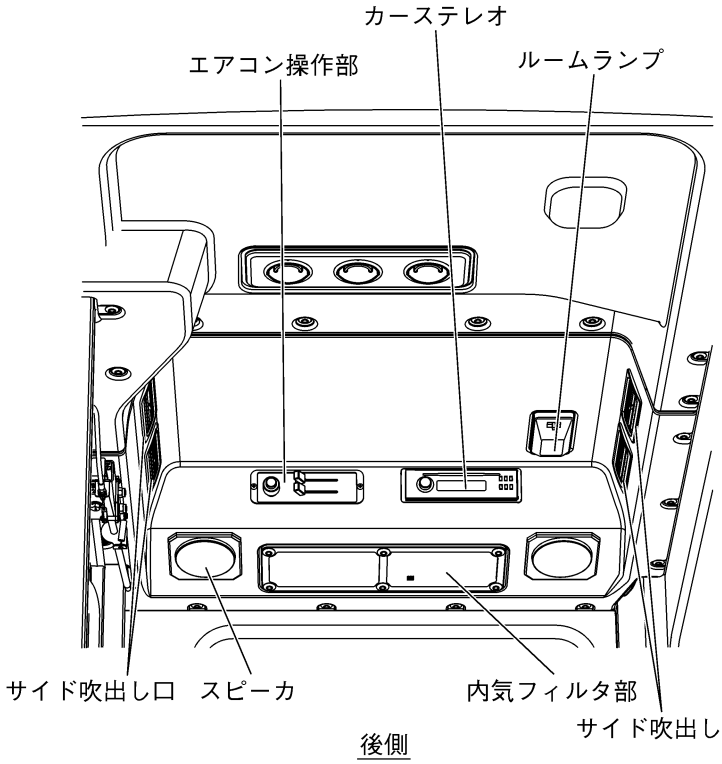
［キャビン内部］



前側



36060087

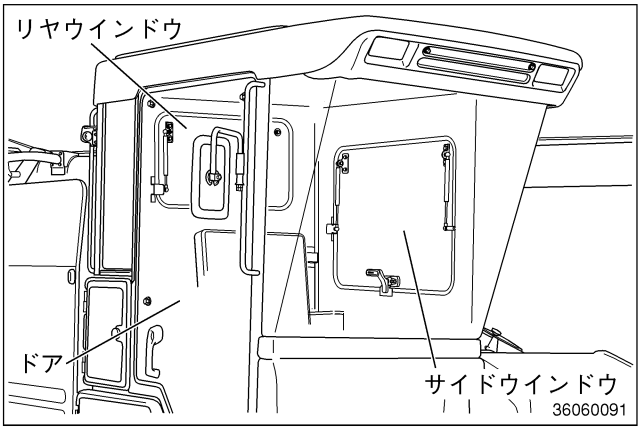


後側

36060088

2．各部の取扱い

1．ドア・ウインドウの開閉のしかた



❶ ドア

ドアはスライドドアになっております。オープン時の不意のスライドを防止するために，オープン側にもロック機構が設けてあります。以下の取扱いをお読みになってご使用ください。

⚠警告 傷害事故防止のために

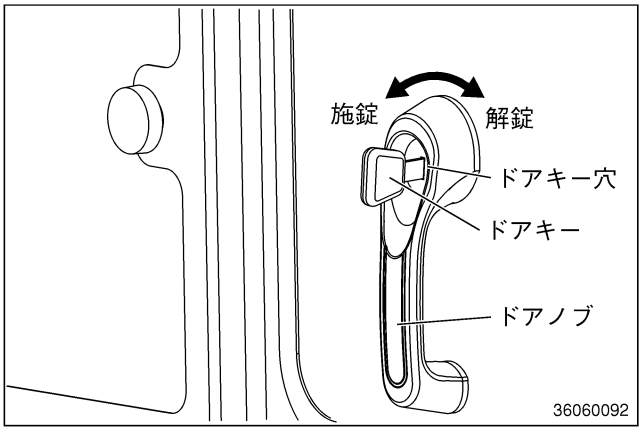
◆半ドアの状態で運転すると，急にドアが開いて事故になることがあります。
走行前にドアが完全に閉じていることを確認してください。

⚠注意

◆ドアを開いたままで路上走行や作業をしないでください。怠ると，ドアの破損などを引き起こすおそれがあります。
◆ドアの開閉時は，周囲に人を近づけないでください。手を挟んだり，ドアにあたってケガをするおそれがあります。

(1) ドアの施錠・解錠

ドアキーを差込み，左方向に回すと施錠・右方向に回すと解錠になります。



(2) 車外から開閉のしかた

ドアハンドルのボタンを押すと，ロックが外れます。

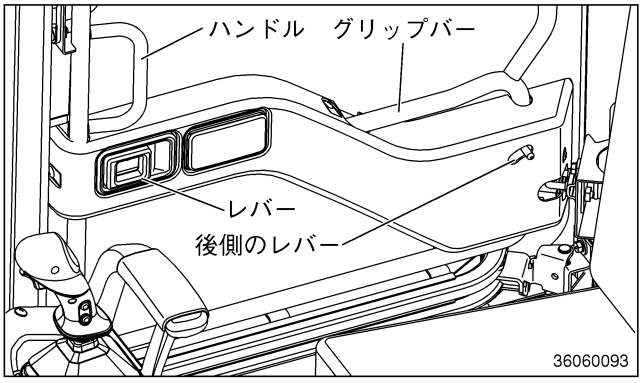
ハンドルを握ったままドアが開くまたは閉まる方向へスライドさせてください。

・開けるときはドアを機体後側へいっぱいスライドさせてください。自動的にオープンロックがかかります。
・閉めるときは機体前側へスライドさせ，ハンドルを握ったまま押込んでください。

(3) 車内から開閉のしかた

内側のドアレバーを引くとロックが外れます。ハンドルを握ってドアが開くまたは閉まる方向へスライドさせてください。ドア後側のレバーでもロックを外すことができます。

・開けるときはハンドルを握ってドアを機体後側へいっぱいスライドさせてください。自動的にオープンロックがかかります。
・閉めるときはハンドルを握って機体前側にスライドさせてください。閉まりが悪いときは，グリップバーを握って機体内側へしっかり引いてください。



取扱いのポイント

- スライド途中のドアはローラがレールに乗っているだけの不安定な状態にあります。スライドドアはいっぱいに開けるかいっぱいに閉めるかの状態で使用してください。
- グレンタンクの開閉はスライドドアを閉めた状態で行ってください。ガラスが破損するおそれがあります。
- スライドドアの開閉は，グレンタンクが閉まった状態か，または，いっぱいに開いた状態で行ってください。

❷ サイドウインドウ，リヤウインドウ

ウインドウは跳ね上げ式です。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆サイドウインドウを開閉するときは，刈取部が下がっていることを確認してください。怠るとウインドウの破損，傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ウインドウを閉めるときは，手などをはさまないよう注意してください。怠ると傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆レバーをロック位置のままウインドウを閉めると，レバー等の破損のおそれがあります。

◆サイドウインドウを開いたままで路上走行や作業をしないでください。怠るとサイドウインドウの破損などを引き起こすおそれがあります。

・開けかた

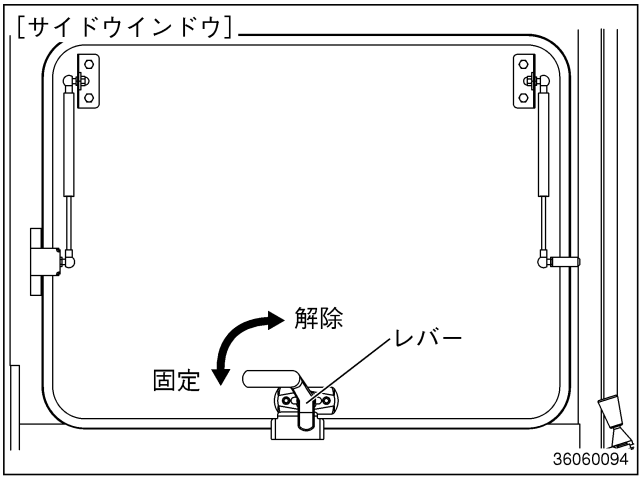
(1) レバーを右に回します。

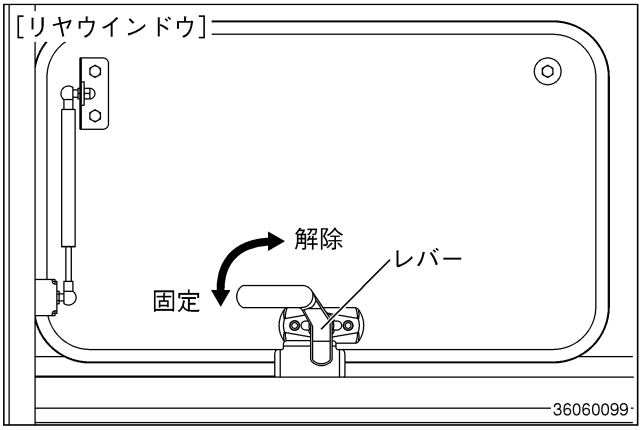
(2) レバーを握ったまま押出して，サイドウインドウ，リヤウインドウを開けます。

・閉じかた

(1) レバーを手前に引きサイドウインドウ，リヤウインドウを閉じます。

(2) レバー手前に引きながら左に回し，確実に固定します。



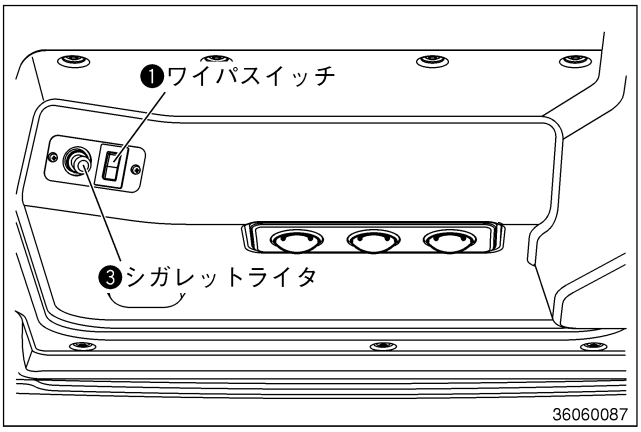


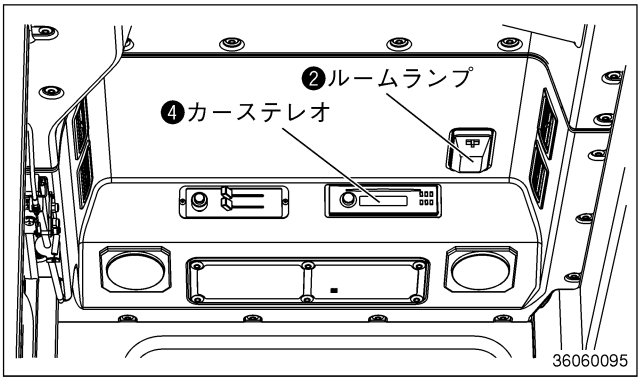
❸ バックミラー

バックミラーは上下，左右に角度調整できますので運転席に座って見やすい位置に調節してください。

狭い所へコンバインを格納する場合には，バックミラーが接触しないように前方へ倒すことができます。

2．スイッチ類の取扱い

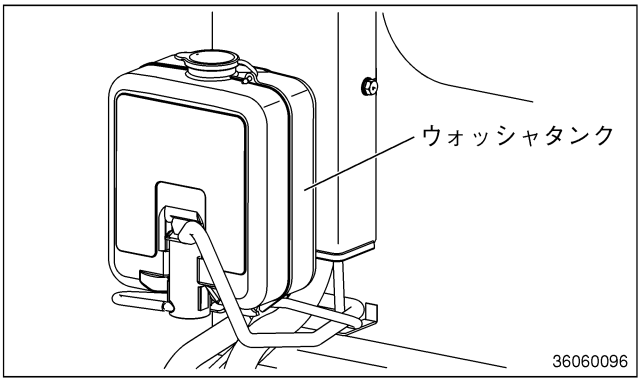




❶ ワイパスイッチ

スタータスイッチを《**入**》にして，ワイパスイッチ上側を押してワイパスイッチを「**入**」にするとワイパが作動し，さらに押すとウォッシャ液が噴出します。

ウォッシャタンクはキャビンの後側にあります。ウォッシャ液がなくなったら市販のウォッシャ液を補充してください。



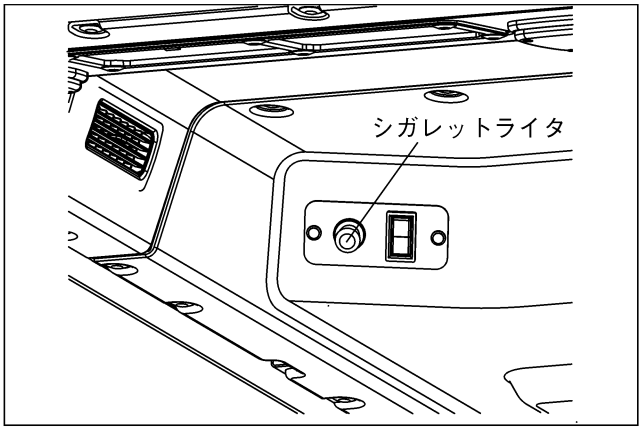
❷ ルームランプ

ルームランプのカバーがスイッチになっています。

ルームランプを《ＯＮ》側に動かすとルームランプが点灯します。

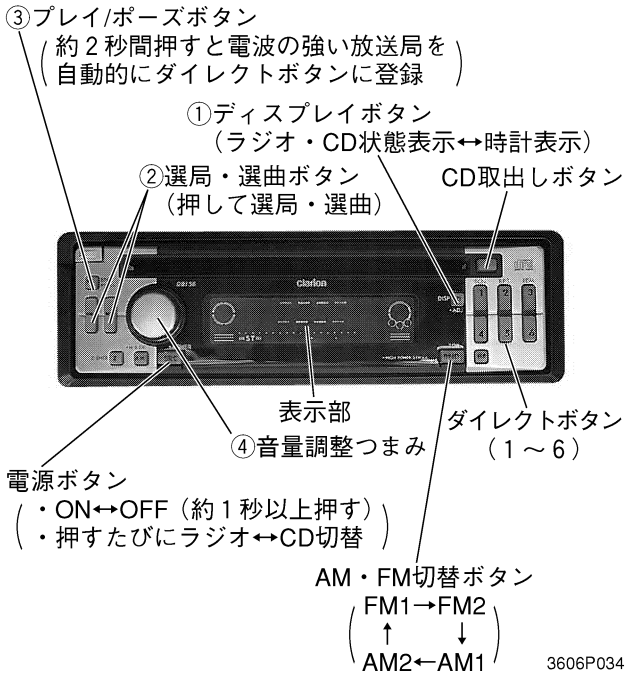
❸ シガレットライタ

エンジン《**ACC**》または《**入**》状態でノブを押込むと下側金属部が熱くなり，ノブが元の位置に戻ります。その後，引抜いて使用します。



❹ カーステレオ

別添のカーステレオ用の取扱説明書を参照してください。



・時刻合わせ
（スタータスイッチ《ACC》または《入》時）
①ボタンを約１秒間押す。
（「SCRN SVR」の表示になる）
↓
②ボタンを押して表示部が「CLOCK〈E〉」になるようにする。
↓
③ボタンを押すと設定モードになる。
（設定直前の時刻を表示）
↓
②ボタンを押して「時」または「分」を選ぶ。
（点滅部が調整できるところ）
↕
④つまみで時刻（数字）を合わせる。
↓
③ボタンを押して設定完了。
↓
①ボタンを押して（設定）時刻表示。

※バッテリを外すと時刻もリセットされます。

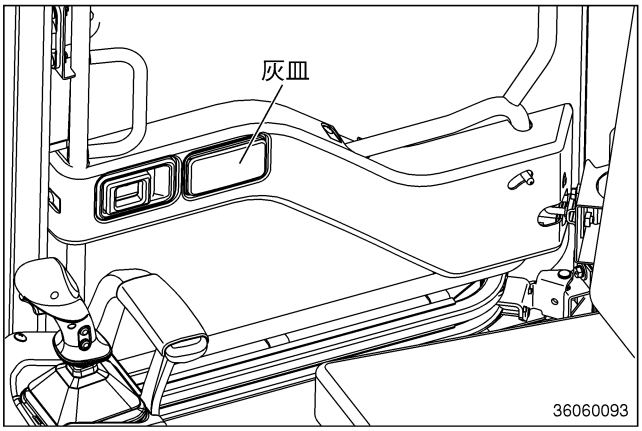
3．室内装備の取扱い

❶ 灰皿

⚠警告 傷害事故防止のために

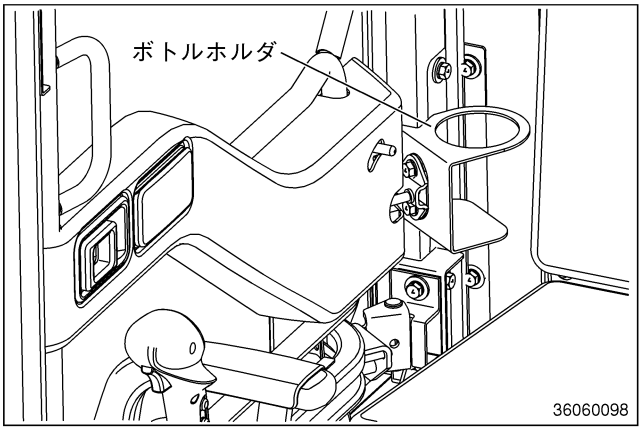
◆タバコ，マッチの火は，完全に消してから灰皿に入れてください。
使用後，開けたままにしておくと他の吸いがらに火が燃え移ることがありますので蓋を閉めておいてください。
◆灰皿には，吸いがらをためすぎたり，紙クズなどの燃えやすいものを入れないでください。火災の原因となります。

ドア内側に取付けてあります。
使用するときはフタを開けて使用します。



❷ ボトルホルダ

右側のドアフレーム後側にあります。
穴部にキャップのあるボトル等を入れて使用します。



4．エアコン

⚠警告 傷害事故防止のために

◆万一，エアコンが故障した場合はスイッチをOFFにして点検を受けてください。エアコンの回路内には高圧ガスが充填されていますので，配管部分やコンプレッサ部分をゆるめると，ガスが噴出して危険です。冷媒（ガス）の補充，その他の作業には特殊な工具と計器類が必要ですので，必ず整備の整った指定サービス工場で行ってください。

◆ウォータホースおよびヒータユニットに直接ふれないようにしてください。ヤケドなどの傷害事故につながります。

◆次のような異常を認めたとき，修理を怠るとヤケドなどの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。

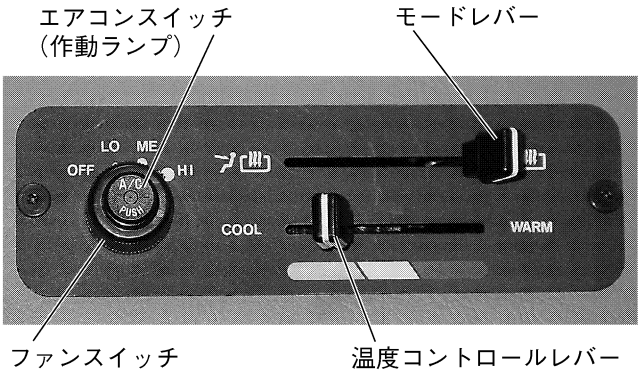
＊ウォータホースの傷付き，ひびわれ，ふくらみ。

＊ウォータホースジョイント部の水漏れ。

＊ウォータホースの保護チューブおよび縁ゴムの外れ，破損。

＊本体取付ボルトのゆるみ，ブラケットの破損。

❶ 操作部



(1) **エアコンスイッチ**

A/C このスイッチを押してエアコンを「入」・「切」します。エアコン作動時は，中央のランプが点灯します。

(2) **モードレバー**

この位置のときフロントベンチレータ・サイドベンチレータ全ての吹出口より風が吹きだします。

この位置のときフロントベンチレータの吹出口より風が吹きだします。

(3) **温度コントロールレバー**

温度を調節するためのレバーです。好みの位置にセットして適宜調節します。右に寄せると温風，左に寄せると冷風が出ます。

(4) **ファンスイッチ**

風量を調節します。

LO ME OFF HI

《OFF》:ファンが作動しません。
《LO》：微風。
《ME》:中間風。
《HI》：強風。

❷ 冷房・除湿暖房

(1) モードレバーを にします。

(2) エアコンスイッチを押し「**入**」にします。

(3) ファンスイッチ（ＬＯ・ＭＥ・ＨＩ）を作動させます。

(4) 温度コントロールレバーをＣＯＯＬまたは中間位置に調整し，快適な温度にします。

❸ 暖房

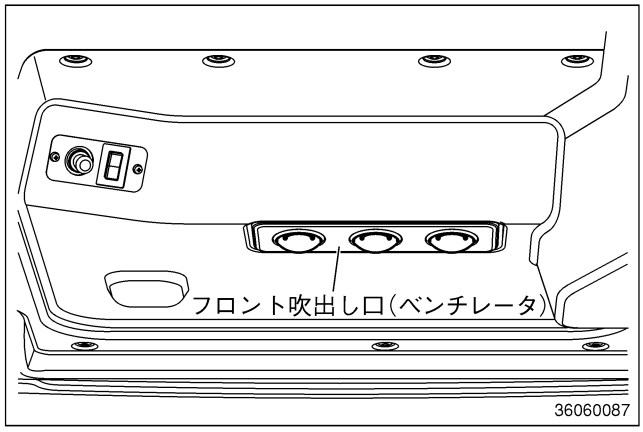
(1) モードレバーを 又は にします。

(2) ファンスイッチ（ＬＯ・ＭＥ・ＨＩ）と温度コントロールレバーを調整し，快適な温度にします。

取扱いのポイント

- ウインドウガラスが曇ると視界を妨げますので，やわらかい布で水気を拭き取ってください。
- 湿度が高く窓ガラスが曇りやすいときは，温度コントロールレバーを中間位置にし，エアコンスイッチを押して「入」位置にして，除湿を行なってください。
- エアコンは，温度を下げるばかりでなく，湿度も同時に下げることができます。冷やしすぎると健康上良くありませんので少し涼しいと感じる温度（外気温度との差５～６℃）に調節してください。冷風は身体の１個所に集中して当てるのはさけてください。また，冷風を直接身体に当てて長時間使用しないでください。
- 長時間作業されるとき，またはタバコを吸われているときは，ときどき，室内の換気をしてください。
- 冷房し始めたとき，一時的に吹出し口から霧が吹出したように見えることがあります。これは湿った空気が急に冷やされて発生したもので異常ではありません。
- 連続10分以上本機を前傾して冷房を使用すると，冷気吹出し口より水滴が飛散することがあります。このような運転はさけてください。
- ゴミの多い条件で使用するときは，風量調節レバーで風量を強くしてください。
- 夏期ヒータを使用しないときは，温度コントロールレバーをCOOL（左端）に寄せてください。
- エンジンの冷却水の水温が低いときに高温側にしても温風は出ません。
- 外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。
  また，有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。
- エアコンスイッチ，送風量調節スイッチは，「切」の位置にしてから格納します。
- エアコンは，シーズンオフでも１ケ月に１回，10～15分間運転してください。
  エンジンは低回転にした状態で温度調整レバーは「冷」の位置，送風量調節スイッチは「弱」の位置で，エアコンスイッチを「入」にします。
  運転することにより冷媒ガスの漏れを防ぎ，エアコンを常時最良の状態に保つことができます。

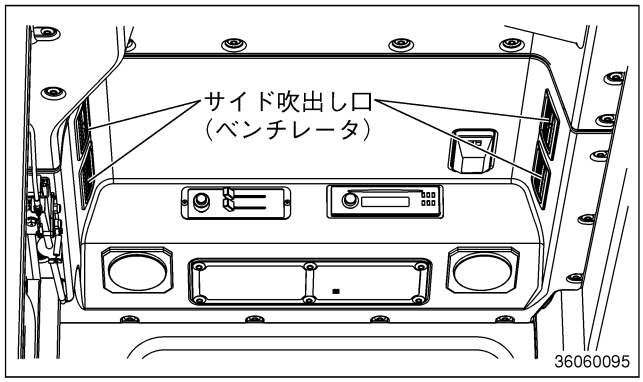
❹ フロント吹出し口（ベンチレータ）



(1) 風の方向は，吹出し口により自由に調整できます。

(2) サイド吹出し口（ベンチレータ）からの風量を増したいときは，［閉］にしてください。

❺ サイドベンチレータ



(1) 調整つまみで任意の方向に向けてください。

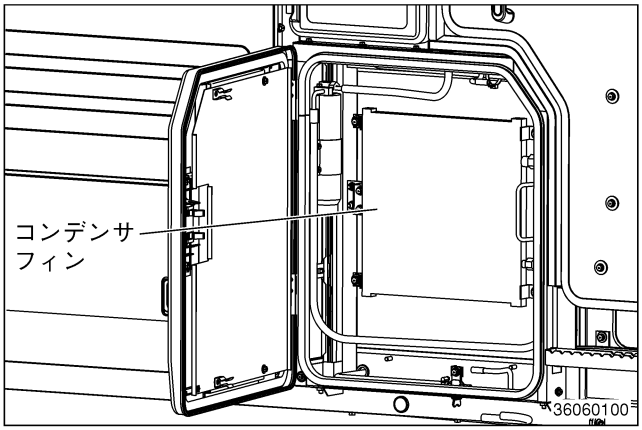
❻ コンデンサフィンの掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

◆スチーム洗浄はしないでください。冷媒の圧力が上昇して破裂のおそれがあります。

(1) エンジンカバーを開きます。

(2) コンデンサフィンの表面にほこりやごみ，異物が付着して汚れているとクーラの冷えが悪くなります。（掃除については108～109ページを参照します。）



5．モニタの取扱い

⚠警告　傷害事故防止のために

◆後進するときは，モニタ（液晶パネル画像）確認以外にも，必ずバックミラーや目視で後方確認作業を行ってください。CCDカメラの死角になっている人や障害物に接触して重大な災害が発生するおそれがあります。

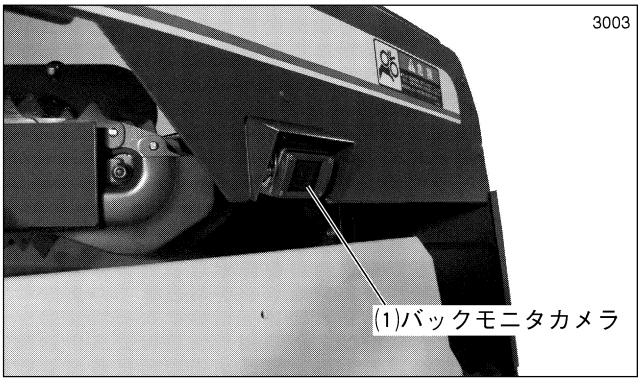
◆CCDカメラからモニタに写し出される広角の画像に慣れるまでは，ゆっくりと慎重に運転してください。速度を上げて後進すると判断を誤まり，人や障害物に接触して重大な災害が発生するおそれがあります。

◆機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。

⚠注意

◆他の目的で使用したり，他の機械などで使用しないでください。感電やケガをするおそれがあります。

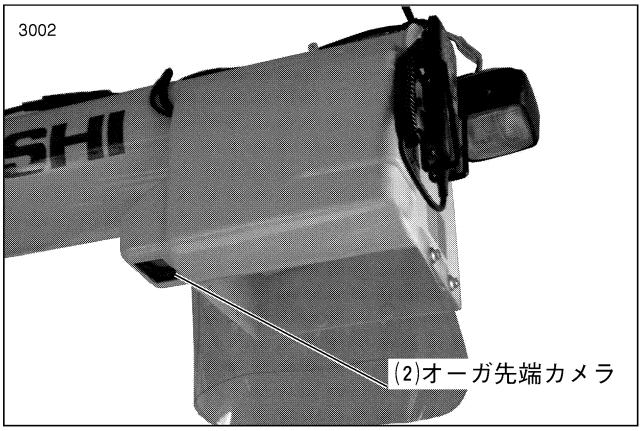
❶　カメラの取付位置



(1)　**バックモニタカメラ**

機体後方に装着したＣＣＤカメラで，作業中でも運転席から機体後方を確認できます。座ったままで確認ができ，旋回時や格納時に便利です。

暗い納屋でもカラーで明るく映ります。



(2)　**オーガ先端カメラ**

オーガ先端に装着したＣＣＤカメラで刈取り作業中は左前方が確認できます。

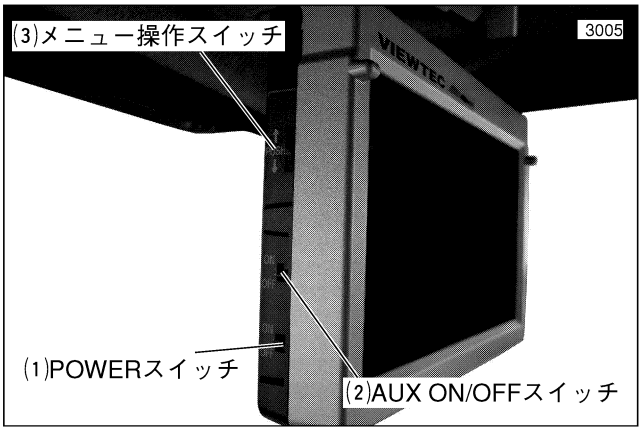
排出時は，コンテナの位置や排出状況を確認しながら作業ができ，一人作業のときも大切なモミを確実にコンテナに収納できます。

❷　モニタの使用方法

モニタは機体後進時，機体後方周辺の安全確認を行うための補助装置です。

下記作業などを行う場合の確認作業に活用してください。

・移動走行時，収穫作業時，納屋格納時などの後方確認作業。
・ほ場の出入り，枕地での切返し，あぜ際などでの機体位置の確認作業。
・排ワラ処理の切替え確認や排ワラ処理状態の確認作業。



(1)　**POWERスイッチ**

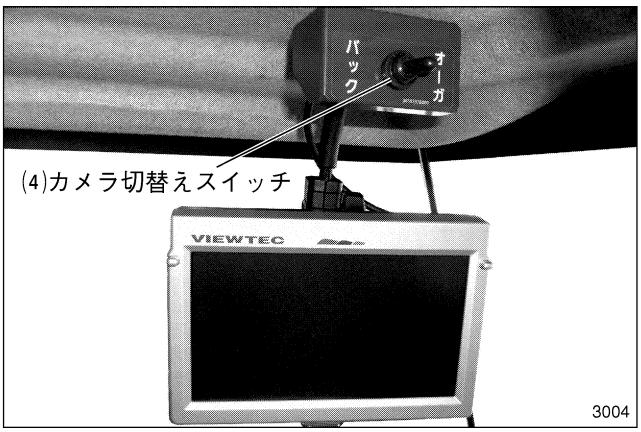
「ON」にすると電源が入り画面が映ります。

⑵ **AUX　ON/OFFスイッチ**

このスイッチは「OFF」でご使用ください。

⑶ **メニュー操作スイッチ**

電源が入っている状態で押すと，メニュー操作画面に変わります。



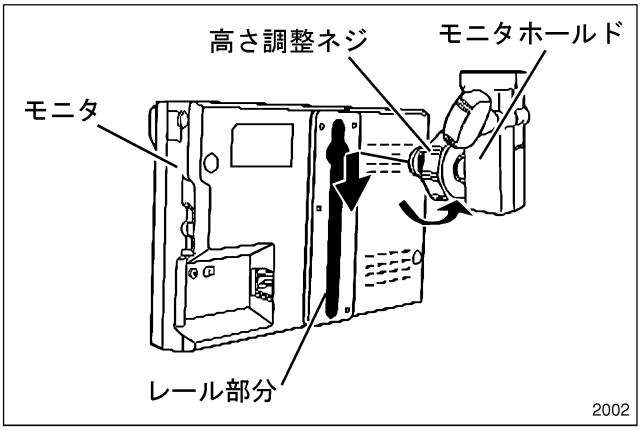
⑷ **カメラ切替えスイッチ**

バックモニタカメラとオーガ先端カメラの切替えができます。

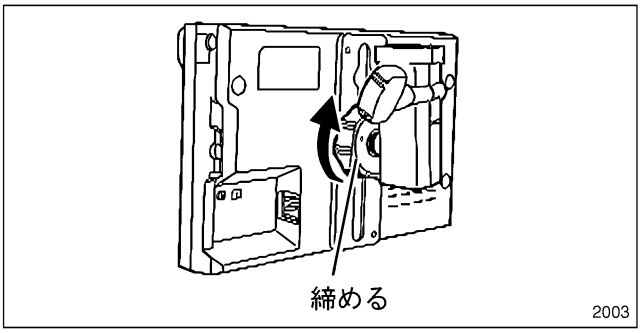
❸ モニタの取付方法

⑴ **モニタホールドをモニタに取付ける。**

1）モニタホールドの高さ調整ネジをゆるめ，モニタ背面のレール部分に，モニタホールドをスライドさせて取付けます。

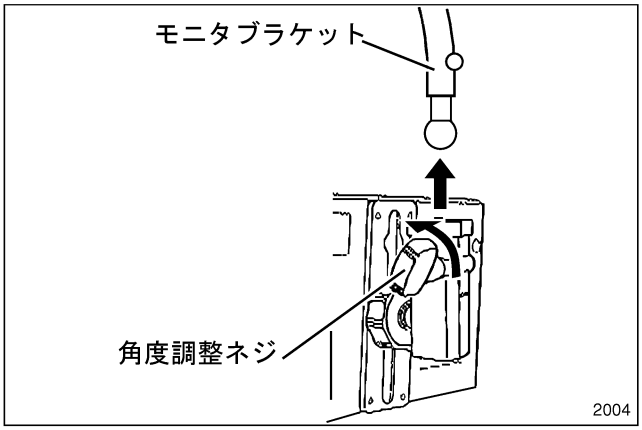


2）高さ調整ネジを締めて固定します。



⑵ **モニタホールドをモニタブラケットに取付ける。**

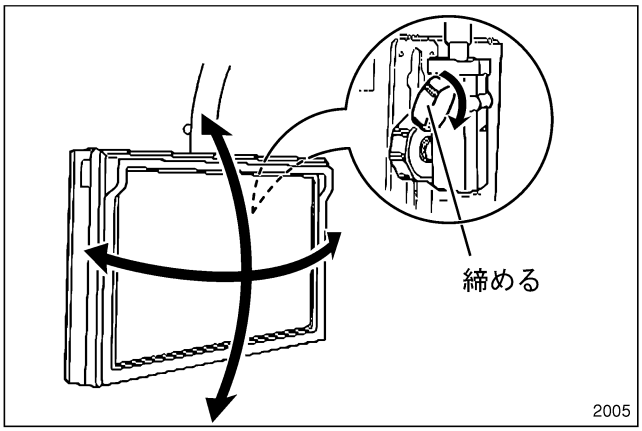
1）モニタホールドの角度調整ネジをゆるめて，モニタブラケットをはめ込みます。



2）モニタの角度を調整します。

・必要であれば，高さ調整ネジで，モニタの高さも調整してください。

3）角度調整ネジを締めて固定します。



6．格納のしかた

❶ クーラ・ワイパ・室内灯・作業灯などの電装品のスイッチは，「ＯＦＦ」または「切」位置にしてから格納します。

❷ コンプレッサ各部のオイルが切れないようにするため，１カ月に１度ぐらい低速回転で15～20分間運転します。クーラダイヤル，ファンダイヤルを低めに設定してコンプレッサを運転します。

手入れのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検・整備・掃除するときは平坦な場所に機械を置いて，駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をしてください。
◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

- 機械または部品等を破棄するときは，「お買いあげ先」にご相談ください。
- 使用済み廃棄物の処分について

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
◆機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
◆地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
◆廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，または焼却するときは，「お買い上げ先」，または産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

1．定期点検整備

・正常な機能を発揮し，いつでも安全な状態であるように「**定期点検整備表**」に従って，定期的に点検し，必要により掃除・調整・整備を行います。

◆使用者が行なってはいけない修理

下記部位に異常があるときは，「お買いあげ先」に必ず連絡して修理を依頼してください。

- 結束部の結節部完備（ノッタ部）[ディーラーオプション]
- エンジン本体
- トランスミッション
- ギヤ（ベベルギヤを含む）を内蔵したケース類
- 油圧系統（HST含む）
- 電気部品と電気系統
- 刈取部の動力伝達系統

取扱いのポイント

- 分解・調整・交換などを自ら行なうと機械のトラブルの原因となります。また，メーカ保証の対象外となりますのでご注意ください。

「定期点検整備表」（点検・補給・掃除・調整・グリスアップ○，交換●）

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間） シーズン前	始業前	25	50	100	150	250	350 (300)	450 (400)	500 (550)	600 (650)	700 (750)	800 (850)	900 (950)	1000 (1050)	格納時	備考	参照ページ
エンジン部	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	○		●		●	●	●	●	●(550)	●(650)	●(750)	●(850)	●(950)	●(1050)			96〜97
	エンジンオイルフィルタ	交換				●		●		●		●(550)		●(750)		●(950)				☆97
	ラジエータ（冷却水）	点検・補給・交換		○														●		☆98〜99
	エアクリーナエレメント	点検・掃除・交換	○	○					●			●		●(750)		●(950)				109
	燃料フィルタ	点検・交換	○										●		●		●			☆110
	燃料フィルタポット部	点検・掃除（水抜き）	○	○																110
	ファンベルト（オルタネータ）	点検・調整・交換	○			○				●				●			●(1050)			☆162
	ファンベルト（ラジエータ）	点検・調整・交換	○			○				●				●			●(1050)			☆162
	ファンベルトクラッチ部ワイヤ	点検・調整・交換	○			○				●				●			●(1050)			☆162
	コンプレッサベルト（キャビン仕様）	点検・調整・交換	○			○				●				●			●(1050)			☆155
	燃料ホース	点検・交換	○	●（2年ごと）															燃料漏れ点検	☆147
	クーラコンデンサ（キャビン仕様）	点検・掃除	○	○														○		108〜109
	ウインドウォッシャ液（キャビン仕様）	点検・調整・抜取り	○	○																105

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）															格納時	備考	参照ページ
			シーズン前	始業前	25	50	100	150	250	350	450 (400)	500 (550)	600 (650)	700 (750)	800 (850)	900 (950)	1000 (1050)			
電装関係	バッテリ液	点検	○																インジケータの色確認	114〜116
	電気配線（配線・接続部のゆるみ，損傷）	点検・修理	○	○															損傷の場合交換	☆114
	計器，スイッチ類	点検・修理	○	○																☆7〜17
	エアフローセンサ	点検・掃除	○					○		○ (300)	○		○	○ (750)		○				112〜113
走行・運転操作部	油圧作動油（オイルタンク）	点検・補給・交換	○								●					●				☆100〜101
	油圧ホース	点検・交換	○				●									●			油もれ点検	☆147
	油圧オイルフィルタ	交換									●					●				☆100〜101
	ＨＳＴオイルフィルタ	交換					●				●					●				☆100〜101
	ソレノイドバルブのフィルタ	点検・掃除					●	○		○		○ (550)		○ (750)						☆112
	ブレーキシュー	点検・交換	●（400時間または２年ごとで早い方）																	☆ー
	駐車ブレーキ	点検・調整	○																	☆152
	トランスミッションケースオイル	点検・補給・交換	○							●				●			●			☆99
	走行ベルト	点検・調整・交換	○	○		○	●			●				●			● (1050)			☆155
	走行クラッチペダル	点検・調整	○	○		○		○	○	○	○	○ (550)	○ (650)	○ (750)	○ (850)	○ (950)	○ (1050)			☆152
	クローラ	点検・調整	○	○																☆170
	水平制御リフトアーム軸受部	グリスアップ	○																	☆104
	ローラ・アイドラ・転輪	点検	○	○																☆ー
	エアコンガス	点検	○																	☆ー
	走行ＨＳＴトラニオン軸部	グリスアップ	○																	☆105
刈取部	引起こしチェン，爪	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			● (1050)			☆147,189〜190
	かき込みベルト	点検・調整・交換	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	●	○	○	● (1050)			☆156
	株元搬送チェン（右）	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			● (1050)			☆163，164
	株元搬送チェン（中）［５条型］	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			● (1050)			☆163
	株元搬送チェン（左）	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			● (1050)			☆163，164
	こぎ深さ搬送チェン	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			● (1050)			☆167
	かき込み搬送チェン(左)，爪	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			● (1050)			☆165
	かき込み搬送チェン(中),爪[5条型]	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			● (1050)			☆165
	穂先搬送チェン，爪	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			● (1050)			☆165
	刈刃	点検・調整・交換	○	○	○				●			●		● (750)			●	○		☆150〜151
	集中注油タンク	点検・補給	○	○																104
	刈取ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆153
脱こく部	脱こくギヤケースオイル	点検・補給	○																	☆102
	こぎ胴ギヤケースオイル	点検・補給	○																	☆102
	搬送HSTギヤケースオイル	点検・補給	○																	☆103
	吸引ファンギヤケースオイル	点検・補給	○																	☆103
	搬送HSTオイルフィルタ	点検・交換	○				●				●			●						☆100〜101
	搬送HST駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆188
	脱こく入力ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆157
	こぎ胴伝動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆157
	こぎ胴ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆158
	脱こくフィードチェン	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆167
	１番ラセン駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆159
	選別ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆158
	排ワラ駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆159
	排ワラチェン	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆168
	穂先排ワラチェン，爪	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆168
	揚こくラセンタッチ部	点検・掃除	○															○		124
	こぎ歯	点検・増締め・交換	○		○															☆149
	ワラ切カマ	点検・交換	○						●			●		● (750)						☆148〜149
	脱こく受網	点検・掃除・交換	○									●					●	○		☆122〜124
	脱こく底板・こぎ室揺動選別部	点検・掃除	○														●	○		124〜125
	２番ラセンタッチ部	点検・掃除	○															○		124
グレンタンク部	オーガ回動支点部	点検・補給	○															○		☆105
	グレン入力ギヤケース	点検・補給	○																	☆104
	グレンタンク	点検・掃除	○														● (1050)	○		132〜133
	横ラセン駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆161
	グレン入力ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●						☆160
	縦ラセン筒上・下	点検・掃除	○															○		132〜133
カッタ部	カッタ排ワラ切替レバー	点検・調整	○		○															☆154
	カッタ刃	点検・交換	○										●			●	● (1050)			☆139〜146
	拡散装置駆動チェン	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆169
	カッタベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●						☆160

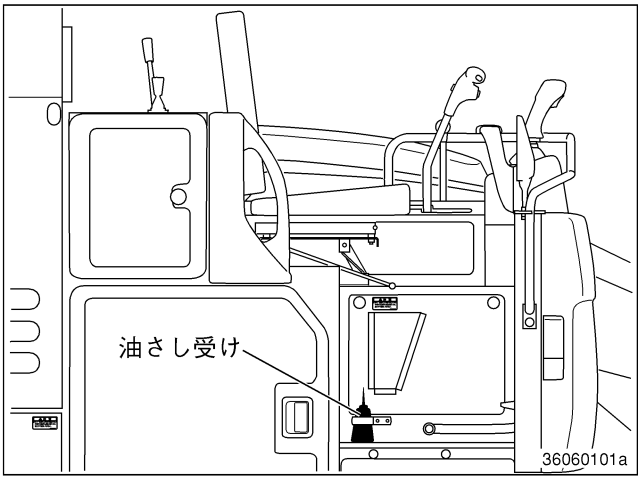
参照ページに☆印のある整備項目（交換・修理・調整）については「**お買いあげ先**」で行なってください。

2．給油・注油・給水のしかた

・オイルの点検・交換は，「**運転まえの点検表**」（34～35ページ）および「**定期点検整備表**」（92～93ページ）に従って行います。
・オイルの点検・交換は，機械を平坦な場所に駐車して行います。

取扱いのポイント

- **各給油個所には，指定オイルを規定量給油してください。**
- **廃油など汚れたオイルを注油すると，故障の原因となりますので使用しないでください。**
- **次表の容量は工場出荷時の数値です。**
  交換時は残油量がありますので，レベルゲージまたは検油栓により容量を確認してください。
  但し検油栓のない個所は全量交換してください。
- **使用オイルの詳細は「潤滑油について」を参照してください。**
- **コンバイン運転席に油さし受けがついていますので，いつでも注油できるように，オイルを入れた油差しを常備してください。**
- **交換したオイルを廃却するときは，「お買いあげ先」または産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。**



危険 火傷や火災防止のために

◆燃料補給時は，火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは，給油・注油しないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは，交換してください。燃料もれがあると，火災の原因となります。
◆こぼれた燃料は，きれいに拭取ってください。

警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときは，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行なってください。
◆回転部・摺動部から異音が発生するときは，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから注油してください。
◆エンジンカバーを開いて点検などを行なった後は，エンジンカバーを閉じてください。

「給油・注油・給水表」

No.	個所	種類	種類 API サービス分類	種類 SAE 粘度番号	容量（L）	備考
①	燃料タンク	ディーゼル軽油	－	－	60	JIS 2 号（－7.5℃まで） JIS 3 号（－20℃まで）
②	エンジンクランクケース	ディーゼルエンジンオイル	CF級（又はCF-4,CH-4級）	10W－30	8.5	
③	ラジエータ（補助タンク1.0Ｌ含む）	冷却水（不凍液40～45%含む）	－	－	キャビン無 11.3 キャビン有 12.8	北海道は，不凍液割合45～50%
④	トランスミッションケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	17.2	
⑤	油圧オイルタンク	油圧作動油	GL-4以上	10W－30	28.5	
⑥	脱こくギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	0.55	
⑦	こぎ胴ギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	0.65	
⑧	吸引ファンギヤケース	ギヤオイル	GL-4以上	10W－30	0.07	
⑨	搬送ＨＳＴギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	1.4	
⑩	グレン入力ギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	0.5	
⑪	集中注油タンク	エンジンオイル	－	－	4.3	
⑫	水平リンク	グリース	－	－	－	
⑬	ウォッシャタンク	ウォッシャ液	－	－	1.0	ウォッシャ液0.35Ｌ，水0.65Ｌ ［キャビン仕様］
⑭	エアコンガス	Ｒ－１３４ａ	－	－	900g	［キャビン仕様］

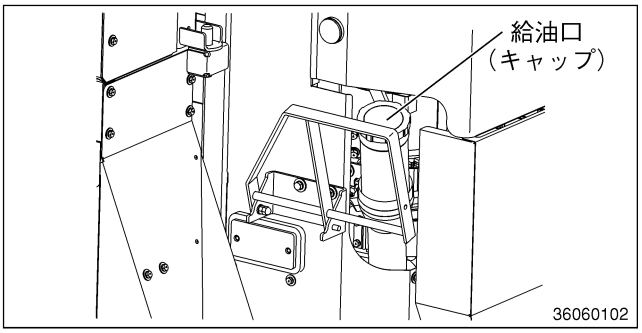
指定オイル

- ディーゼルエンジンオイル…… 純正油 ディーゼルエンジン用オイルAPI・CF級以上（又はCF−4,CH−4級）
  SAE・10W−30
- 油圧作動油…… 純正油 または，使用オイル表（195ページ）の指定オイル
- ギヤオイル…… 純正油 または，使用オイル表（195ページ）の指定オイル

取扱いのポイント

- 燃料タンク・集中注油タンク以外は，工場出荷時の容量です。
  交換時は，残油量がありますので，レベルゲージまたは検油栓により，容量を確認してください。
  但し，レベルゲージまたは検油栓のない個所は，全量交換してください。排油栓のない個所は補充してください。
- 使用オイルの詳細は，潤滑油についての項（195ページ）を参照してください。

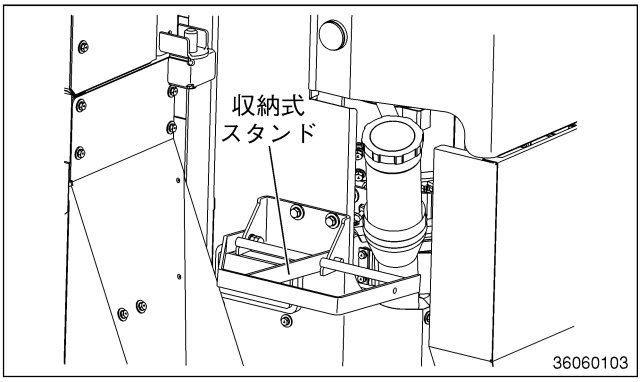
1．燃料の補給



・給油口のキャップを外して，補給します。
・燃料……ディーゼル軽油
JIS 2 号（－7.5℃まで）
JIS 3 号（－20℃まで）
・タンク容量……60 L

取扱いのポイント

- **給油口近くに備付けてある収納式スタンドを手前に引いて，その上に燃料の入った缶，ポリタンクを置いて給油します。**



- **燃料はフィルタを通して，ゴミや水が混入しないように給油してください。**
- **運転途中での燃料切れ，燃料フィルタの掃除や交換時は，燃料のエア抜きを行なってください。（111ページ参照）**
- **燃料の中に，水やゴミなどが混入しますと，エンジンに重大な故障が発生したり，燃料ポンプが作動しなくなることがあります。**
  燃料タンク給油口のフィルタを通して，給油してください。
- **燃料は，雨水などがかからない場所に保管してください。**

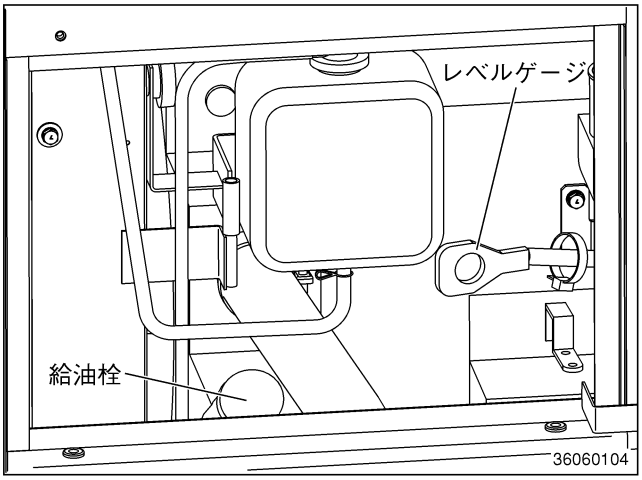
2．エンジンオイル･オイルフィルタの点検･交換

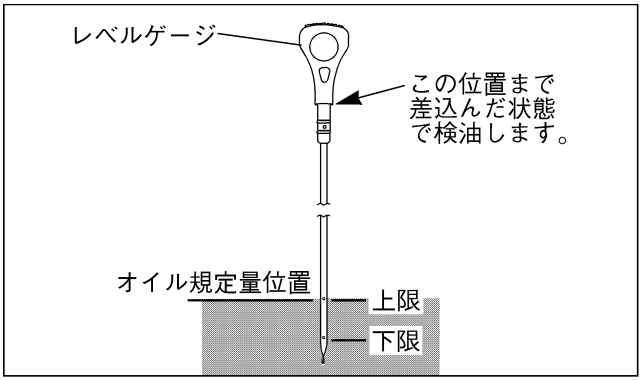
❶ エンジンオイルの点検

(1) 足元カバーのノブ（2 個）を外して，足元カバーを外します。

(2) レベルゲージを抜いて，先端をきれいに拭取ります。もう一度いっぱいに差込んでから抜出し，ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは，オイルを給油口より規定レベル位置まで入れます。さらに，油漏れのないことも確認します。

(3) 作業後に足元カバーを閉じてください。





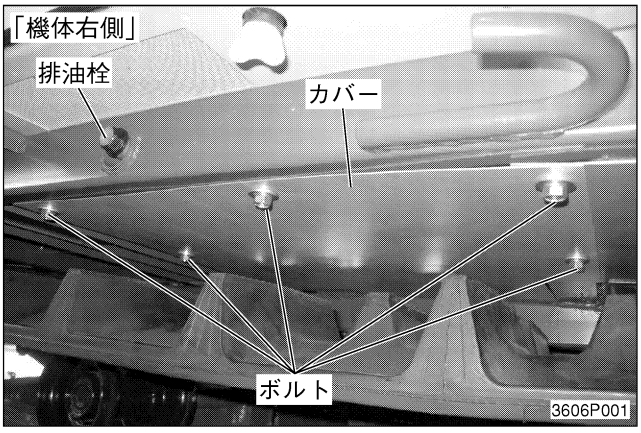
取扱いのポイント

- **オイルの量は，エンジンが冷えているときに確認してください。**
- **給油口からワラクズなどが入らないよう，事前に周囲を掃除してください。**
- **排油栓，給油栓，レベルゲージは確実にセットされていることを確認してください。**

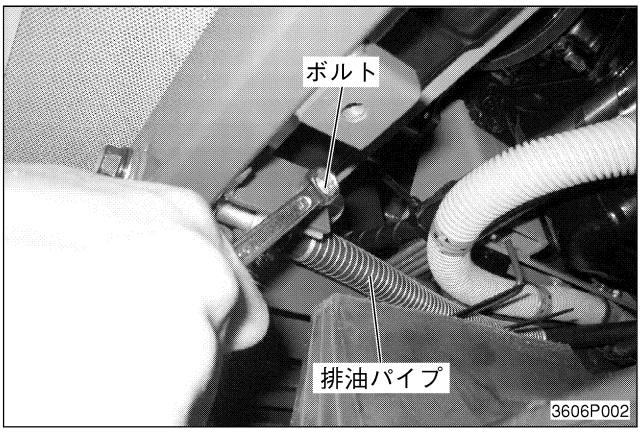
❷ エンジンオイルの交換

(1) エンジンの排油栓をゆるめます。

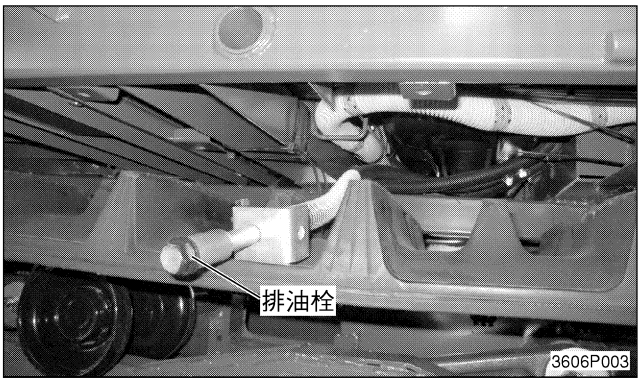
(2) カバー取付ボルトを外しカバーを取外します。



(3) 排油栓取付ボルトを外し，排油パイプを取外します。



(4) 排油栓を取外し，オイルを抜きます。



取扱いのポイント

- **オイルを抜くときは，オイルがこぼれないようになるべく開口部の大きなオイル受けを使用してください。**
- **低温時はオイルが抜けにくい場合がありますので，あらかじめエンジンを暖機運転してから行ってください。**

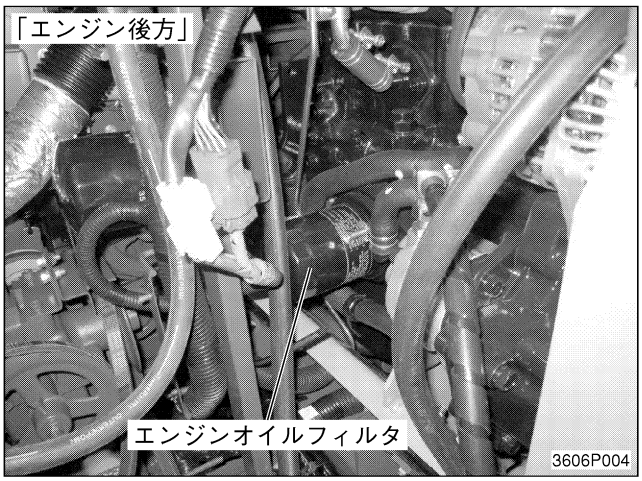
(5) オイルを抜き終わったら排油栓を締め，取外しと逆の手順で組付けます。新しい**「純正エンジンオイル」**をレベルゲージの刻み線（上限）まで給油します。

- **ディーゼルエンジン用オイル**
  API・CD級以上，SAE・10W−30
- **オイル量……8.5 L**

(6) 交換後，エンジンを始動して，オイルランプが消えるまで低回転で運転します。（8 ページ参照）

❸ エンジンオイルフィルタの交換

グレンタンクを回動し，エンジンカバー(後)を外した位置にあります。



(1) オイルフィルタは,**「カートリッジタイプ」**を使用しています。

(2) オイルフィルタを交換したときは，オイル量が多く入るので，レベルゲージでオイル量を確認し，不足のときは，規定レベル上限までオイルを補給します。

3．ラジエータ冷却水の点検・交換

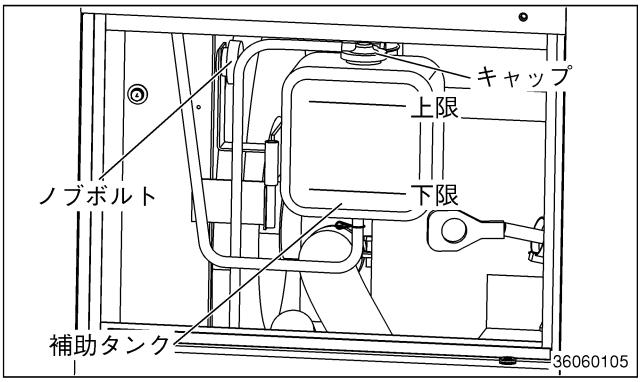
⚠警告 火傷防止のために

◆運転中およびエンジン停止直後は，ラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「火傷」をすることがあります。冷えてからゆっくり開けてください。

ラジエータの取扱いを誤ると，エンジンの寿命に大きく影響を与えます。ラジエータの点検は，カバーを開けて行います。

❶ 始業前の点検

・エンジンが冷えているとき，補助タンク内の冷却水が「**給水レベルの上限と下限の間**」にあるように補助タンクに冷却水を補給します。



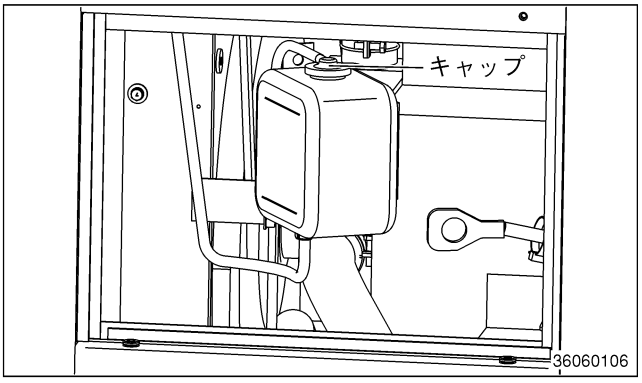
❷ 補助タンクの水を切らしたとき

(1) ラジエータキャップを外して，冷却水を口元まで注水し，キャップを閉めます。

(2) ノブボルトをゆるめて，補助タンクを手前に回動させます。

・補助タンクの「**上限**」位置まで給水します。

・**冷却水……清水（水道水）**



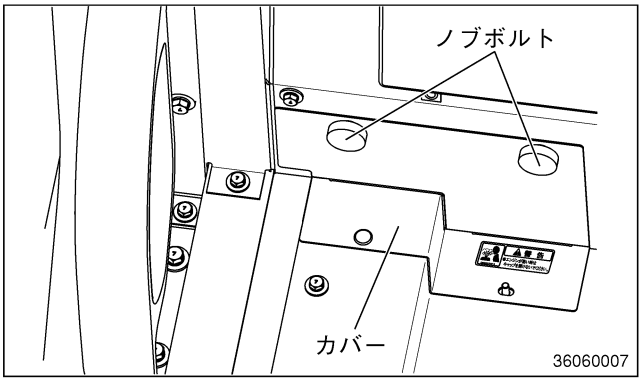
取扱いのポイント

- **シーズン前には，ラジエータ内の冷却水の量を点検してください。**
- **補助タンク内の冷却水を始業前に点検し，不足しているときは補給してください。**
- **補助タンクには「上限」以上入れないでください。運転中冷却水が溢れ出ます。**

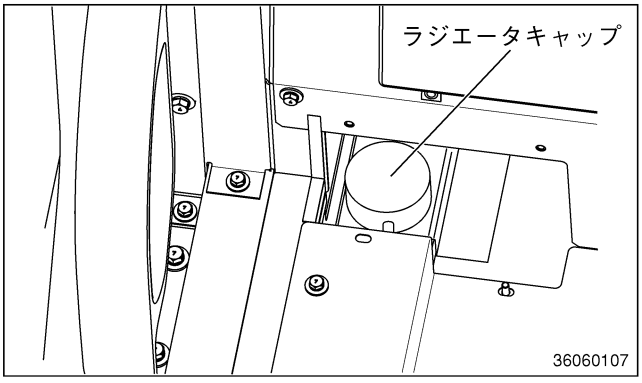
❸ ラジエータ冷却水の交換

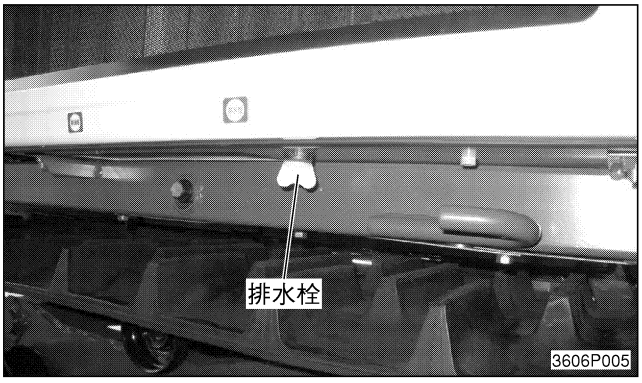
(1) 座席右側後部のノブボルト（2個）を外してカバーを取外します。

カバーの下にラジエータキャップがあります。



(2) ラジエータキャップを外し，次にラジエータ下部の排水栓から排水します。





(3) ラジエータ内の水が，きれいになるまで水の入替えを繰返し，内部を洗浄します。

・市販の洗浄剤を使用すると効果的です。

(4) 排水が終わったら排水栓を閉めます。

(5) **不凍液の選定**

工場出荷のときは，不凍液「**ロングライフクーラント**」(PT) が注入され「**外気温度－25℃**」の凍結を防止する濃度になっていますが，１年以上経過すると効力が低下しますので，冷却水を抜き「**不凍液濃度基準**」を参考に入替えます。

「**不凍液濃度基準**」

外気温度 ℃	－5	－10	－15	－20	－25	－30
不凍液濃度 %	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50

取扱いのポイント

- **冷却水を交換したときは，エンジンを始動し冷却水を循環させて，再度水量をチェックしてください。**
- **不凍液を入替え直後に長期保管されるときは，冷却水の循環が確認できるまでエンジンを「低速で空運転」してください。**

(6) ラジエータ給水口の口元一杯まで冷却水を給水したのち，ラジエータキャップを閉めます。

(7) 補助タンクの給水レベルの上限位置まで給水します。

・エンジン冷却水系統内部の腐食を防止するため，冷却水に市販の防錆剤を添加して使用されるようおすすめします。

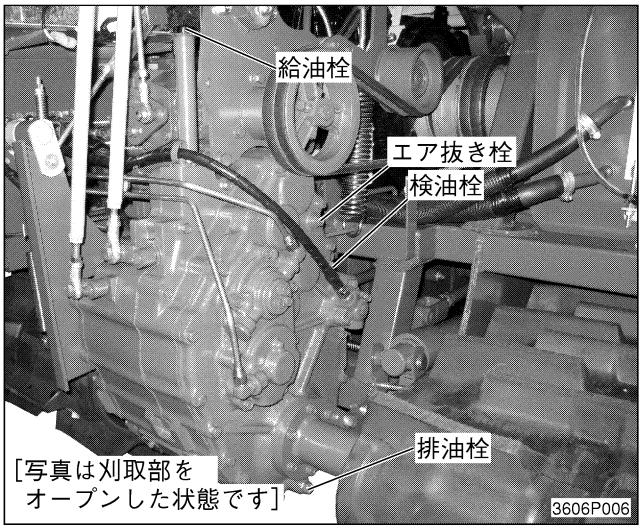
・冷却水量（補助タンク1.0L含む）

キャビン無…11.3 L

キャビン有…12.8 L

(8) 交換作業が終わったらカバーを取付けます。

4. トランスミッションケースのオイル点検・交換



❶ 点検

・刈取部をオープンします。(133～138ページ参照)・ミッションケース横の検油栓を外して，オイルが出てくれば適正量です。

・不足しているときは，給油口より補給します。

❷ 交換

・ミッションケース下部の排油栓を外し，抜取ります。

・給油するときは，検油栓まで給油します。

・ギヤオイル…API・GL－5以上，SAE・90

・オイル量…17.2 L

取扱いのポイント

- **点検，交換後に排油栓，給油栓，検油栓が確実に取付けてあるか確認してください。**

5．油圧作動油の点検・交換および油圧オイルフィルタ・HST(走行,搬送)オイルフィルタの交換

⚠警告 傷害事故防止のために

◆油圧作動油を抜くときは,刈取部・機体［L仕様］を下げ，排出オーガを収納状態にして行います。下げ（収納）状態にしないと機体が傾いたり，刈取部が下がったりして人身事故の原因になることがあります。

この機械は,多くの油圧装置を採用しており,油圧作動油の保守管理を誤ると不調の原因となります。

・油圧作動油を交換する際に,油圧オイルフィルタとHSTオイルフィルタの交換を同時に行います。

❶ 油圧作動油量の点検

・脱こく供給口の下方の油圧オイルタンクの検油栓を外して，オイルが出てくれば適正量です。

・不足しているときは，給油口より補給します。

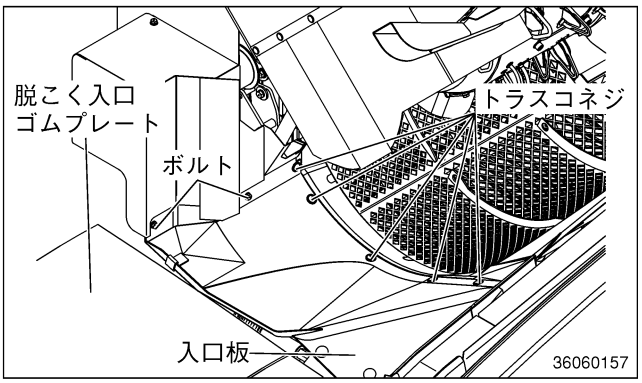
❷ 油圧作動油の交換

・油圧作動油の交換と同時に，油圧オイルフィルタ，HSTオイルフィルタの交換を行います。

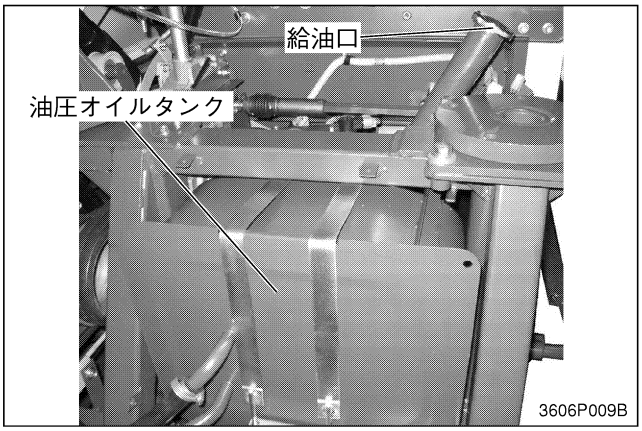
・油圧作動油… 純正油 または，使用オイル表（195ページ）の指定オイル

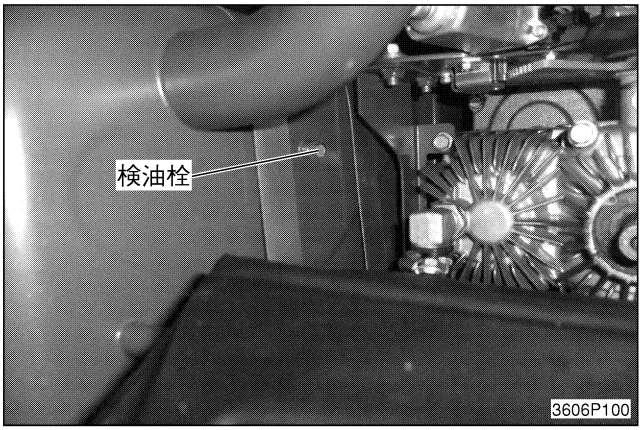
・オイル量……28.5 L
（10分程度運転後のオイル補充分を含む）

(1) コンポアップをし，刈取部の脱こく入口ゴムプレートを穂先ガイドで固定（はさんだ状態）にし，入口板を外します。



(2) 検油栓を外して給油口より給油し，検油口よりオイルが出てくれば検油栓，給油口のキャップを締めます。





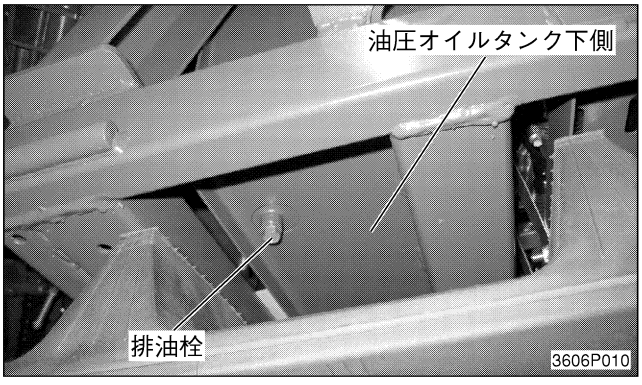
(3) 作業を終了しましたら，カバー類を元の位置に取付けます。

❸ 油圧作動油の抜取り要領

(1) エンジンを始動し，刈取部・機体を下げ，排出オーガを収納状態にしてエンジンを停止します。

(2) 給油口のキャップを外し，オイルタンク下側の排油栓を外して，油圧作動油を抜きます。

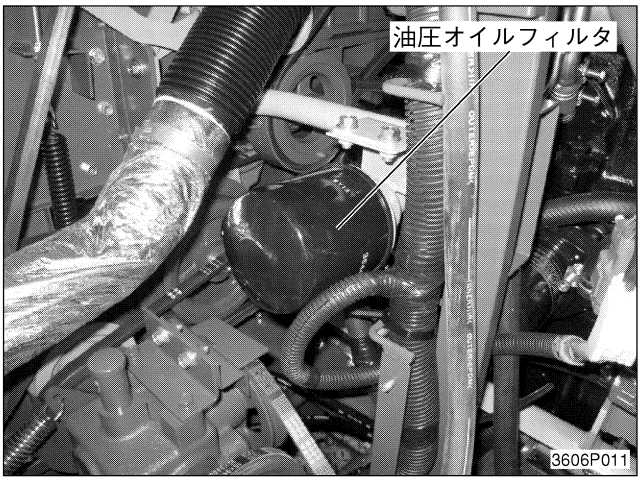
(3) オイルを抜き終わったら，排油栓を締めます。



❹ 油圧オイルフィルタの取外し要領

(1) 油圧作動油のオイルフィルタは,「**カートリッジタイプ**」を使用していますので，購入のうえ交換します。

(2) 油圧オイルフィルタは，グレンタンクを回動（オープン）しエンジンと脱こくの間にあります。

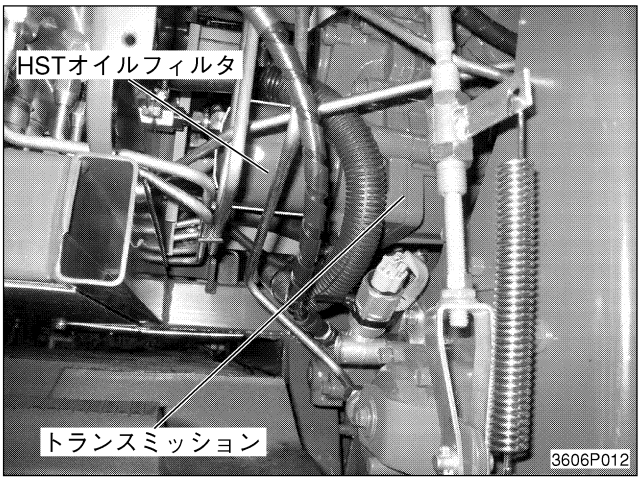


(3) 作業後グレンタンクを閉じ，グレンタンク下部カバーを取付けます。

❺ HSTオイルフィルタの取外し要領（走行用）

(1) HSTオイルフィルタは,「**カートリッジタイプ**」を使用していますので，購入のうえ交換します。

(2) HSTオイルフィルタは，トランスミッションの右側に装備してあります。



❻ 油圧オイルフィルタ，HSTオイルフィルタの取付け要領

(1) フィルタ取付面をきれいに掃除をして，フィルタのパッキン面にオイルを薄くぬり，滑りを良くして取付けます。

(2) 締付けは手で行い,取付面にパッキンが当たってから2/3～3/4回転締付けます。

取扱いのポイント

- **フィルタ取付面からオイルの漏れ，にじみがないか点検してください。**
- **給油口とフィルタ周りの周辺をあらかじめ掃除をして,ゴミなどが入らないようにしてください。**

❼ 油圧作動油の給油要領

(1) オイルタンクの給油口より，タンク中央の検油栓からオイルが出るまで給油します。

(2) エンジンを始動し，アイドリング回転で10分間程度運転します。

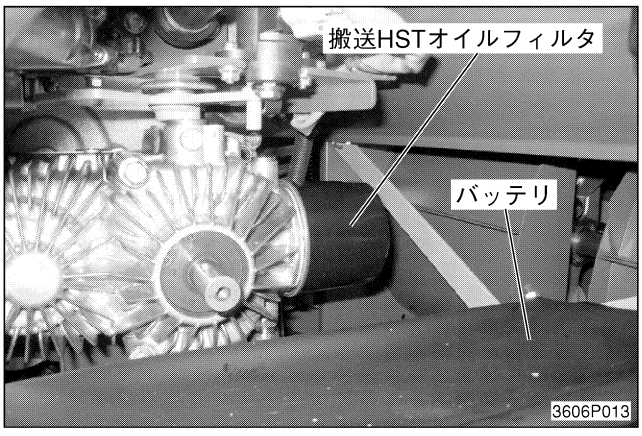
エンジンを停止して，オイル量を点検し，検油栓から出るまで補給します。

さらに，油漏れのないことも調べます。

❽ 搬送HSTオイルフィルタの取外し要領

(1) 搬送HSTオイルフィルタは,「**カートリッジタイプ**」を使用していますので，購入のうえ交換します。

(2) 搬送HSTオイルフィルタは，バッテリの奥に装備してあります。



6. 脱こくギヤケースのオイル点検・交換

❶ 点検

(1) グレンタンクを回動します。(119～120ページ参照)

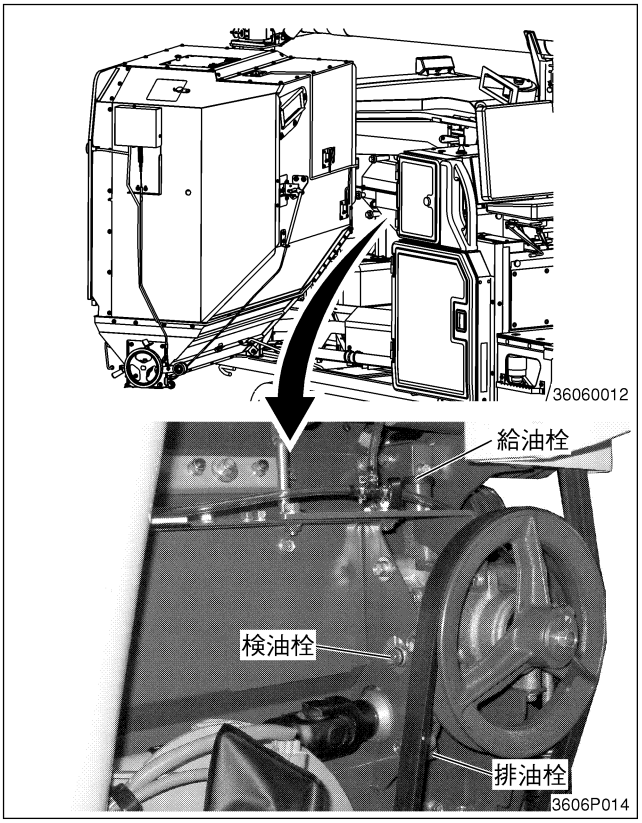
(2) 脱こくギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

(3) 不足しているときは給油栓を外し給油口より補給します。

❷ 交換

(1) 排油栓を外してオイルを抜き，排油栓を締めます。

(2) 給油栓と検油栓を外し，給油口より給油します。検油口からオイルが出てきたら，検油栓を締め，給油栓を取付けます。



・ギヤオイル…API・GL－5以上，SAE・90

・オイル量……0.55 L

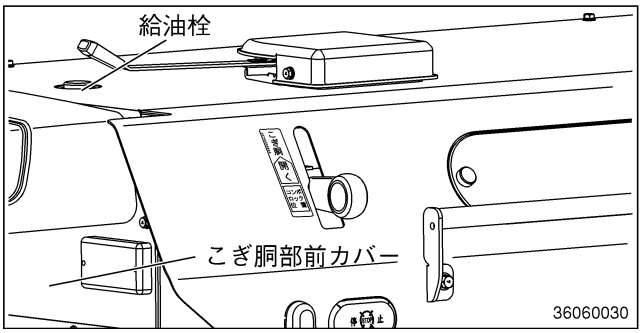
(3) 作業後グレンタンクを閉じます。(119～120ページ参照)

7. こぎ胴ギヤケース

❶ 点検

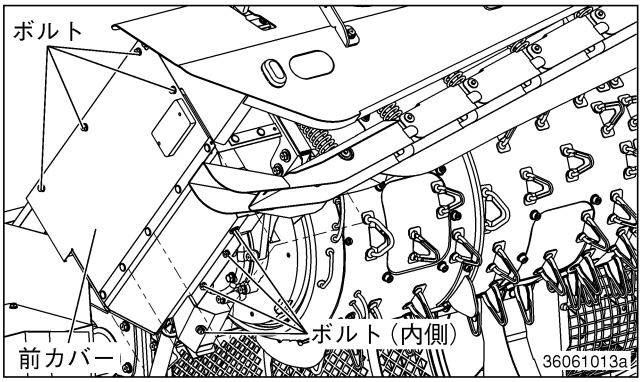
・ギヤケースの検油栓を外してオイルが出る程度が適量です。

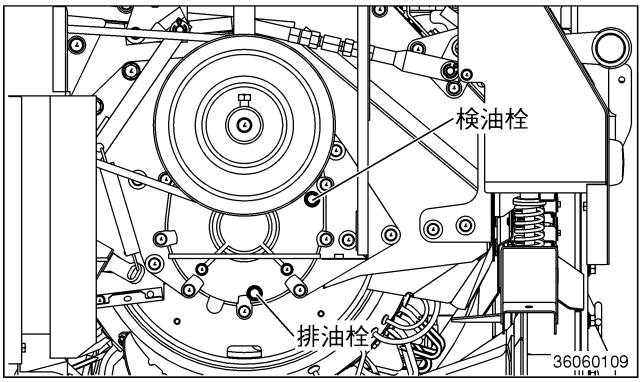
・不足しているときは給油栓を外して給油口より補給します。



❷ 交換

(1) こぎ胴部の前カバーを外します。





・ギヤケース下部の排油栓を外し，オイルを抜取り，給油口より給油します。

・ギヤオイル…API・GL－5以上，SAE・90

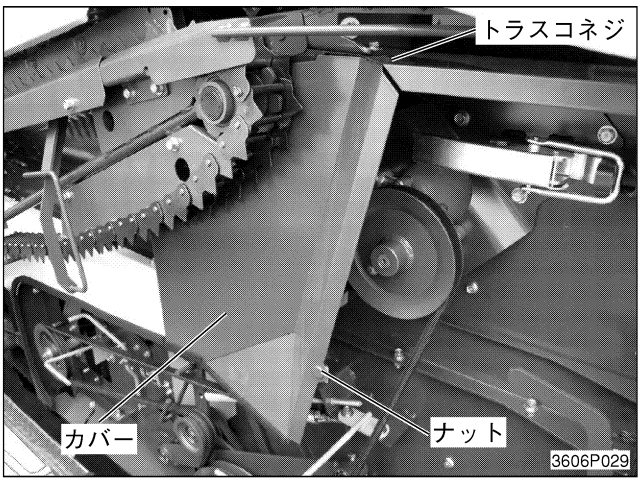
・オイル量……0.65 L

(2) 作業後カバーを元の位置に取付けます。

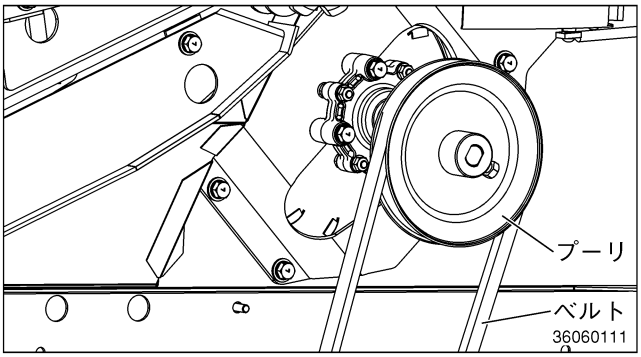
8．吸引ファンギヤケース

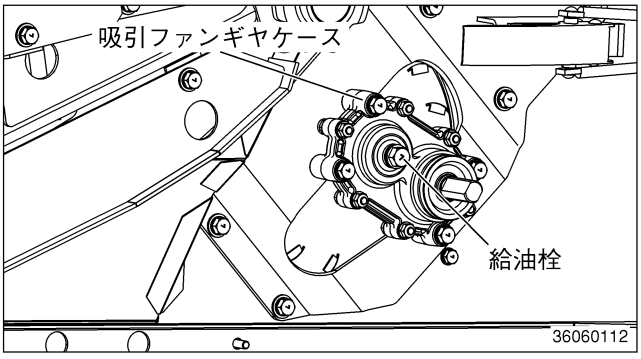
(1) 脱こくサイドカバー（上）（下），カッタサイドカバーを取外します。

(2) カバーのトラスコネジとナットを外します。



(3) ベルトを外し，プーリを取外します。





・ギヤオイル…API・GL－4以上，
SAE・10W－30

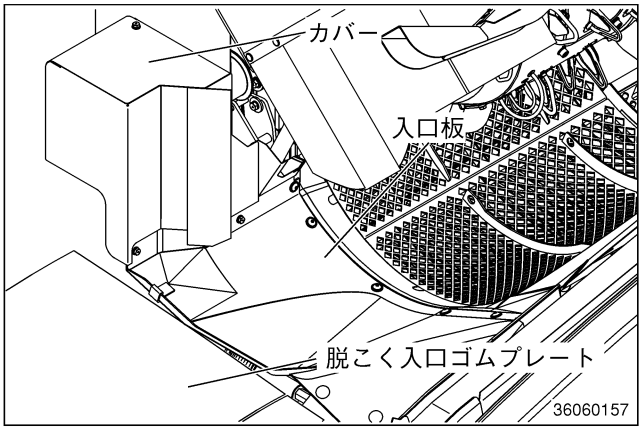
・オイル量……0.07 L

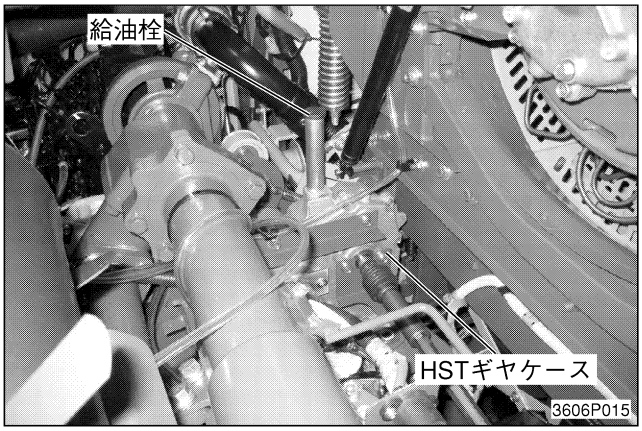
(4) 作業後プーリを取付け，ベルトを掛けて，カバーのトラスコネジ，ナットを締付けます。

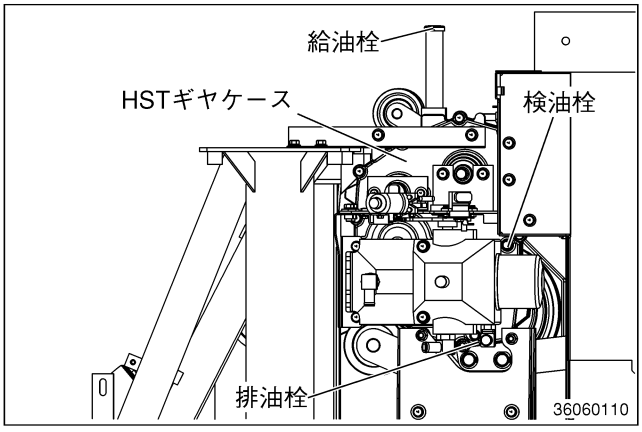
(5) 脱こくサイドカバー（上）（下），カッタサイドカバーを取付けます。

9．搬送HSTギヤケース

(1) 脱こく入口のゴムプレートをめくり，コンポアップをして入口板とカバーを外します。







・ギヤオイル…API・GL－5以上，
SAE・90

・オイル量……1.4 L

(2) 作業後カバー類を元の位置に取付けます。

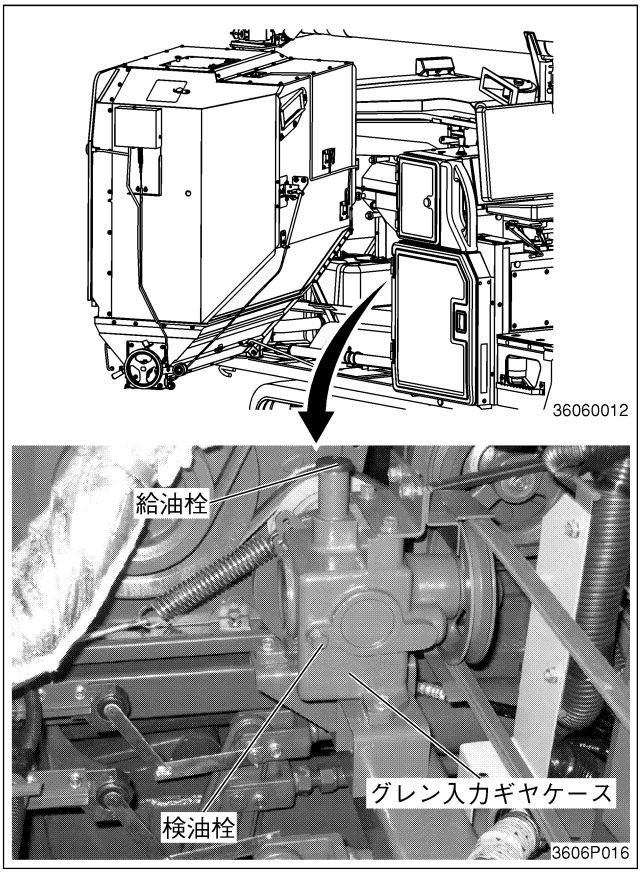
10. グレン入力ギヤケースのオイル点検・補給

❶ 点検・補給

(1) グレンタンクを回動します。(119～120ページ参照)

(2) グレン入力ギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

(3) 不足しているときは給油栓を外して給油口より補給します。

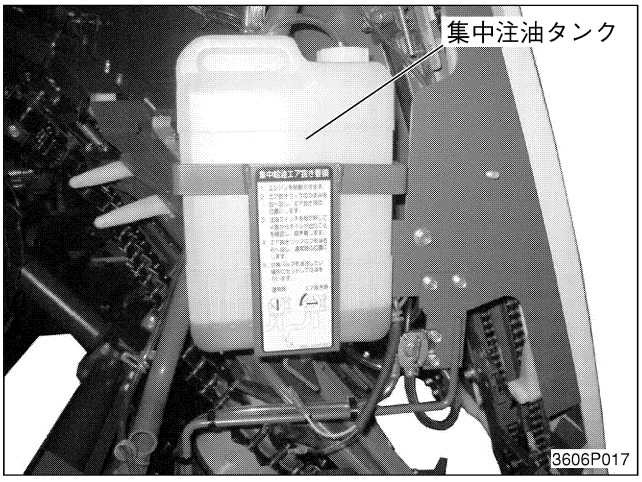


・ギヤオイル…API・GL−5以上,
SAE・90

・オイル量……0.5 L

(4) 作業後グレンタンクを閉じます。(119～120ページ参照)

11. 集中注油タンク



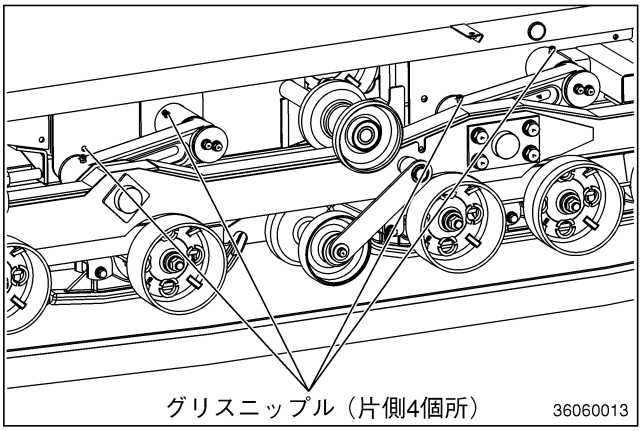
・刈取部サイドカバー（右）を外し，タンクに給油します。給油後は刈取部サイドカバー(右)を取付けます。

・エンジンオイル

・オイル量……4.3 L

12. 給脂個所

❶ 水平リンク



左右 8 個所グリスガンで給脂します。

・リチウムグリス

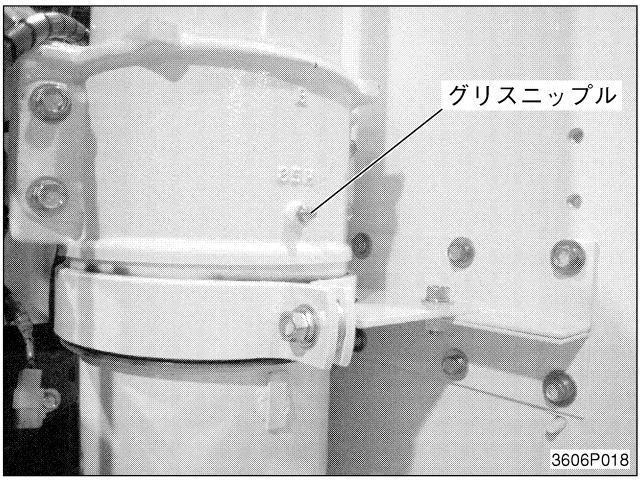
・左右…… 8 個所

❷ オーガ旋回部への給脂

(1) グレンタンク後部カバーをオープンし，ストッパで固定します。

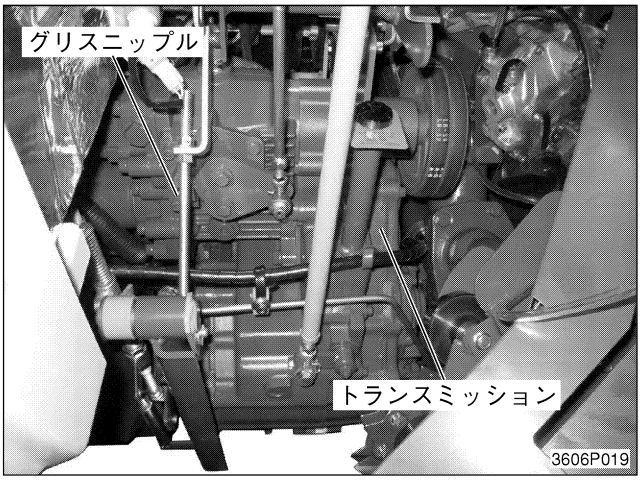
(2) 鉄パイプにグリスニップルがついています。（表裏２個所）グリスガンで給脂してください。

(3) 給脂後グレンタンク後部カバーを閉じます。

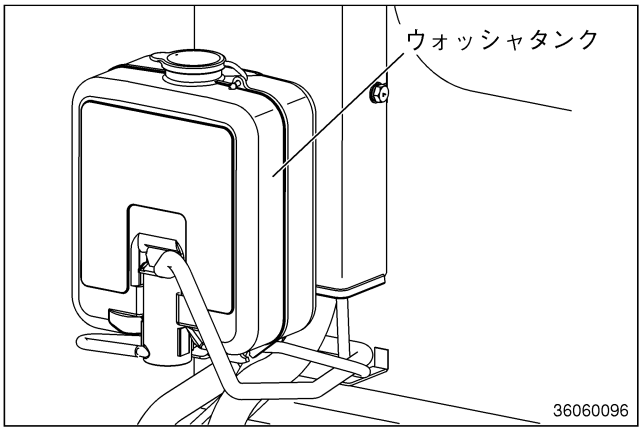


❸ 走行ＨＳＴトラニオン軸部への給脂

(1) 刈取部と運転席部の間から走行ＨＳＴトラニオン軸部についているグリスニップルにグリスガンで給脂してください。



13．ウォッシャタンク［キャビン仕様］



❶ 点検

キャップを外し，ウォッシャ液量を点検します。

❷ 給水

(1) 給水口よりウォッシャ液を給水します。

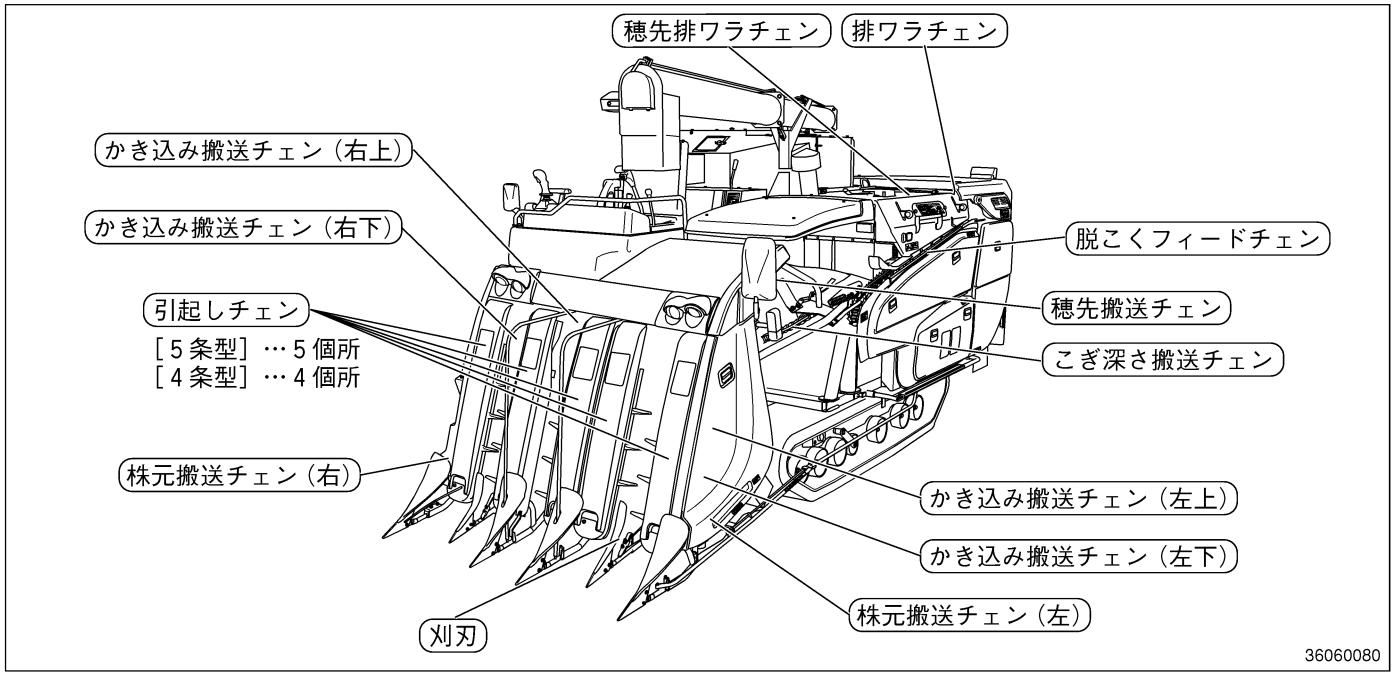
(2) 給水口よりあふれないようにします。

取扱いのポイント

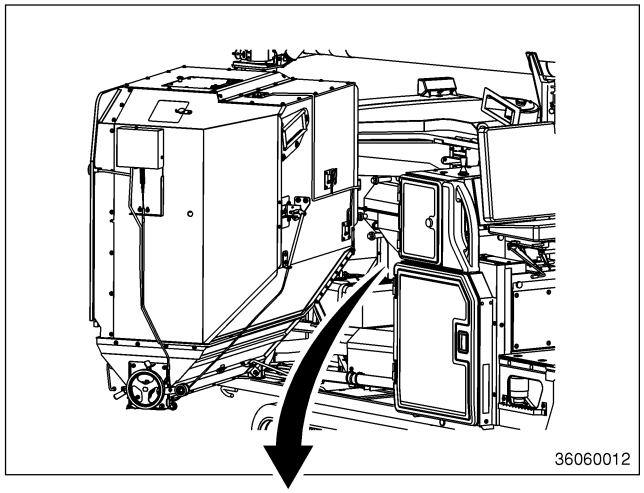
- **タンクの満量は1.0Lです。**
- **ウォッシャ液の濃度は水0.65Lに対してウォッシャ液0.35Lです。**

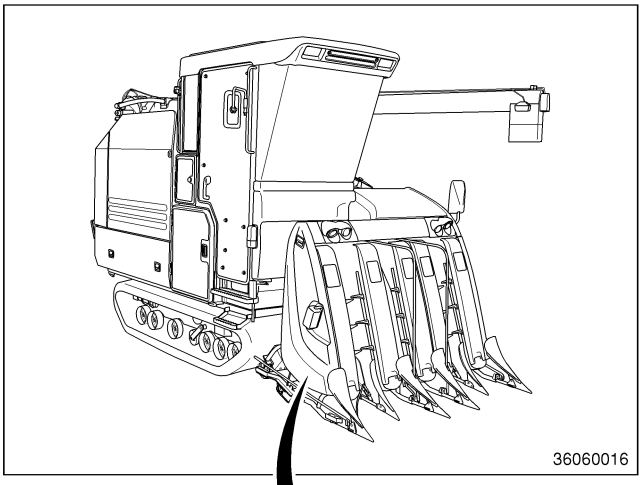
14．各部の注油

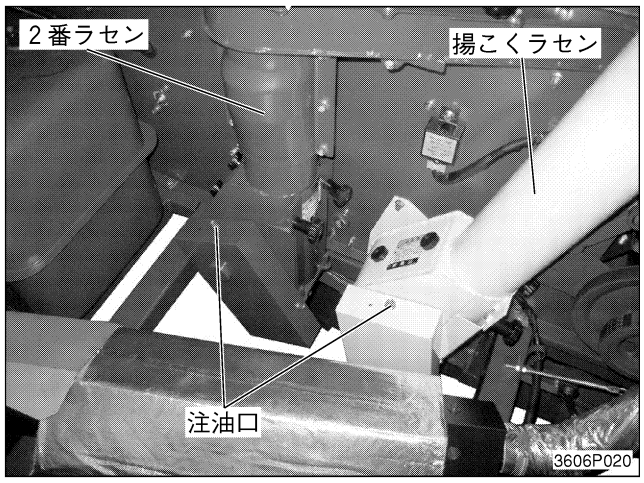
各部の注油は，始業前および刈取面積に応じ適宜行います。刈取部関係の注油（⬭個所）は集中注油装置で注油ができます。

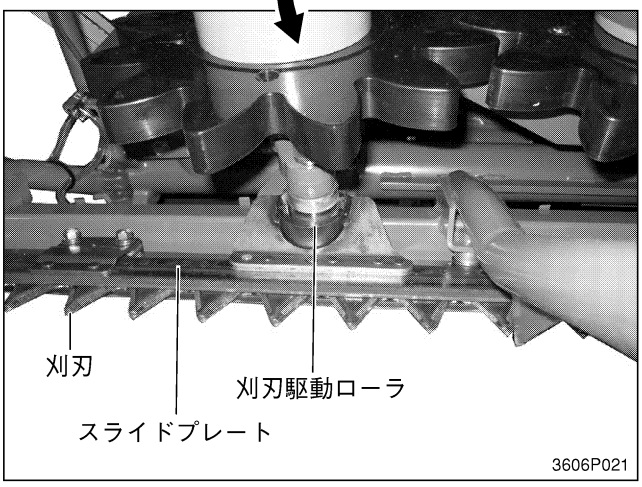


そのほかの注油は「**油差し**」で注油します。









15．集中注油装置の使い方

⚠警告 傷害事故防止のために

◆平坦な場所に機械を置いてください。傾斜地では機械が動き出し，傷害事故の原因となります。
・クローラに歯止めをかけてください。

◆刈取部，脱こく部を作動しますので，機械の周囲に人を近づけないでください。

❶ エンジンを始動させます。

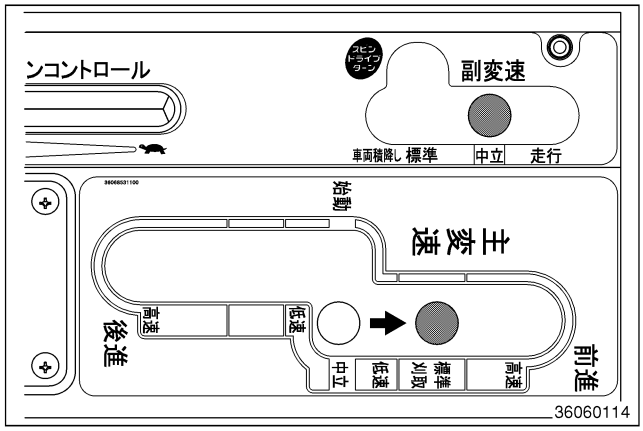
❷ 機体，刈取部をいっぱい下げます。

❸ 副変速レバーを《N》（中立）にします。

❹ エンジン回転を低回転にします。

❺ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《刈取》にします。

❻ 主変速レバーを《標準刈取》位置にして，刈取部を回転させます。



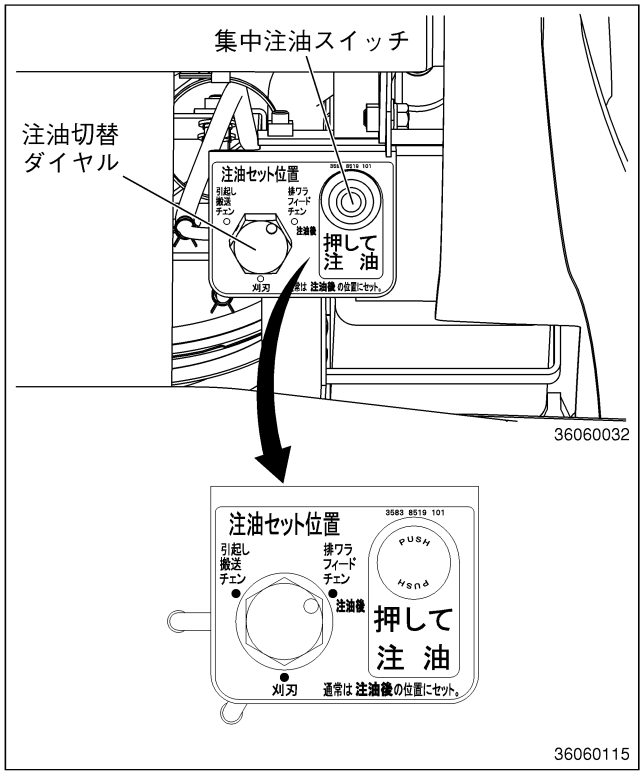
36060114

❼ 集中注油スイッチを押している間，自動的に注油されます。また，注油切替ダイヤルにより以下の注油個所の切替えができます。

・引起し，搬送チェン（株元搬送左・中・右，かき込み搬送左・中，こぎ深さ搬送，穂先搬送）
・刈刃
・排ワラフィードチェン・注油後（フィードチェン，排ワラチェン，注油後）

取扱いのポイント

- 刈取部に注油する場合には，刈刃部をいっぱい上げるとスライドプレート部に注油できます。



36060032
36060115

❽ 注油作業終了時には，オイル漏れ防止のため注油切替ダイヤルを《注油後》位置にしてください。

取扱いのポイント

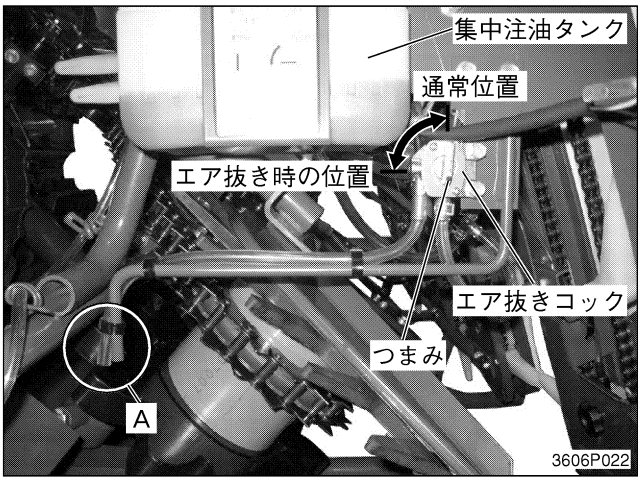
- 注油切替ダイヤルを切替中に，集中注油スイッチを操作すると，故障の原因となりますので，スイッチを押さないでください。
- 注油中にオイルが流れ落ちることがありますので，注油場所を選んで行い，こぼれたオイルは，拭取ってください。
- 注油ホースの継ぎ部からオイル漏れがないか，点検確認してください。
- 注油切替ダイヤルは，注油位置マークの指示位置に確実に切替えてください。
- 《こぎ深さ・注油》ヒューズ（20Ａ）が切れると，注油はされません。（31～33ページ参照）
- 湿田作業で刈刃の上に溜まった土を掃除するときに，ノズル・ノズル取付プレート・注油ホースを鎌などで損傷しないようにしてください。
- ノズルが詰まると，注油の妨げとなりますので，針などで詰まりを除去してください。このとき，刈取部を上げて作業する場合は，油圧を固定し，刈取部を固定脚に乗せてから行なってください。また，エンジンは停止してください。

集中注油タンクにオイルがなくなりオイルを給油する場合に次の手順でエア抜きを行なってください。

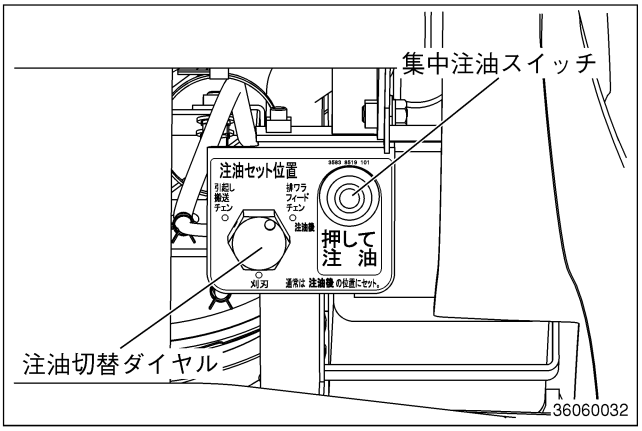
❶ 刈取部サイドカバー（右）を外します。

❷ エンジンを始動させます。

❸ エア抜きコックのつまみを左へ回し，エア抜き時の位置にします。



❹ 集中注油スイッチを押してA部よりオイルが出たことを確認します。



❺ エア抜きコックのつまみを右へ回し，通常位置に戻します。

❻ エンジンを切り，刈取部サイドカバー（右）を取付けます。

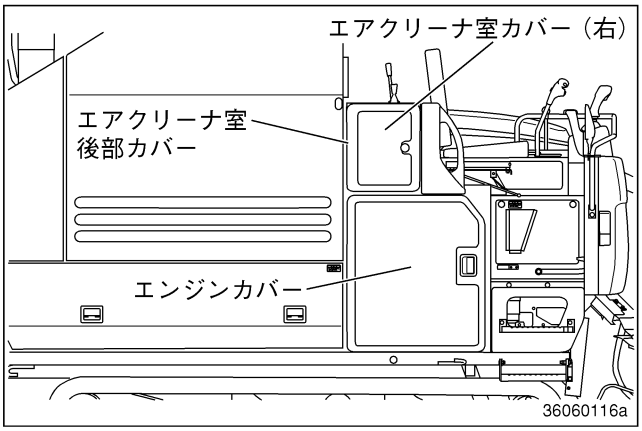
3．各部の点検と掃除のしかた

1．ラジエータ吸気部の掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

◆エンジン周辺を掃除するときは，スタータスイッチを《切》にしてエンジンを停止させ，エンジンが冷えたことを確認してから行います。

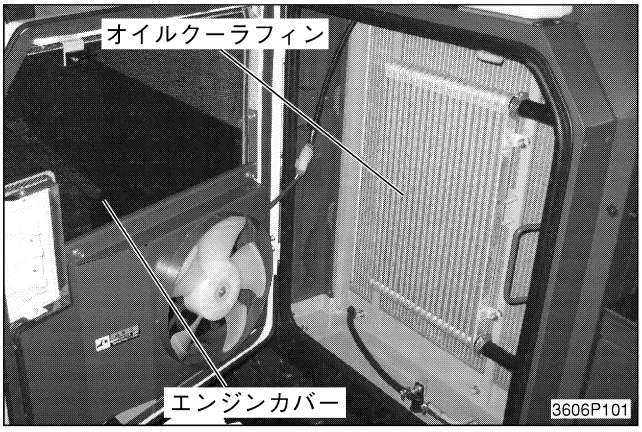
エンジンカバーおよび金網，エアクリーナ室カバー，ラジエータフィン，オイルクーラフィンにゴミなどが目詰まりすると，冷却風の通りが悪くなり，エンジンが「**オーバーヒート**」する原因となります。

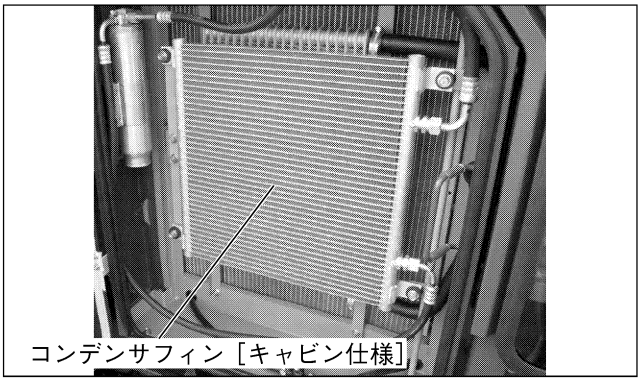


❶ エンジンカバーおよびエアクリーナ室カバー（右）の表面のゴミを取除きます。

❷ グレンタンクを回動し，エアクリーナ室後部カバー表面のゴミを取除きグレンタンクを閉じます。

❸ エンジンカバーを開き，ゴミを取除きます。

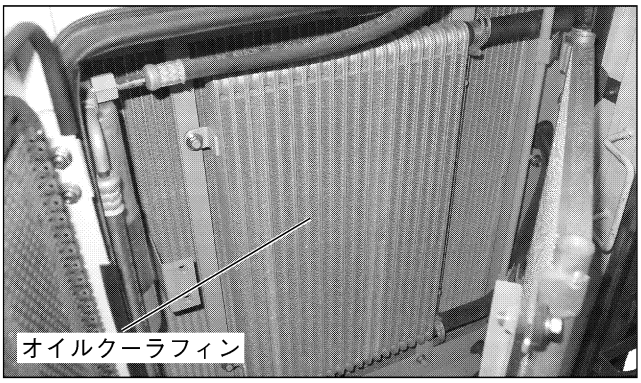




❹　ラジエータフィン部，オイルクーラフィン部，コンデンサフィン部［キャビン仕様］に**「ゴミ詰まり」**を生じたときは，次の方法で取除きます。

各々の取付ボルト（2ヶ）を外してオープンします。

電気掃除機（小口径のノズル）でゴミを吸い取るか，コンプレッサの圧縮空気を吹きつけてゴミを取除きます。ノズルを強く押当てないでください。強く押当てると，フィンが変形するおそれがあります。



❺　ボルトを取付けエンジンカバーを閉じます。

取扱いのポイント

- **エンジンカバーを開けたときは，ラジエータの冷却水を確認してください。（98〜99ページ参照）**

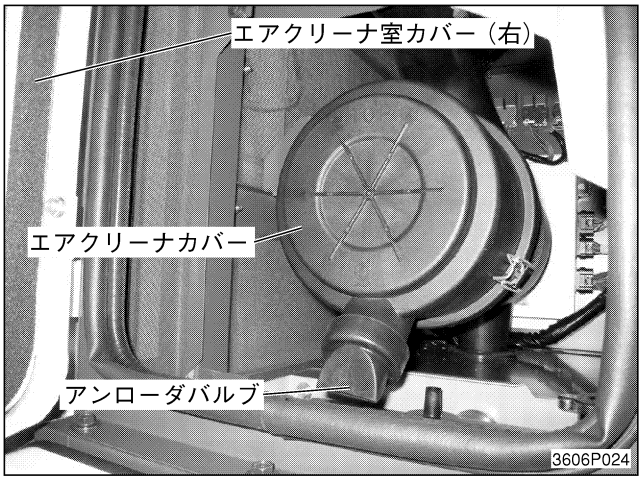
2．エアクリーナの掃除

・エアクリーナエレメントを汚れたままで使用すると，エンジンの内部損耗や出力低下を招きます。

❶　エアクリーナ室カバー（右）を開けます。

❷　エアクリーナカバーのフック（3個所）を外し，エレメントを取出します。

❸　エレメントは軽く叩くか，コンプレッサでエレメントの内側よりエアを吹きつけて掃除をします。



❹　取付けは，アンローダバルブが下向きになるようにセットして取付けます。

❺　エアクリーナ室カバー（右）を閉じます。

取扱いのポイント

- **コンプレッサでエアを吹きつける場合は，空気圧「588kPa（6kgf／㎠）以下」で行なってください。**

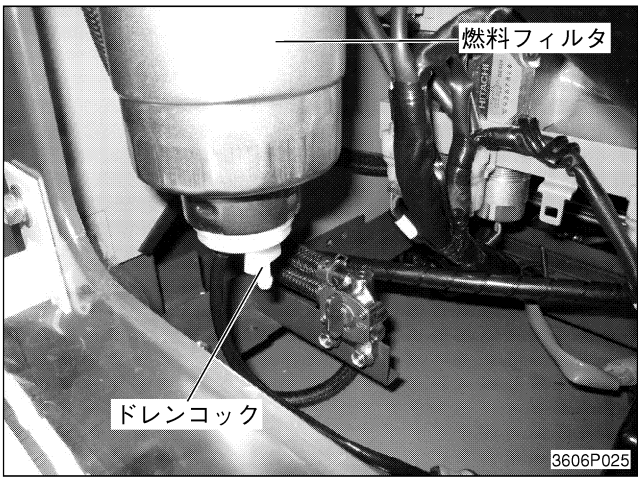
3．燃料フィルタの掃除・交換

⚠危険 火災防止のために

◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料がもれている場合は，火災の原因となることがありますので交換してください。

燃料フィルタは，燃料内に含まれるゴミや水をフィルタにて取除きます。

❶ 燃料フィルタモニタが点灯したときは，フートプレートをめくり燃料フィルタのドレンコックをゆるめて，手動ポンプを「**5回〜10回**」上下操作し，中にたまった水を抜きます。

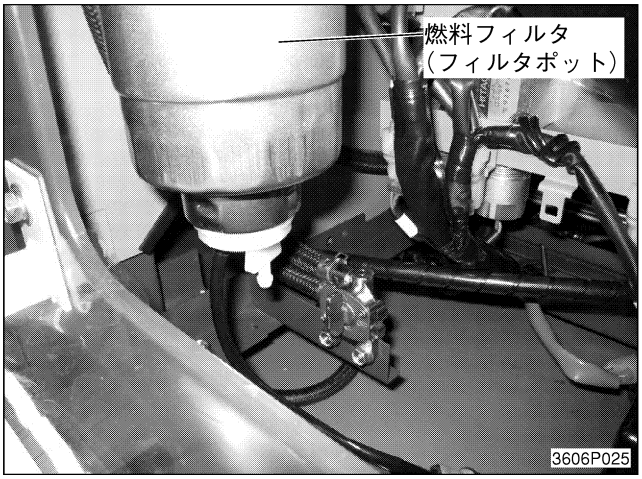




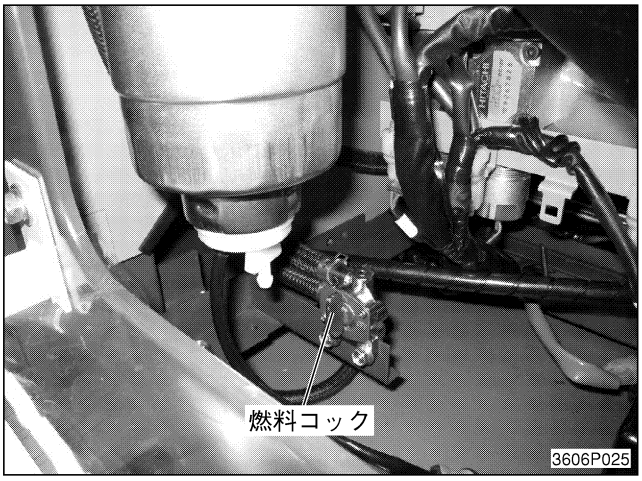
・ドレンコックをしめた後，フートプレートを元にもどし燃料回路のエア抜きをします。(111ページ参照)

❷ 燃料フィルタは「**カートリッジタイプ**」を使用していますので「**定期点検整備表**」(92〜93ページ参照)に従って交換します。

「燃料フィルタの交換手順」



(1) 燃料コックを《**閉**》位置にします。
(2) 燃料フィルタのフィルタポットをゆるめ，フィルタポット，フィルタを外して交換します。
(3) 組付けは取外しと逆の手順で行います。
(4) 燃料コックを《**開**》位置にします。
(5) 燃料コックのエア抜きを行います。



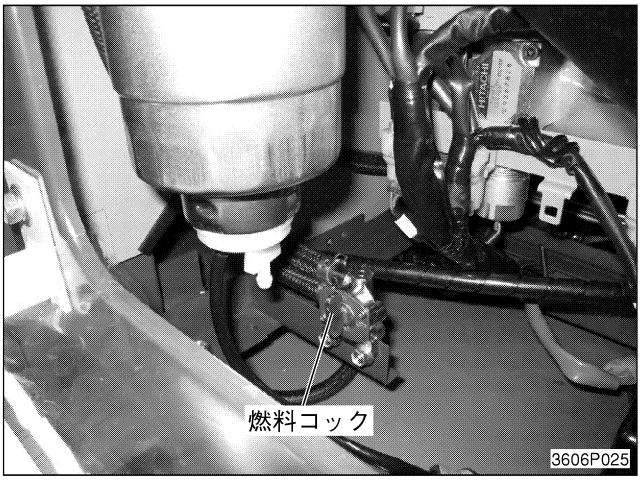
4．燃料のエア抜きのしかた

運転途中での燃料切れや，燃料フィルタの掃除や交換時は，次の手順でエア抜きを行います。

❶ 燃料タンク給油口のフィルタをとおして，燃料（ディーゼル軽油）を給油します。

・**燃料は……JIS 2 号（−7.5℃まで）**
JIS 3 号（−20℃まで）

❷ 燃料コックが《**開**》位置であることを確認します。



❸ スタータスイッチを《**入**》位置にし，「**約 2 分**」程度待ちます。

❹ スタータスイッチを《**入**》位置のまま，燃料フィルタの手動ポンプを，「**40回程度**」上下操作を行います。



❺ スタータスイッチを《**始動**》に回し，エンジンを始動します。

・**10秒程度**セルモータを回してもエンジンが**始動**しない場合は，もう一度❹項からの操作を行います。

取扱いのポイント

● **燃料の中に，水やゴミ等が混入しますとエンジンに重大な故障が発生したり，燃料ポンプが作動しなくなることがありますので，給油口のフィルタを通して給油してください。**

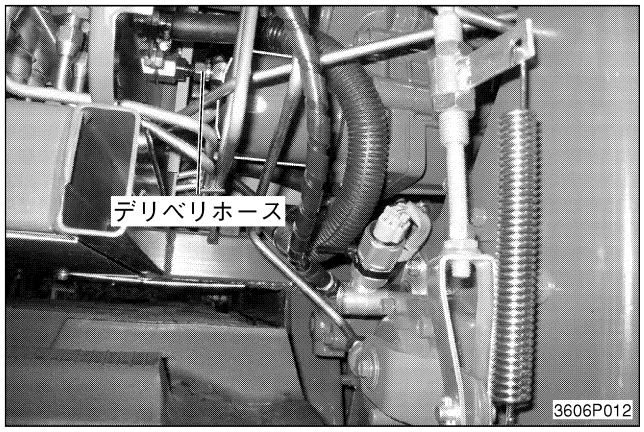
5. ソレノイドバルブのフィルタの点検と掃除

油圧作動油の劣化や，汚れによる作動不良などを防止するため，ソレノイドバルブユニット内部にフィルタが設けてあります。

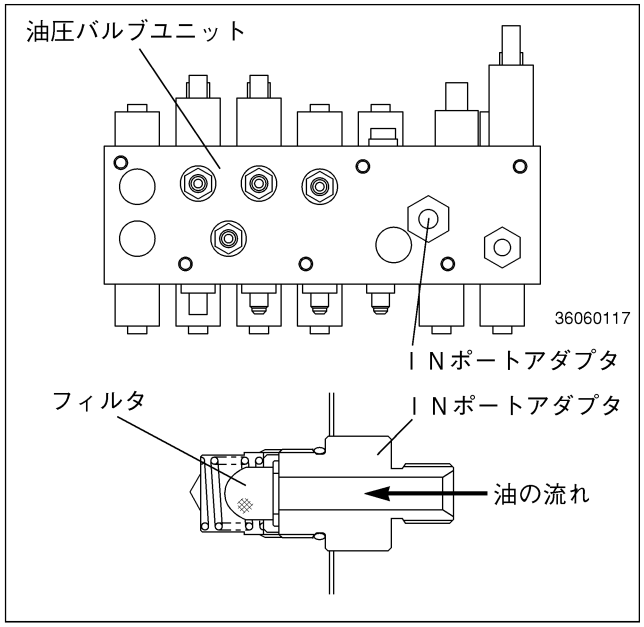
・掃除は，92～93ページの「**定期点検整備表**」に従って行います。

❶ フィルタの清掃

(1) 刈取部をオープンします。(133～138ページ参照)



(2) デリベリホースを外してからＩＮポートアダプタ（六角対辺30）を外し，フィルタを取外します。



(3) フィルタの外側よりエアを吹付けて，きれいに掃除します。

(4) 清掃したフィルタを，方向を間違えないように組込みます。

(5) ＩＮポートアダプタを取付けます。

(6) 刈取部を閉じます。(133～138ページ参照)

❷ 組付け後の操作確認

(1) エンジンを始動し,マルチステアリングレバーにて刈取部を３～４回上下させて，カバーの取付部およびホースの継ぎ部の油漏れがないか確認します。

(2) エンジンを停止して，オイルタンクのオイル量を点検し,不足していれば検油栓まで補給します。

6. エアフローセンサの点検と掃除

エアフローセンサ内部へのワラクズなどの進入を防止するため，センサユニット内部にフィルタが設けてあります。

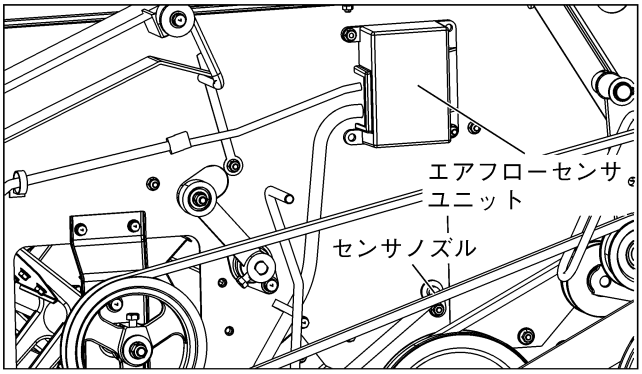
・掃除は92～93ページの「**定期点検整備表**」に従って行います。

❶ エアフローセンサの清掃

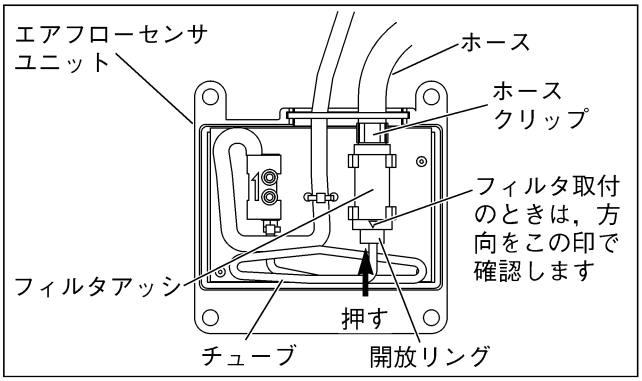
センサを破損しないために手順にそって作業してください。

(1) 脱こくサイドカバー(上),(下)を取外します。

(2) エアフローセンサユニットを取外します。



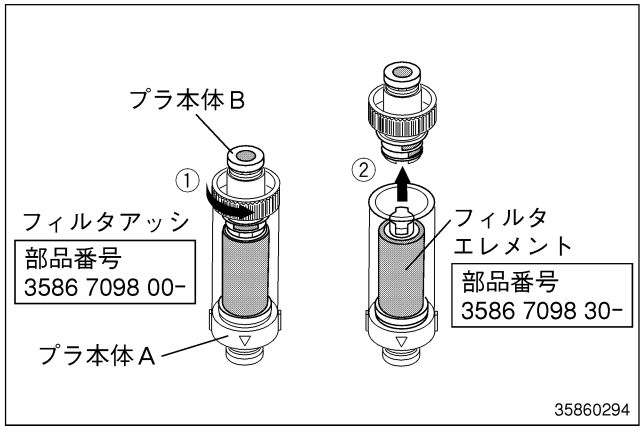
(3) フィルタアッシの開放リング部を押してチューブを外します。ホースクリップをプライヤ等でゆるめてホースをフィルタアッシから外し，フィルタアッシをユニットから取外します。



(4) フィルタアッシからフィルタエレメントを取外します。

① プラ本体Bを反時計方向へ45度回転させます。

② プラ本体Bを引抜きます。

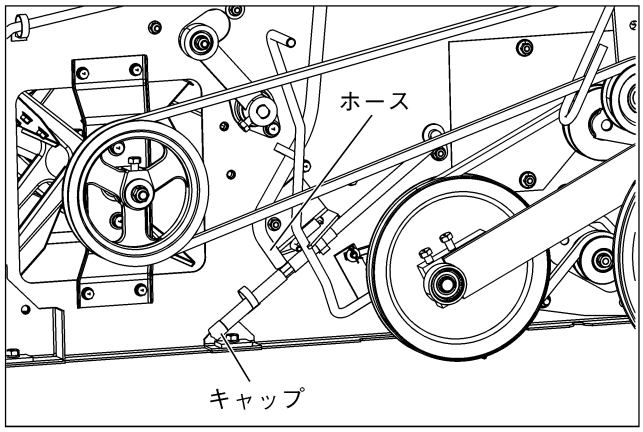


取扱いのポイント

- **プラ本体Bを回転させるときは絶対に45度以上回転させないでください。本体を破損させるおそれがあります。**

(5) フィルタ内部とフィルタエレメントをエア等できれいに掃除してください。

(6) キャップを外しエア等でホース内部のワラクズ等のゴミを取り除きます。掃除後はキャップを必ず装着してください。



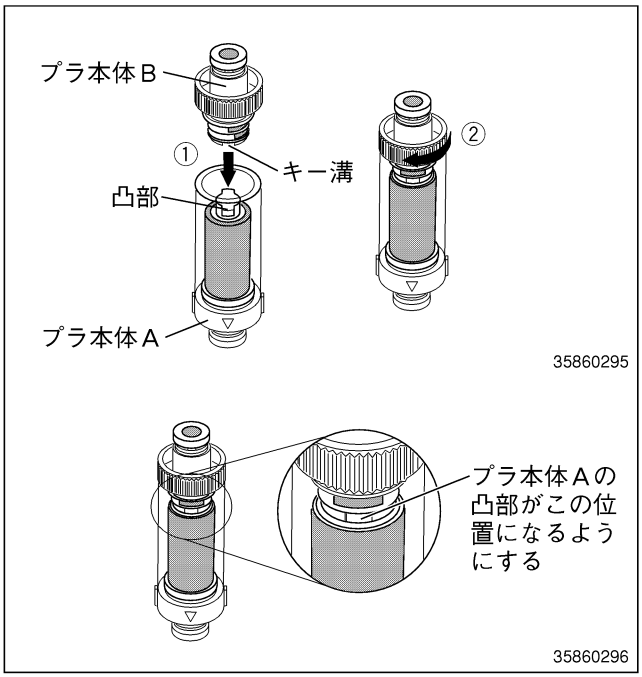
取扱いのポイント

- **ホースにエアフローセンサユニットを接続したままでエア等を使用するとセンサの故障の原因となります。必ずエアフローセンサユニットからホースを外してエア等で掃除してください。**

(7) 清掃したフィルタエレメントを，フィルタ内部に組込みます。

① プラ本体Aの凸部をプラ本体Bのキー溝に合わせ突き当たるまで押込みます。

② プラ本体Bを時計方向に45度回転させロックしてください。



取扱いのポイント

- **プラ本体Bを回転させるときは絶対に45度以上回転させないでください。本体を破損させるおそれがあります。**
- **ロック時にはプラ本体Aの凸部が確実にプラ本体Bの穴の中心にくるようにしてください。**

(8) フィルタアッシに刻印された△印を確認し，向きに注意してフィルタアッシをエアフローセンサに組み込み，チューブとホースを取付けます。

(9) エアフローセンサユニットを本機に取付け，脱こくサイドカバー（上),(下）を取付けます。

7．電気配線の点検と掃除

⚠警告 火傷や火災防止のために

◆電気配線の点検時には，スタータスイッチを《切》位置にし，バッテリコードのアース側㊀端子を外してください。
◆電気配線およびバッテリ㊉コードが損傷していると，ショートや漏電で火災や損傷の原因となりますので，交換してください。
◆エンジン，バッテリ，電気配線回りのワラクズなどを取除いてください。火災の原因になることがあります。

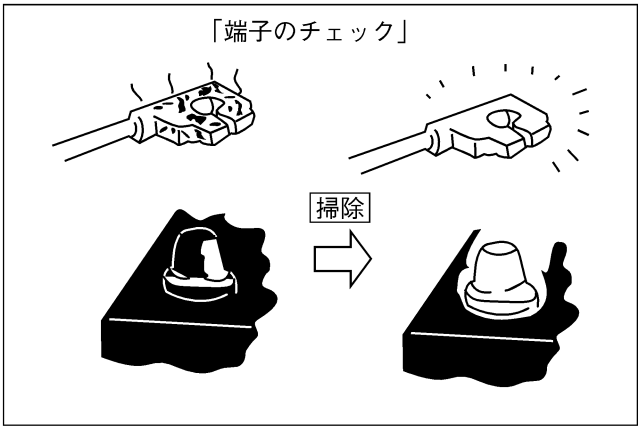
❶ 電気配線の点検

配線の端子部の「**ゆるみ**」や「**接続不良**」または配線が「**損傷**」していると，電気部品の性能を損なうだけでなく，「**ショート（短絡）**」することがあります。傷んだ配線は交換，修理します。

❷ 電気配線の掃除

(1) エンジン，バッテリ，電気配線部に溜まっている「**ワラやゴミ**」などは，「**火災**」の原因になりますので取除きます。

(2) バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が「**腐蝕**」することがあります。バッテリ端子が腐蝕すると，「**接触抵抗**」が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，「**定期的**」に汚れや腐蝕を，サンドペーパやブラシで取除きます。腐蝕防止のために，グリースを塗ります。



8．バッテリの点検と充電

この機械は出荷時に補水不要バッテリが装備されています。

バッテリの残存量の確認は116ページの❸を参照してください。

指定バッテリ……80D26R

⚠危険 火災や傷害事故防止のために

◆ブースターケーブルを使用するときは，接続前にエンジンを停止してください。
◆ブースターケーブルは，100A以上の仕様のものを使用してください。
容量の小さいケーブルを使用すると，ケーブルが焼損し，火災の原因となることがあります。
◆バッテリを「着脱」したり充電器で「充電」するときは，エンジンを停止し，始動キーを抜取ってください。
◆バッテリを取外すときはバッテリ㊀コードを先にバッテリの㊀端子（アース側）から外し，次にバッテリ㊉コードを㊉端子（プラス側）から外してください。取付けるときはバッテリ㊉コードを先にバッテリ㊉端子（プラス側）に取付けてください。逆の手順で作業するとショートや漏電を起こす原因となります。
◆㊉端子と㊀端子を間違えないようにしてください。逆接すると，電装品が焼損します。また，「スパーク（短絡）」による電気火花で負傷をすることがあります。
◆㊉端子が機械に，接触しないようにしてください。
◆密封タイプなので，急速充電や開封は厳禁です。

◆バッテリは,充電するとき引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し,「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」に近づけたり,「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。(補水が必要なバッテリ)
◆㊀端子を取付けたままで充電すると発電器や電気配線を焼損することがあります。
◆「水素ガス」が滞留しないよう風通しのよい場所で充電してください。
(補水が必要なバッテリ)
◆バッテリ液(電解液)は,希硫酸で劇毒物ですのでこぼさないようにしてください。
(補水が必要なバッテリ)
失明や火傷をすることがあります。
◆バッテリを化学繊維製布などで掃除しないでください。静電気による引火爆発のおそれがあります。
◆バッテリを充電するときは,液口栓をすべて取外してください。(補水が必要なバッテリ)
◆バッテリの液量が,側面に表示されている「下限」(LOWER LEVEL)以下になった状態で使用したり充電すると,バッテリの破裂(爆発)の原因となることがあります。
(補水が必要なバッテリ)
◆充電のとき,「バッテリ液」が飛散することがありますので,眼鏡などで目を守り,衣服や皮膚に付着しないようにしてください。
(補水が必要なバッテリ)
◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは,直ちに水洗いをし,医師の手当を受けてください。
◆衣服についたときは,水洗いし,弱アルカリ性石けんで,硫酸分を洗い流してください。

❶ バッテリ取付金具の点検

バッテリの取付けがゆるいと,バッテリが上下左右に動き,振動で電解槽やフタ等が摩耗したり,亀裂を起こすことがあります。

取付金具で,しっかり固定します。

取付金具等が腐蝕していれば取替えます。

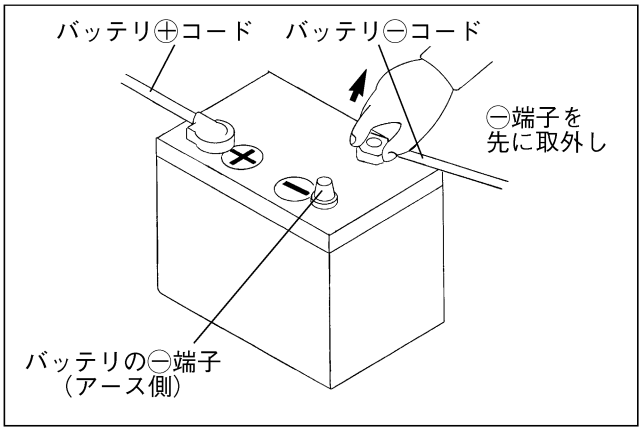
バッテリは車体左側,脱こく部の前側に保護カバーで覆われていますのでクランプを外しカバーを取外します。



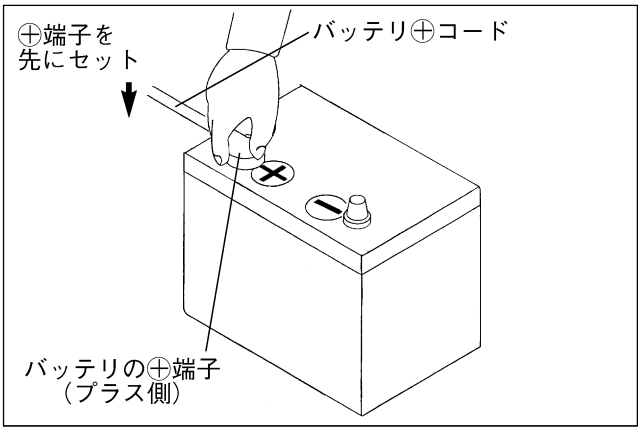
❷ バッテリ着脱時の注意

(1) バッテリを「**着脱**」したり充電器で「**充電**」する時は,エンジンを停止し,スタータスイッチから「**キー**」を抜取ります。

(2) バッテリコードを端子から取外すときは「**㊀端子(アース側)**」を先に外します。



(3) バッテリコードを端子にセットするときは「⊕端子（プラス側）」を先に取付けます。



(4) バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。

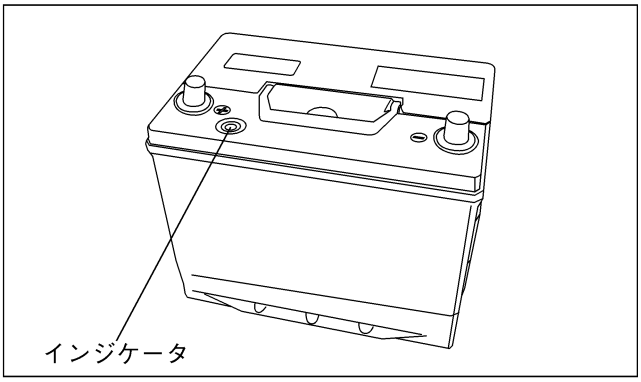
❸ バッテリの状態点検と，異常時の処理

(1) バッテリは上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処　　置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換

取扱いのポイント

●インジケータは真上から確認してください。



(2) バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

取扱いのポイント

●液もれが発生すると車体が腐蝕する原因となります。

❹ 補充電・交換

⚠危険 傷害事故防止のために

◆バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤ると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
- ・取外し・・・（−）端子側（アース側）から外す。
- ・取付け・・・（＋）端子側を最初に接続する。

◆バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより，失明や火傷をするおそれがあります。

◆バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。

◆バッテリの取付け方向を間違えないでください。（＋）と（−）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。

◆バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液(希硫酸)により，失明や火傷の原因となることがあります。

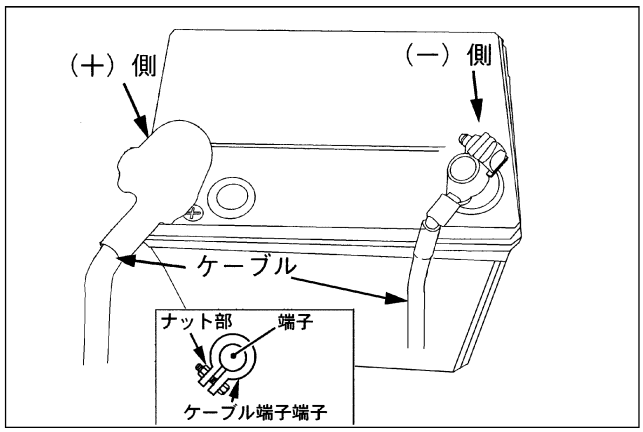
⚠注意

◆バッテリが完全に放電し，スタータスイッチを《入》にしても充電･オイルランプが点灯しない状態になった場合は，バッテリを交換してください。他のバッテリでブースターケーブルを使用してエンジンを始動すると高電圧が発生し，電装品を破損することがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行ってください。また，補充電を行っても短期間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行ってください。

・スタータモータの回転が，いつもより弱い。
・アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
・ホーンの音が，いつもより低い。

1．バッテリを機体から取外します。
⑴ ナットをゆるめてフックを外します。
⑵ ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず（－）側から取外してください。



取扱いのポイント

●バッテリを斜めにしたり，横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ，火傷や衣服の損傷の原因となります。

2．補充電を行うときは，平坦な風通しの良い場所を選んで行います。また,充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で（急速充電は厳禁です）行ってください。

3．補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

取扱いのポイント

●バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
バッテリ形式：80D26R
●バッテリはエンジン始動用ですから，ほかの用途には使用しないでください。
●バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。

補水が必要なバッテリの場合
（補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）

❺ 点検・補水

⚠危険 傷害事故防止のために

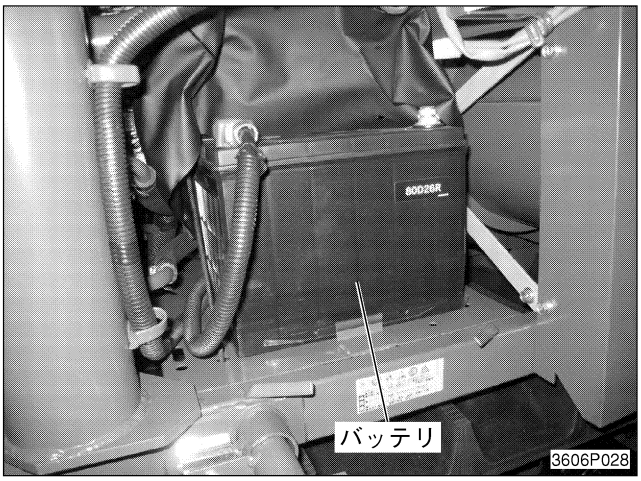
◆バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの2種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下のことを守ってください。
◆バッテリは液面がLOWER(最低液面線)以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。
◆バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。電解液（希硫酸）によって火傷することがあります。
◆充電のとき,「バッテリ液」が飛散することがあるので，保護眼鏡などで目を守り，ゴム手袋を着用ください。
◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。
◆衣服についたときは水洗いし，弱アルカリ性石けんで,硫酸分を洗い流してください。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。
1．残存容量の確認（補水が必要なバッテリ）
⑴ バッテリ液の「**比重**」を測定する方法と,「**バッテリテスタ**」で測定する方法があります。
⑵ 残存容量が低下していれば，ただちに補充電をします。

❼ ブースタケーブルによるエンジン始動

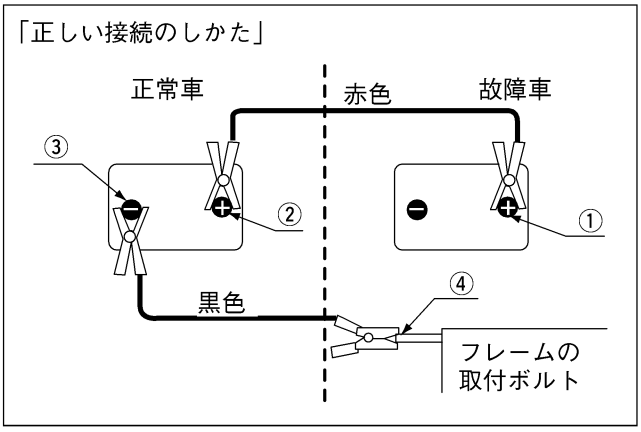
バッテリが放電し，エンジンが始動できないとき，他車（12V仕様車）の良好なバッテリを電源として始動する場合，ブースタケーブルを使用します。

このときは，次の手順を守って行います。



「ブースタケーブルの接続のしかた」

⑴ 正常車のエンジンを停止して，①～④の順序でブースタケーブルを確実に接続します。

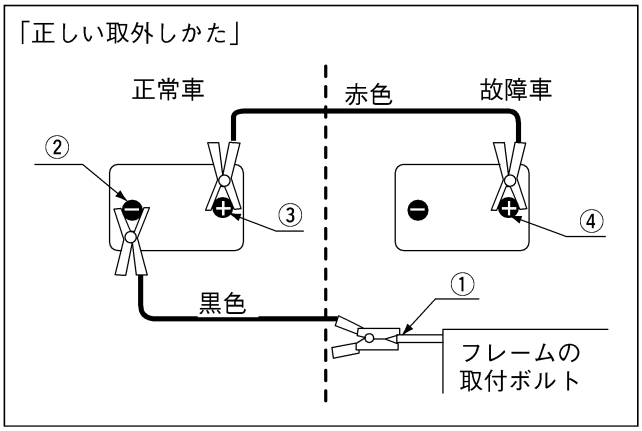


接続順序④は，ブースタケーブル（黒色）のクリップを機械のフレームの取付ボルトに接続します。

⑵ 放電バッテリ搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくいときには，正常車のエンジンをスタートしてから，放電バッテリ搭載車のエンジンをスタートさせます。

「ブースタケーブルの取外し」

・エンジン始動後のブースタケーブルの取外しは，**接続の場合と逆の順序**で行います。



9．グレンタンクの回動のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆グレンタンクを回動するときは，平坦な場所で行い，各クラッチを切り，エンジンを停止して，各部の回転が止まってから行なってください。

◆グレンタンク内にこく粒が入っていないことを，確認してから行います。
タンク内にこく粒が入った状態で回動させると，故障の原因となります。

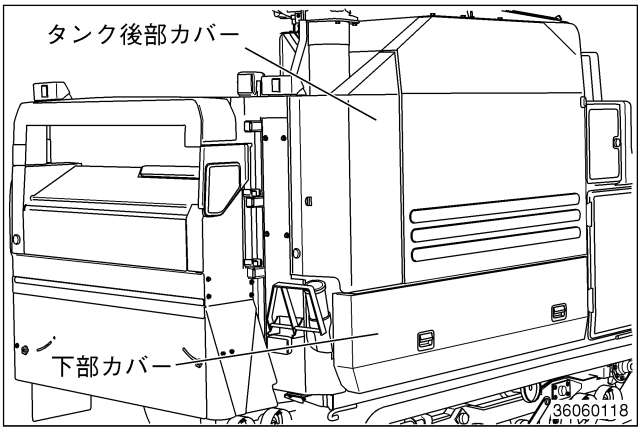
◆グレンタンクを回動したら，ストッパをかけて，作業を行なってください。

◆作業後カバーを取付けてください。

エンジンおよびベルトの点検・整備や脱こく部の掃除・点検をするときは，グレンタンクを回動して，ストッパをかけて行います。

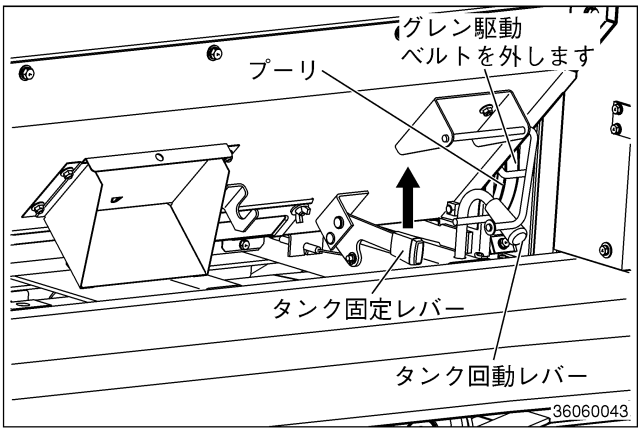
❶ タンク下部カバーを取外します。

❷ タンク後部のカバーを開きます。

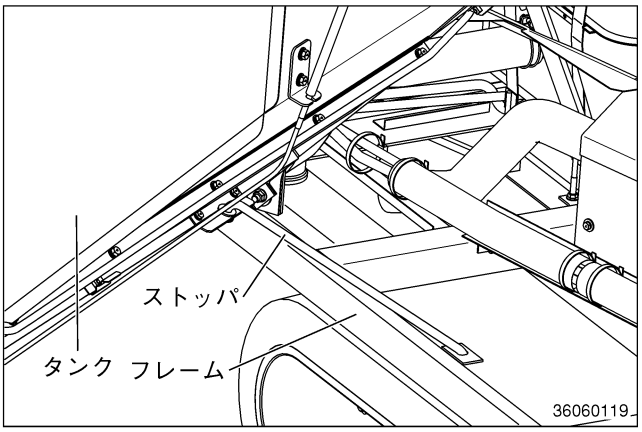


❸ グレン駆動ベルトを，プーリより外します。

❹ タンク回動レバーとタンク固定レバーを持ち上げながら，手前に引きタンクを回動します。



❺ タンクのストッパをフレームにかけます。



❻ 収納は逆の手順で行います。

❼ タンクを収納する途中で，タンク回動レバーのピンがフレームに当たり，回動しなくなります。この場合は，タンク回動レバーを持ち上げながら，タンク回動レバーのピンがフレームの穴に入るまで，タンクを押込みます。

取扱いのポイント

- **収納後は，ベルトの掛け方が間違っていないか，再度確認してください。(188ページ参照)**
- **タンク回動は，タンク回動レバー，タンク固定レバーの順で解除して操作をしてください。**
- **タンクの回動は，タンク回動レバーを持って行なってください。**

10．こぎ胴部の開閉のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆こぎ胴部を開くときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

◆こぎ胴部を開くときは，グリップでこぎ胴を持ち上げ，「カチッ」という自動ロックの作動音を確認してからゆっくりと手を離してください。

◆《自動ロック解除レバー》を操作するときは，アームまたはシリンダカバー端部を支えて行なってください。このとき，回動範囲内には，手や体を入れないでください。

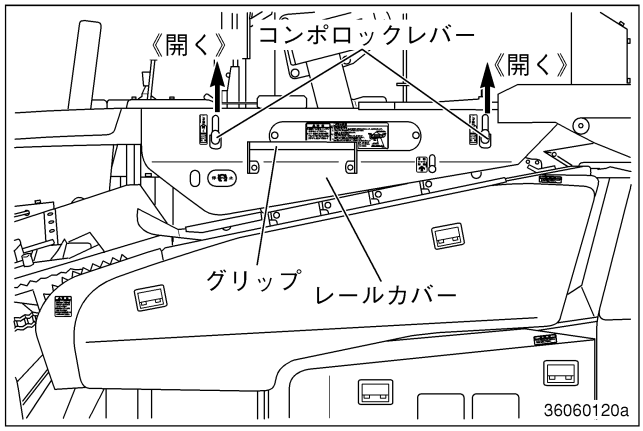
◆サイドステップは2人以上乗らないでください。また足元がすべらないために，ぬれたり，泥のついた靴では乗らないでください。

❶ サイドステップを引出し，乗った状態でこぎ胴の開閉を行うと容易に行えます。

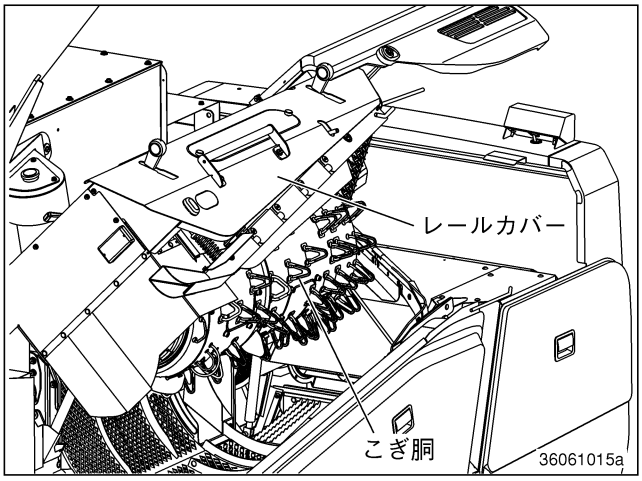
❷ こぎ胴部を開くときは

(1) 2本のコンポロックレバーを左右同時に《開く》の方向に上げ，固定を解除します。

(2) レールカバーの端部を持ってこぎ胴を持ち上げ『カチッ』という音を確認して，ゆっくり手をはなします。

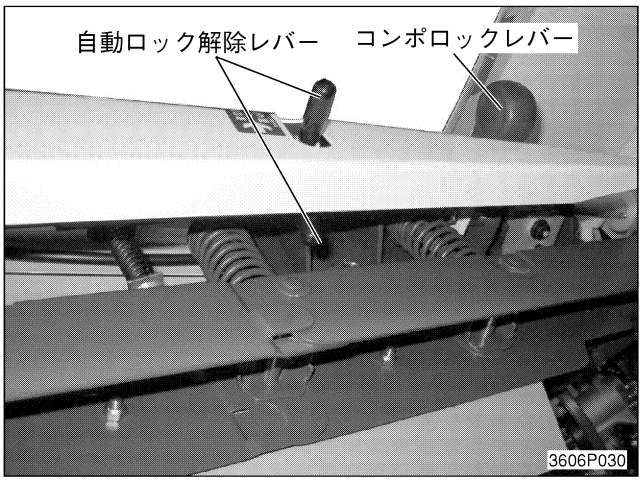


［こぎ胴部開（コンポアップ）状態］

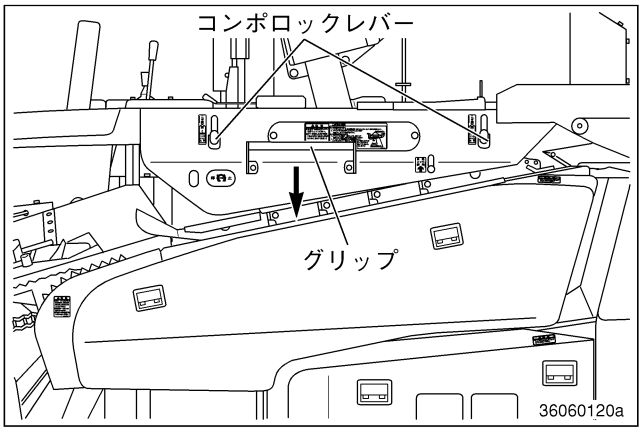


❸ こぎ胴部を閉めるときは

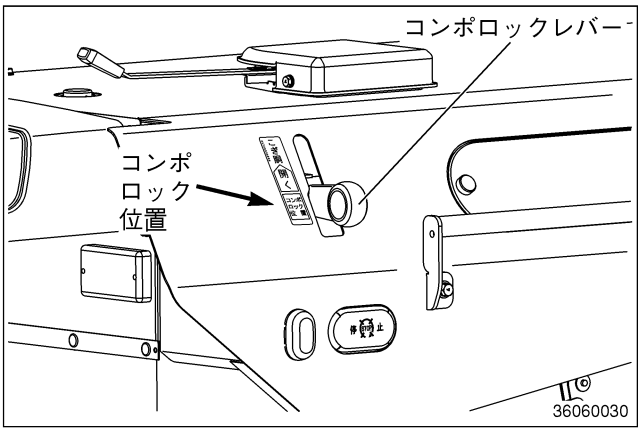
(1) レールカバーの端部を持ってこぎ胴を一杯持ち上げ，自動ロック解除レバーを（ロックが解除される位置）押上げたままこぎ胴を下げます。



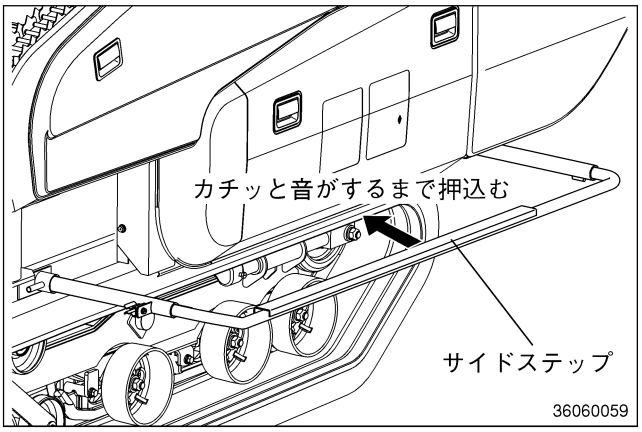
(2) グリップでこぎ胴をおろすと自動固定します。（コンポロックレバーを持って，こぎ胴を上げ下げしないでください。）



(3) コンポロックレバーがコンポロック位置にあることを確認します。
最後まで下がっていない場合は,コンポロック位置までコンポロックレバー(２ヶ所)を下げます。
(4) コンポロックレバーがコンポロック位置にない場合は開く・閉める動作を繰り返して，コンポロック位置にレバーを下げるようにします。



❹ サイドステップを使用した場合は収納します。



11．脱こく内部の掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

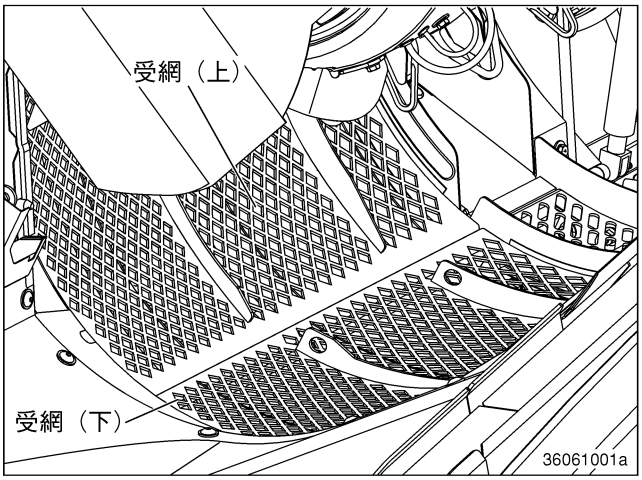
◆脱こく部の各部を掃除するときは，エンジンを停止して，各部の回転が止まってから行なってください。
◆２人以上で作業する場合，特に回転部を動かすときは，互いに声をかけあい，安全を確認してから行なってください。
◆こぎ胴部は，自動ロック位置まで確実に持上げてください。
◆マフラカバーに触れないでください。
◆作業後はカバー類を確実に取付けてください。

品種の混合や稲・麦の混合を防ぐため，また長期格納の際の脱こく内部のワラクズや残粒を取除くために，各掃除口を開けてきれいに掃除します。

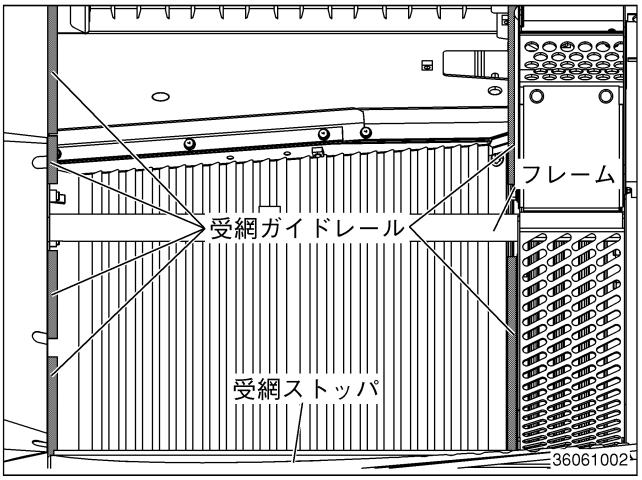
取扱いのポイント

●脱こく内部などの掃除にはブロアを使用すると容易にできます。

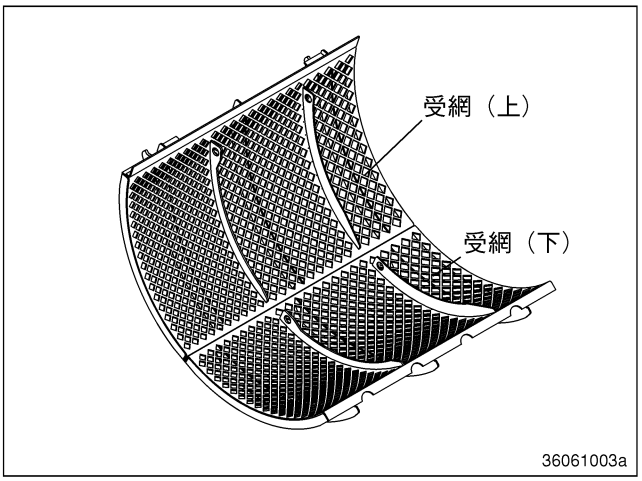
❶ 「脱こく受網（上）・（下）の着脱」
(1) こぎ胴部をいっぱい持ち上げると受網を固定しているロック装置は自動的に解除されます。
(2) 受網（上）を外します。
(3) 受網（下）を外します。



(4) 受網（上）・（下）を取付けるときは受網ガイドレール（5個所),受網ストッパのクズを取除きます。



(5) 脱こく受網の取付けは逆の手順で取付けます。



(6) こぎ胴を閉めると受網は自動的にロックされますが，受網が完全に入っていないときはロックできませんので受網が完全に入っていることを確認します。

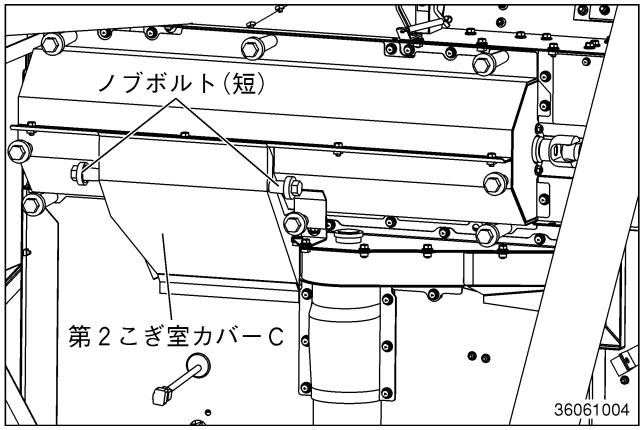
取扱いのポイント

- **長期格納前には，受網（上),（下）は取外して掃除をしてください。**
- **受網ストッパおよび受網ガイドレール(6個所),フレームにこく粒やクズがたまったまま受網をセットするとこぎ歯に当たる場合がありますので掃除してください。**

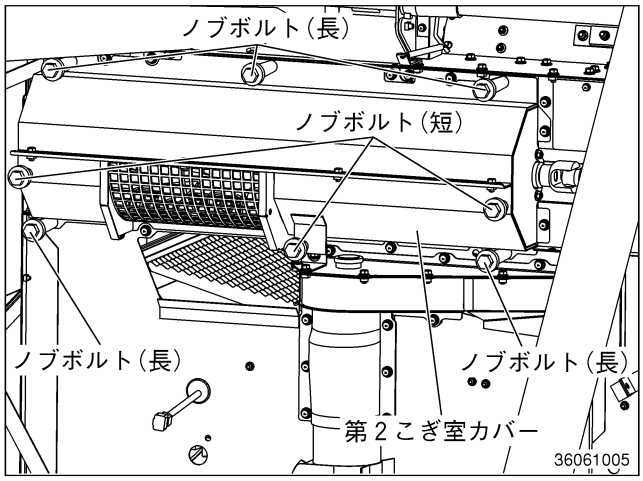
❷ 第2こぎ室の掃除

(1) グレンタンクを回動し，ストッパを掛けます。（119～120ページ参照）

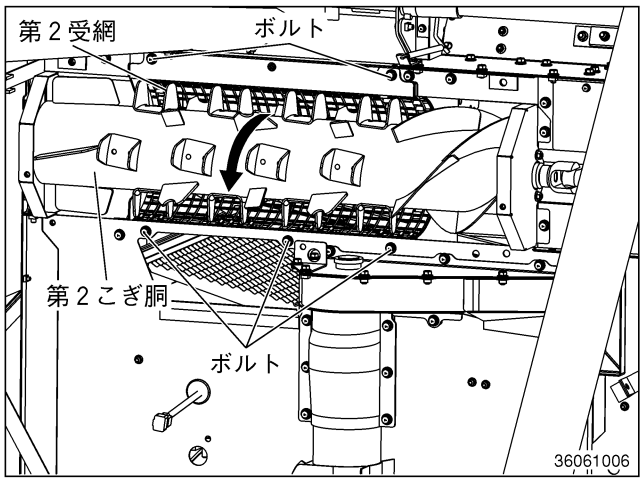
(2) 第2こぎ室カバーCのノブボルト(短2個)を外し，第2こぎ室カバーCを外します。

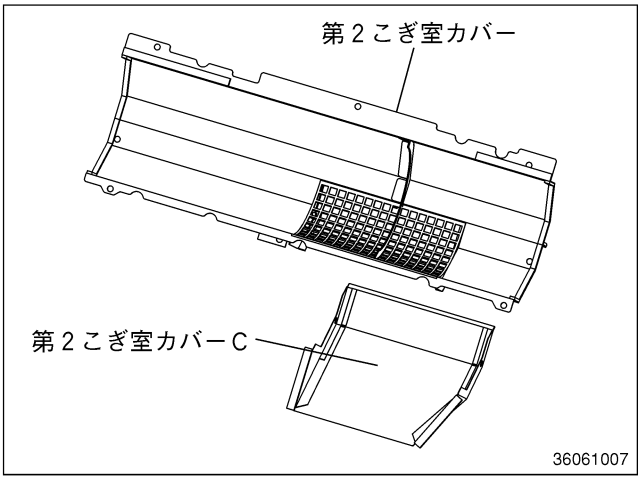


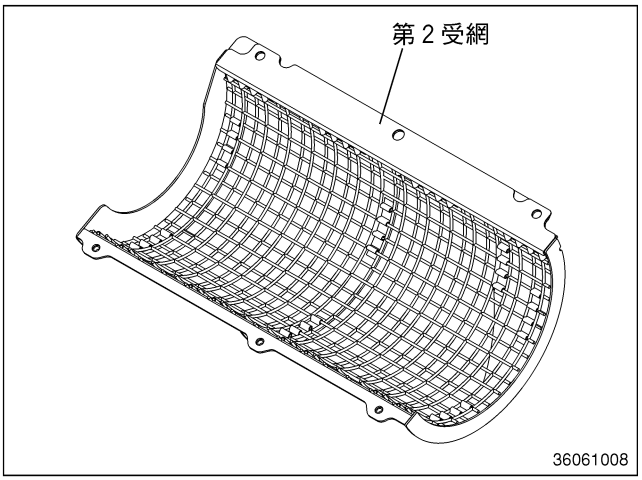
(3) 第2こぎ室カバーのノブボルト（長5個，短3個）を外し，カバーを取外し，内部に残ったクズを掃除します。



(4) 第2受網は，ボルト5本を取外し受網の上側から第2こぎ胴を回すようにして，取外します。







(5) 第２受網，こぎ室カバーの取付けは，逆の手順で取付けます。

(6) グレンタンクを閉じます。(119～120ページ参照)

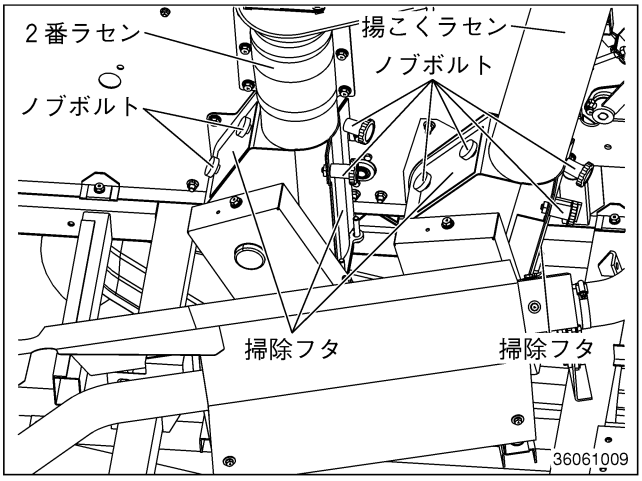
取扱いのポイント

- **長期格納前には，第２受網を取外して掃除をしてください。**

❸ 揚こくラセン部の掃除

(1) グレンタンクを回動し，ストッパを掛けて行います。(119～120ページ参照)

(2) ノブボルトを外し，掃除フタを取外し，内部にたまっているこく粒を掃除し，掃除フタをノブボルトで取付けます。



❹ ２番ラセン部の掃除

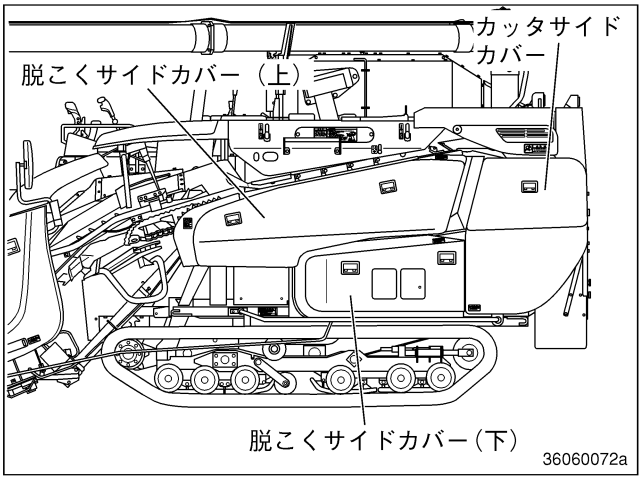
掃除は４個所からできます。

掃除フタを取外し，内部に溜まっているこく粒を掃除し，掃除フタをノブボルトで取付けます。

グレンタンクを閉じます。(119～120ページ参照)

❺ １番ラセン底板，２番ラセン底板の掃除

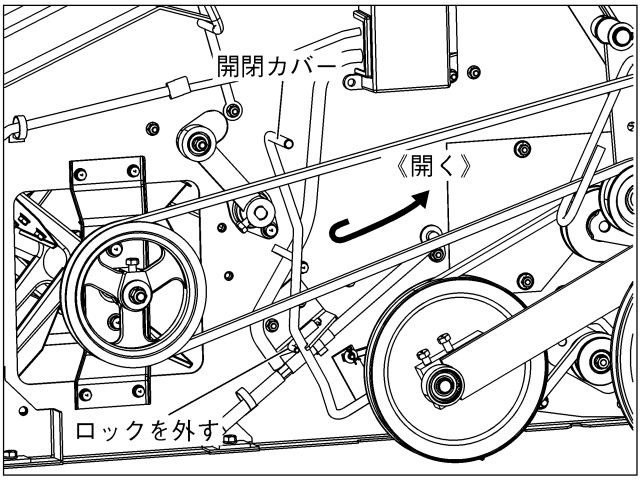
(1) 脱こくサイドカバー（上），(下)，カッタサイドカバーを取外します。



(2) 開閉レバーのストッパを外し，レバーを《開く》方向に操作すると底板が開き，機械の後方下側から掃除ができます。

・ストッパは開閉レバーを右手で支えてから外します。

(3) 脱こくサイドカバー(上),(下),カッタサイドカバーを取付けます。



取扱いのポイント

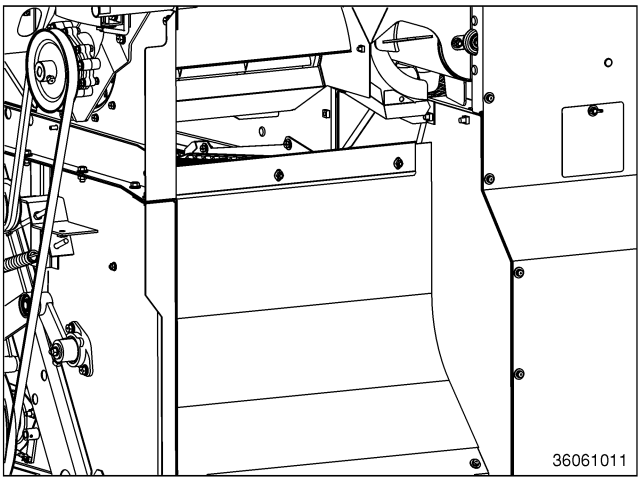
- **掃除後は，底板の合せ面が確実に閉じていることを確認してください。開いていると，こく粒が漏れます。**

❻ 排じん室の掃除

(1) 脱こくサイドカバー(上),(下),カッタサイドカバーを取外します。

(2) カッタを開きストッパをかけ，スナップピンで固定します。(126ページ参照)

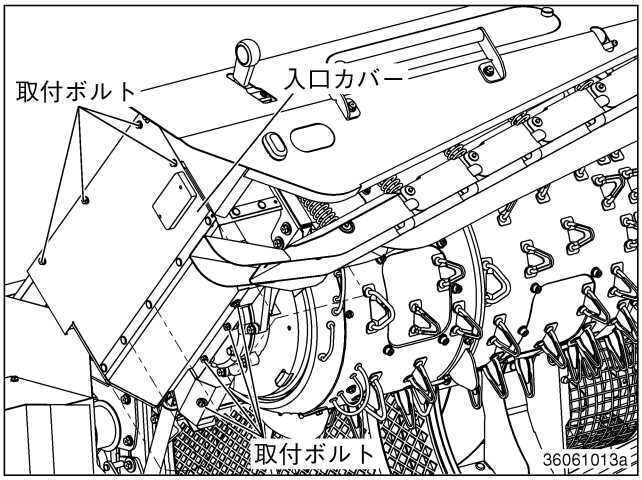
(3) カバーをめくり排じん室のワラクズ等を掃除します。



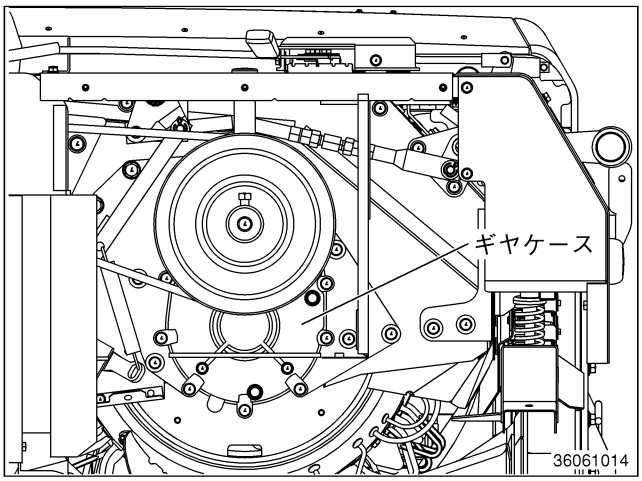
(4) 作業後ファンカバー，カッタを閉じ脱こくサイドカバー（上),(下)，カッタサイドカバーを取付けます。

❼ こぎ胴ギヤケース部の掃除

(1) コンポアップをして，取付ボルトを外し入口カバーを取外します。(121～122ページ参照)

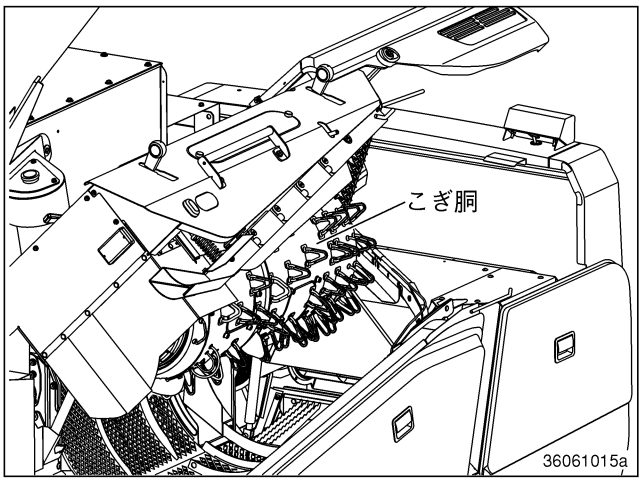


(2) カバー内の掃除とギヤケース下部の掃除を行いカバー類を取付けコンポアップを閉じます。



❽ 脱こくこぎ室の掃除

こぎ胴をオープンします。(121～122ページ参照)
こぎ室を掃除し，こぎ胴を閉じます。



12．カッタのオープンのしかた

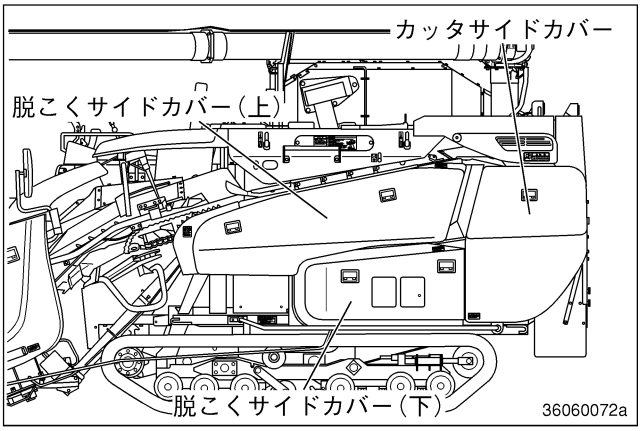
⚠警告 傷害事故防止のために

◆カッタをオープンするときは，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行なってください。

◆カッタをオープンして点検作業等をするときは，ストッパをかけてスナップピンで固定してください。
ストッパをロック状態にしないと,カッタが回動して傷害事故を起こすことがあります。

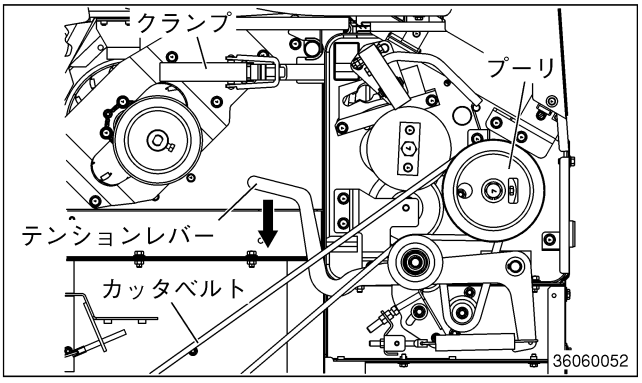
◆カッタをオープンしたときはカッタ刃に触れないようにしてください。

❶ 脱こくサイドカバー（上)･(下)およびカッタサイドカバーを取外し，カッタ下部カバー(右)を収納状態にします。



❷ テンションレバーを下方に押下げカッタベルトをゆるめ,カッタベルトをプーリより取外します。

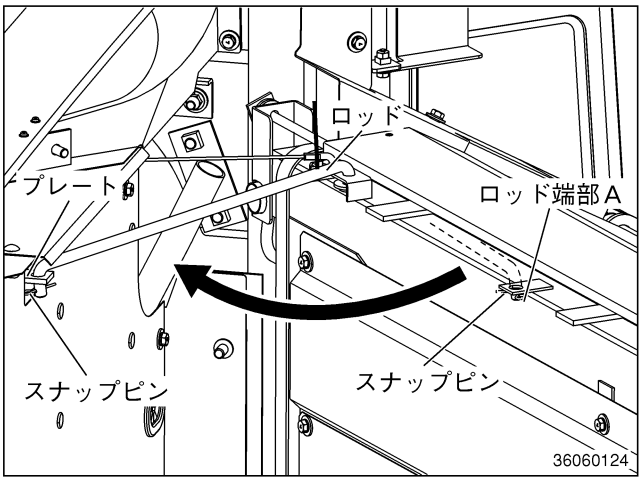
❸ クランプを解除します。



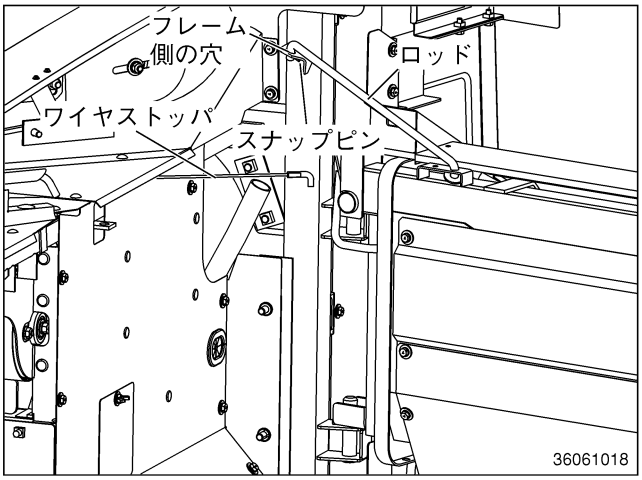
❹ カッタを少し上方へ持ち上げながら，後方へオープンします。

❺ カッタのロッド端Aについているスナップピンを抜き，ロッドを上方へ持ち上げ，矢印の方向へ回動させます。

❻ ロッドをプレートの穴に入れ，スナップピンを差込み固定（ロック）状態にします。



❼ さらにカッタを開きたいときは，ワイヤストッパのスナップピンを外し，カッタを開き，ロッドをフレーム側の穴にかけてスナップピンで固定します。



取扱いのポイント

- **ワイヤストッパのスナップピン部にワッシャが２枚ありますので落とさないように注意してください。また，組付時に忘れずに取付けてください。**

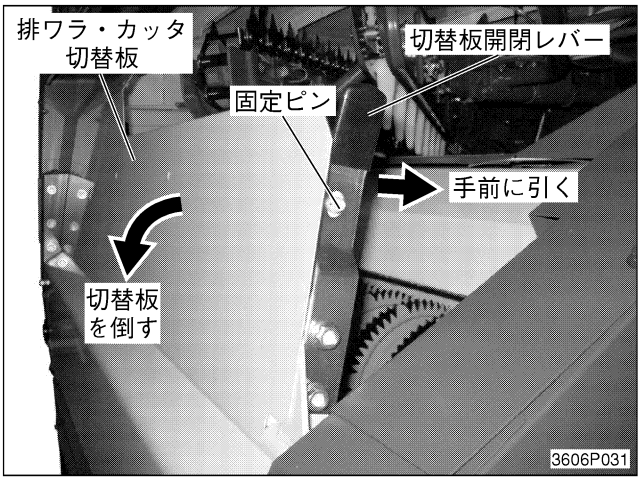
❽ カッタを閉じるときは，逆の手順で行います。

13．切替板の開閉のしかた

⚠危険 傷害事故防止のために

◆切替板開閉レバーを操作するときは必ずエンジンを停止してください。

切替板開閉レバーを手前に引いて固定ピンから外し，切替板を倒すことができます。カッタ刃部，排ワラチェン終端部を後面から確認できます。



取扱いのポイント

●切替板が開いていると，排ワラランプが点灯しています。エンジン始動はできますが，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《脱こく》《入》にするとエンジンが停止しますので必ず切替板は作業後に閉じてください。

14．揺動流板の掃除

⚠注意 傷害事故防止のために

◆揺動流板の脱着作業は，２人作業で合図を掛け合って行ってください。

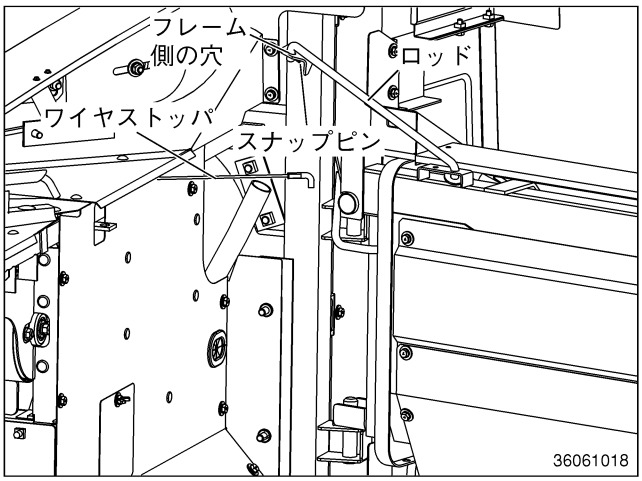
❶ 揺動流板の取外しかた

⑴ 脱こくサイドカバー（上，下）・カッタサイドカバーを外します。

⑵ カッタ下部カバー（右）を収納状態にします。

⑶ カッタを開きワイヤストッパのスナップピンを外します。

⑷ カッタをさらに開き，ロッドをフレーム側の穴にかけてスナップピンで固定します。



取扱いのポイント

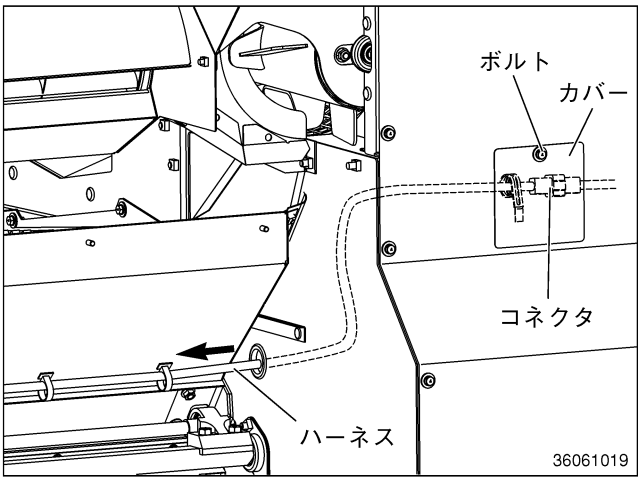
●ワイヤストッパのスナップピン部にワッシャが２枚ありますので落とさないように注意してください。また，組付時に忘れずに取付けてください。

⑸　揺動流板を取外します。

①　揺動流板前側を持ち上げられるように，受網（上），（下）を外しておきます。（121～122ページ参照）

②　ボルトを外してカバーを取外します。

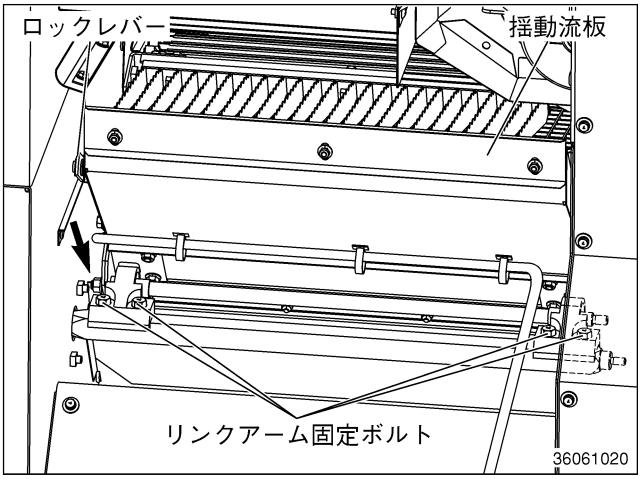
③　裏側に固定してあるコネクタをカバーから外し穴より引出しカプラを外します。



④　ハーネスを揺動流板まで引出します。

⑤　揺動流板後部のリンクアーム固定ボルト左右２本を外します。

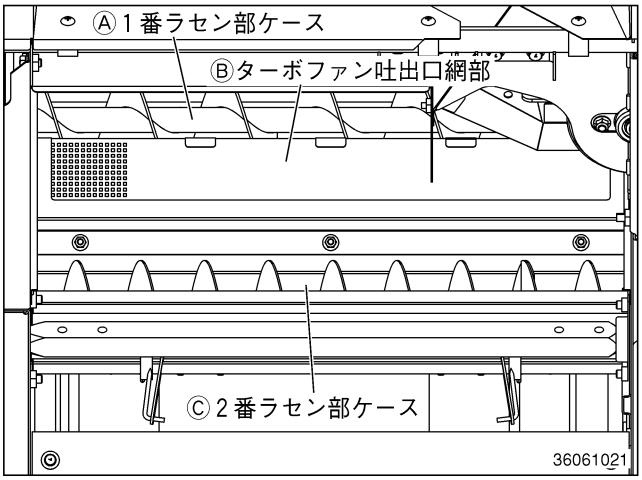
⑥　揺動流板後方左側のロックレバーを矢印の方向に回動させます。

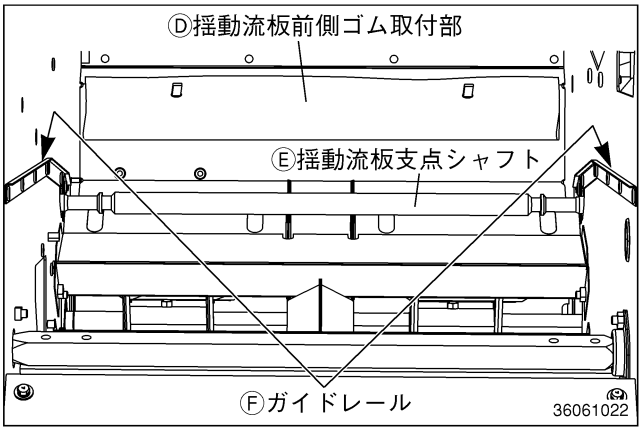


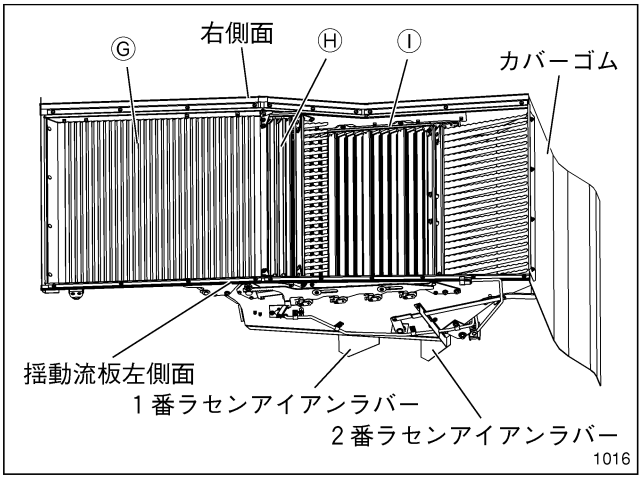
⑦　揺動流板の前後を２人で少し持ち上げた状態で後方へゆっくり抜出します。

❷　揺動流板の掃除のしかた

揺動流板を外した後の脱こく内部Ⓐ～Ⓕと揺動流板上面及び左右側面を掃除します。







取扱いのポイント

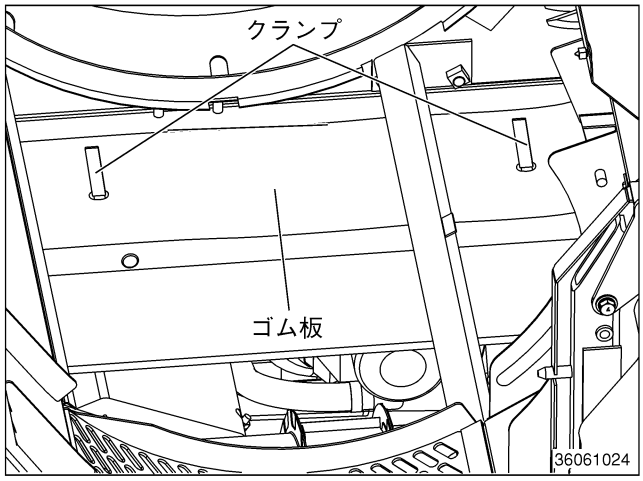
［Ｓ仕様］

- **揺動流板のⒼ～Ⓘ部は，撥水塗装が施されています。こまめに掃除することで撥水効果を持続することができます。鋭利なもの等で掃除すると撥水塗装が剥離します。毛先のやわらかいブラシ等で掃除します。**

●使用条件により部分的に撥水塗装が剥離する場合がありますが，極端な機能低下とはなりませんので継続してご使用ください。
なお撥水塗装が全体的に剥離した場合が交換の目安となります。

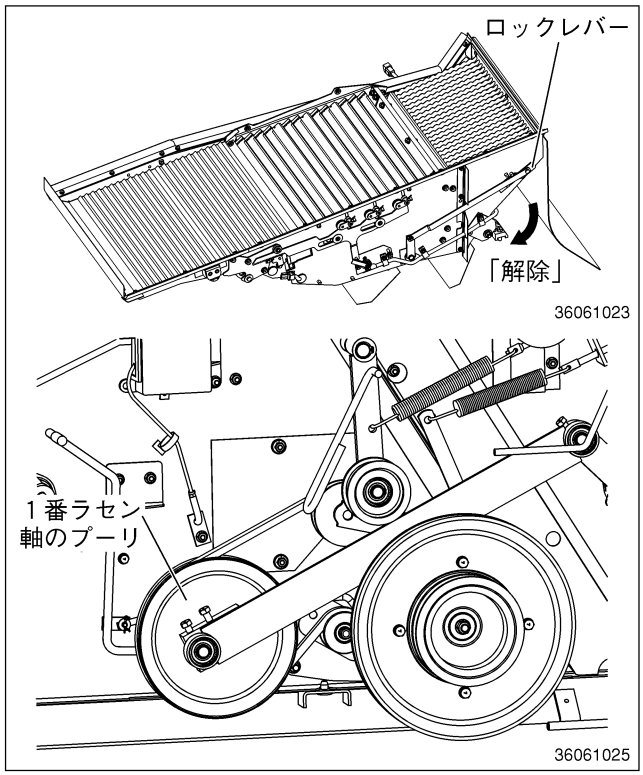
❸ 揺動流板の取付けかた

(1) 揺動流板先端のゴム板を持ち上げてゴム板の穴にクランプを通して固定します。(揺動流板のかみ込みを防ぐため)

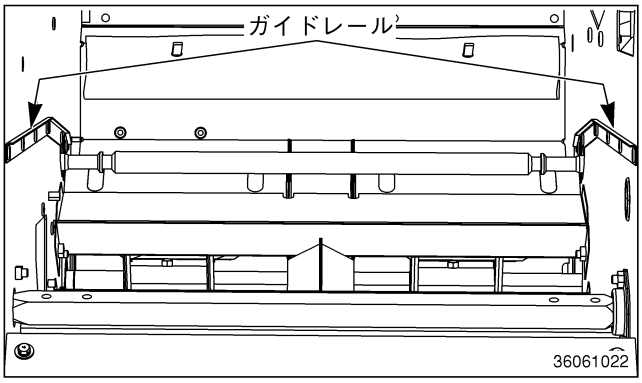


(2) 揺動流板を組付けます。

① 揺動流板後方左側のロックレバーを「解除」位置にし，リンクアーム固定ボルト取付部が真上に向くように1番ラセン軸のプーリを回します。



② 脱こく内部側面の左右のガイドレールに揺動流板先端のローラをのせ，少しずつ押込んでいきます。(2人作業)



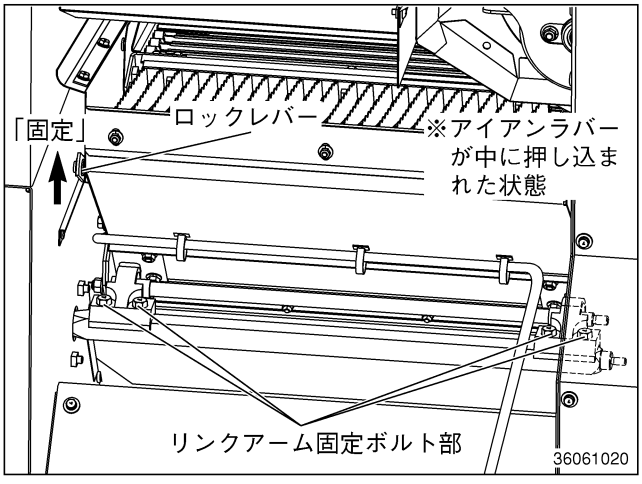
取扱いのポイント

●揺動流板はロックレバーを「解除」方向に押さえながら押込んでください。(ロックレバーは揺動流板側面のストッパに当たるまで押付けてください)

●揺動流板を押込むときに2番ラセンアイアンラバーも確実に押込まれているか，確認してください。はさみ込むと，揺動流板をセットできません。

③ リンクアーム固定部をシャフトにはめ込み，ボルトをゆるく締付けます。

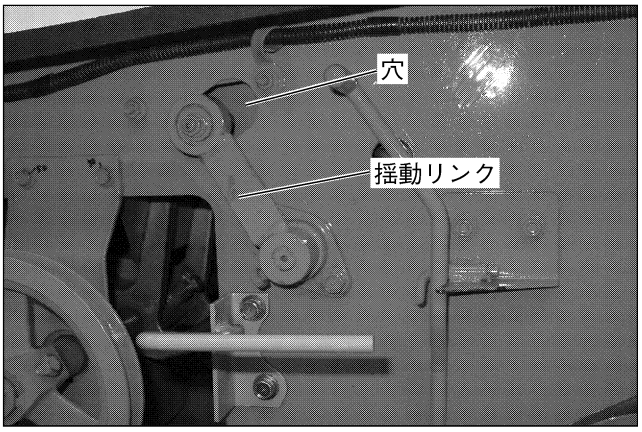
④ ロックレバーを「固定」位置にします。



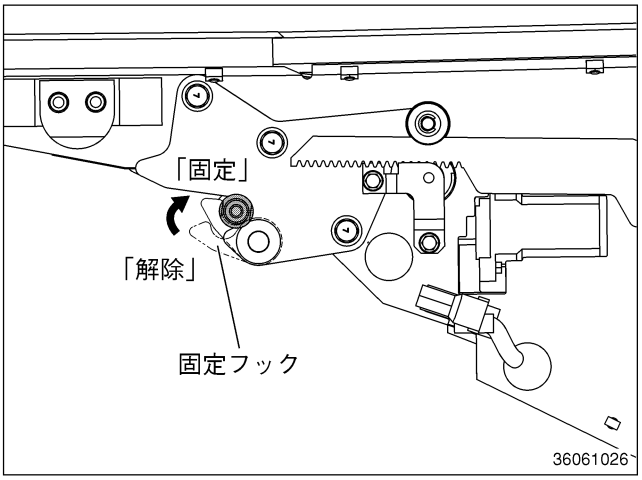
取扱いのポイント

●揺動流板が確実に入っていないときは，ロックレバーを「固定」位置にしても，レバーにあそびがあり，ロックできません。この状態のときは再度セットし直してください。(①から)

⑤　揺動リンクの穴から内部をのぞきます。
（揺動流板のロック部が見えます）



⑥　固定アームがピンにかかっていること（固定状態）を確認します。

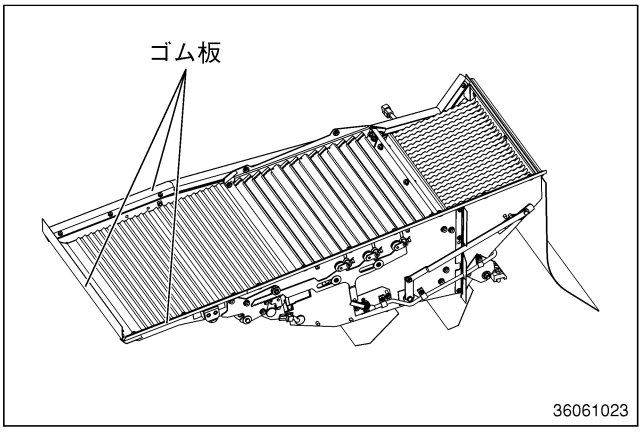


⑦　右側面についても同様に固定アームがピンにかかっていることを確認します。(グレンタンクをオープンし，確認します)

取扱いのポイント

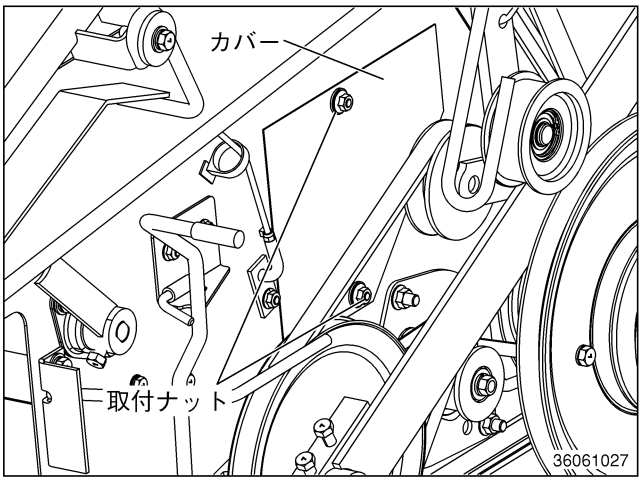
- **固定アームがピンから外れている場合または確実に固定されていない場合は再度セットし直してください。(①から)**
- **揺動流板が正常にセットされていないと機械の破損の原因となります。揺動流板は確実に奥まで押込んでロックレバーを確実に「固定」してください。**

⑧　揺動流板両面のゴム板がかみこんで折曲がっていないことを確認します。

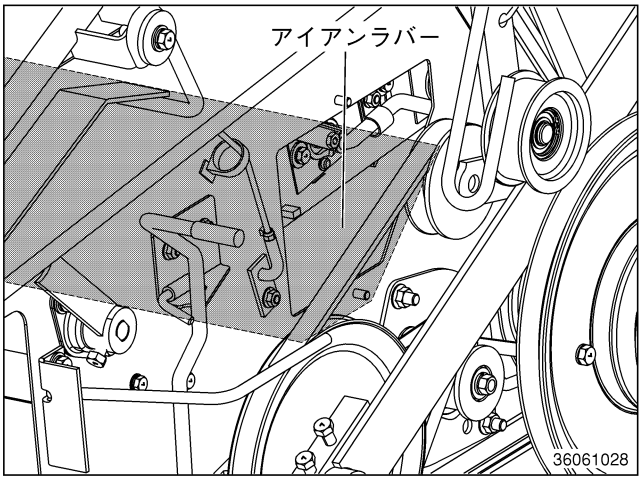


⑨　揺動流板下部の１番ラセンアイアンラバーが折曲がっていないことを確認します。

１．カバーを外します

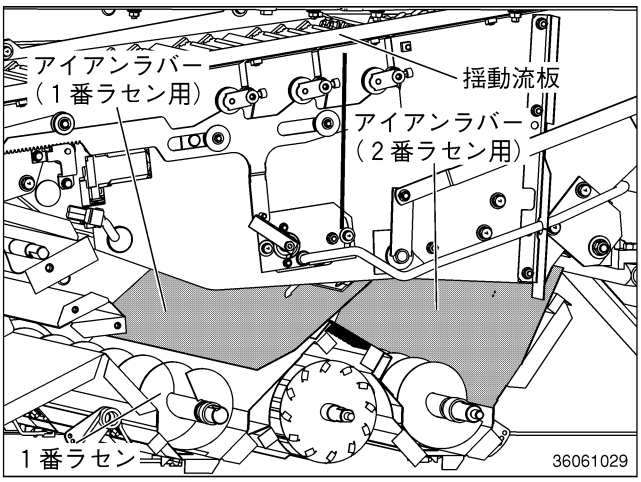


２．目視でアイアンラバーが曲がっていないか確認し，曲がっていたらドライバなどで直します。

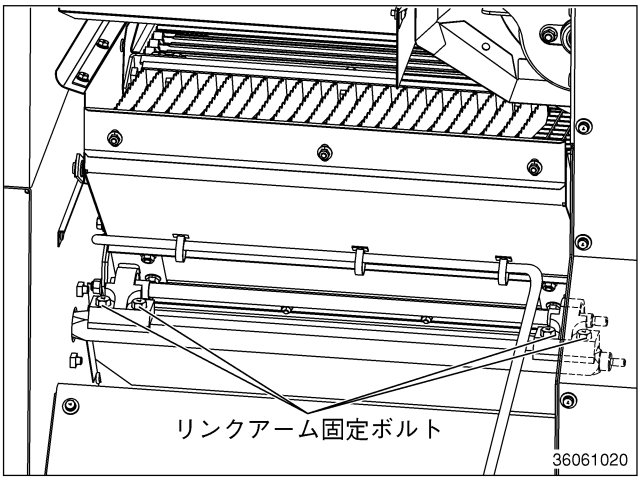


3．１番ラセンの斜面部分に収まっているか確認します。

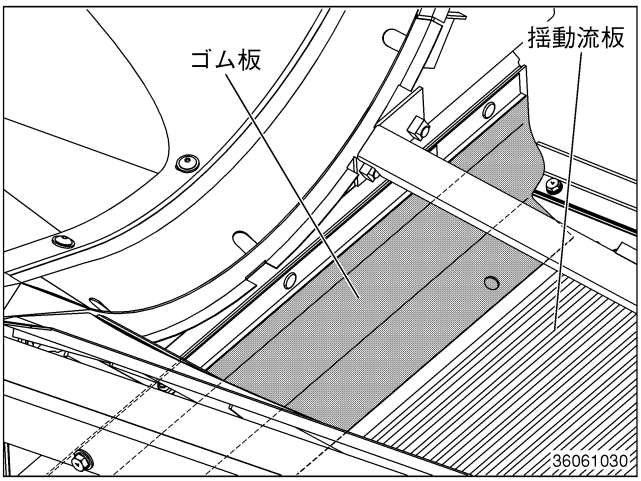
4．揺動流板後部から見て,アイアンラバー（２番ラセン用）が，２番ラセンの斜面部分に収まっているか確認します。



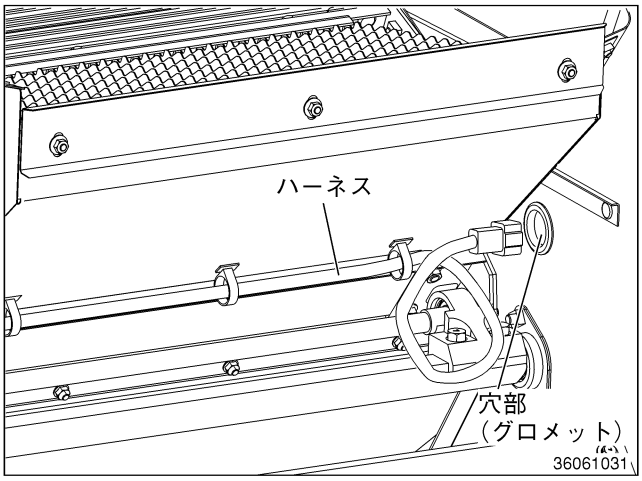
⑩　揺動流板後部のリンクアーム固定ボルト左右各２ケを取付け確実に締付けます。



⑪　(2)で固定したゴム板をクランプから外し，揺動流板の上にたらします。

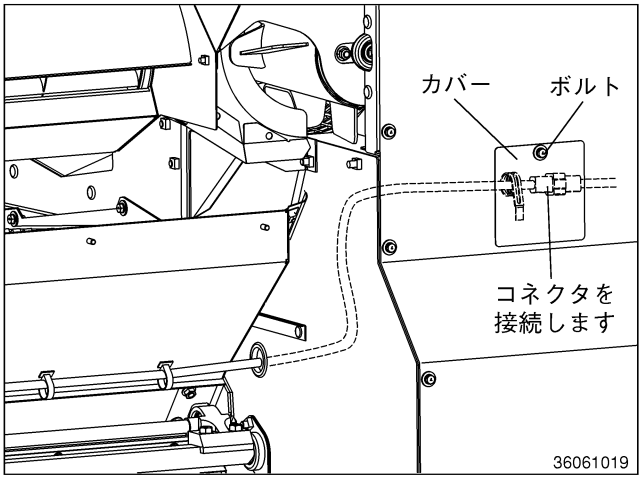


⑫　ハーネスをゴムの付いた穴部（グロメット）を通してグレンタンク側に出します。



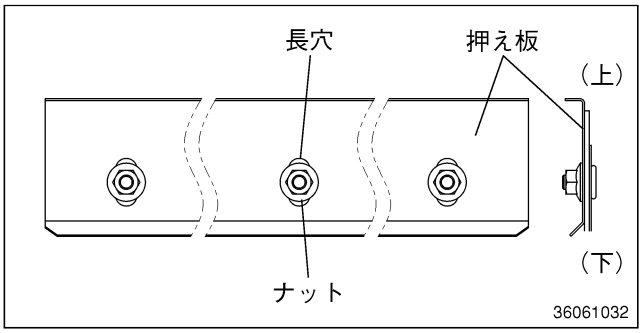
⑬　コネクタを接続し，カバーにコネクタを固定します。

カバーを取付ボルトで固定します。

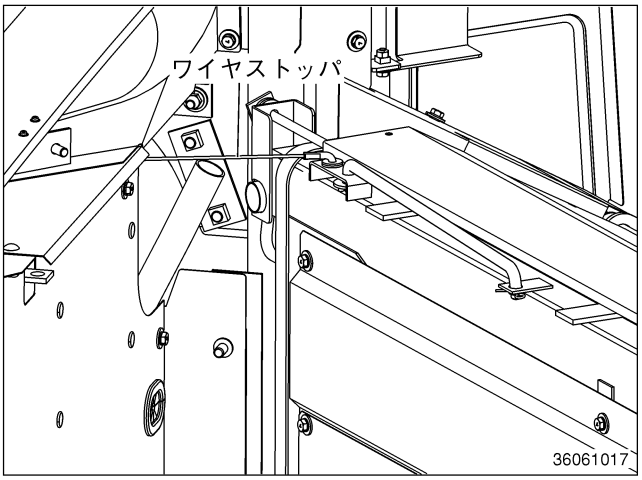


取扱いのポイント

● 押え板は長穴中央で組付けます。



⑭　カッタを収納します。(閉じます)
　　このときワイヤストッパを組付けます。



取扱いのポイント

●ワイヤストッパを組付けるときは取外しの逆の手順で行なってください。

⑮　受網（上・下）を取付けます。
⑯　外したカバーおよびベルトを取付け，脱こくサイドカバー（上，下），カッタサイドカバーを取付けます。
⑰　こぎ胴部を閉じます。(コンポアップ収納)

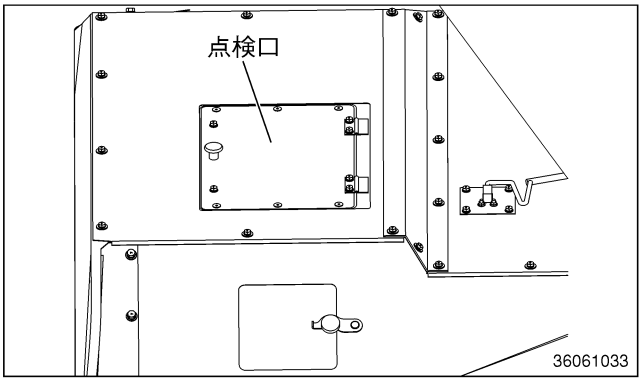
15．グレンタンク部の掃除

⚠警告　傷害事故防止のために

◆グレンタンクの掃除をするときは平坦な場所でエンジンを停止し,駐車ブレーキをかけ各部の動きが止まってから行なってください。
◆作業後カバーを取付けてください。

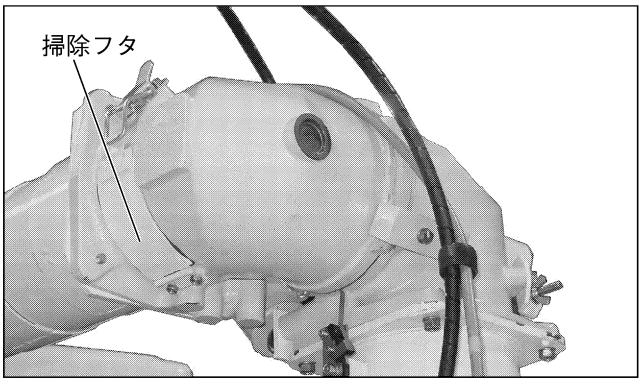
❶　グレンタンク内の掃除

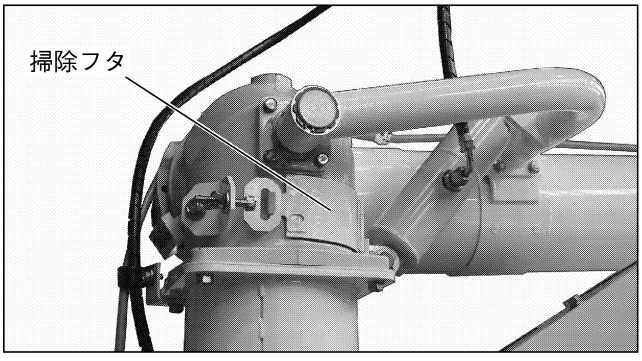
グレンタンク上部の点検口より確認し，必要によりホウキ等でホコリを払います。落としたホコリはタンク下部ラセンカバーを開いて取出します。



❷　縦ラセン筒上部の掃除

排出オーガを上げ，上部ラセン掃除フタを開いて掃除をします。



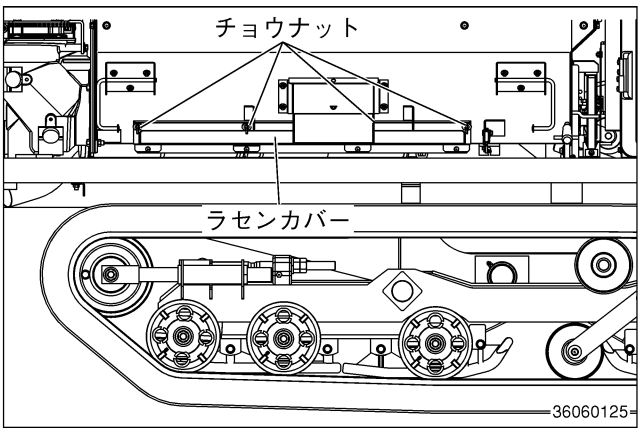


❸ 横ラセン部の掃除

(1) グレンタンクの下部カバーを取外します。

(2) ラセンカバーを開いて，掃除します。

(3) 作業後，グレンタンク下部カバーを取付けます。

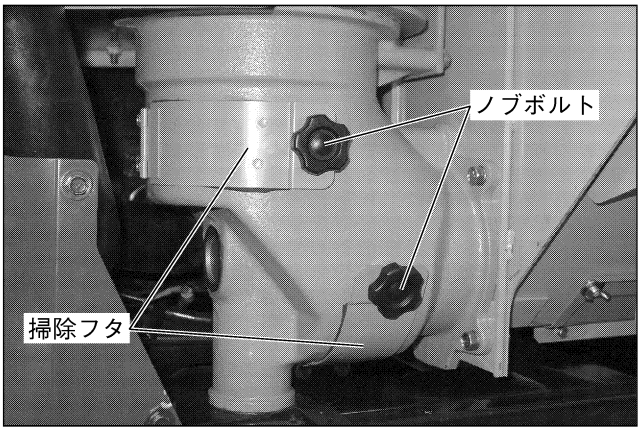


❹ 縦ラセン筒下部の掃除

(1) グレンタンクの下部カバーを取外します。

(2) 縦ラセン下部の掃除フタを開いて，掃除します。

(3) 作業後，グレンタンク下部カバーを取付けます。



取扱いのポイント

- **各掃除フタ（カバー）はモミかみ等によるスキマがないことを確認して，確実に締めてください。**

16．刈取部の開閉のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

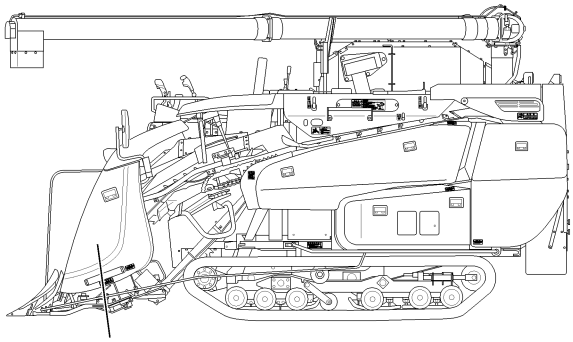
- ◆刈取部をオープンするときは，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行なってください。
- ◆刈取部をオープンしたまま，走行しないでください。
- ◆枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをしてください。
- ◆取外したカバー類は,必ず取付けてください。
- ◆刈取部をオープンしたまま機体をジャッキアップしないでください。
- ◆機体をジャッキアップしたまま刈取部をオープンしないでください。

取扱いの手順書は刈取部サイドカバー（左）の内側に貼ってあります。

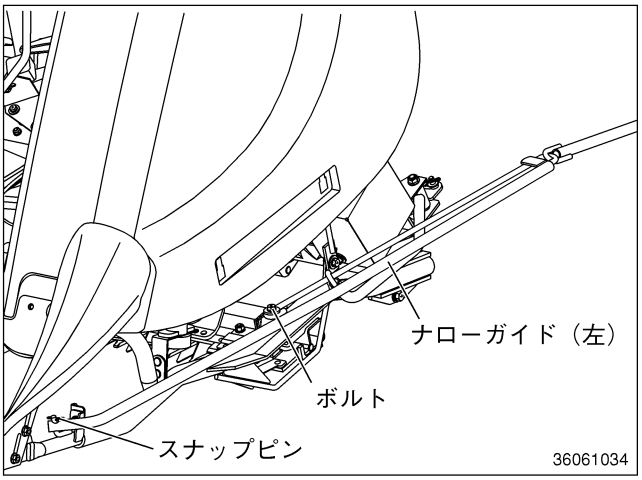
❶ 刈取部の開き方

(1) 機体を下げます。水平操作レバーで機体を最下降位置にします。

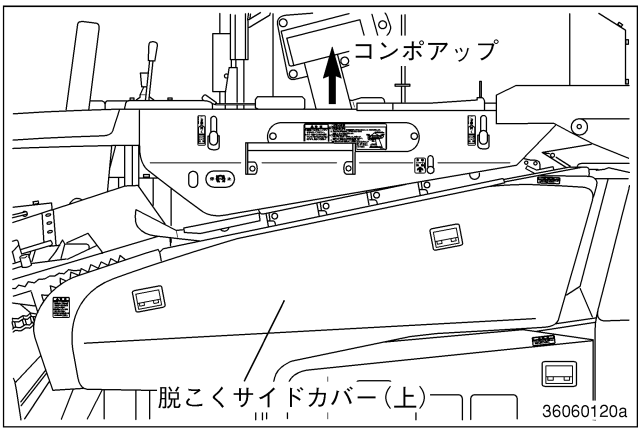
(2) 刈取部を床面まで降ろしたあと，エンジンを停止します。



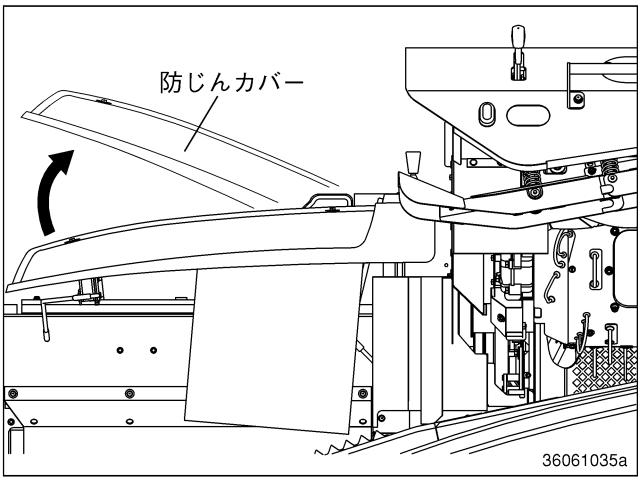
(3) ナローガイド(左)のボルト１本とスナップピンを外しナローガイド(左)の前側のみ外します。



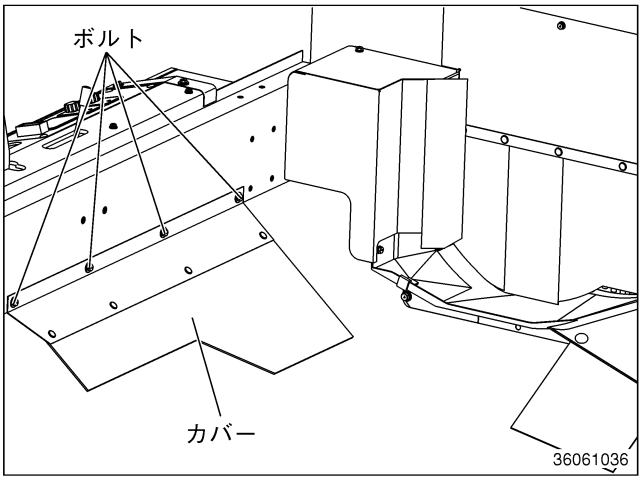
(4) 脱こくサイドカバー（上）を取外しコンポアップをします。



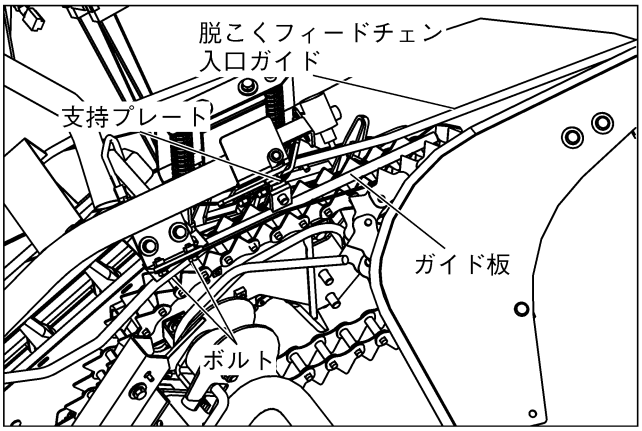
(5) 防じんカバー付は防じんカバーを開いておきます。



(6) 運転席横カバーのボルト４本を外しカバーを取外します。

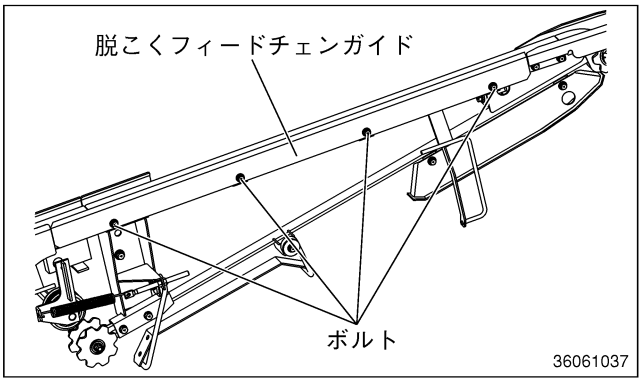


(7) 支持プレートを外し，脱こくフィードチェンガイド（入口ガイド）を取外します。
ガイド板のボルト２本を外し，ガイド板を取外します。



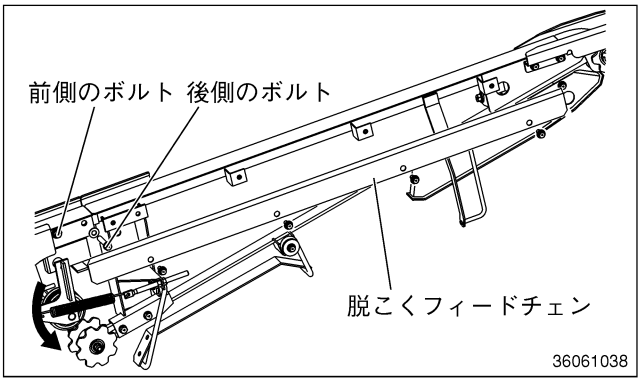
(8) 脱こくフィードチェン先端部を下方へ回します。

① 脱こくフィードチェンガイドのボルト４本を外して脱こくフィードチェンガイドを取外します。

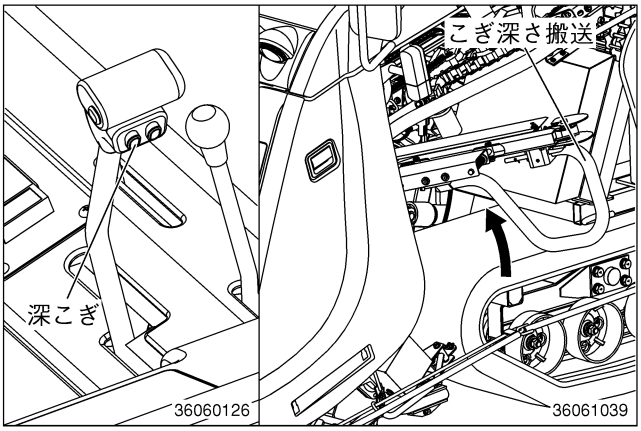


② 脱こくフィードチェンガイドを外すと脱こくフィードチェン固定ボルトが２本あります。後側のボルトを外し，前側のボルトをゆるめます。

③ 脱こくフィードチェン先端部を矢印方向に回します。



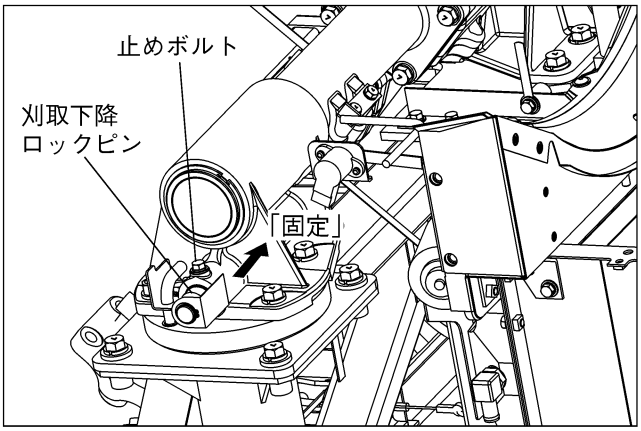
⑼ スタータスイッチを《**入**》位置にしたあと，手動こぎ深さスイッチの《**深こぎ**》を押してこぎ深さ搬送チェン最上昇位置にします。



⑽ エンジンを始動したあと，刈取部を最上昇位置にし，エンジンを停止させます。

⑾ 刈取下降ロックピンを「**固定**」位置にします。

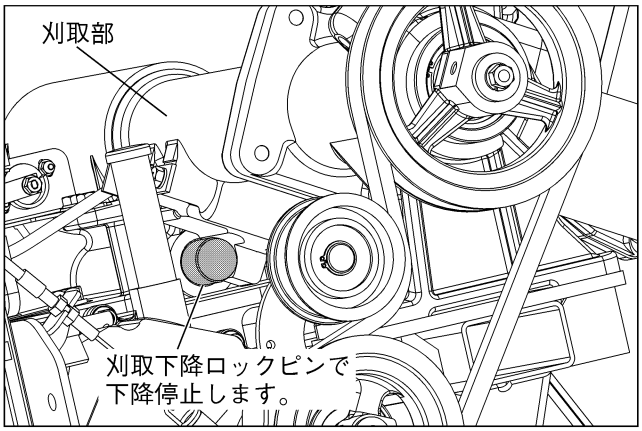
・止めボルトをゆるめてロックピンを矢印方向へいっぱいに押込んで再度ボルトで締付けます。



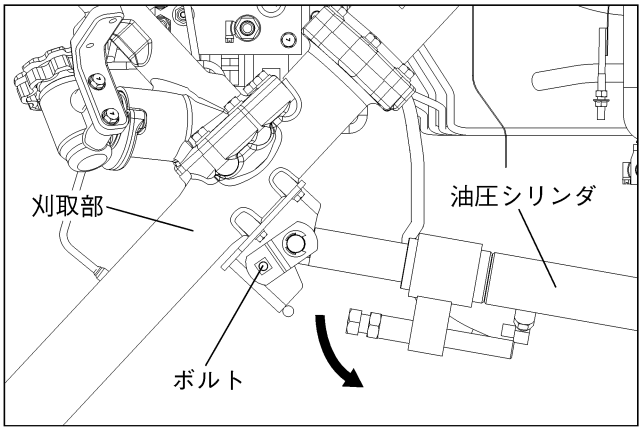
⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈取下降ロックピンが作用していることを確認します。作用していないと刈取部が下がるおそれがあります。

⑿ 再びエンジンを始動させ，マルチステアリングレバーで刈取部の下降が停止するまで刈取部を下降させ，エンジンを停止させます。



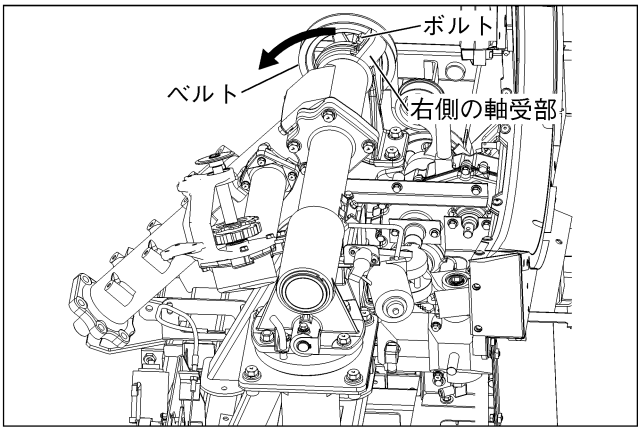
⒀ 刈取部と油圧シリンダを固定しているボルトを外し，油圧シリンダを下方へ外します。



取扱いのポイント

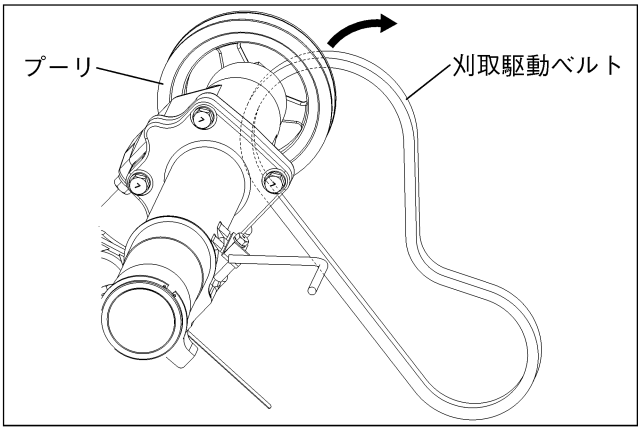
● **油圧シリンダが外しにくい場合はシリンダ先端部を押さえながら下げてください。**

⑭　右側の軸受部ボルトを外し，軸受けを前側に倒します。
　このとこ刈取駆動ベルトも外しておきます。

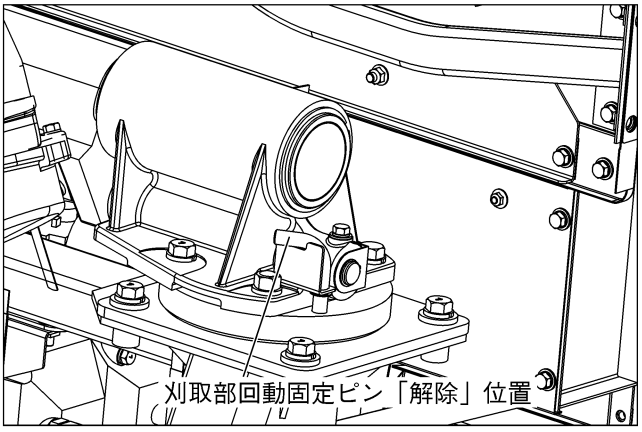


取扱いのポイント

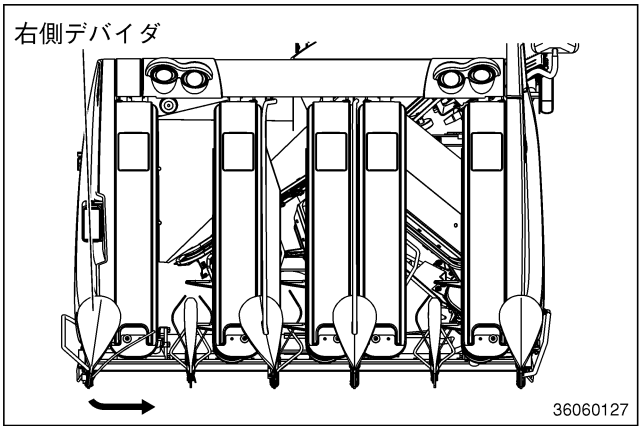
●外した刈取駆動ベルトをそのままの状態ですと刈取部オープン時にプーリに引っ掛ることがありますので刈取駆動ベルトを脱こく側におき，プーリ位置を外すと，容易に刈取部がオープンできます。



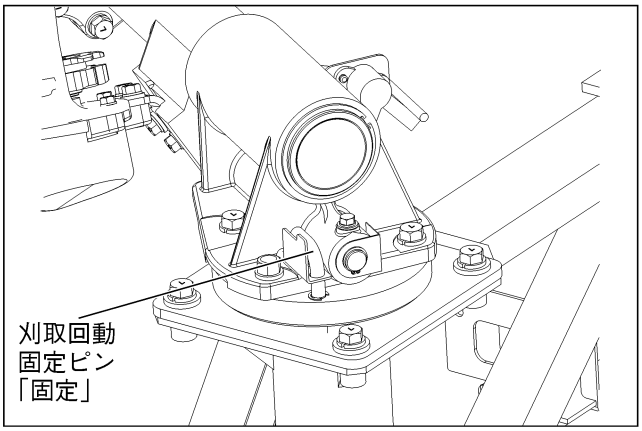
⑮　刈取部をオープンします。
①　刈取部回動固定ピンを解除位置にします。

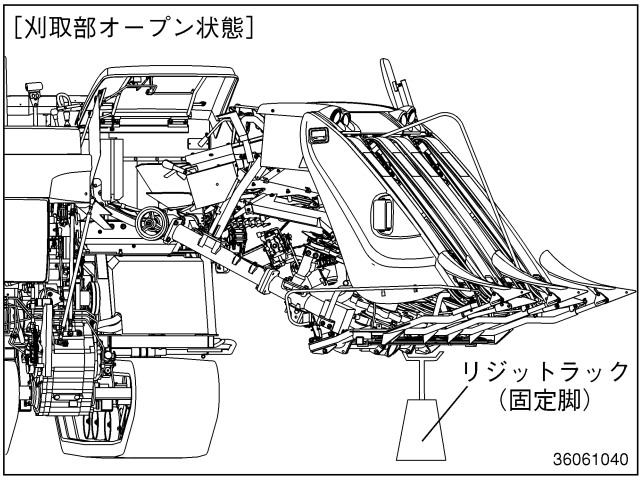


②　刈取部を持上げ少し開き，刈取部回動固定ピンを「**解除**」位置から外します。
③　右側のデバイダを持ち機体左側へ回動させて刈取部下方にリジットラック（固定脚）をセットします。



④　刈取部を刈取オープン穴位置まで回動させて回動固定ピンで固定します。

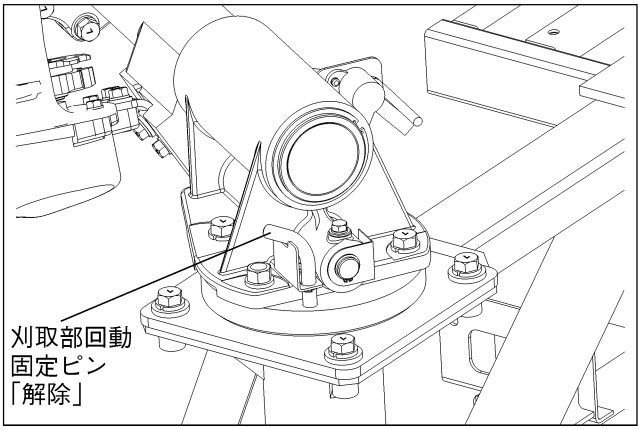




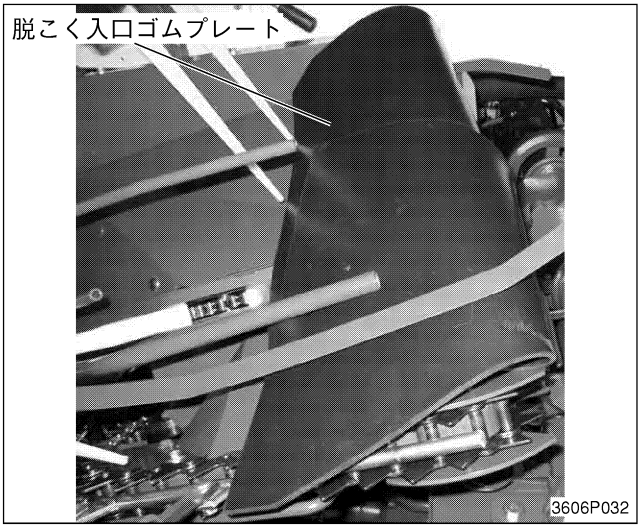
❷ 刈取部の閉じかた

⑴ リジットラック（固定脚）を外し刈取部を閉じます。

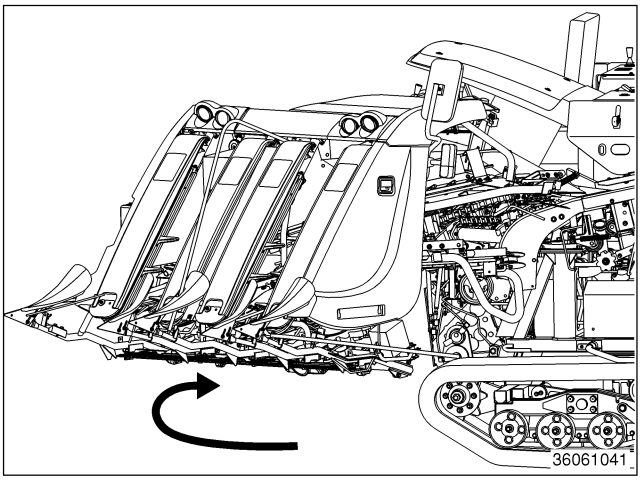
① 回動固定ピンを「**解除**」位置にします。



② 脱こく入口ゴムプレートを穂先ガイドで固定（はさんだ状態）してください。

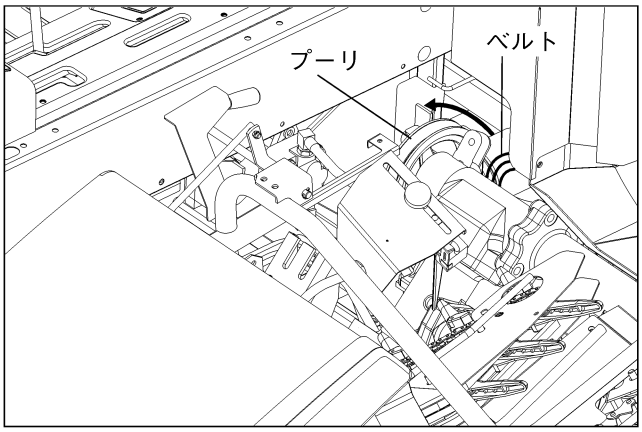


③ 刈取部を機体右側へ軸受けに軸が入るまで回動します。



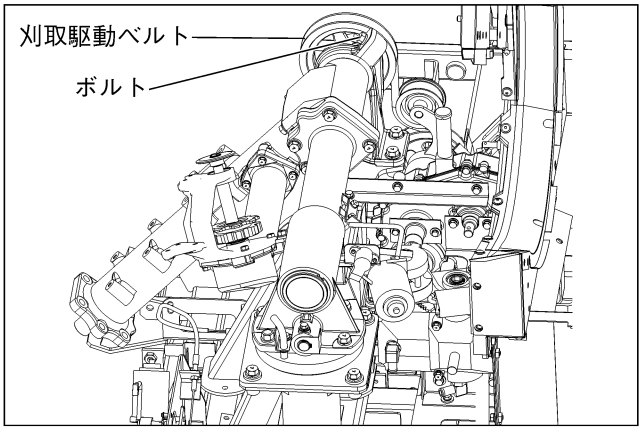
取扱いのポイント

- **刈取駆動ベルトがプーリの左側（内側）に入っているときは，刈取部を少し開いて刈取駆動ベルトをプーリ右側（外側）の位置にしてください。**



⑵ 刈取軸右側の軸受けをボルトで締付けます。

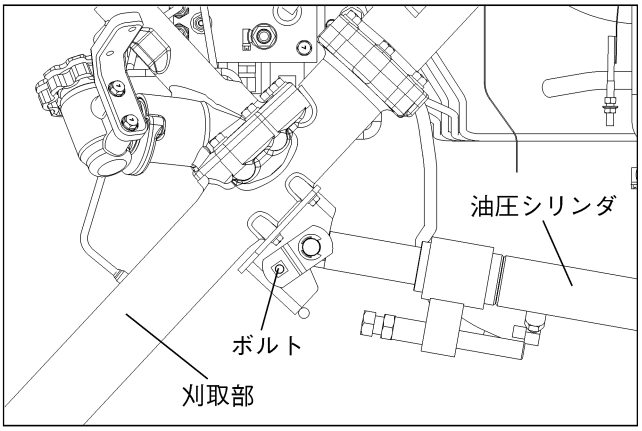
⑶ 刈取駆動ベルトをプーリに掛けます。



取扱いのポイント

- **軸受けを組付ける前に，軸受にグリスを塗布してください。**

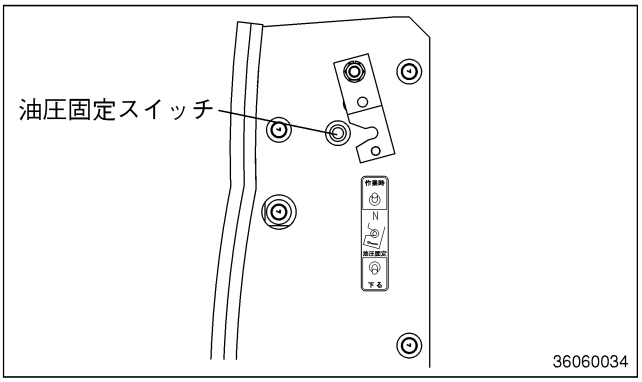
(4) 刈取部と油圧シリンダをボルトで固定します。



取扱いのポイント

- **油圧シリンダが穴位置に合わないときは，油圧シリンダの長さを調整して行なってください。**

(5) 油圧固定スイッチを《**作業時**》位置にします。

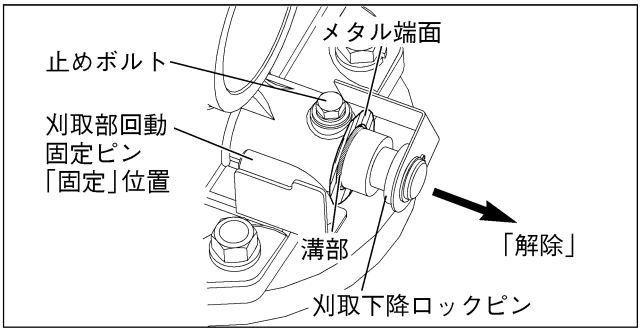


(6) エンジンを始動したあと，刈取部を最上昇位置にし，エンジンを停止させます。

(7) 刈取下降ロックピンを「**解除**」位置にします。

・止めボルトをゆるめてロックピンを引出し溝部がメタル端面と重なる位置（ボルトの締付けができる位置）で再度ボルトを締付けます。

(8) 刈取部回動固定ピンは「**固定**」位置にします。

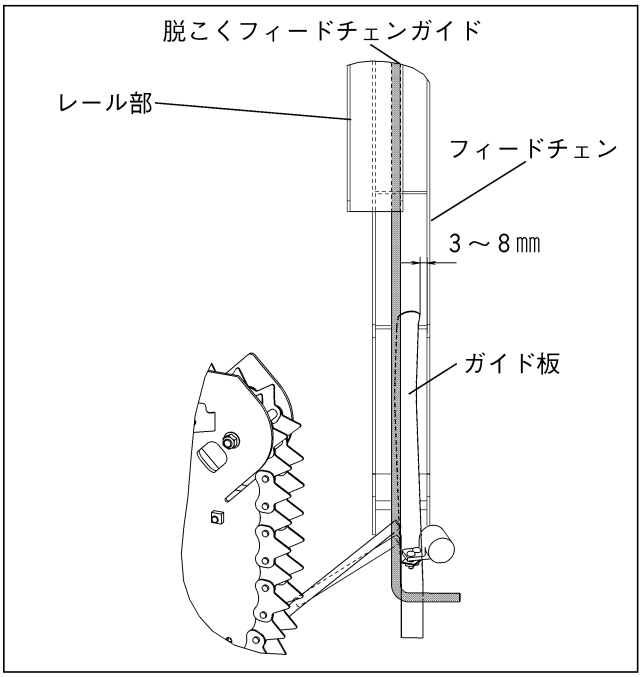


(9) エンジンを始動し，刈取部を床面まで降ろしスタータスイッチを《**切**》位置にします。

(10) 開き方の手順(3)～(8)と逆の手順で各部品を取付けます。

取扱いのポイント

- **脱こくフィードチェンガイド（入口ガイド）がレール部の内部にあることを確認します。**
- **ガイド板の先端寸法が** 3～8㎜ **になっていることを確認します。**



4. 各部の点検と部品交換のしかた

1. カッタ刃組品の取外しと分解

⚠危険 傷害事故防止のために

◆カッタをオープンしてカッタ刃組品の取外し，分解をするときはエンジンを停止し，平坦な場所に機械を静置してください。

◆刃の交換作業は，厚手の手袋を着用し２人作業で合図をし合って行なってください。

⚠注意

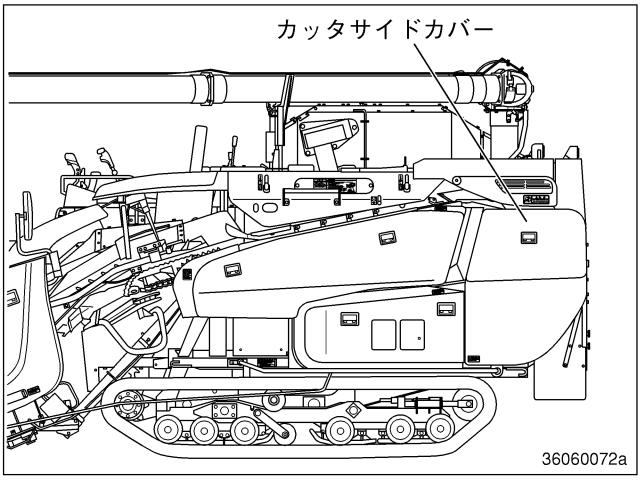
◆各部の点検と調整で外したカバー類は，全て元の位置に取付けてください。

カッタ刃組品（ノコ刃，スターホイル刃）の交換方法

- **ノコ刃軸はカッタをオープンせず後側より取外します。**
- **スターホイル軸はカッタをオープンして前側より取外します。**

❶ ノコ刃軸の交換

(1) カッタサイドカバーを取外します。

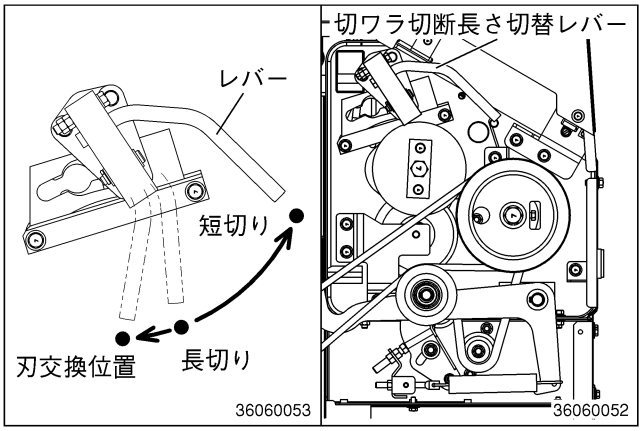


(2) カッタ刃の交換は，カッタ排ワラ切替レバーを《**カッタ**》位置にして行ってください。

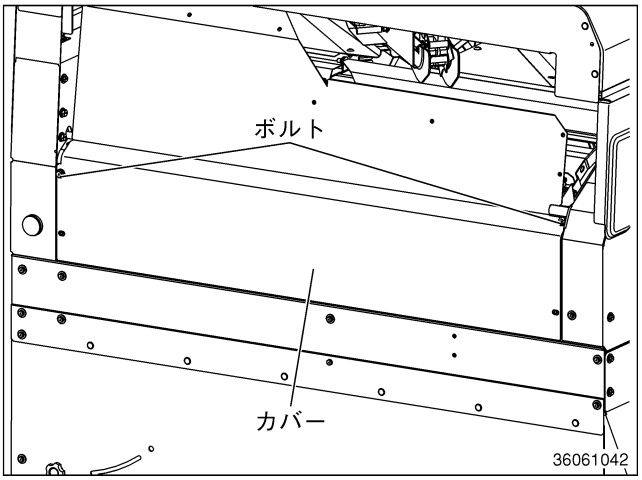


(3) 切ワラ切断長さ切替レバーを刃交換位置にする。

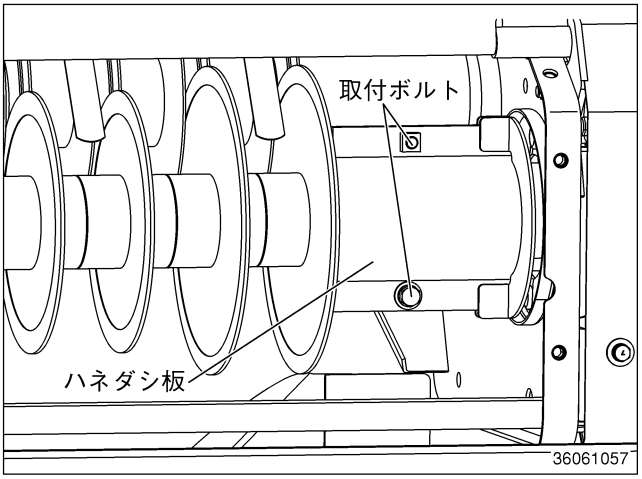
・刃交換位置への切換は，ロックが外れる位置まで切ワラ切断長さ切替レバーを引き回動します。

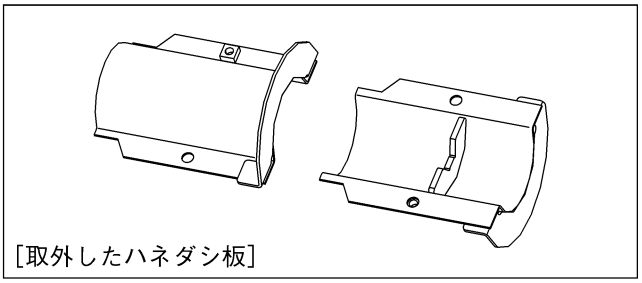


(4) カッタ後面のカバーを外します。
・カバーの取付ボルトは下記の 2 個です。このボルトを取外してカバーを外します。

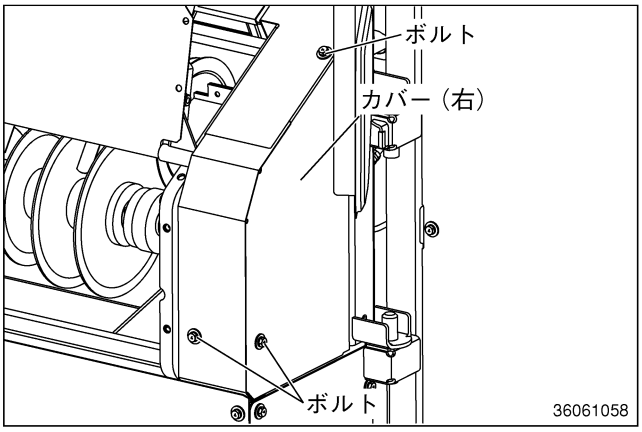


(5) ハネダシ板の取付ボルト（2 個）を外して，ハネダシ板を取外します。

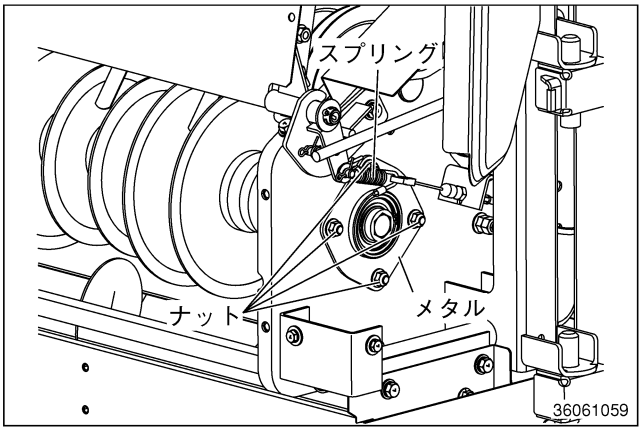




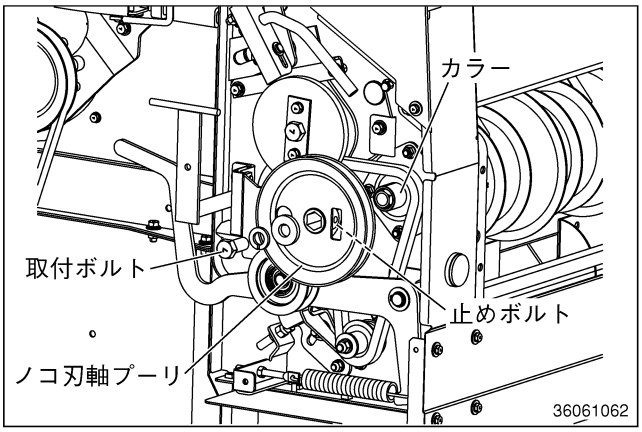
(6) カバー（右）のボルトを外し，カバー（右）を取外します。



(7) メタルのナットを外し，スプリングを上に上げながらメタルを取外します。

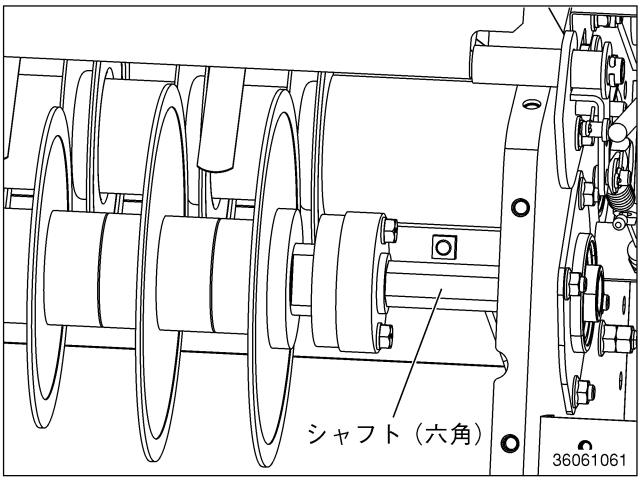


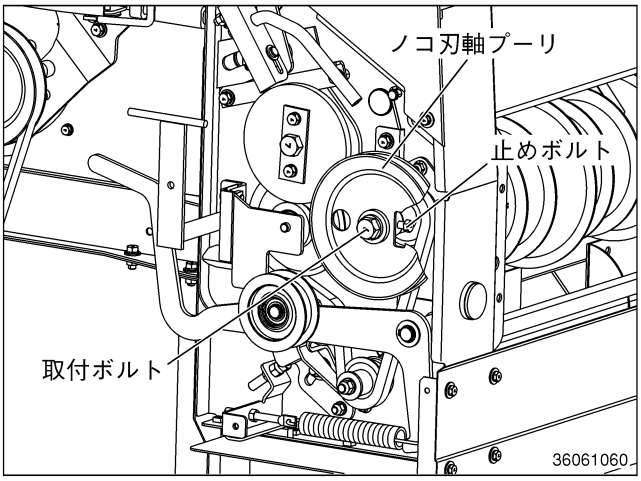
(8) ノコ刃軸プーリの取付ボルトと止めボルトを外しプーリ，カラーを外します。



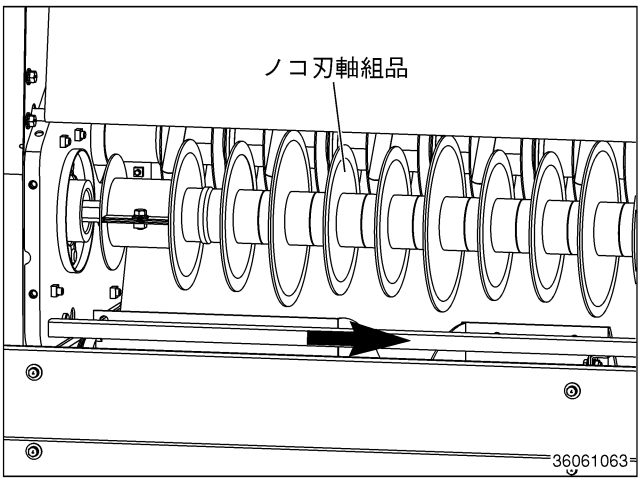
取扱いのポイント

●スパナで取付ボルトを回すと，ノコ刃軸ごと回転してボルトがゆるみません。ノコ刃軸を固定するには，ハネダシ板の中のシャフト（六角）をスパナで固定して行うと容易に外れます。



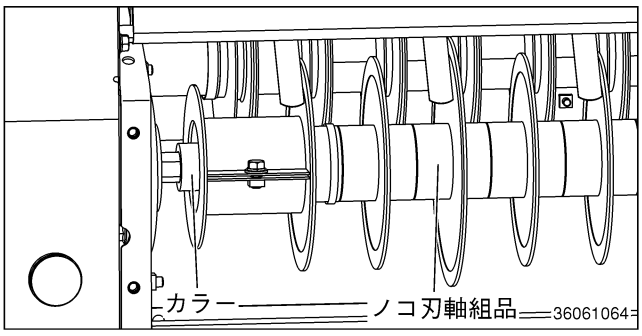


(9) 矢印の方向にノコ刃軸組品をずらしながら外します。



取扱いのポイント

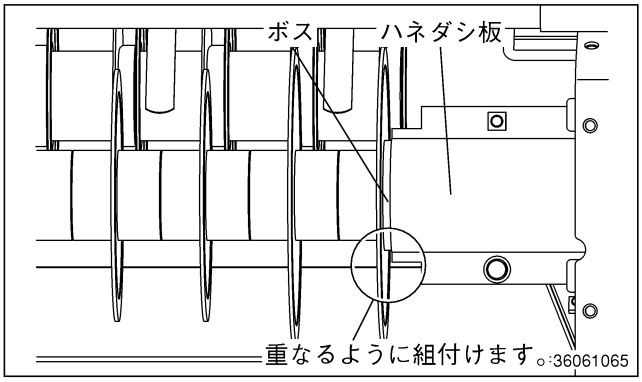
●ノコ刃軸組品のシャフト部にカラーが入っています。落とさないように注意してください。また，組立時に忘れずに取付けてくさだい。



取扱いのポイント

●ノコ刃軸組品を組付けるときは取外しと逆の手順で行なってください。

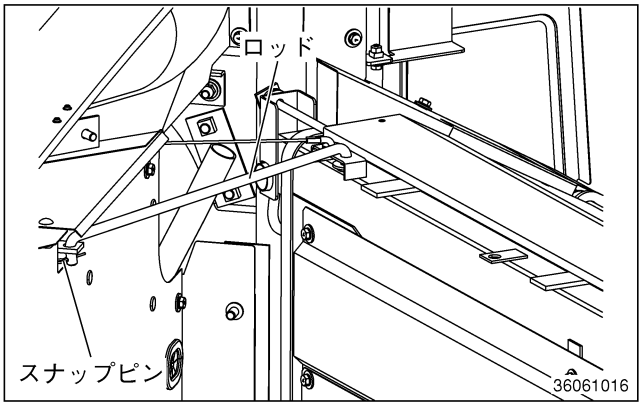
●ハネダシ板を組付けるときはボスとハネダシ板が重なるように組付けます。



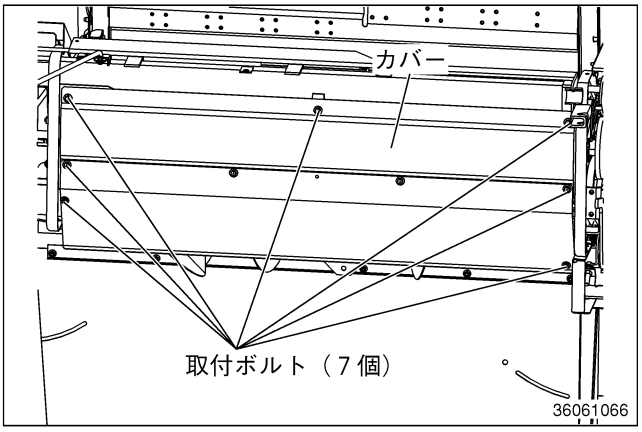
❷ スターホイル軸の交換

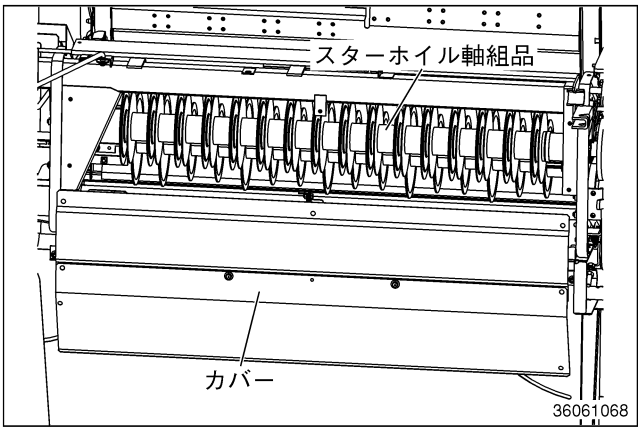
(1) サイドカバーを取外し，排ワラ切替レバーを《**カッタ**》位置にし，刃交換位置にします。(139ページ参照)

(2) カッタをオープンし，ロッドで固定します。

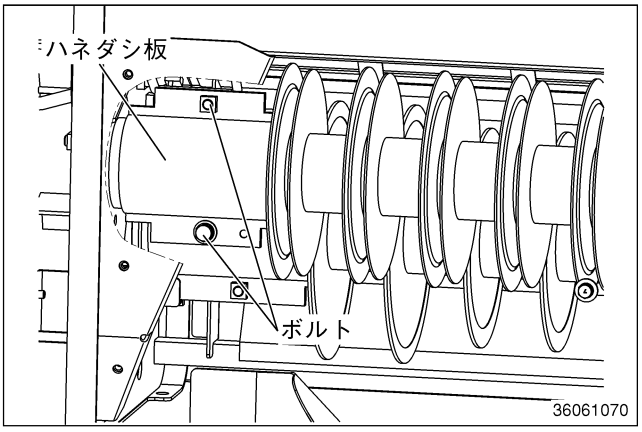


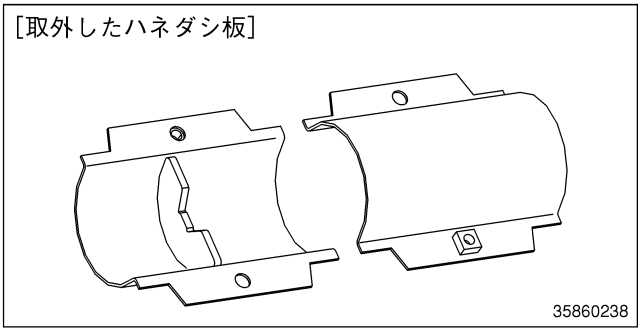
(3) カッタのカバーを外します。



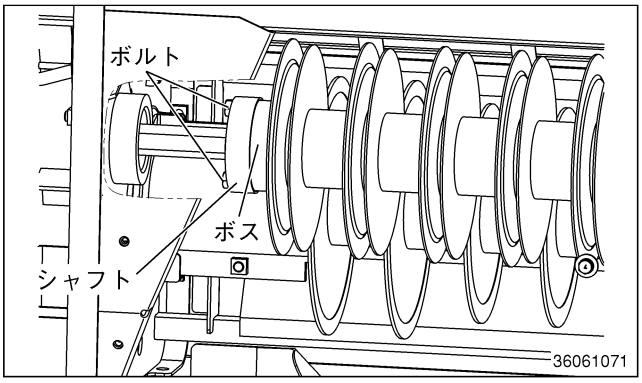


(4) ボルト(2個)を外してハネダシ板を外します。



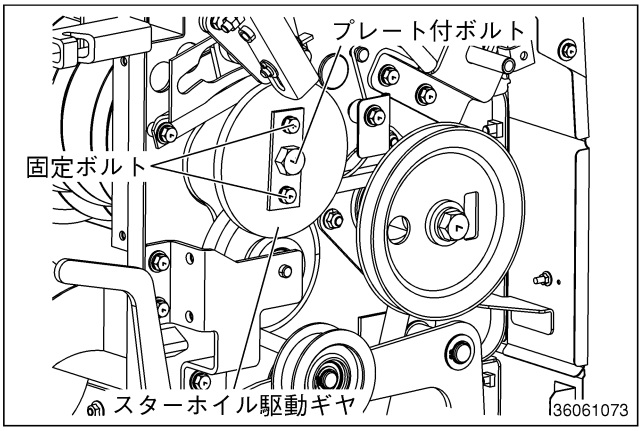


(5) シャフトとボスを固定しているボルト（2個）をゆるめます。

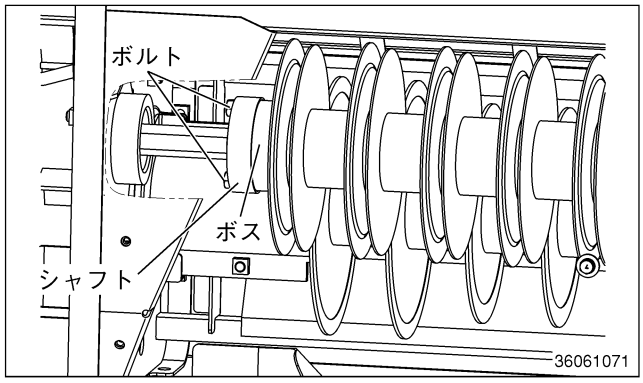


(6) スターホイル駆動ギヤを固定しているプレート付ボルトの固定ボルト（2個）を外します。

(7) プレート付ボルトを外します。

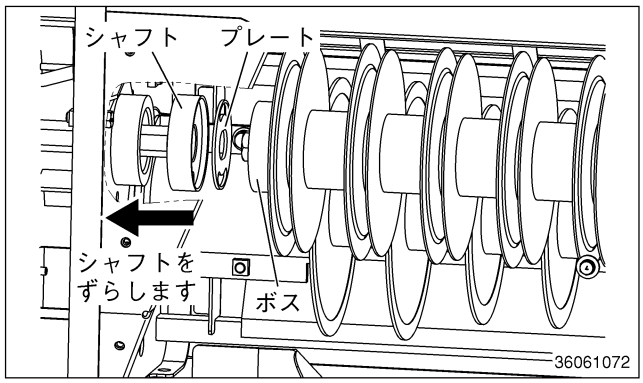


(8) シャフトとボスを固定しているボルト（2個）を外してシャフトとボスを分離します。

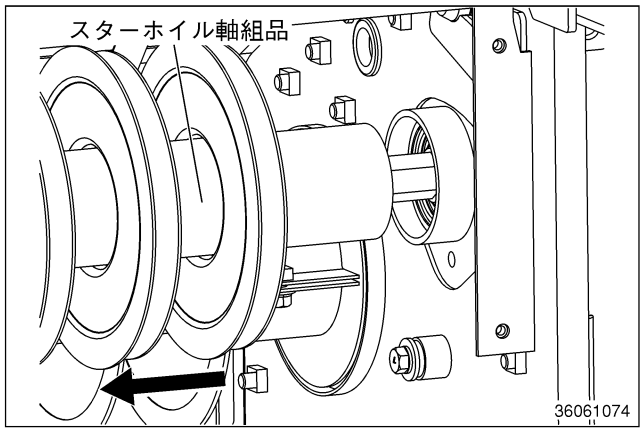


取扱いのポイント

- **ボスとシャフトの間にプレートが入っています。落とさないように注意してください。また，組立時に，忘れずに取付けてください。**

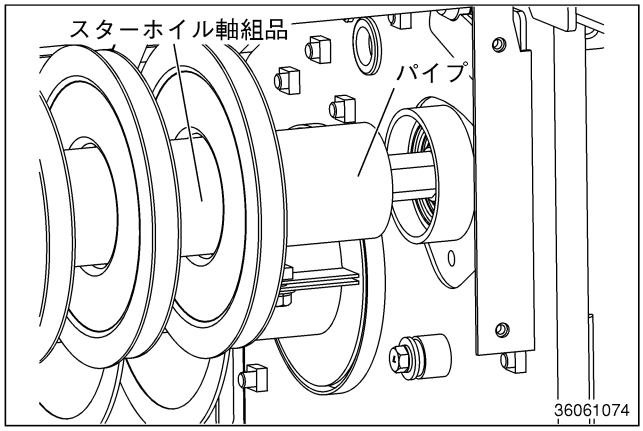


(9) 矢印の方向にずらしながら，スターホイル軸組品を外します。



取扱いのポイント

- **スターホイル軸組品のシャフトにパイプが付いています。落とさないように注意してください。また，組立時に，忘れずに取付けてください。**



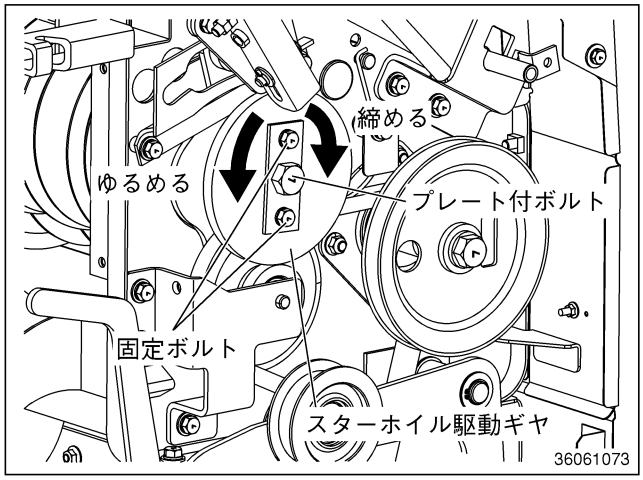
取扱いのポイント

- **スターホイル軸組品を組付けるときは取外しの逆の手順で行なってください。**

❸ ノコ刃とスターホイルのスキマ調整

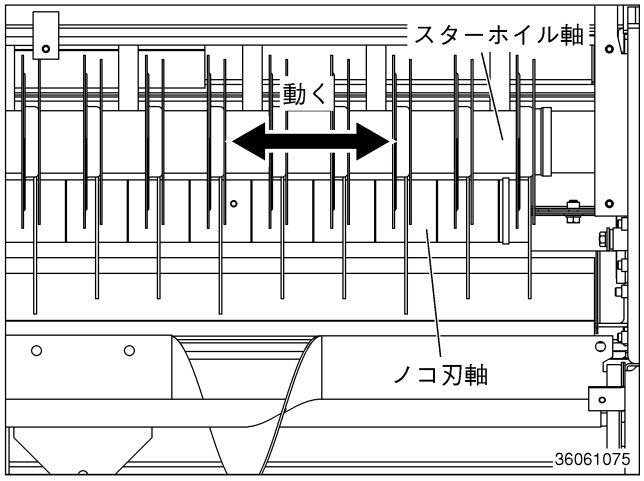
(1) カッタをオープンし，ロッドで固定します。

(2) スターホイル駆動ギヤを固定しているプレート付ボルトの固定ボルト（2個）を外します。

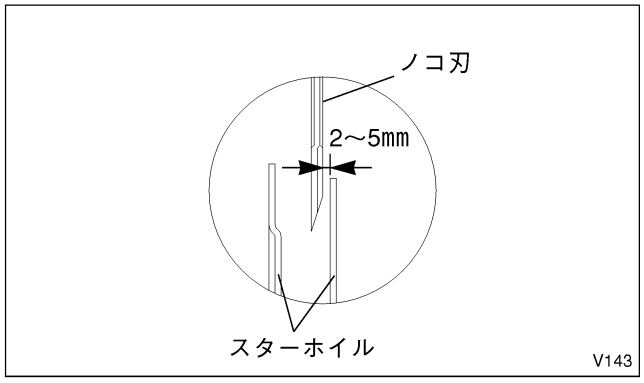


(3) プレート付ボルトを締込むと（あるいはゆるめると），スターホイル軸が少しずつ動きます。

(4) カッタのカバーを外した状態で，下から目視でスキマを確認します。



(5) ノコ刃とスターホイルのスキマが「2～5㎜」になるようにプレート付ボルトを回して，調整終了後は固定ボルトで固定します。



(6) カッタのカバーを取付け，カッタを閉めます。

(7)・切ワラ切断長さ切替レバーを「**長切り**」または「**短切り**」位置にします。

(8) 取外したカバーを全て取付けます。

❺ 刃の交換のしかた

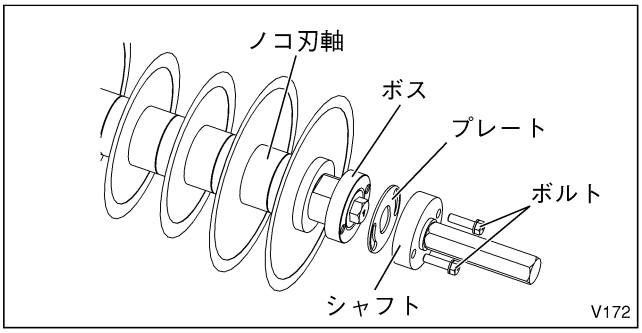
危険 傷害事故防止のために

◆刃の交換作業は2人作業で行なってください。

◆刃の交換のときは厚手の手袋を着用し，刃先に手が触れないようにしてください。

(1) 刃先を傷つけないよう板または布を下に敷いてください。

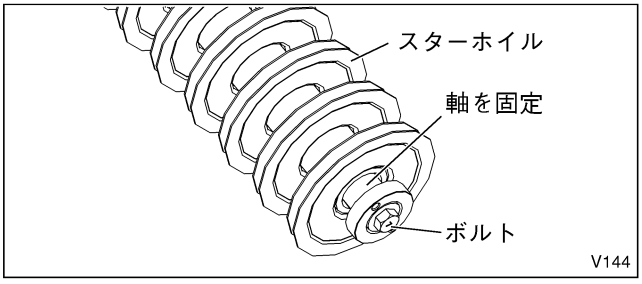
(2) ノコ刃軸は，シャフトとボスを固定しているボルト（2個）を外して，分離します。



取扱いのポイント

- **ボスとシャフトの間にプレートが入っていますので，組立時に忘れずに取付けてください。**

(3) ノコ刃やスターホイルは片方のスパナで軸を固定し，先端のボルトを外します。

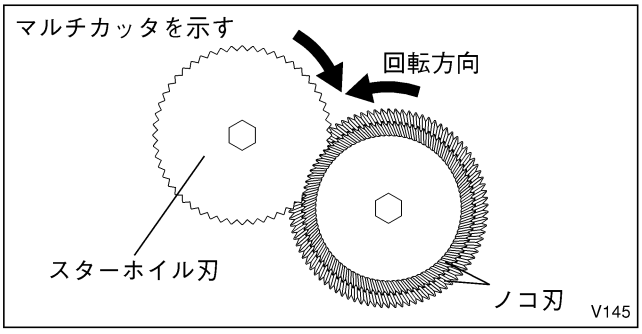


(4) 軸にそって部品を取外します。

(5) 作業後，カッタを閉じカッタサイドカバーを取付けます。

取扱いのポイント

- **カッタはギヤ側が，組立て基準になっています。刃の交換後，スターホイル刃とノコ刃の接触がないことを，確かめてください。刃のスキマは2～5㎜が最適です。**
- **ノコ刃，スターホイル刃の取付けのときは刃の方向を間違えないように，元どおりに組付けます。**



DMY463型マルチカッタ ノコ刃軸，スターホイル軸 組　み　立　て　要　領

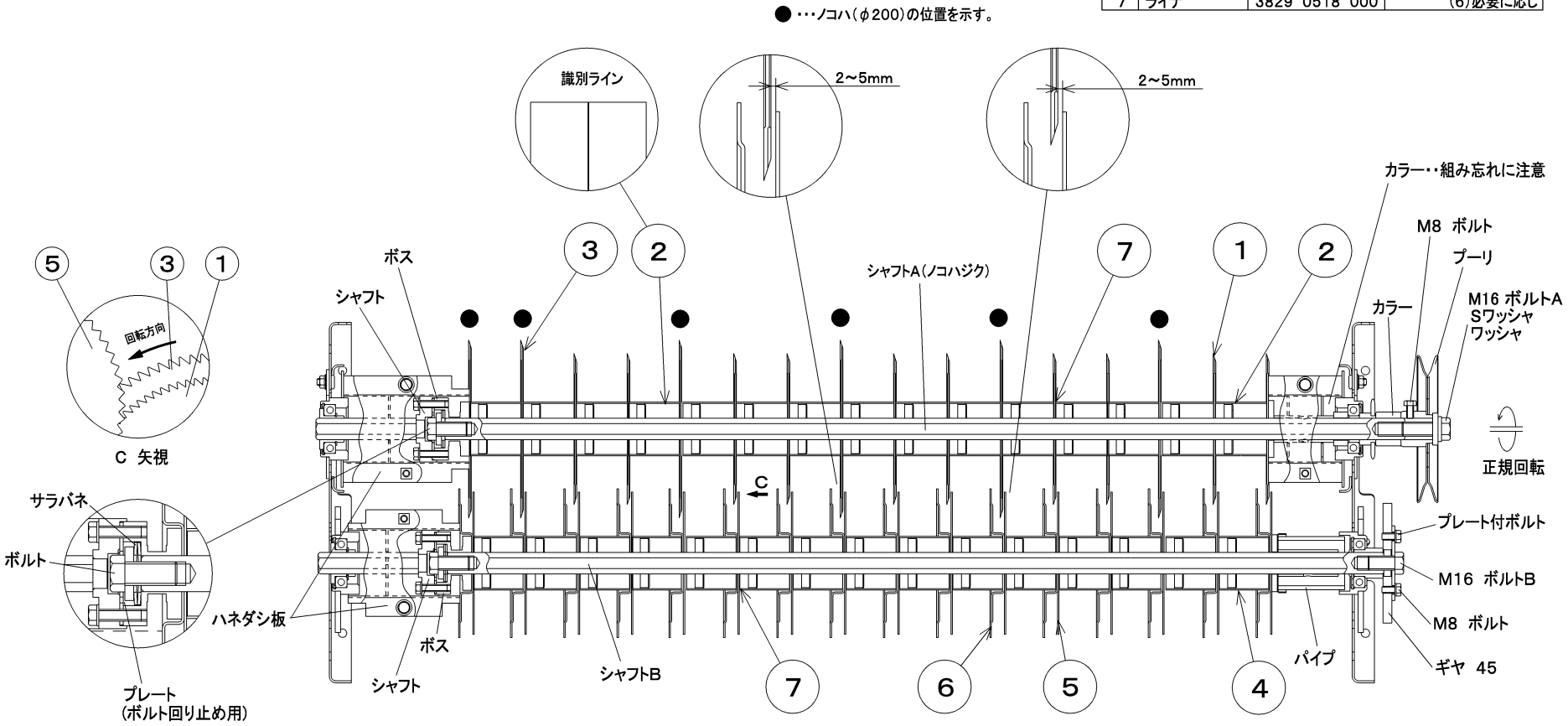
取扱いのポイント

- 分解・組立ては図の通りに行います。
- 組立ては分解した逆の順序で組付けていきます。順序を違えるとスターホイル刃とノコ刃が合わなくなります。

組付要領

1. 本機の取り説《カッタのオープンの仕方》を参照し、カッタをオープンします。
2. 刃の組み付け方向に、注意してください。(C 矢視参照)
3. シャフトA，シャフトBを組み立てる際にはシャフトを垂直に立てて組付け、各部品がシャフトに対し垂直になるように組み立てます。
   識別ライン付きをシャフトA(ノコハジク)側に取り付けます
4. パイプアッシーの識別に注意し挿入方向は図示通りに組立てます。
5. サラバネの組み付け方向は、下図の通りとし、ボルトの締め付けトルクは64～74N･m(650～750kgf･cm)とする。(2カ所)
6. M16ボルトAは、スリーボンド1344N相当品を塗付し、64～74N･m(650～750kgf･cm)にて締め付けます。
7. ①･③ ノコハと ⑤ スターホイルバのスキマは、2～5mmになるようM8ボルトを締め付ける前にM16ボルトBをギヤ45に対し回して、ジクアッシーをスライドさせ調整します。
8. 7項にてスキマ管理ができない場合には、⑦ ライナにて調整し直してください。
9. 組み換え終了後、手でゆっくり正規回転し刃のスキマの管理ができているか確認願います。

番号	部 品 名 称	部 品 番 号	16枚刃の総個数
1	ノコハ(φ170)	3574 8785 000	10
2	パイプA アッシ	3574 8786 000	15
3	ノコハ(φ200)	3829 0414 000	6
4	パイプB アッシ	3574 8816 000	15
5	スターホイルバ	3574 8808 000	16
6	オサエバン	3574 8813 000	16
7	ライナ	3829 0518 000	(6)必要に応じ



DMY463S型マルチカッタ ノコ刃軸，スターホイル軸 組　み　立　て　要　領

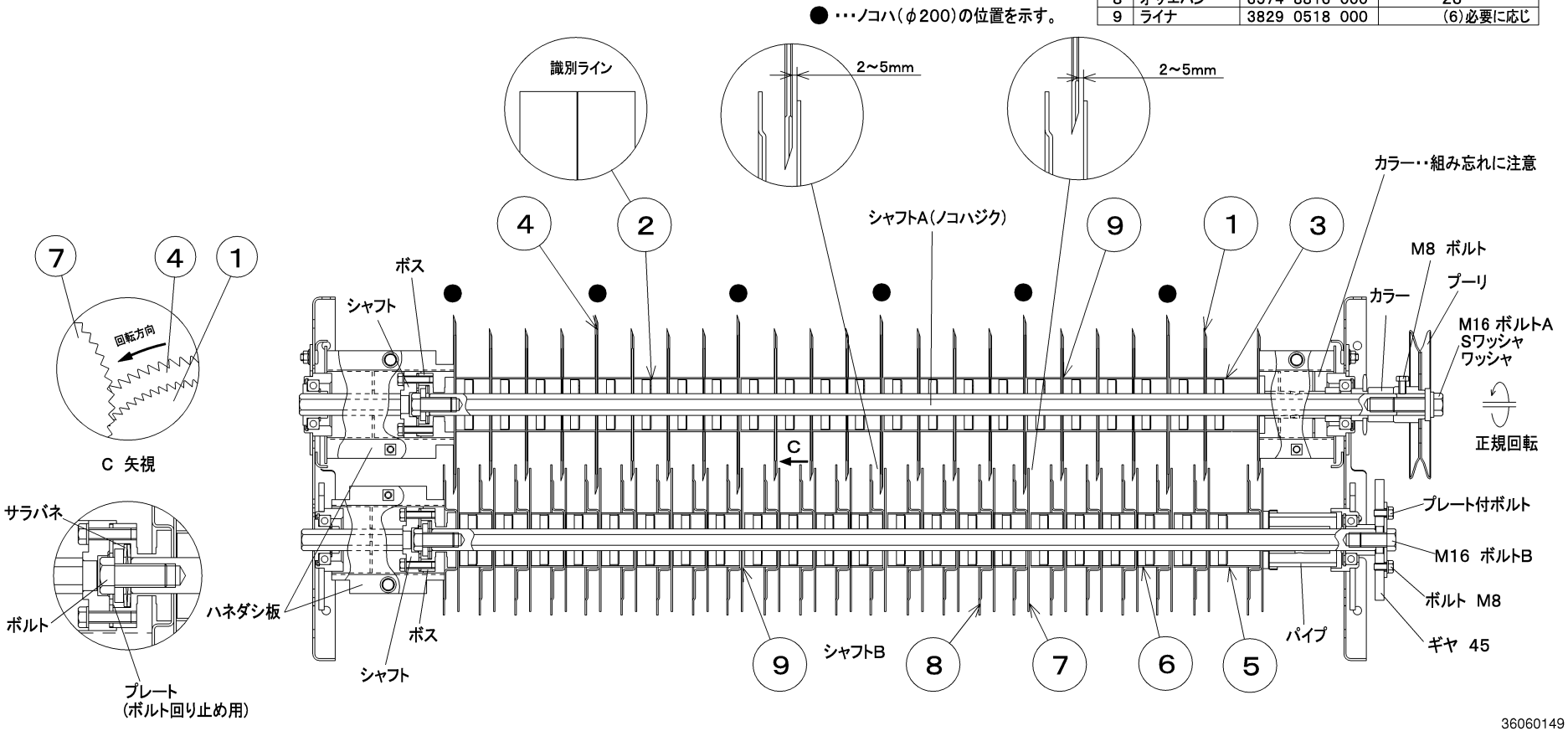
取扱いのポイント

- 分解・組立ては図の通りに行います。
- 組立ては分解した逆の順序で組付けていきます。順序を違えるとスターホイル刃とノコ刃が合わなくなります。

組付要領

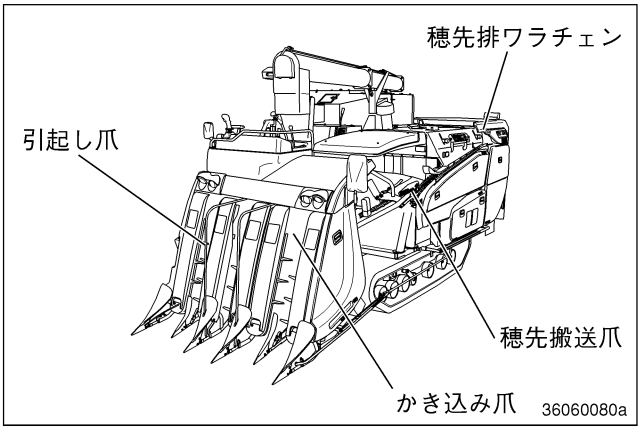
1. 本機の取り説《カッタのオープンの仕方》を参照し、カッタをオープンします。
2. 刃の組み付け方向に、注意してください。(C 矢視参照)
3. シャフトA，シャフトBを組み立てる際にはシャフトを垂直に立てて組付け、各部品がシャフトに対し垂直になるように組み立てます。
   識別ライン付きをシャフトA(ノコハジク)側に取り付けます。
4. パイプアッシーの識別に注意し挿入方向は図示通りに組立てます。
5. サラバネの組み付け方向は、下図の通りとし、ボルトの締め付けトルクは64～74N･m(650～750kgf･cm)とする。(2カ所)
6. M16ボルトAは、スリーボンド1344N相当品を塗付し、64～74N･m(650～750kgf･cm)にて締め付けます。
7. ①･④ ノコハと ⑦ スターホイルバのスキマは、2～5mmになるようM8ボルトを締め付ける前にM16ボルトBをギヤ45に対し回して、ジクアッシーをスライドさせ調整します。
8. 7項にてスキマ管理ができない場合には、⑨ ライナにて調整し直してください。
9. 組み替え終了後、手でゆっくり正規回転し刃のスキマの管理ができているか確認願います。

番号	部 品 名 称	部 品 番 号	23枚刃の総個数
1	ノコハ(φ170)	3574 8785 000	17
2	パイプC アッシ	3574 8784 000	21
3	パイプA アッシ	3574 8786 000	1
4	ノコハ(φ200)	3829 0414 000	6
5	パイプB アッシ	3574 8816 000	1
6	パイプD アッシ	3574 8817 000	21
7	スターホイルバ	3574 8808 000	23
8	オサエバン	3574 8813 000	23
9	ライナ	3829 0518 000	(6)必要に応じ



2．爪の交換のしかた

引起し爪，穂先搬送爪，かき込み爪，穂先排ワラチェン

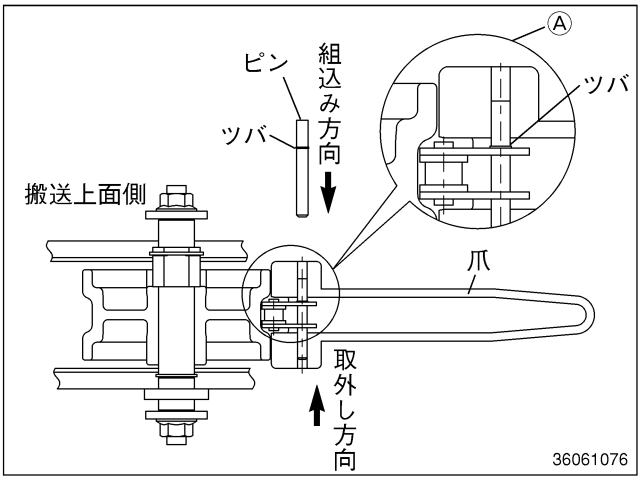


❶　爪の取外し

爪を取付けているピンを，突き出ている側から叩いて抜取り，爪を取外します。(ピンは，強く叩かなくても抜けます)

❷　爪の組込み

ピンは，ツバがある側を搬送上面側にし，ピンの端面と爪が同じ高さになるまで打込みます。(図示Ⓐ部参照)



3．ホース類の点検と交換

⚠警告　火傷や火災防止のために

◆燃料ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ)，外皮の剥れおよび継ぎ部より燃料が漏れてないか確認し，損傷したり漏れている場合は，火災の原因となりますので交換してください。

◆ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると，熱湯が吹き出し火傷をする場合があります。

燃料ホース，ラジエータホースなどの燃料漏れ，水漏れがないかを点検します。また，締付けているバンドや油圧ホースの継ぎ部が，ゆるんでいないか点検をします。

取扱いのポイント

- **燃料ホースは，定期交換部品ですので，2年ごとに交換してください。**
- **燃料ホースを交換したときは，燃料のエア抜きをしてください。(111ページ参照)**

4．ワラ切カマの手入れ

⚠警告 傷害事故防止のために

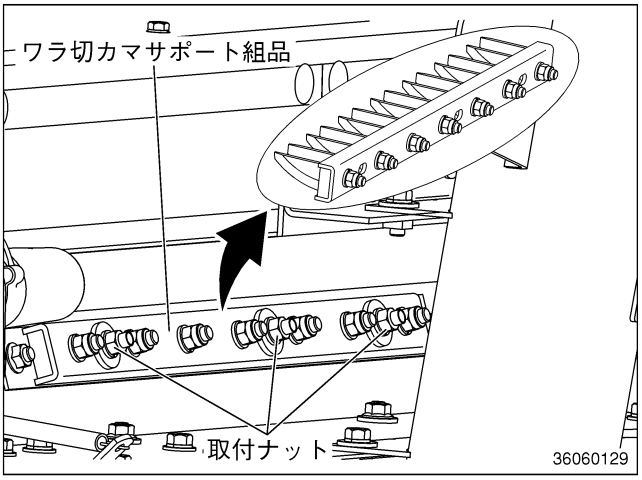
◆こぎ胴部を開くときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆こぎ胴部を開くときは，自動ロックの作動音「カチッ」が確認できる位置まで持ち上げ，ゆっくりと手を離します。
◆《自動ロック解除レバー》を操作するときは，アームを支えて行なってください。このときは，回動範囲内には手や体を入れないでください。
◆ワラ切カマの着脱作業は，手袋をして行なってください。
◆刃部に手をかけないでください。

❶ ワラ切カマの取外し

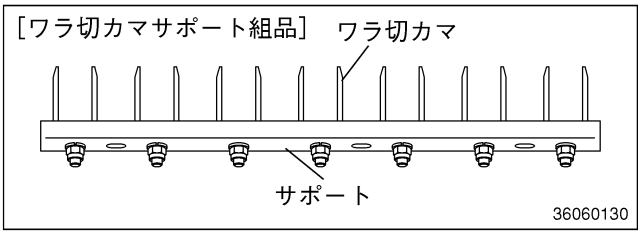
⑴ 脱こく右側天板とグレンタンク部の境界部にあるワラ切カマ

1．グレンタンクを開きストッパを掛けます。
（119～120ページ参照）

2．ワラ切カマサポート組品で取外します。

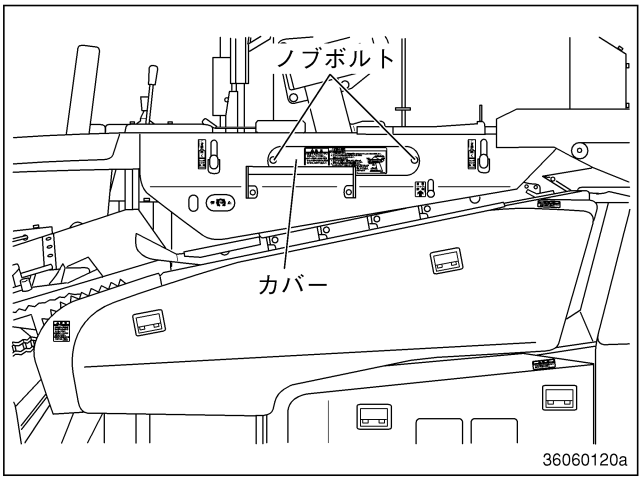


3．ワラ切カマをサポートから取外します。

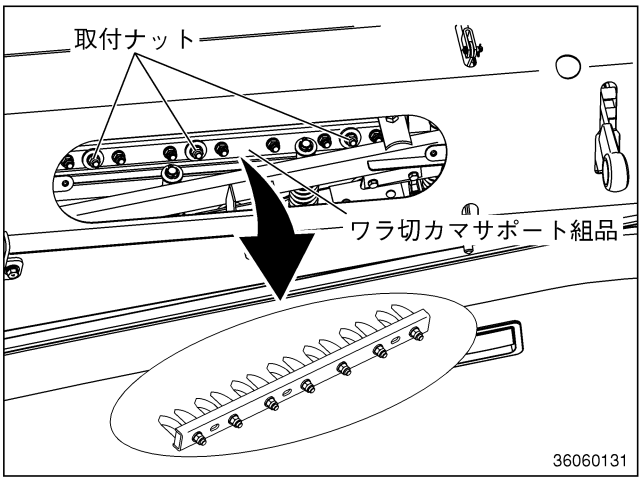


⑵ 脱こく左側コンポロックレバー付近のワラ切カマ

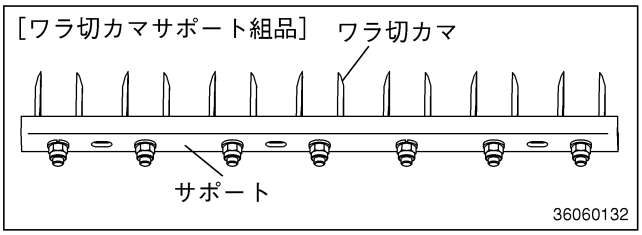
1．カバーを外します。



2．ワラ切カマサポート組品で取外します。

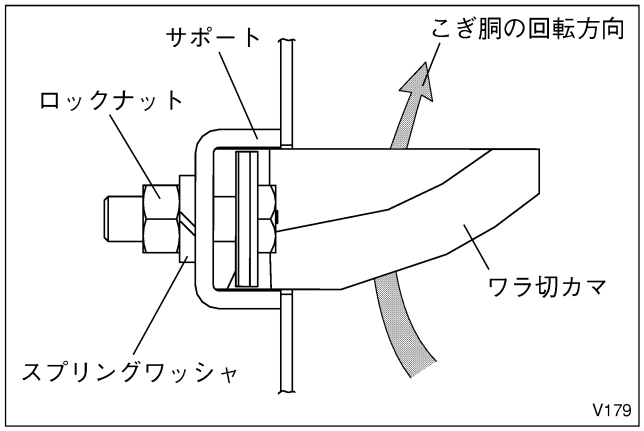


3．ワラ切カマをサポートから取外します。



❷ ワラ切カマの取付け

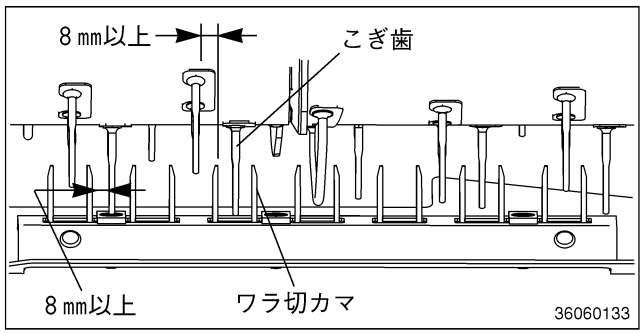
(1) ワラ切カマの組付け方向を確認して真っ直ぐに締付けます。



(2) 作業後，グレンタンクを閉じ，カバー類を取付けます。

取扱いのポイント

- **ワラ切カマが摩耗するとワラクズの切断性能が低下し脱こく能率が低下しまた，性能も悪くなります。ワラ切カマを交換してください。**
- **こぎ歯の中央にワラ切カマがくるように取付けてください。**
- **組付けるときは，こぎ歯とワラ切カマのスキマを 8 mm以上空けてください。**

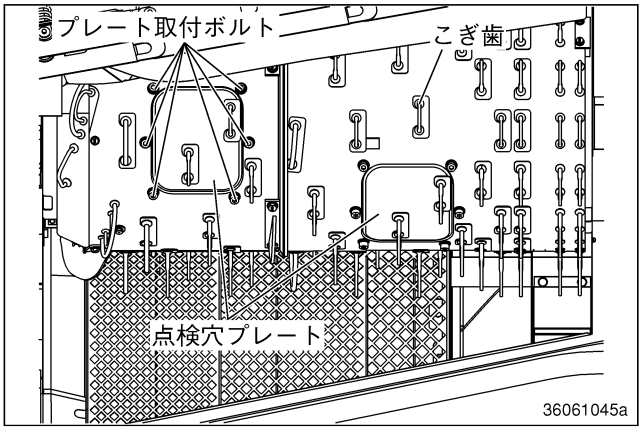


5．こぎ歯の点検と交換

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆こぎ胴部を開くときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
- ◆こぎ胴部を開くときは，自動ロックの作動音「カチッ」が確認できる位置まで持ち上げ，ゆっくりと手を離します。
- ◆こぎ胴部を開くときは，グリップでこぎ胴をもちあげ，「カチッ」という音を確認して，ゆっくり手を離してください。
- ◆《自動ロック解除レバー》を操作するときは，レールカバーの端部を持って行なってください。このときは，回動範囲内には手や体を入れないでください。

❶ こぎ胴部を開きます。



❷ こぎ歯を点検します。

摩耗のはげしいものは交換します。こぎ歯の締付けが緩んでいるものは，取付ナットを締込みます。

こぎ歯の交換および取付ナットの締込みは，点検穴プレートを外して行います。

取扱いのポイント

- **こぎ胴の点検穴プレートの取付ボルトの頭が摩耗すると外せなくなりますので取付ボルトが摩耗し始めたときも取付ボルトの交換が必要です。**

❸ 作業後こぎ胴部を閉じます。

6．刈　　刃

⚠危険 傷害事故防止のために

◆刈刃の着脱作業をするときは，厚手の手袋をして行なってください。刈刃は内側のボルトを外してから，外側のボルトを外してください。

◆刃部に手をかけないでください。刈刃が動いて怪我をすることがあります。

◆刈刃の点検調整するときは，刈取部を上げ，油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にして，フックをかけ，刈取部の下に固定脚などを入れて作業してください。

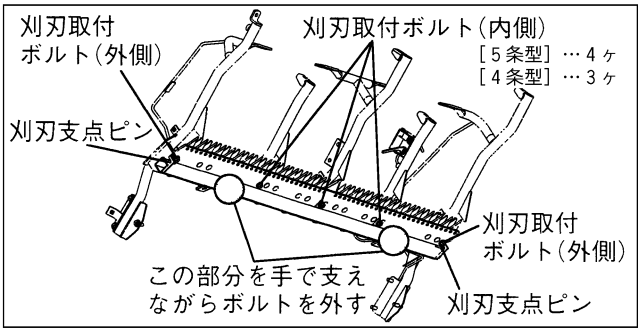
❶ 刈刃のオープン

・刈刃は，手入れをしやすくするため，刈刃支点ピンを軸にして，オープン（回動）します。

(1) エンジンを始動し,マルチステアリングレバーを操作して刈取部を上げます。

(2) エンジンを停止し，油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にして，刈取部の下に固定脚などを入れます。

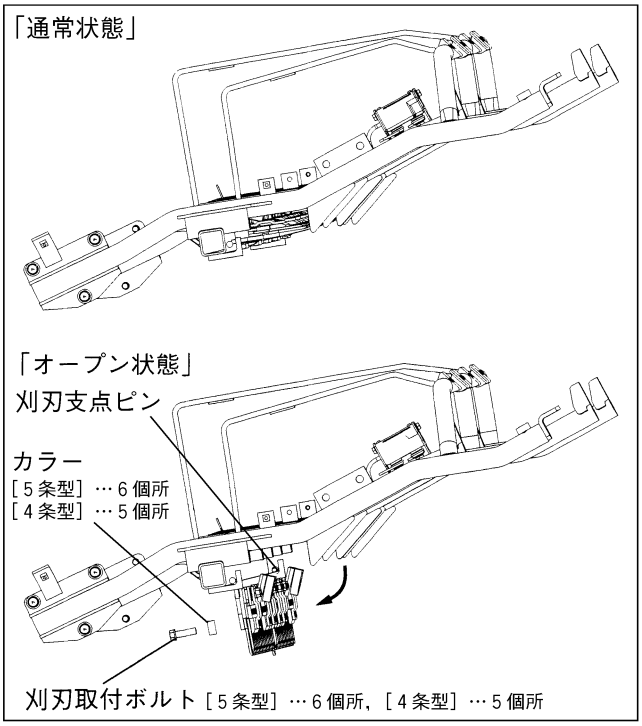
(3) 刈取部の下方から刈刃部を見ると，下図のような取付け状態になっています。



(4) 内側の刈刃取付ボルトを取外します。

(5) 刈刃組品を手で支えながら，外側の刈刃取付ボルト（２ケ）を取外します。（２人作業）

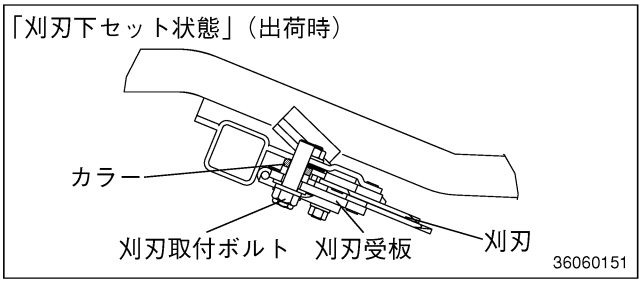
※刈刃取付ボルトには，それぞれカラーがついています。そのカラーも取外します。



(6) 刈刃組品を支えながら，ゆっくり降ろし刈刃をオープン（回動）します。

❷ 刈刃の上下調節

・出荷のとき，刈刃は「**下セット**」になっています。

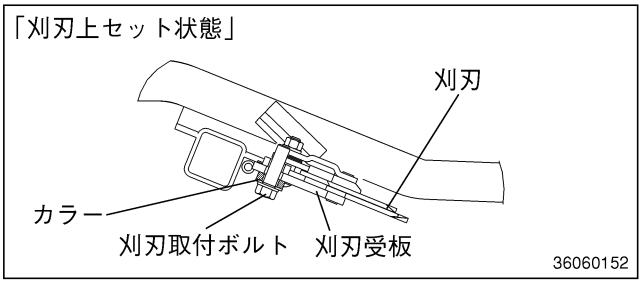


うね栽培の麦刈りの場合および刈刃が土をかむことが多い刈取り時は，カラーを入替えて刈刃を「**上セット**」にします。

「**上セット**」にする場合，カラーの組替えを行います。

(1) 刈刃をオープンします。

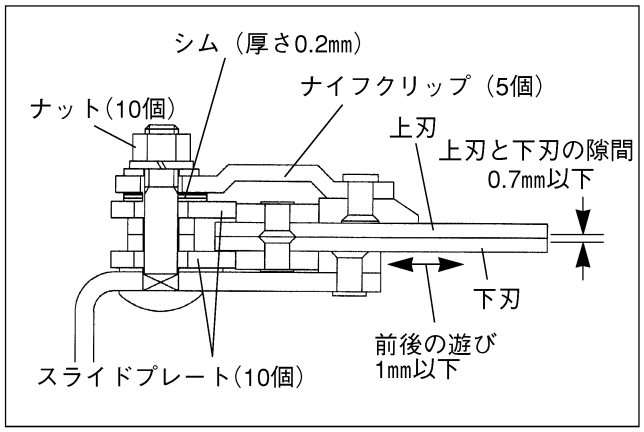
(2) 刈刃取付ボルトのカラーを，刈刃受板の「**上側**」から「**下側**」に入替えて,ボルトを締付けます。



❸ 刈刃の調整

⑴ 刈刃に付着している泥やワラクズを，取除きます。

⑵ ナット(10個)をゆるめ，ナイフクリップ（5個）の下側のシム（厚さ0.2㎜）で，上刃と下刃の隙間が0.7㎜以下になるように調整します。



⑶ 上刃，下刃の前後の遊びが１㎜以下になるように，ナイフクリップとスライドプレートの位置を調整し，ナットを締付けます。

⑷ 上刃，下刃共スムーズ（15㎏程度）に作動することを確認します。

取扱いのポイント

- １日の作業終了後には，刈刃に付着している泥やワラクズなどを取除き，注油をしてください。
- 刈跡が揃わなくなったりした場合は，刈刃に注油をし，刈刃の調整または交換してください。

5．各部の点検と調整のしかた

各部は出荷のときに正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので点検を行い，再調整が必要な場合や，損耗の限度をこえた部品は調整・交換し正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

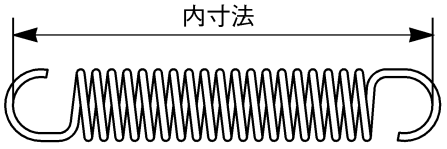
◆調整後は，異常なく作動することを試運転で確認してください。

⚠注意

◆各部の点検と調整で外したカバー類は全て，元の位置に取付けてください。

取扱いのポイント

- スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。



「レバー・ペダルの点検・調整」

1．走行クラッチペダル・駐車ブレーキ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行クラッチペダルやブレーキロッドの遊びが大きいと，クラッチの切れやブレーキの効きが悪くなり，事故を引起こす原因となることがあります。

❶ 点検

(1) 走行クラッチペダルフリー状態でスプリングⒻ長さが 59～61㎜ ですか。

(2) 走行クラッチペダルをブレーキフックに掛けた状態でスプリングのⒻ寸法が 53～55㎜ ですか。

(3) 坂道（17°）で駐車ブレーキをかけたときに，機械が停止していますか。

❷ 調整

・運転席左下カバーを外します。

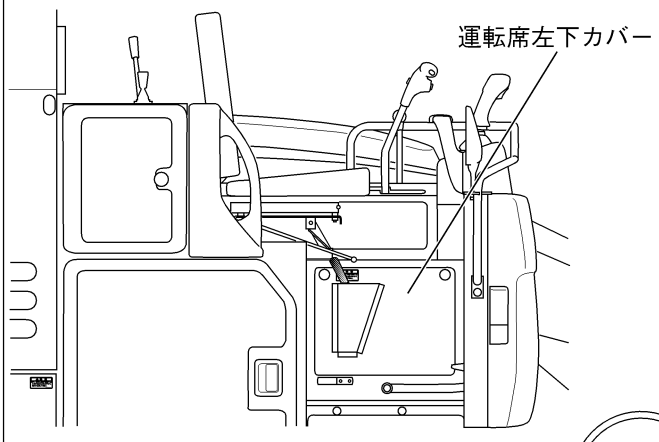
(1) 走行クラッチペダルがフリーの状態でスプリングのⒻ寸法を 59～61㎜ になるようにロックナットCで調整します。

(2) 次に駐車ブレーキをかけた状態でスプリングのⒻ寸法を 53～55㎜ になるようにロッドAを調整します。

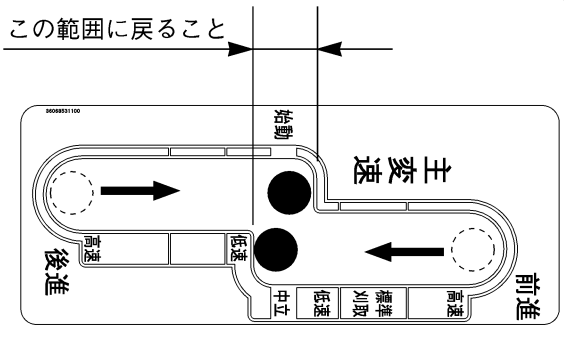
(3) 調整後，ロックナットB，Cを締付けます。

(4) 主変速レバーが前進・後進から中立位置に確実に戻るようロッドⓈ（前進から戻す）とロッドⓉ（後進から戻す）を調整してナットを締付けます。

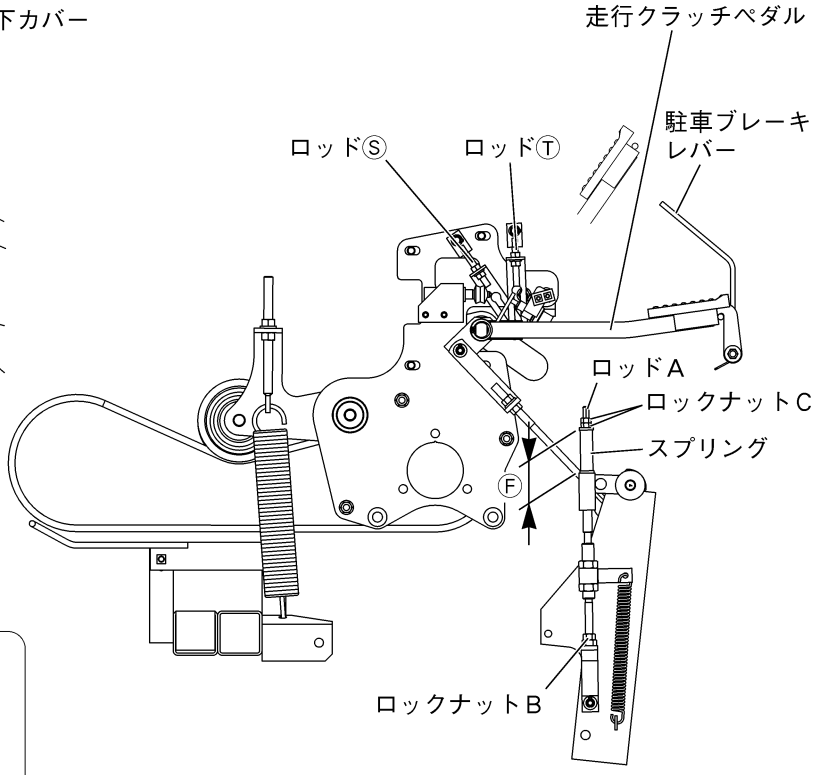
(5) 運転席左下カバーを取付けます。



36060064a



36060134



36061046

2. 脱こく・刈取クラッチ

❶ 点検

[脱こくクラッチ]

エンジンを始動させパワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《**脱こく**》にし,エンジンを停止させます。スプリング寸法が **129〜131㎜** になっていますか。

[刈取クラッチ]

エンジンを始動させパワークラッチ(脱こく・刈取) スイッチを《**刈取**》にし, エンジンを停止させます。このときスプリング寸法が **102〜104㎜** になっていますか。

❷ 調整

・グレンタンクをオープンしストッパを掛けます。(119〜120ページ参照)

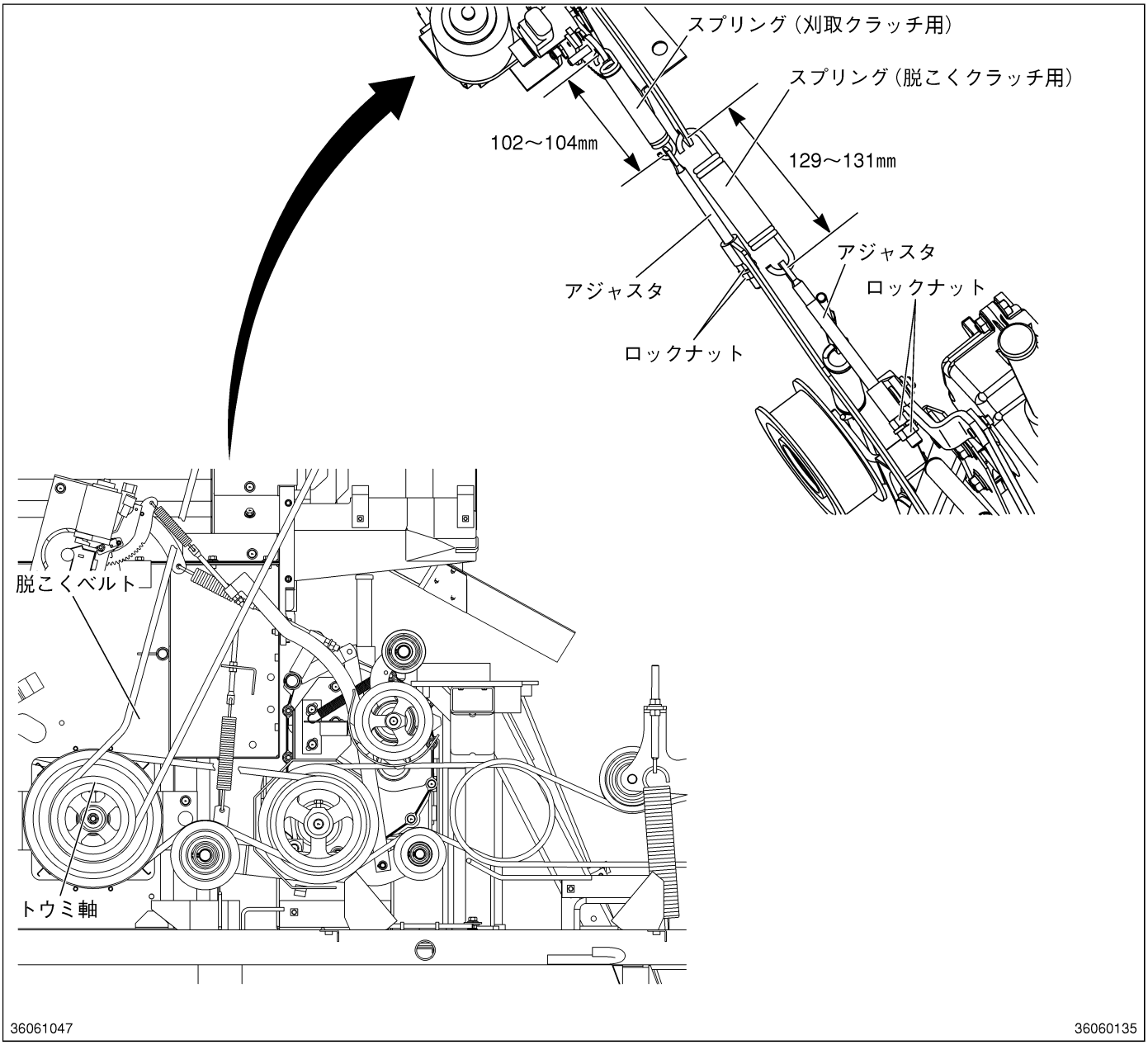
[脱こくクラッチ]

・ロックナットをゆるめてアジャスタ部で調整しスプリング長さを調整します。

[刈取クラッチ]

・ロックナットをゆるめてアジャスタ部で調整しスプリング長さを調整します。

・グレンタンクを閉じます。(119〜120ページ参照)



3．カッタ・排ワラ切替レバー

❶ 点検

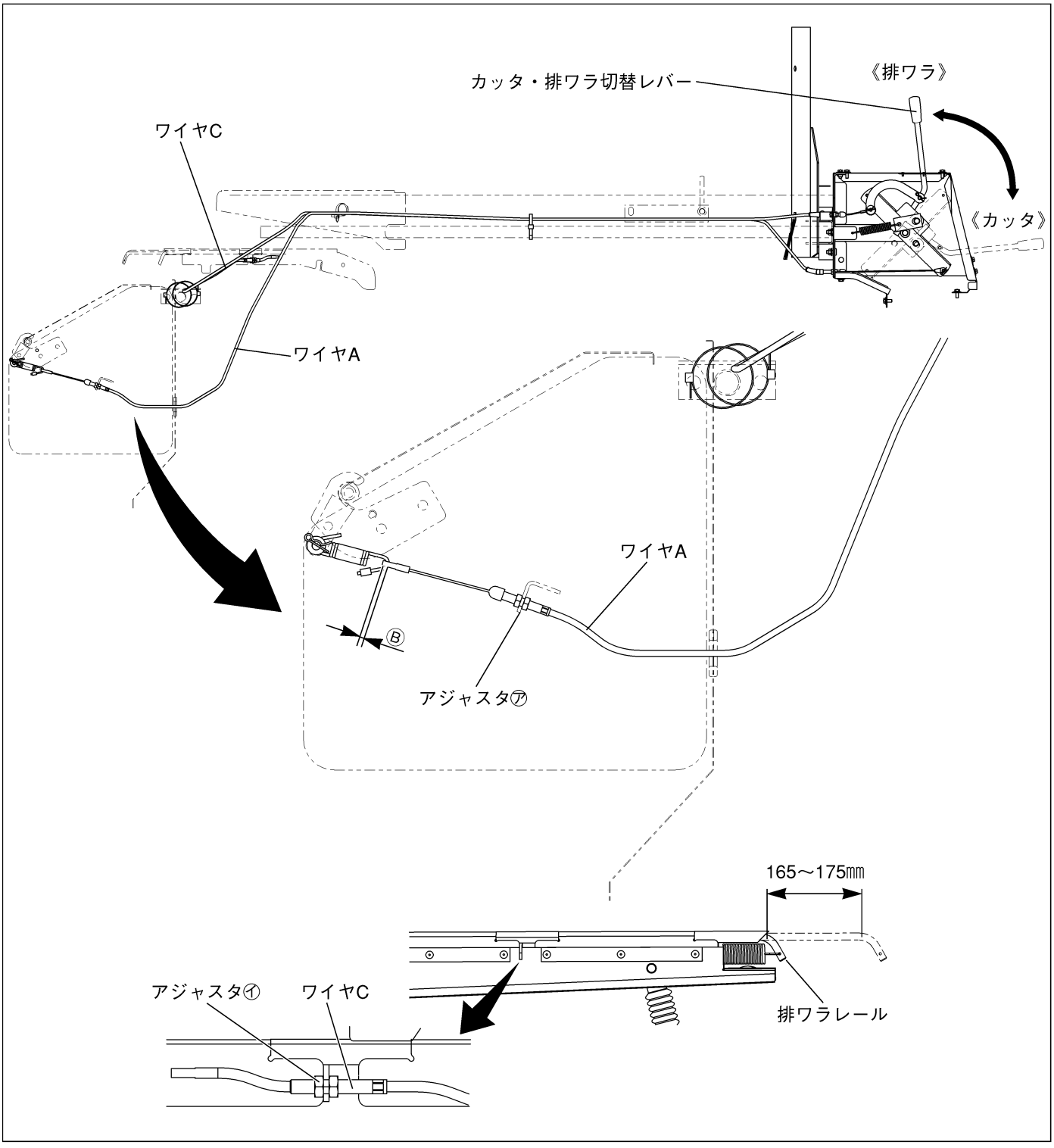
(1) 切替レバーが《**排ワラ**》のとき，ワイヤAがⒷ部で **2～3㎜** 遊んでいますか。(カッタ切替板が確実に閉状態になっていますか。)

(2) 切替レバーが《**排ワラ**》のとき，排ワラレールの出る長さが **165～175㎜** になっていますか。

❷ 調整

(1) Ⓑ寸法が **2㎜～3㎜** になるようにアジャスタ㋐で調整します。

(2) 排ワラレールの出る長さが **165～175㎜** になるようワイヤCのアジャスタ㋑で調整します。



「ベルトの点検・調整」

取扱いのポイント

●調整ができなくなったら，新しいベルトと交換してください。ベルトを新しいものに交換したときは，各スプリングの寸法や，ベルトガイドなどを正規の寸法に調整してください。

4．走行ベルト

❶ 点検

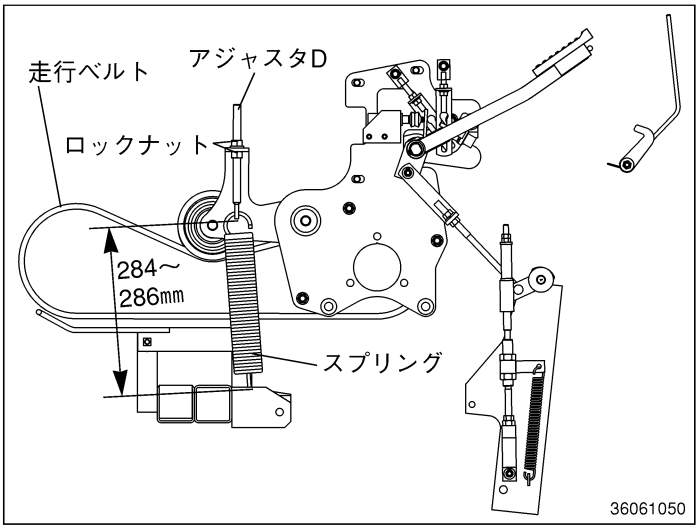
(1) スプリング長さが 284～286mm になっていますか。

❷ 調整

・運転席左側の足元カバーを，ノブをゆるめて取外します。

(1) アジャスタDのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

(2) 作業後足元カバーを取付けます。



5．コンプレッサ［キャビン仕様］

❶ 点検

コンプレッサベルトの下側の中央部を[10kg]で押して,タワミ量が 7～10mm となっていますか。

❷ 調整

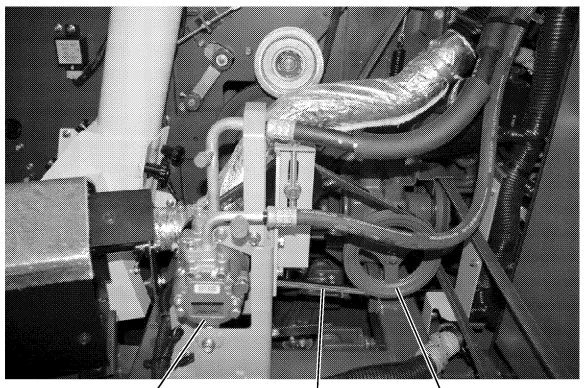
(1) グレンタンクを回動し，ストッパを掛けます。(119～120ページ参照)

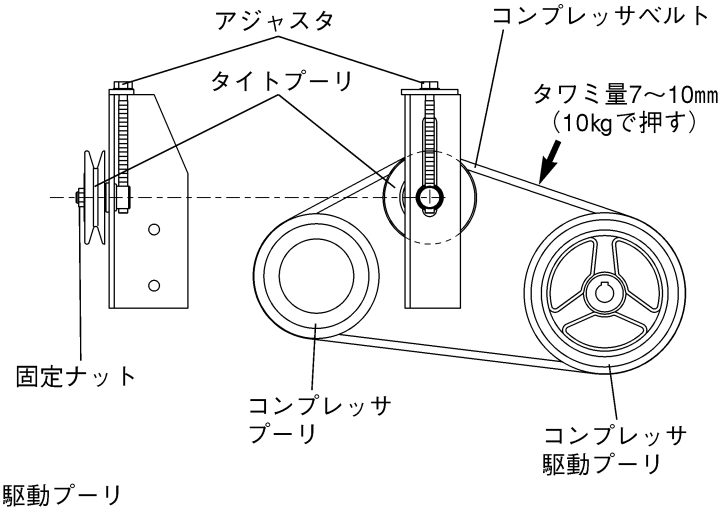
(2) タイトプーリの固定ナットをゆるめます。

(3) アジャスタボルトを締込みコンプレッサベルトの張り調整をします。

(4) 調整後固定ナットを締付けます。

(5) グレンタンクを閉じます。(119～120ページ参照)





6．かき込みベルト（刈取部）

［5条型］

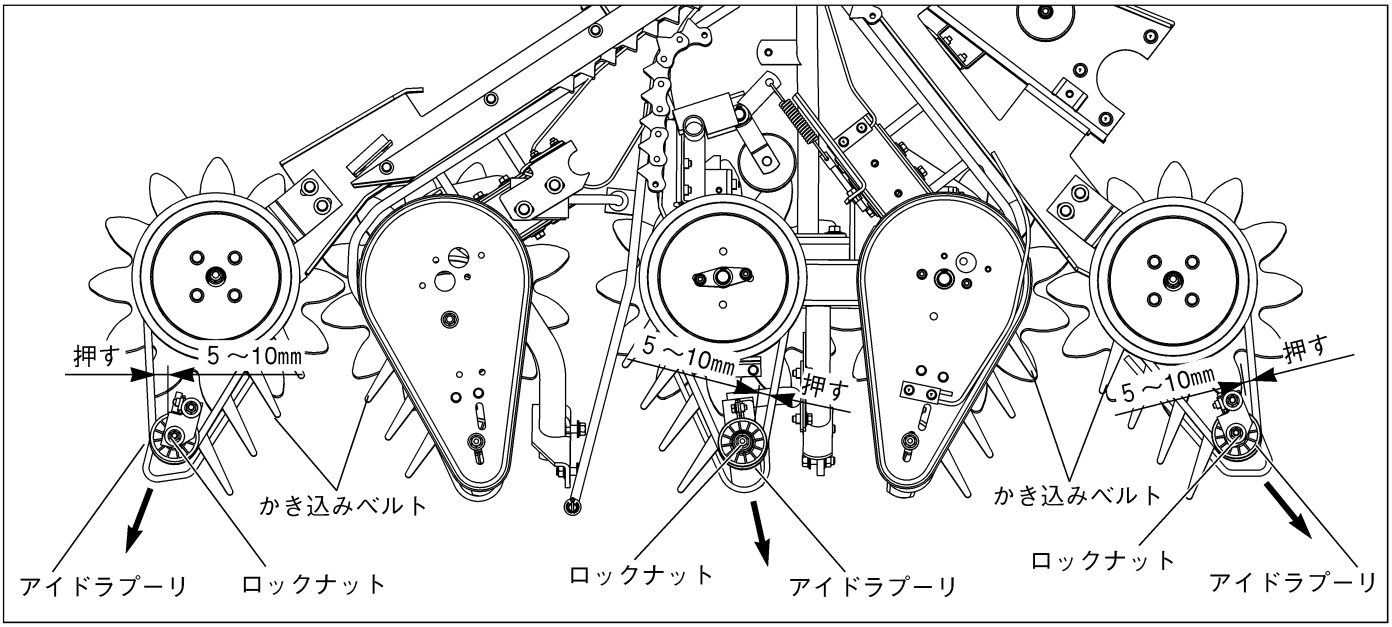
❶ 点検

ベルトの搬送中央部を押さえ，ベルトのタワミが 5～10mm になっていますか。4個所（右，中，左）

❷ 調整

(1) 刈取部サイドカバー（右），（左）を外し，アイドラプーリのロックナットをゆるめて，アイドラプーリで調整します。

(2) 作業後刈取部サイドカバー（右），（左）を取付けます。



［4条型］

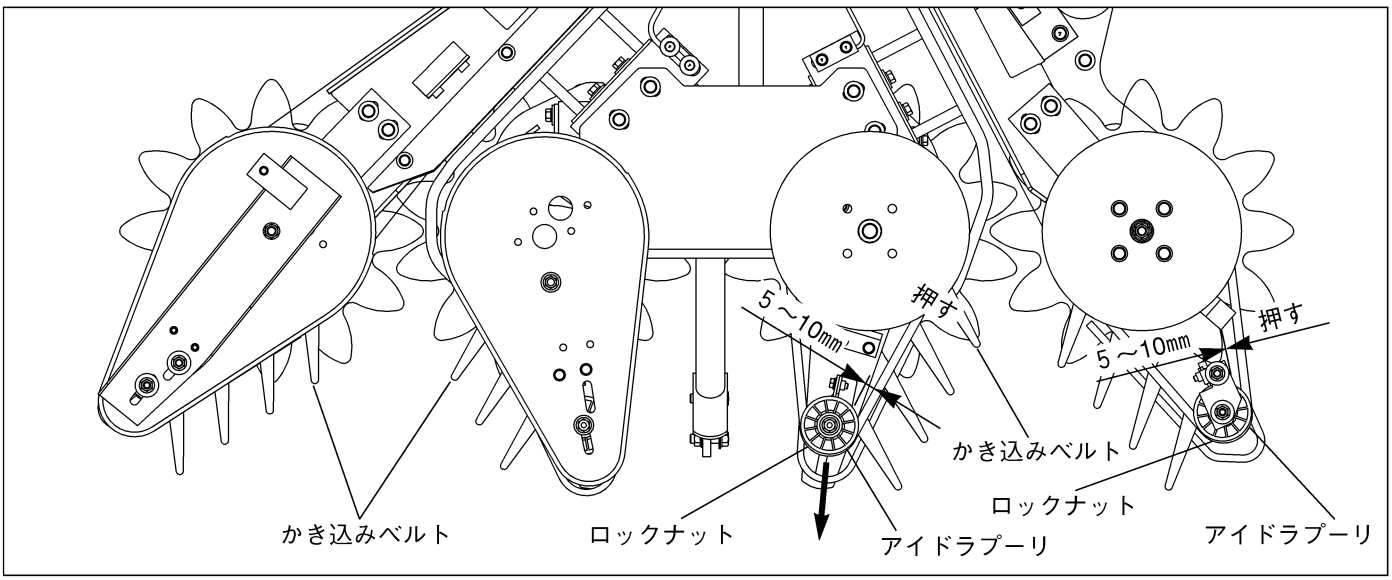
❶ 点検

ベルトの搬送中央部を押さえ，ベルトのタワミが 5～10mm になっていますか。4個所（右，中，左）

❷ 調整

(1) 刈取部サイドカバー（右），（左）を外し，アイドラプーリのロックナットをゆるめて，アイドラプーリで調整します。

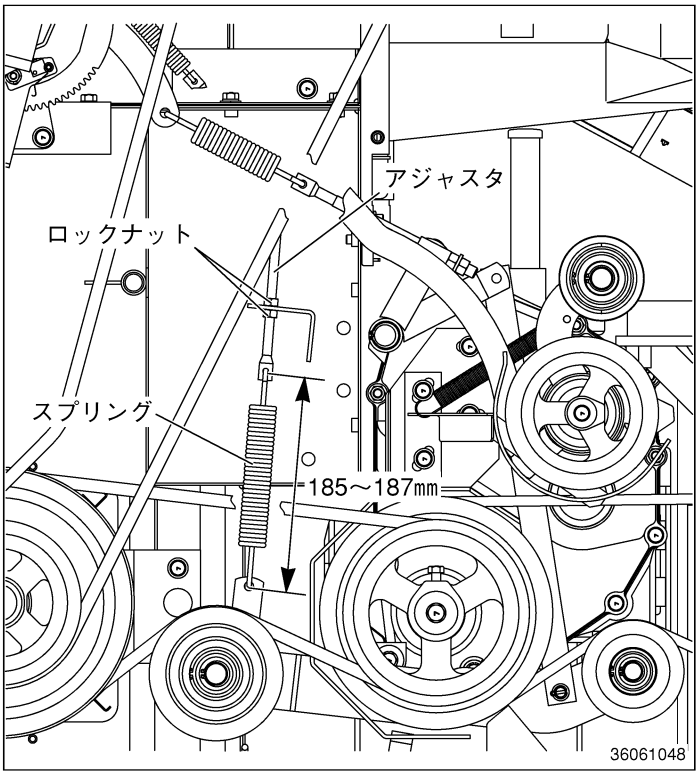
(2) 作業後，刈取部サイドカバー（右），（左）を取付けます。



7．脱こく入力ベルト

❶ 点検

スプリング寸法が **185～187㎜** になっていますか。



❷ 調整

(1) グレンタンクをオープンします。(119～120ページ参照)

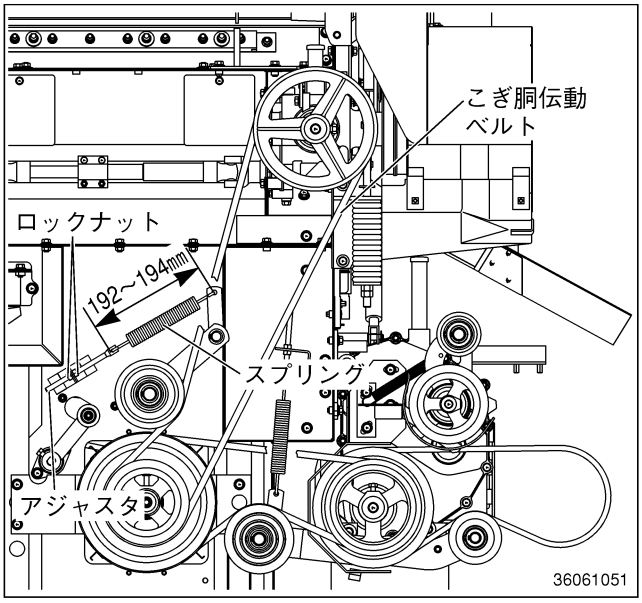
(2) ロックナットをゆるめてアジャスタ部で調整します。

(3) グレンタンクを閉じます。(119～120ページ参照)

8．こぎ胴伝動ベルト

❶ 点検

スプリング長さが **192～194㎜** になっていますか。



❷ 調整

(1) グレンタンクをオープンしストッパを掛けます。(119～120ページ参照)

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

(3) グレンタンクを閉じます。(119～120ページ参照)

9．こぎ胴ベルト

❶ 点検

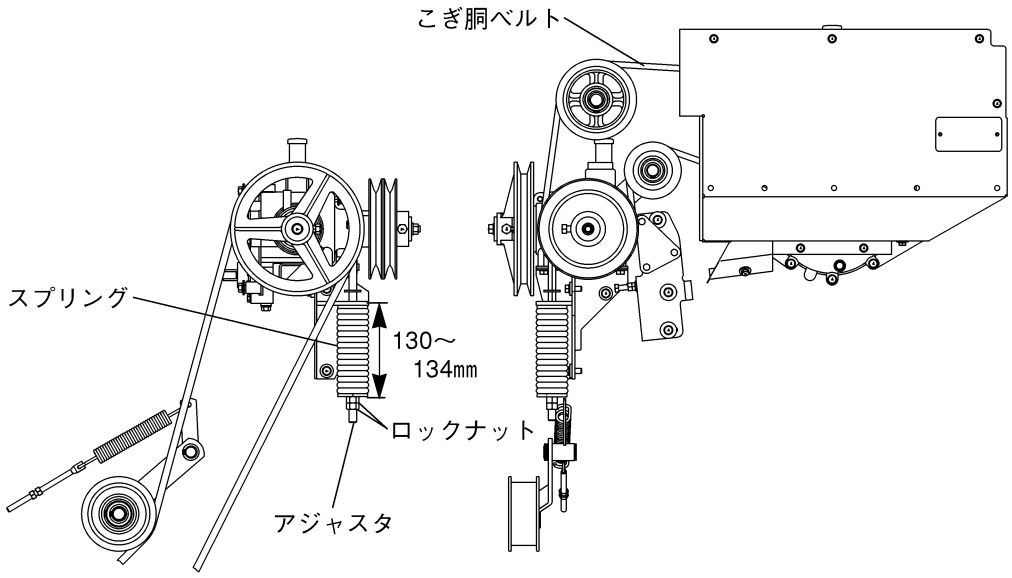
こぎ胴を閉じた状態でスプリングのセット寸法が **130～134mm** になっていますか。

❷ 調整

(1) グレンタンクを回動し，ストッパを掛けます。（119～120ページ参照）

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリングのセット長さを調整します。

(3) グレンタンクを閉じます。(119～120ページ参照)



10．選別ベルト

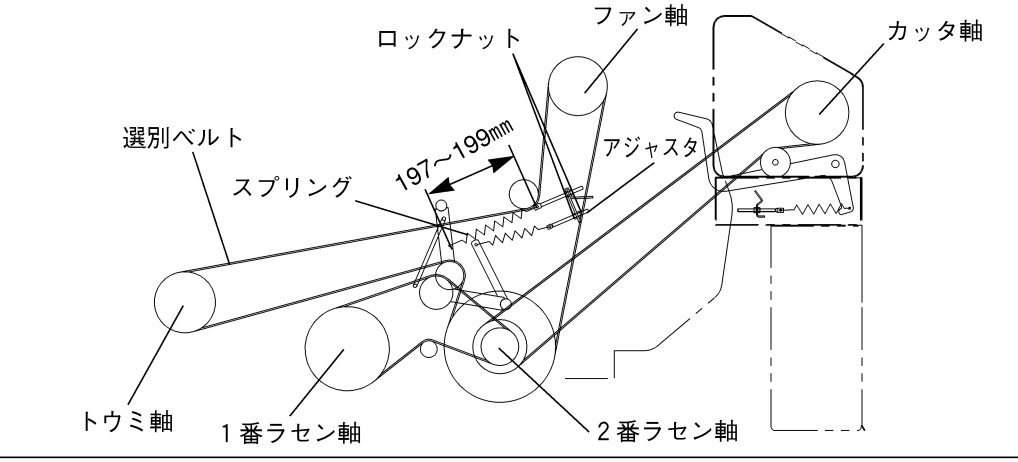
❶ 点検

スプリング長さが **197～199mm** になっていますか。

❷ 調整

(1) 脱こくサイドカバー（上），（下），（前）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

(2) 脱こくサイドカバー（上），（下），（前）を取付けます。



11．1番ラセン駆動ベルト

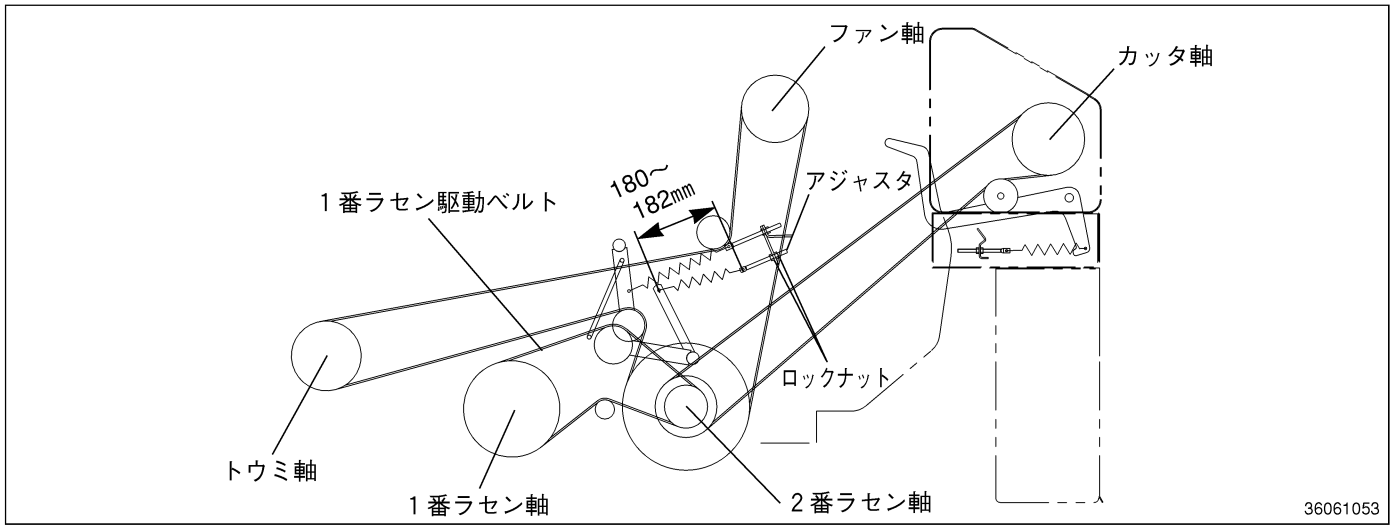
❶ 点検

スプリング長さが 180～182㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) 脱こくサイドカバー（上），（下），（前）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

(2) 脱こくサイドカバー（上），（下），（前）を取付けます。



12．排ワラ駆動ベルト

❶ 点検

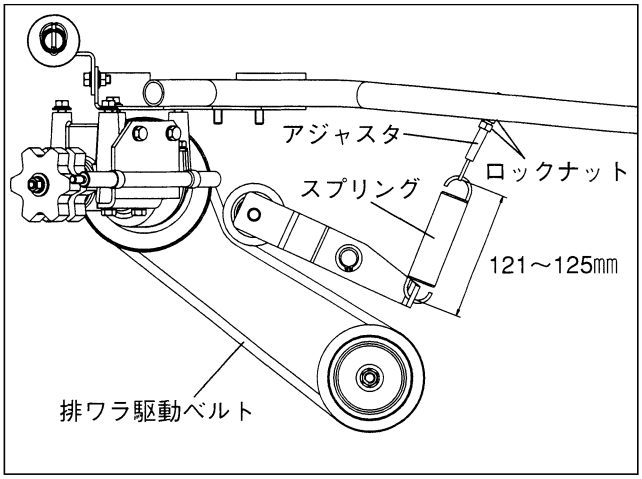
スプリング長さが 121～125㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) こぎ胴部を開き，自動ロックをかけます。
（122～123ページ参照）

(2) アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

(3) 作業後，こぎ胴部を閉じます。



13．カッタベルト

❶ 点検

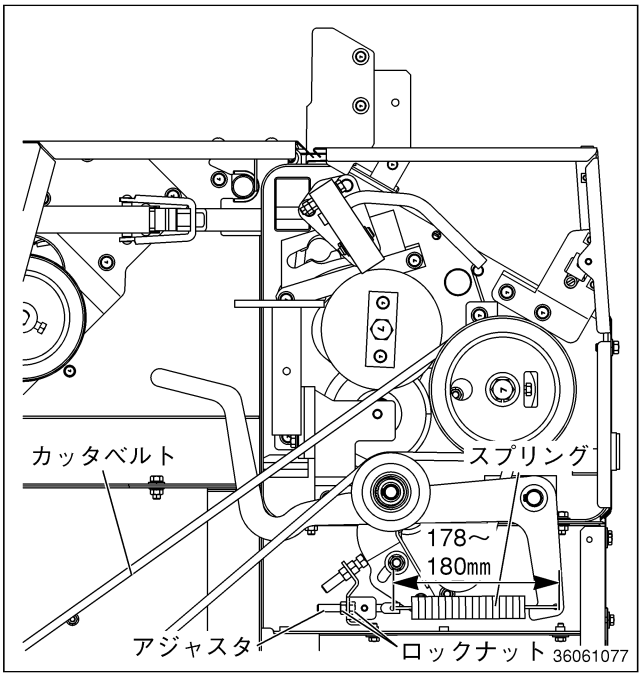
カッタのサイドカバーを外します。

スプリングの寸法が 178～180mm になっていますか。

❷ 調整

(1) ロックナットをゆるめて，アジャスタを調整します。

(2) カッタサイドカバーを取付けます。



14．グレン入力ベルト

❶ 点検

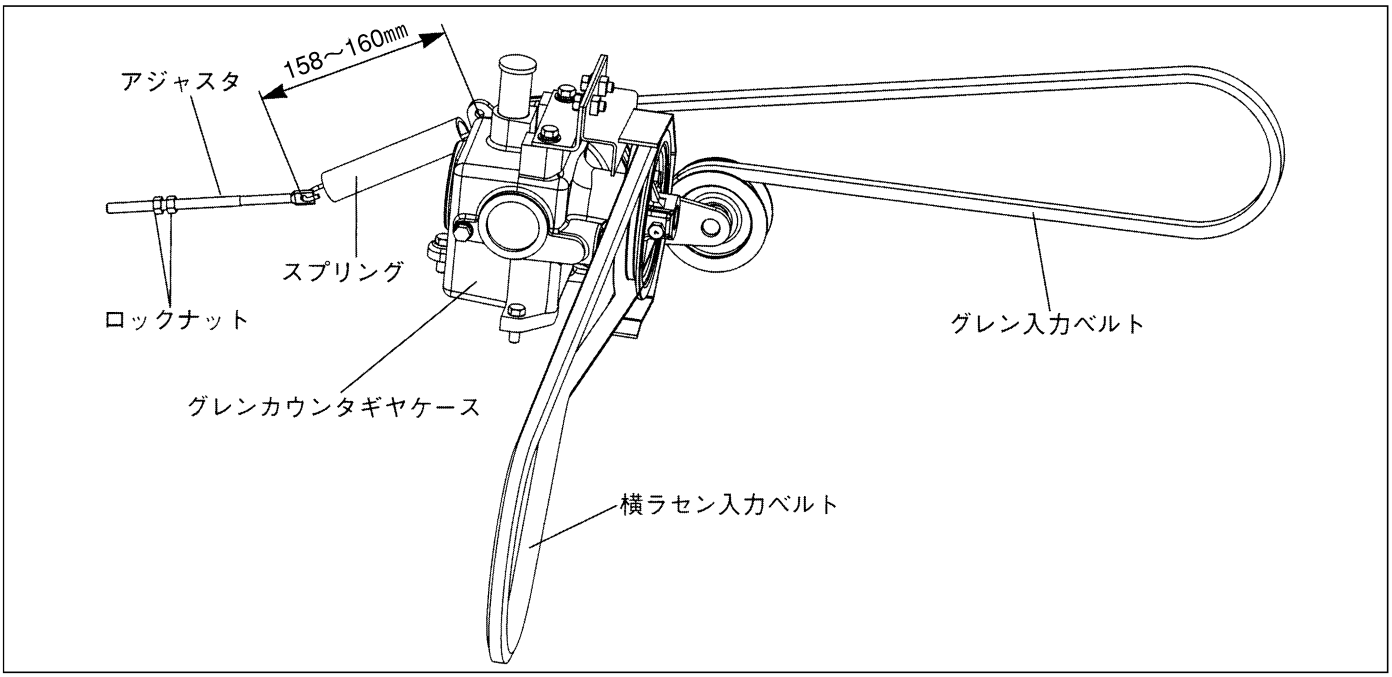
※グレン入力ベルトはグレンタンクを回動（オープン）すると見ることができます。(119～120ページ参照)

スプリングの長さが 158～160mm になっていますか。

❷ 調整

(1) ロックナットをゆるめて，アジャスタを調整します。

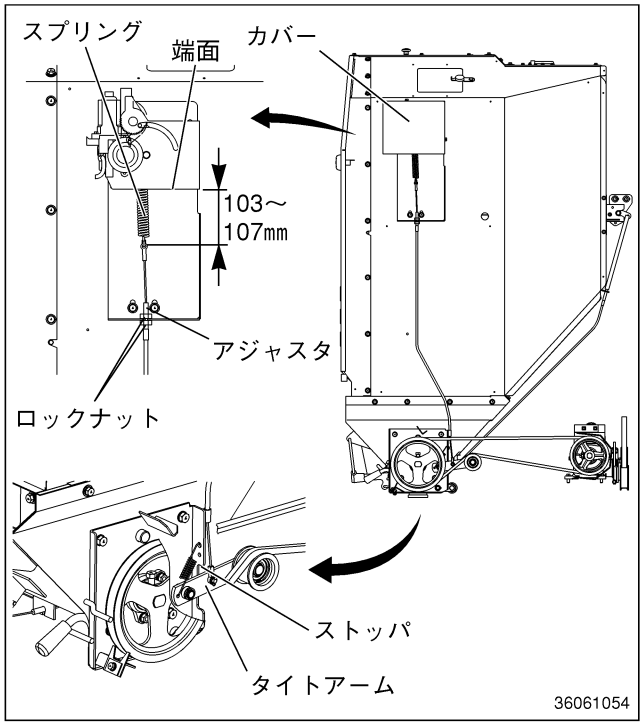
(2) グレンタンクを閉じます。(119～120ページ参照)



15．横ラセン駆動ベルト［D仕様］

❶ 点検

(1) カバーを外します。
(2) エンジンを始動し周囲の障害物に注意して排出オーガをこく粒排出範囲に移動させます。(56ページ参照)
(3) こく粒排出スイッチを《**入**》にします。このときグレンタンク内および排出オーガ内にこく粒が残っていると排出されるので注意してください。
(4) こく粒排出スイッチが《**入**》の状態でエンジンを停止します。
(5) スプリング長さが **100～107mm** となっていますか。



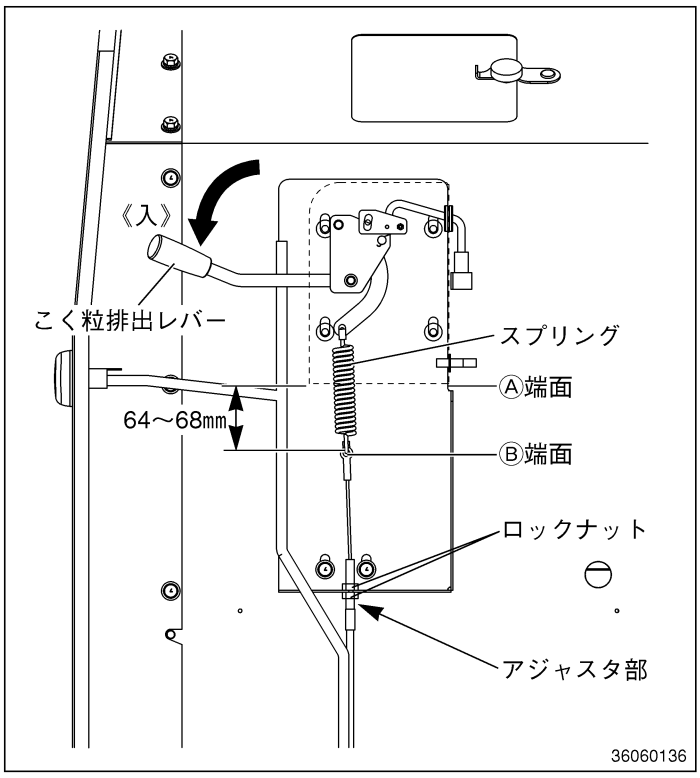
❷ 調整

(1) キースイッチを《**入**》にしスプリングの張りを元にもどします。(エンジンを始動する必要はありません。)
(2) グレンタンクをオープンします。(119～120ページ参照)
(3) ワイヤのロックナットをゆるめアジャスタ部で調整します。
(4) グレンタンクを閉じます。(119～120ページ参照)
(5) エンジンを始動しこく粒排出スイッチを《**入**》にします。
(6) こく粒排出スイッチが《**入**》の状態でエンジンを停止し，スプリング長さを確認します。
(7) カバーを取付けます。

16．こく粒排出レバー［D仕様以外］

❶ 点検

こく粒排出レバー《**入**》のときⒶ端面からⒷ端面までのスプリング長さが **64～68mm** になっていますか。



❷ 調整

(1) こく粒排出レバーを《**切**》にしてグレンタンクをオープンします。(119～120ページ参照)
(2) ワイヤのロックナットをゆるめてアジャスタ部で調整します。
(3) グレンタンクを閉じます。(119～120ページ参照)
(4) こく粒排出レバーを《**入**》にしてスプリング長さを確認します。

17．ファンベルト（オルタネータ）

⚠警告 火傷防止のために

◆ファンベルトの点検・調整は，エンジンが冷えてから行なってください。

❶ 点検

ファンベルト（オルタネータ）の長い方の中央部を指で押し，タワミ量が **10～13mm** となっていますか。

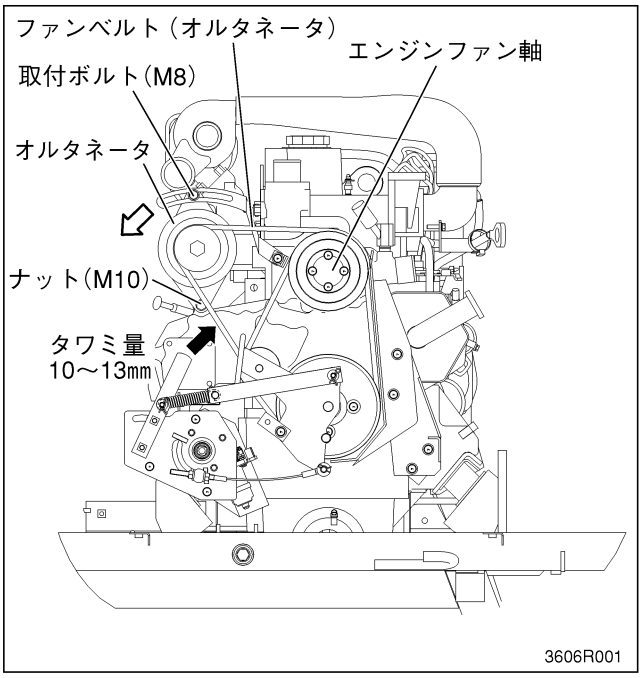
❷ 調整

・グレンタンクを回動し，エンジンカバー（後）を取外します。

オルタネータ取付ボルト，ナット（各１個）をゆるめ，オルタネータを矢印（⇨）側に倒し，ベルトが張ります。

調整後，取付ボルトナットを締付けます。

作業後にカバーを取付けます。



18．ファンベルト（ラジエータ）

⚠警告 火傷防止のために

◆ファンベルトの点検・調整は，エンジンが冷えてから行なってください。

❶ 点検

スプリング長さが **92～94mm** となっていますか。

❷ 調整

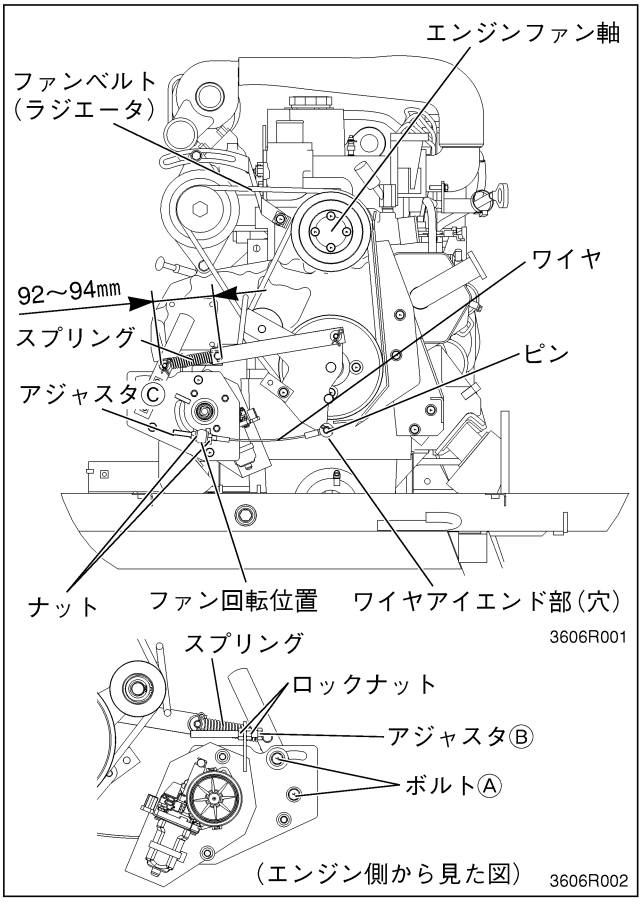
(1) クラッチモータのアーム位置がファン回転位置であることを確認します。

(2) ワイヤにたるみがある状態でボルトⒶ（２ヶ）をゆるめます。

(3) アジャスタⒷのロックナットをゆるめスプリング長さを **92～94mm** に調整し，ボルトⒶ（２ヶ）を締付けます。

(4) 上記調整後，ワイヤアイエンド部の穴とピンのスキマが **12～14mm** となるようにアジャスタⒸ部のナットをゆるめて調整します。

(5) 調整後，ゆるめたナットは締付けます。

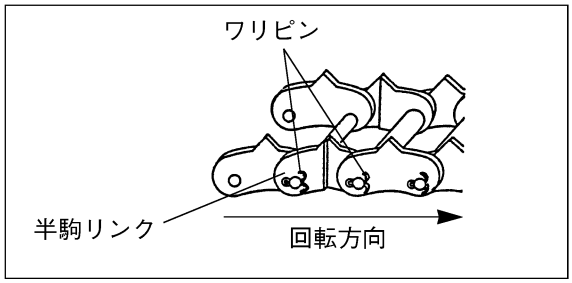


「チェンの点検・調整」

取扱いのポイント

●調整ができなくなったら，新しいチェンに交換してください。チェンを新しいものに交換した場合は，スプリングの寸法を，正規な寸法に調整してください。

19．株元搬送チェン（右）[5条型]



❶ 点検

スプリングⒶの長さが 142～148mm になっていますか。

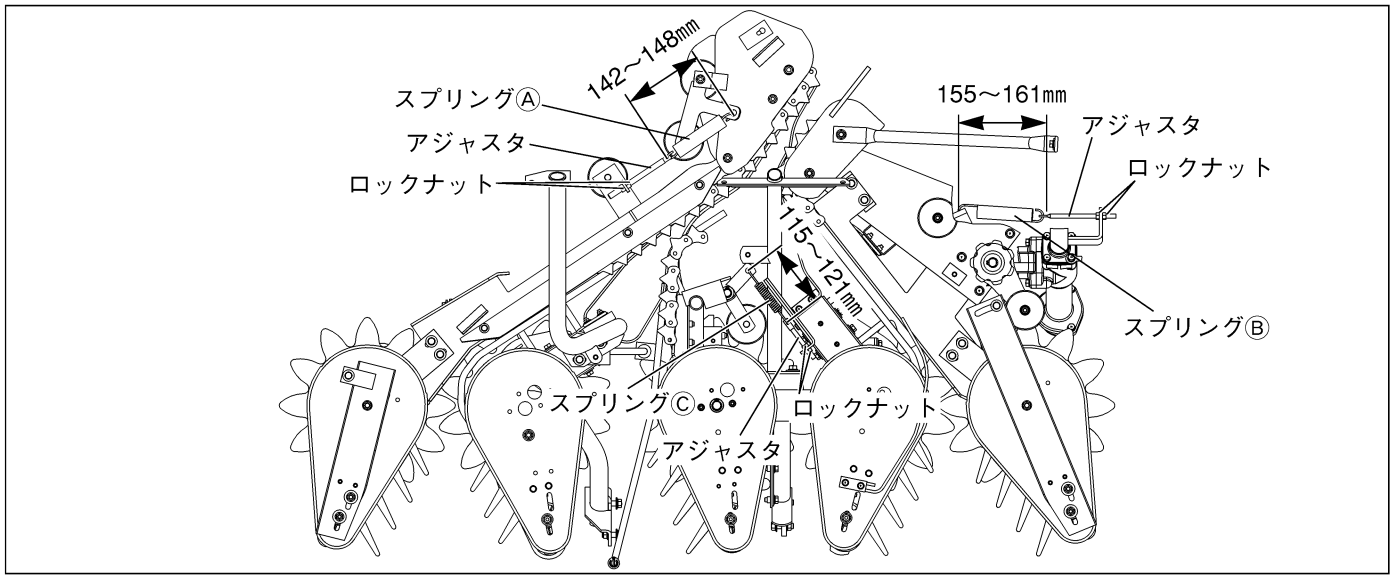
❷ 調整

(1) 刈取部サイドカバー（右），（左）を外します。

(2) アジャスタのロックナットをゆるめ，スプリングの長さを調整します。

なお調整できなくなったときは，チェンの半駒リンクを外し，チェンの長さを修正します。

(3) 刈取部サイドカバー（右），（左）を取付けます。



20．株元搬送チェン（左）[5条型]

❶ 点検

スプリングⒷの長さが 155～161mm になっていますか。

❷ 調整

(1) 刈取部サイドカバー(左)を外し，アジャスタロックをゆるめ,スプリングの長さを調整します。

なお調整できなくなったときは，チェンの半駒リンクを外し，チェンの長さを修正します。

(2) 刈取部サイドカバー（左）を取付けます。

21．株元搬送チェン（中）[5条型]

❶ 点検

スプリングⒸの長さが 115～121mm になっていますか。

❷ 調整

アジャスタロックをゆるめ，スプリングの長さを調整します。

なお調整できなくなったときは，チェンの半駒リンクを外し，チェンの長さを修正します。

22．株元搬送チェン（右）[４条型]

❶ 点検

スプリングⒶの長さが **142～148㎜** になっていますか。

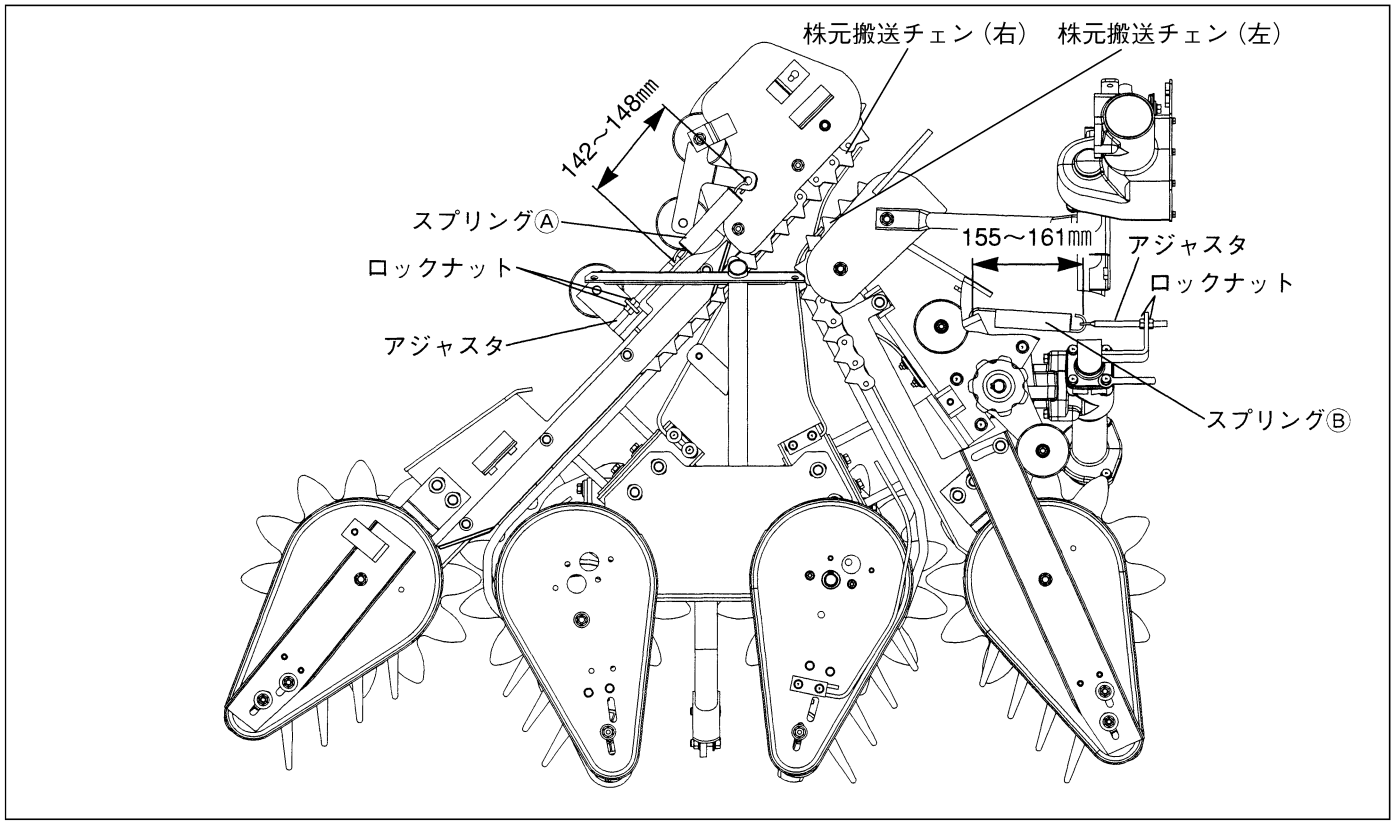
❷ 調整

(1) 刈取部サイドカバー（右）を外します。

(2) アジャスタのロックナットをゆるめ，スプリングの長さを調整します。

なお調整できなくなったときは，チェンの半駒リンクを外し，チェンの長さを修正します。

(3) 刈取部サイドカバー（右）を取付けます。



23．株元搬送チェン（左）[４条型]

❶ 点検

スプリングⒷの長さが **155～161㎜** になっていますか。

❷ 調整

(1) 刈取部サイドカバー（左）を外し，アジャスタロックをゆるめ，スプリングの長さを調整します。

なお調整できなくなったときは，チェンの半駒リンクを外し，チェンの長さを修正します。

(2) 刈取部サイドカバー（左）を取付けます。

24．かき込み搬送チェン（左・中）　左…［5条型・4条型］中…［5条型］

❶ 点検

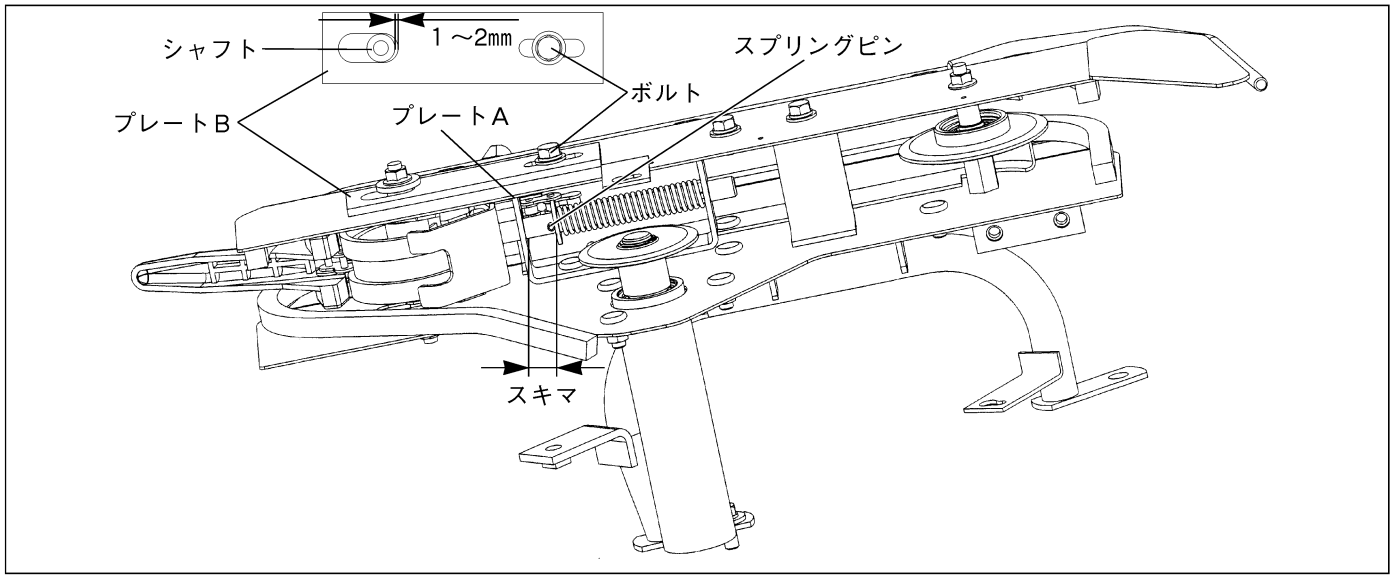
(1) スプリングがプレートAに当たっていませんか。

(2) プレートBとシャフトのスキマが 1～2mm になっていますか。

❷ 調整

(1) チェンが伸びてスプリングピンがプレートAに当たっている場合はチェンの半駒リンクを外し，チェンの長さを修正します。

(2) プレートBとシャフトのスキマが 1～2mm になるようボルトをゆるめてプレートBで調整します。



25．穂先搬送チェン

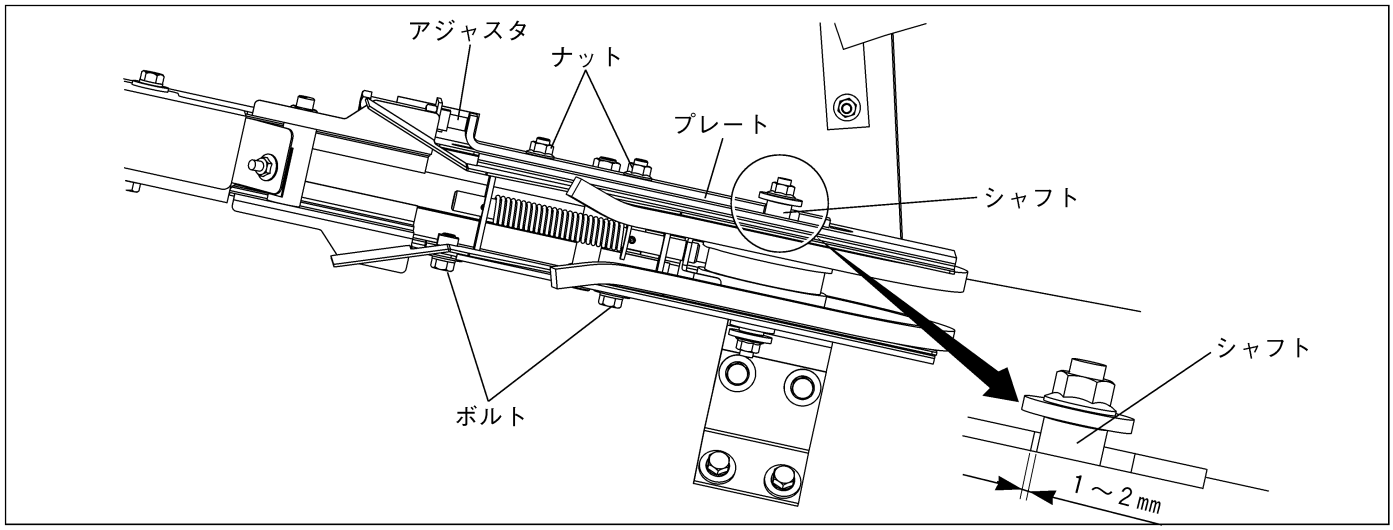
❶ 点検

プレートとシャフトのスキマが 1～2mm になっていますか。

❷ 調整

ナット，ボルト各2ヶをゆるめ，アジャスタを締込んでスキマを無くします。

なお調整できなくなったときは，チェンの半駒リンクを外し，チェンの長さを修正します。



26．補助搬送チェン（上）

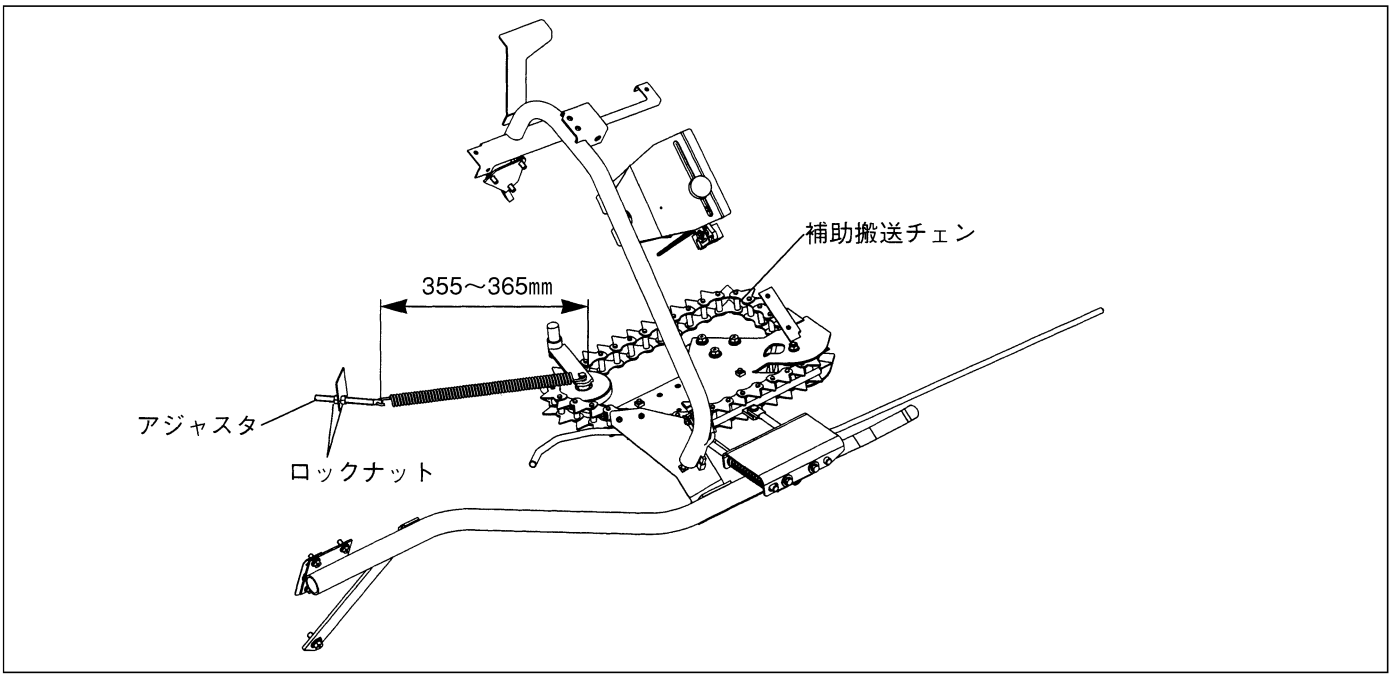
❶ 点検

スプリングの長さが 355～365㎜ になっていますか。

❷ 調整

アジャスタのロックナットをゆるめ，スプリングの長さを調整します。

なお調整できなくなったときは，チェンの半駒リンクを外し，チェンの長さを修正します。



27．引起しチェン

❶ 点検

スプリング長さが 198～202㎜ になっていますか。

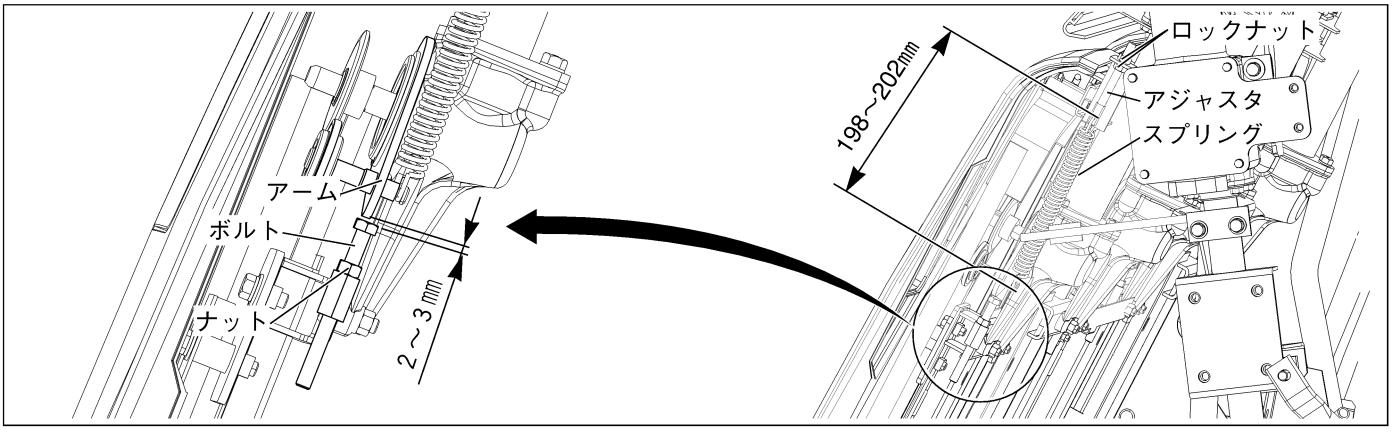
アームとボルトのスキマが 2～3㎜ になっていますか。

❷ 調整

アジャスタのロックナットをゆるめ，スプリングの長さを調整します。

ナットをゆるめ，アームとボルトのスキマを調整します。

なお調整できなくなったときは，チェンの交換を行います。



28. こぎ深さ搬送チェン

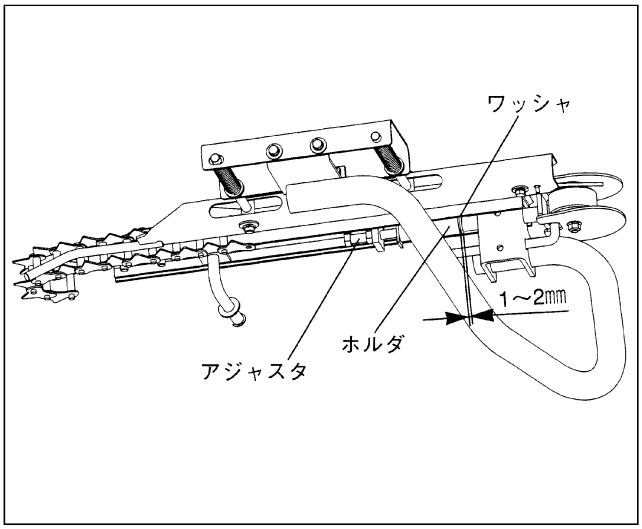
❶ 点検

ホルダとワッシャのスキマが 1～2㎜ になっていますか。

❷ 調整

アジャスタを締込んでスキマを調整します。

なお調整できなくなったときは，チェンの半駒リンクを外し，チェンの長さを修正します。



29. 脱こくフィードチェン

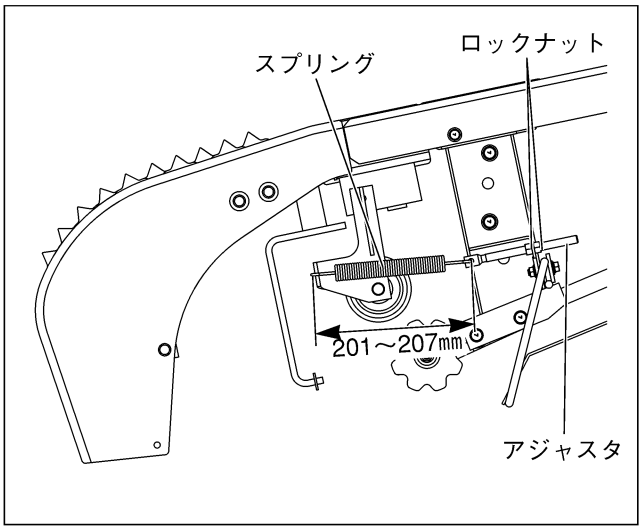
❶ 点検

スプリング長さが 201～207㎜ になっていますか。

❷ 調整

⑴ 脱こくサイドカバー（上),(下）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

⑵ 脱こくサイドカバー（上),（下）を取付けます。



30．穂先排ワラチェン

❶ 点検

穂先排ワラチェンがたるんでいませんか。

❷ 調整

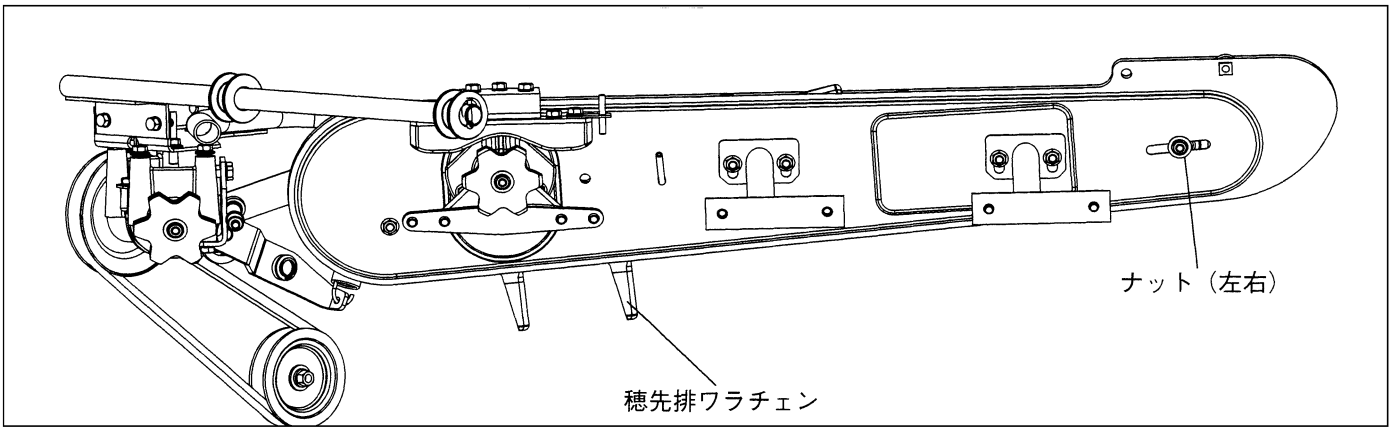
(1) こぎ胴部を開き，自動ロックをかけます。

(2) 左右のナットをゆるめると，自動的にチェン張り調整ができます。

(3) 調整後，ナット（左右）を締付けます。

なお，調整できなくなったときは，チェンの交換を行います。

(4) こぎ胴部を閉じます。



31．排ワラチェン

❶ 点検

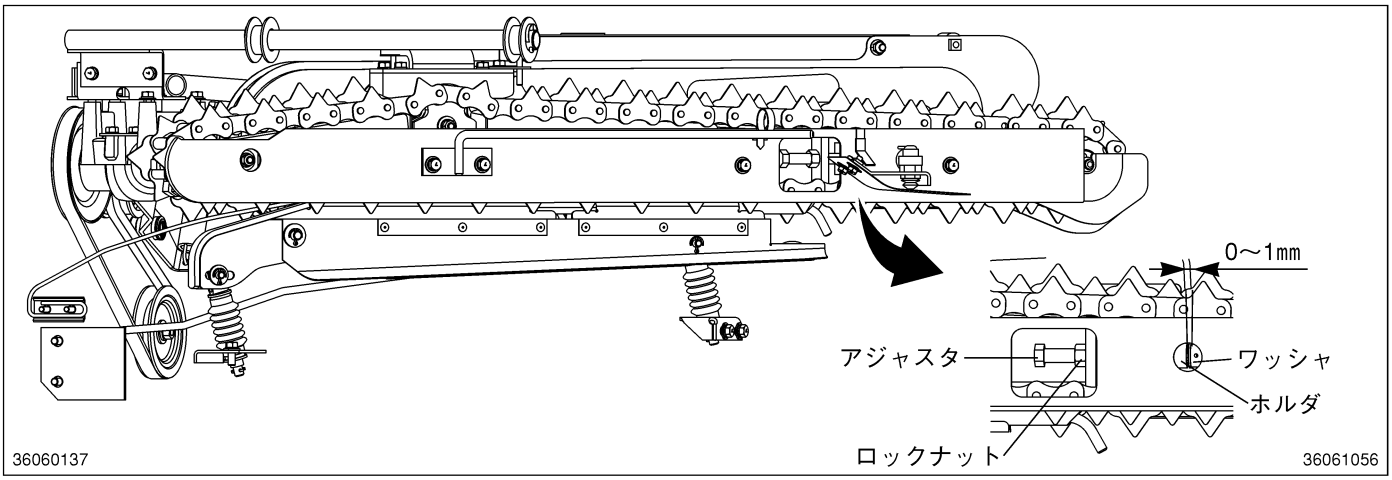
排ワラチェン部のホルダとワッシャのスキマが 0～1㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) カッタサイドカバーを取外し，カッタをオープンし，ストッパを掛けます。(126ページ参照)

(2) ロックナットをゆるめたアジャスタで調整しロックナットを締付けます。なお調整ができなくなったときはチェンの半駒リンクを外し，チェンの長さを修正します。

(3) カッタを閉じ，カッタサイドカバーを取付けます。(126ページ参照)



32．拡散装置駆動チェン

❶ 点検

カッタサイドカバーを外します。

⑴ チェンⒸ～Ⓓ間にたるみがありませんか。

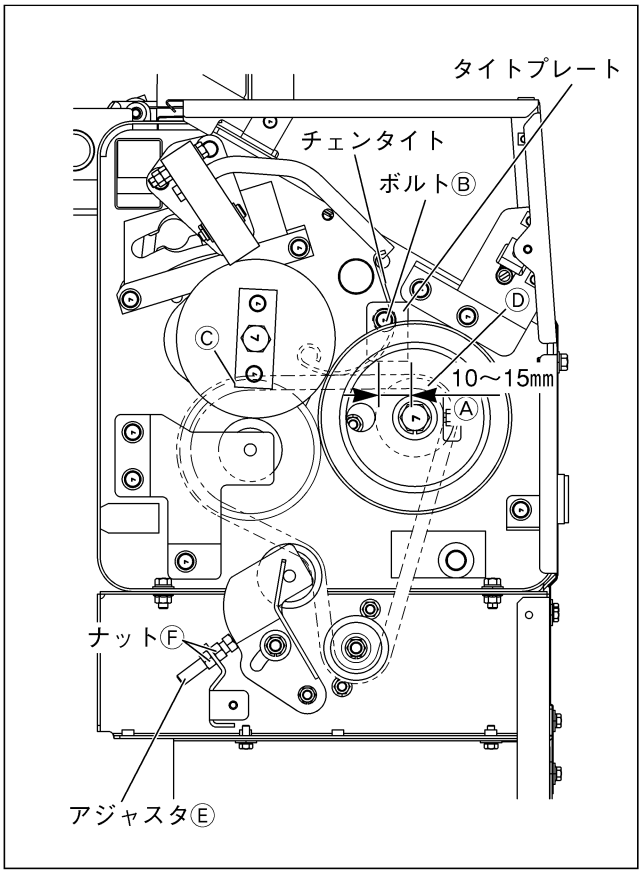
⑵ タイトプレートとチェンタイトのスキマⒶは 10～15㎜ ですか。

❷ 調整

⑴ チェンⒸ～Ⓓ間がまっすぐに張る様にアジャスタⒺを締込みます。調整後，ナットⒻを締め固定します。

⑵ ボルトⒷをゆるめてタイトプレートを動かしてⒶ寸法を調整します。

⑶ カッタサイドカバーを取付けます。



「クローラの点検・調整」

33．クローラ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ガレージジャッキがめり込んだり，移動したりしない，平坦な場所で行なってください。
◆ガレージジャッキは，２ｔ以上の仕様のものを使用してください。
◆ジャッキアップ（上げ・下げ）は，機体のバランスを確認しながらゆっくり行い，必要以上の高さに上げないでください。
◆ジャッキアップしたら，固定脚または安全ブロックを噛ませて，落下・転倒防止をしてください。
◆ジャッキアップされた機械の下に，入らないでください。

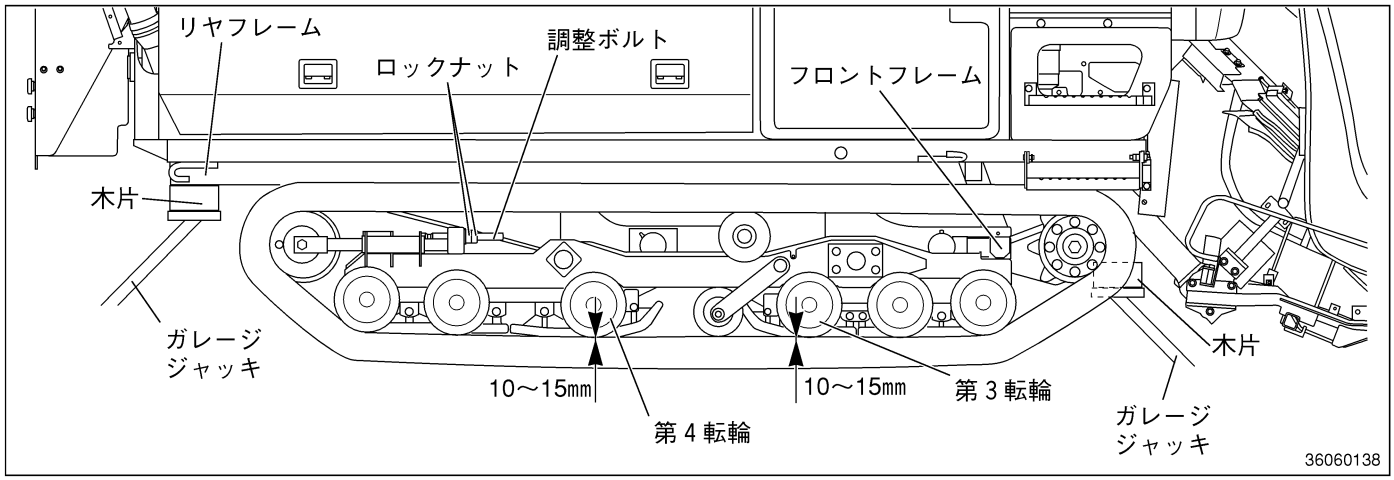
❶ 点検

(1) 図示のように，トランスミッション部とリヤフレーム部の右または左側に木片を介し，ガレージジャッキでジャッキアップし，片方のクローラを浮かせます。

(2) クローラ下面を地面から浮かせた状態で，第３転輪および第４転輪とクローラのタワミ量が **10～15㎜** になっていますか。

❷ 調整

(1) 調整ボルトのロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込んで，第３転輪および第４転輪とクローラの隙間が **10～15㎜** になるまで張ります。



取扱いのポイント

- クローラの張り調整を行う前に，ガレージジャッキを掛ける部分や，クローラ回りに付着しているワラ泥などを取除いてください。
- トランスミッションケースに直接ガレージジャッキを掛けると，ケースが破損するおそれがありますので，木片を噛ませて行なってください。

長期格納のしかた

・シーズンが終わったら，次の作業をして格納します。

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆回転部・刈取部（刈刃）などに付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときは，エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行なってください。

◆電気配線およびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電で火傷や損傷することがあります。点検し，傷んだ配線は交換，修理してください。

◆燃料ホースの老化や，傷による燃料漏れがあると火災の原因になります。作業前後に点検し，損傷したり漏れている場合は，交換してください。

◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズを取除いてください。火災の原因となることがあります。

◆高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

◆機械にシートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱いときに，シートカバーをかけると火災の原因になることがあります。

1．機械の掃除と洗浄

❶ 泥・ワラクズ・雑草などを取除き，汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で拭取ります。

❷ 脱こく内部およびグレンタンクのゴミ・残留こく粒などを，掃除口よりきれいに取除きます。
（122～124ページ脱こく内部の掃除の項を参照）

2．錆止めと注油

❶ 刈刃は掃除したのち，全面にグリースを塗布し錆止めをします。

❷ チェン・ワイヤ類にも注油をし，錆ないようにします。

❸ 塗装が剥げた個所は，補修塗装を行います。

3．エンジンの手入れ

エンジンの手入れを行うときは，平坦な格納場所で駐車ブレーキをかけ，各クラッチを《**切**》にして，エンジンが冷えてから行います。

❶ エンジンコントロールレバーは，いっぱいに戻しておきます。

❷ 新しい燃料を入れ，タンクの燃料を満タンにしておきます。

❸ 冬期気温が０℃以下になるときは，エンジンの凍結割れを防ぐため，冷却水を交換し，不凍液を入れます。（98～99ページ参照）

4．点検・整備

「**定期点検整備表**」の項を参考に，該当する項目について点検・整備します。
（92～93ページ参照）

取扱いのポイント

● エンジン部・脱こく部・運転操作部・電装部には，水をかけないでください。

⚠注意 洗浄時の注意

◆機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，2m以上離して洗車してください。もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

1．電気配線部被覆の損傷・断線により火災を引き起こすおそれがあります。

2．ホースの破損により，油・燃料が噴出して傷害を負うおそれがあります。

3．機械の破損・損傷・故障の原因になります。

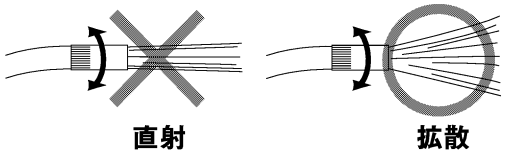
例）（1）シール・ラベルの剥がれ

（2）電装部品，エンジン，ラジエータキャビン内等への侵入による故障

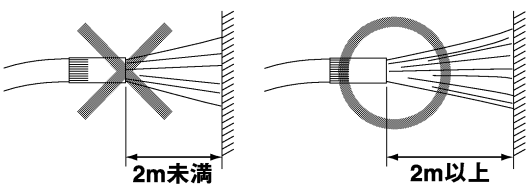
（3）クローラ，オイルシール等のゴム類，樹脂類，ガラス等の破損

（4）塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁



近距離洗車厳禁



5．格　　納

機体の掃除・点検・整備を終えたら，風通しのよい乾燥した屋内を選び，シートをかけて保管します。

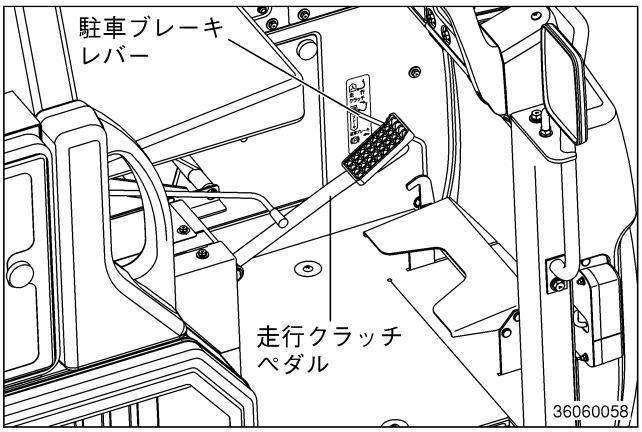
❶ 「**クローラ**」の下には板などを敷いておきます。

❷ 各レバーは《**切**》・《**N**》（**中立**）の位置にします。

❸ 「**ナローガイド（左右）**」を収納し，デバイダ先端に「**バンパ**」を取付けておきます。

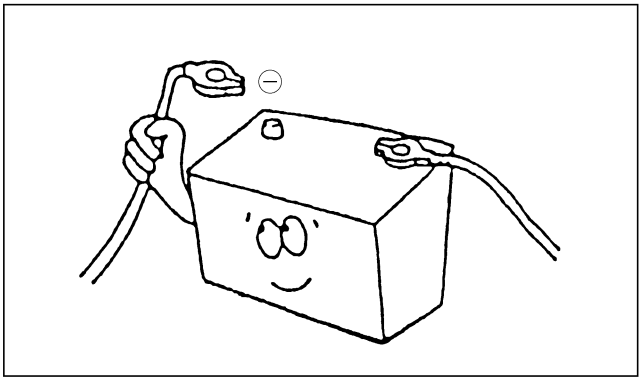
❹ 刈取部を下げて，スタータスイッチの「**始動キー**」を抜取ります。

❺ 走行クラッチペダルに駐車ブレーキレバーをかけます。



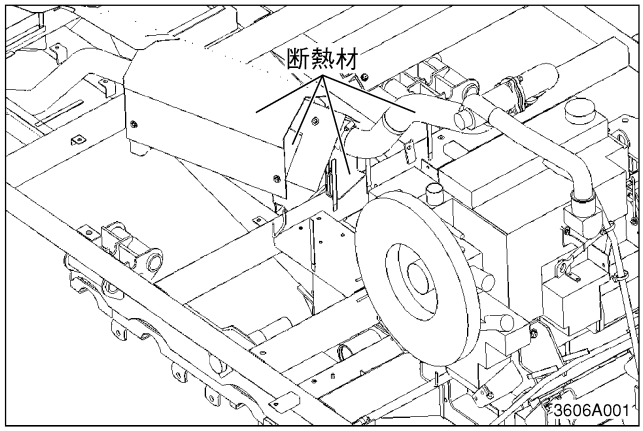
❻ クローラに「**歯止め**」をします。

❼ 「**バッテリ**」は取外して，日陰の乾燥した場所に保管するか、㊀側のコードを外しておきます。1ケ月に1回，バッテリ補充電のため，エンジンを約10分間回します。



取扱いのポイント

- **錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料と，同じ場所に格納するのは避けてください。**
- **マフラ部断熱材の損傷（破れ，剥れ）を確認し，損傷の場合は火災の原因となりますので「お買いあげ先」にて交換してください。**



6．再使用にあたって

格納後，初めて使用するときには，各部の点検を入念に行なった後に運転します。

❶ エンジンを回す前に，バッテリターミナルなど保管するときに，処置した項目を正しく復元します。

❷ 始業点検，注油を確実に行います。

取扱いのポイント

- **エンジンを回す前に，バッテリターミナルなど保管するときに，処置した項目を正しく復元してください。**

不調時の処理

・不調が発生したら，直ぐにその原因を調べて処置をし，故障を大きくしないようにします。
・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは，「**お買いあげ先**」に相談し点検を受けます。
・そのときは，「**型式名**」，「**機械番号（製造番号）**」，「**エンジン番号**」を合わせてお知らせください。

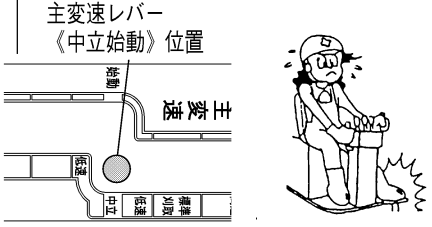
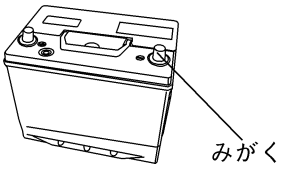
⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は，機械を平坦な場所に置いて，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行なってください。点検処置は，参照ページの安全上の項目をよく読んでから行なってください。
◆ソレノイドバルブの操作をするときは，機械の周囲に人がいないことを確認してから行なってください。
◆調整を必要とするバルブ以外は，操作しないでください。他のバルブを操作すると，不意に他の装置が動いて事故になることがあります。

⚠注意

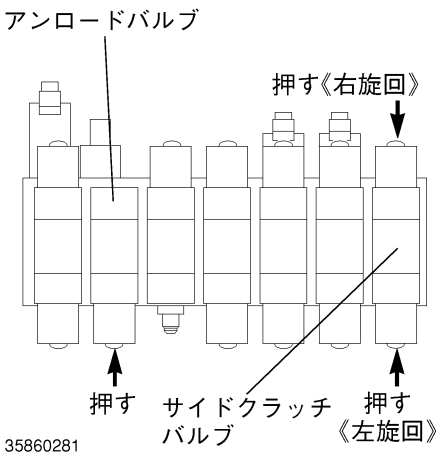
◆外したカバー類は全て元の位置に取付けてください。

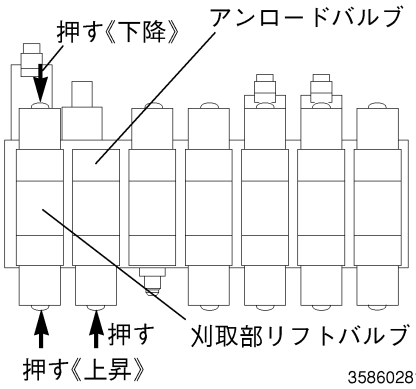
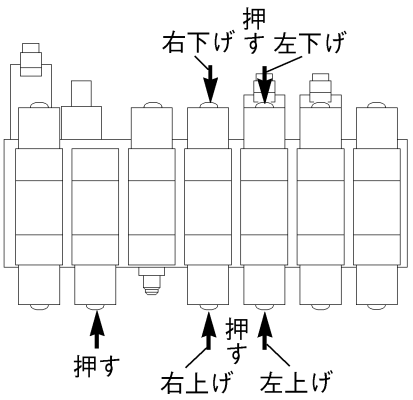
1．エンジン部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
セルモータが回らない	❶　主変速レバーを《**中立始動**》位置にしていない。 クラッチペダルをいっぱい踏込んでいない。	●主変速レバーを《**中立始動**》位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込みます。 	36
	❷　バッテリターミナルのゆるみ。（接触不良）	●ターミナル部をよくみがき締付けます。 	114
	❸　メインヒューズが切れている。	●配線の短絡個所を点検し，修正後，メインヒューズ（60A）を交換します。	31～33
	❹　バッテリが放電している。	●バッテリを充電します。	114～119
	❺　《**スタータ**》ヒューズが切れている。	●スタータヒューズ（10A）を交換します。	31～33

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
セルモータは回るが始動しない	❶　燃料タンクに燃料がない。	●燃料を補給し,エア抜きをします。（ディーゼル軽油……60Ｌ）	96 111
	❷・燃料系統にエアが入っている。 ・フィルタにエアが溜まっている。	●エア抜きをします。	111
	❸　《ランプ・計器（本機）》ヒューズが切れているため，燃料ポンプが作動しない。	●ランプ・計器（本機）ヒューズ（15Ａ）を交換します。	31～33
	❹　《キー切り》ヒューズが切れている。	●キー切りヒューズ（10Ａ）を交換します。	31～33
	❺　燃料コックが「閉」のままになっている。	●燃料コックを開ける。	110
エンジンの馬力が出ない，または自然に止まる	❶　燃料系統に水・ゴミの混入	●燃料系統の点検・掃除をします。 ●燃料フィルタを交換します。	110
	❷　エアクリーナの目詰まり。	●掃除またはエアクリーナエレメントを交換します。	109
	❸　エンジンオイルの不良（汚れ）または不足	●指定のオイルを補給または交換します。	96～97
	❹　冷却水の不足	●冷却水を補給します。	98～99
	❺　エンジンファンベルトのゆるみ。	●ファンベルトを調整します。	162
	❻　《ランプ・計器（本機）》ヒューズが切れているため，燃料ポンプが作動しない。	●ランプ・計器（本機）ヒューズ（15Ａ）を交換します。	31～33
	❼　《キー切り》ヒューズが切れている。	●キー切りヒューズ（10Ａ）を交換します。	31～33
刈取走行するとエンジンが停止すると同時に倒伏刈ランプ点滅し，ホーン吹鳴	《搬送》ヒューズが切れている。	●搬送ヒューズ（20Ａ）を交換します。	31～33

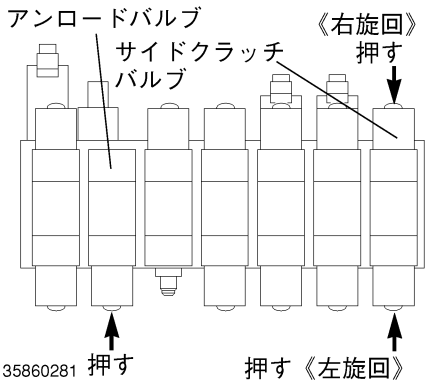
2．走行・運転操作部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
主変速レバーを操作しても走行しない	❶　副変速レバーが《**N**》（**中立**）位置になっている。	●条件に合わせ《**標準**》，または《**走行**》位置にセットします。	19
	❷　油圧オイルタンクのオイル不足	●規定量まで油圧作動油を補給します。	100
マルチステアリングレバーを操作しても旋回しない	❶　《**リフト・操向**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 リフト・操向ヒューズ……15A マイコンヒューズ……10A	31～33
	❷　油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを《**N**》《**中立**》にしてエンジンを始動します。アンロードバルブを押しながら，サイドクラッチバルブの《**右旋回**》および《**左旋回**》の手動プッシュを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	ー
	❸　副変速レバーのスピンドライブターンが確実に切替っていない。	●確実に切替えます。	19

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
マルチステアリングレバーを操作しても刈取部が上昇または下降しない	❶ 《**リフト・操向**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 リフト・操向ヒューズ……15A マイコンヒューズ……10A	**31～33**
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを《**N**》《**中立**》にしてエンジンを始動します。アンロードバルブを押したり，刈取部リフトバルブの《**上昇**》および《**下降**》の手動プッシュを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	**—**
	❸ 油圧固定スイッチが《**油圧固定**》位置か《**下る**》位置になっている。	●油圧固定スイッチを《**作業時**》位置にします。	**13**
水平操作レバーを操作しても作動しない 水平自動制御が作動しない	❶ 《**水平・オーガバルブ**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズまたは《**リフト・操向**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 水平・オーガバルブヒューズ…10A マイコンヒューズ……10A リフト・操向ヒューズ……15A	**31～33**
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを《**N**》《**中立**》にしてエンジンを始動します。メインバルブユニットのアンロードバルブを押しながら，水平制御用バルブユニットの手動押しボタンを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下側にあります。）	**—**

3．電気・自動制御部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
モニタランプ・前照灯・作業灯・バックブザー・ホーンが点灯または作動しない	❶　《ランプ・計器（パネル）》ヒューズ,《作業灯》ヒューズ,《マイコン》ヒューズ,《ランプ・計器（本機）》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 ランプ・計器(パネル)ヒューズ…15A 作業灯ヒューズ……30A マイコンヒューズ……10A ランプ・計器(本機)ヒューズ…15A	31～33
	❷　バッテリの放電。	●バッテリを充電します。	114～119
方向指示器が点灯しない	《フラッシャ・制動灯》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 フラッシャ・制動灯ヒューズ…15A	31～33
こぎ深さ自動制御が作動しない	❶　《こぎ深さ・注油》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 こぎ深さ・注油ヒューズ…30A マイコン……10A	31～33
	❷　刈取部のこぎ深センサにワラクズが溜まっている。	●ワラクズを取除きます。	—
刈高さポジションコントロールが作動しない	《リフト・操向》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 リフト・操向ヒューズ……15A マイコン……10A	31～33
選別自動制御が作動しない	❶　《選別制御》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 選別制御ヒューズ……20A マイコンヒューズ……10A	31～33
	❷　スイングシーブ部にワラクズが溜まっている。	●ワラクズなどがきれいに排出されるまで，脱こく部の空運転をします。	122～124
方向自動制御が作動しない [ディーラーオプション]	❶　《リフト・操向》ヒューズまたは《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 リフト・操向ヒューズ……15A マイコンヒューズ……10A	31～33
	❷　刈取部の方向センサに草・泥・ワラクズなどが溜まっている。	●草・泥・ワラクズなどを取除きます。	—

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
方向自動制御が作動しない [ディーラーオプション]	❸ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●エンジンを始動し，アンロードバルブを押しながら，サイドクラッチバルブの《**右旋回**》および《**左旋回**》の手動プッシュを数回押すとゴミ噛みが解消する場合があります。(バルブユニットは運転席ステップの下にあります。)	ー

4. 刈　取　部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
刈取部で「カタカタ音」がしてチェンが動かない	❶ 搬送経路に詰まりがある。	●つぎの操作手順で処置します。 ①パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**切**》にします。 ②エンジンを停止します。 ③刈取搬送部の詰まり個所を取除きます。 ④エンジンを始動します。 ⑤パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**刈取**》にして確認します。 ※副変速《**中立・N**》で主変速を《**前進・低速**》にします。 **取扱いのポイント** **●デバイダが土中に突っ込んで，株抜けしないようにしてください。搬送詰まりの原因になります。**	**14，19**
	❷ 刈取クラッチスプリングの調整不良(ベルトがスリップしている)	●刈取クラッチスプリングの調整をします。	**153**
刈株の長さにムラがある	❶ 刈刃の注油不足	●刈刃に十分注油します。	**107**
	❷ 刈刃の調整不良（刈刃の隙間が広い）	●調整ライナで隙間を調整します。	**151**
	❸ 刈刃の摩耗	●刈刃を交換します。	**150〜151**
	❹ マルチステアリングレバーの操作不良。	●刈取り条に沿って運転するときは，急激な操作は避ける。	**21，52**

5．脱こく部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
脱こく搬送詰まりでエンジンが停止した	⑴脱こくフィードチェン部に詰まりがある。 （脱こくフィードチェンエンジン停止スイッチ作動） ⑵排ワラチェン部に詰まりがある。 （排ワラチェンエンジン停止スイッチ作動）	●つぎの手順により処置します。 ①パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**切**》にする。 ②脱こく排ワラ関係の詰まり個所を取除く。 ③排ワラフィードチェンの張りを点検・調整する。 ④エンジンを始動する。 ⑤パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**脱こく**》にして確認する。 **取扱いのポイント** ●**処置後，脱こく部の空運転をし，脱こく内部に溜まったワラクズをきれいに排出してから，刈取りを開始してください。**	**122〜124**
グレンタンク内にこく粒が出ない（脱こく部の詰まり）	❶　こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物に合ったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て，《**稲・麦，種子**》の各マークの範囲内になるようにして使用します。	**9〜10**
	❷　ベルトがスリップしている。	●脱こく入力ベルトを張ります。 ●１番ラセン駆動ベルトを張ります。 ●選別ベルトを張ります。	**ー** **160**
	❸　こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」に合わせます。	**72〜73**
	❹　作物が雨・露のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除	**122〜124**
	❺　刈取り時期が早く，青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度を下げ，できるだけ低能率で作業をします。	**15〜19**

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
グレンタンク内にこく粒が出ない（脱こく部の詰まり）	❻　選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	77〜78
	❼　１番ラセン底板，２番ラセン底板の掃除口が開いている。	●開閉レバーを《**閉じる**》位置にし，ストッパをかけます。	124〜125
能率が上がらない（こぎ室内で「ゴトゴト音」がする）	❶　作物が雨・露のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	122〜124
	❷　こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	72〜73
	❸　こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物に合ったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て，《**イネ・ムギ，種子**》の各マークの範囲内になるようにして使用します。	9 〜10
	❹　刈取り速度が早すぎる。	●主変速レバーで速度を下げます。	18〜19
	❺　送じんがスムースでない。	●送じん量調節位置を《**多い**》方向へ調節します。 （必要に応じてガイドを固定します。）	80
	❻　ワラ切カマが切れない。	●ワラ切カマの交換をします。 **取扱いのポイント** **●ワラ切カマは，こぎ歯に当たらないように取付けてください。** **●ワラ切カマの取付け方向を確認して，取付けてください**	148〜149
	❼　選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	77〜78

不調時の処理

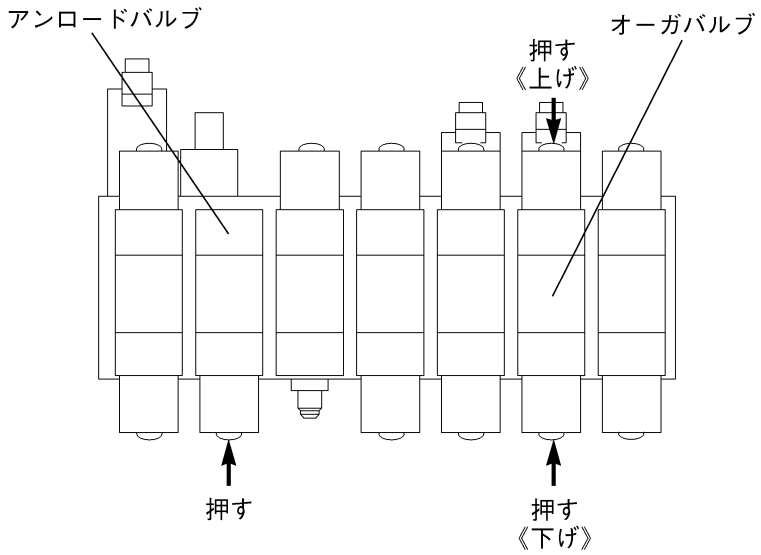
不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
三番ロスが多い	❶　こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズ発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	72〜73
	❷　能率の上げ過ぎにより，揺動流板にワラクズなどが停滞気味。	●脱こく能力以上の高能率作業であり，作業速度を下げて作業をします。	18〜19
	❸　作物が雨・露のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	122〜124
	❹　刈取り時期が早く青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度を下げ，できるだけ低能率で作業をします。	18〜19
	❺　選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	77〜78
こぎ残しが多い	❶　こぎ深さが浅すぎる。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置にあわせます。	72
	❷　こぎ胴の回転が低い。	●こぎ胴回転を規定回転に合わせて，マークの範囲内になるようにして作業をします。	9 〜10
	❸　デバイダで作物を押し刈りしている。	●押し刈りしないように，条間に沿ってデバイダを合わせます。 ●条合わせは，マルチステアリングレバーを小刻みに操作する。（強く操作すると，「**ブレーキ**」が効き，条を外れたり株元を押し倒したりし，高刈りとなります） ●雑草・ワラクズの詰まりを除去します。 ●横刈りをするとき，刈幅いっぱいの刈取りは行わない。	50〜55

6．ワラ処理部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
巻きつきが発生し馬力をとる	❶　刃の摩耗によりカッタの切れ味が悪い。	●刃を交換します。	139〜146
	❷　排ワラの搬送姿勢が悪い。	●こぎ深さ位置を適正にします。	72〜73
	❸　排ワラ量の増加	●作業速度を適正にします。	52
排ワラ姿勢が悪い（カッタ部での搬送姿勢が悪い）	❶　排ワラチェンの張り不良	●チェンを張ります。	168
	❷　こぎ深さが適正でない。	●こぎ深さ位置を適正にします。	72〜73

7．グレンタンク部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
排出オーガ操作レバーを操作しても，動かない	❶　《**水平・オーガバルブ**》ヒューズ,《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 水平・オーガバルブヒューズ…10Ａ マイコンヒューズ……10Ａ	**31～33**
	❷　油圧バルブへのゴミ噛み。	●エンジンを始動し，アンロードバルブを押しながら，オーガバルブの《**上げ**》および《**下げ**》の手動プッシュを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。 （下図のバルブユニットは，運転席ステップの下にあります。）	―
こく粒排出スイッチを操作してもこく粒が出ない	❶　ベルトのスリップ。	●ベルトの張りを調整します。	―
	❷　《**排出クラッチオーガブレーキ**》,《**マイコン**》ヒューズが切れている。［**D仕様**］	●ヒューズを交換します。 排出クラッチオーガブレーキヒューズ…20Ａ マイコンヒューズ……10Ａ	**31～33**



取扱いのポイント

- **各不調時の点検は，配線接続部の外れ，接触不良およびアース不良の点検も併せて行なってください。**
- **ヒューズの溶断が再発するときは，点検を受けてください。**

8．キャビン部［キャビン仕様］

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
ワイパが作動しない	❶ 《ワイパ》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 ワイパヒューズ……15A	31～33
ウォッシャ液が出ない	❶ ウォッシャ液が不足している。	●ウォッシャ液を補給する。	105
	❷ 《ワイパ》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 ワイパヒューズ……15A	31～33
クーラが作動しない	❶ 《エアコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 エアコンヒューズ……20A	31～33
クーラの風量が少ない	❶ 吸気口のフィルタが目詰まりしている。	●フィルタを掃除する。	—
室内灯が点灯しない	❶ 電球（バルブ）が切れている。	●電球（バルブ）を交換する。	—
	❷ 《室内灯・時計》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 室内灯・時計ヒューズ……10A	31～33
作業灯が点灯しない	❶ 電球（バルブ）が切れている。	●電球（バルブ）を交換する。	—
	❷ 《作業灯》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 作業灯ヒューズ……30A	31～33
	❸ 作業灯リレーが破損している。	●作業灯リレーを交換する。 （「お買いあげ先」で点検を受けてください。）	—
カーステレオが作動しない	❶ 《カーステ・シガライタ》ヒューズが切れている。	●運転席下のヒューズを交換する。 カーステ・シガライタ ヒューズ……20A	31～33
シガライタが作動しない	❶ 《カーステ・シガライタ》ヒューズが切れている。	●運転席下のヒューズを交換する。 カーステ・シガライタ ヒューズ……20A	31～33
クーラが冷えない	❶ ガスがない。	「お買いあげ先」で点検を受けてください。	—

取扱いのポイント

- 各不調時の点検は，配線接続部の外れ，接触不良およびアース不良の点検も併せて行なってください。
- ヒューズの溶断が再発するときは，点検を受けてください。

9．モニタ［X仕様］

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
モニタに映像が映らない	❶　カメラの配線が正しく接続されていない。	●カメラ用の配線，コネクタの接続を確認する。	—
	❷　AUXスイッチが「ON」になっている。	●AUXスイッチを「OFF」にする。	91
モニタの電源が入らない	❶　電源の配線が正しく接続されていない。	●配線を確認する。	—
	❷　《モニタ》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 モニタヒューズ……5A 再度切れる場合は，「お買いあげ先」にご相談ください。	31～33
モニタの映像が薄い	❶　使用状況が悪い。	●車内温度が0℃以下，または60℃以上になっている場合が考えられます。車内温度を適温（25℃前後）にして確認する。	—

・上記の対処を行なっても復帰しない場合は，本体の電源を切り，「お買いあげ先」にご相談してください。

取扱いのポイント

●各不調時の点検は，配線接続部の外れ，接触不良およびアース不良の点検も併せて行なってください。

●ヒューズの溶断が再発するときは，点検を受けてください。

付　　表

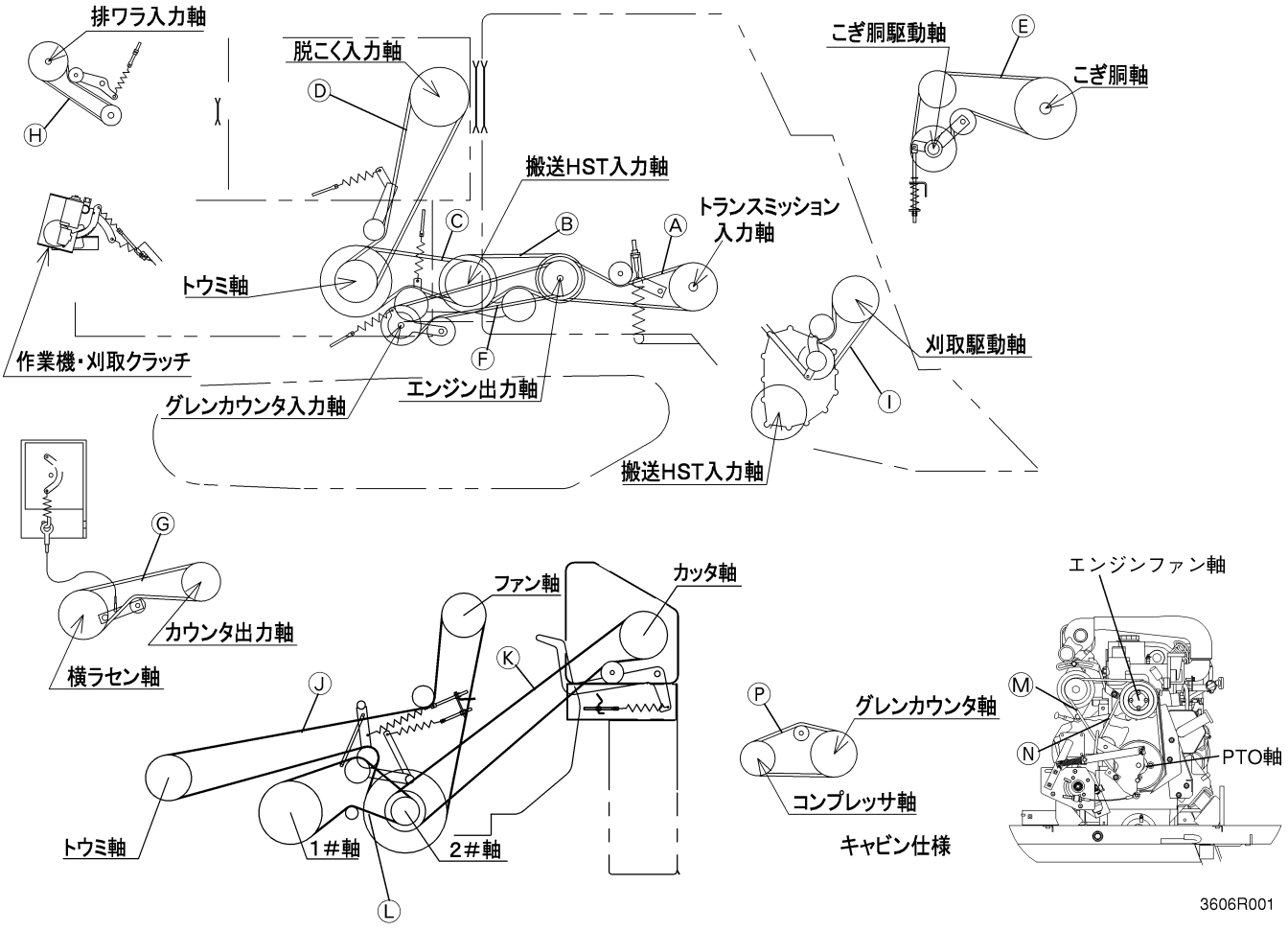
1．主要諸元

型式名				三菱VY463		三菱VG563	
区分				FLDM	FCLDM	FLDM	FCLYDM
車両型式名				三菱　KDN－VC63A			
機体寸法（格納時）	全長		(mm)	4,350			
	全幅		(mm)	1,990	2,050	2,020	2,050
	全高		(mm)	2,360	2,600	2,360	2,600
機体質量（重量）			(kg)	2,905	3,055	2,975	3,180
エンジン	型式			三菱S4Q2－T			
	種類			水冷４サイクル４気筒ディーゼルターボ			
	総排気量		(L{cc})	2.505 {2,505}			
	出力／回転速度		(kW{PS}/rpm)	46.6{63.4}/2800			
	使用燃料			ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量		(L)	60			
	始動方式			セルモータ式			
	バッテリ		(V･Ah)	12・55			
走行部	クローラ	幅×接地長	(mm)	450×1,670			500×1,670
		中心距離	(mm)	1,030		1,080	
		平均接地圧	(kPa{kgf/cm²})	18.9{0.193}	19.9{0.203}	19.4{0.198}	18.7{0.190}
	変速方式			油圧モータ式（HST）			
	変速段数		(段)	前進無段，後進無段（副変速２段）			
	走行速度(m/s)	前進		中速0～1.60，高速0～2.60		中速0～1.40，高速0～2.28	
		後進		中速0～1.60，高速0～2.60		中速0～1.40，高速0～2.28	
刈取部	刈取り条数		(条)	4		5	
	デバイダ先端間隔		(mm)	1,450～1,500		1,700～1,750	
	刈取装置形式			往復動刃式（ツイン）			
	刃幅		(mm)	1,440		1,690	
	変速段数		(段)	２（車速連動式）			
	刈高さ範囲		(mm)	40～150			
	こぎ深さ調節方式			電動式（自動，手動併用）			
脱こく部	脱こく方式			複胴下こぎ軸流式（増速ツインこぎ胴）			
	こぎ胴	径×幅	(mm)	410×810			
		回転速度	(rpm)	前457・後562			
	処理胴	径×幅	(mm)	140×880			
		回転速度	(rpm)	1,545			
こく粒処理部	こく粒処理方式			グレンタンク式（オーガ排出）			
	タンク容量		(L)	1,500			
排ワラ処理装置				ディスク形カッタ			
適応作物全長			(mm)	550～1,300			
倒伏適応性			(度)	追刈：85°以下・向刈：70°以下			
作業能率			(分/10a)	10～53		10～45	
運転免許				大型特殊免許			

・この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

2. ベルト一覧表

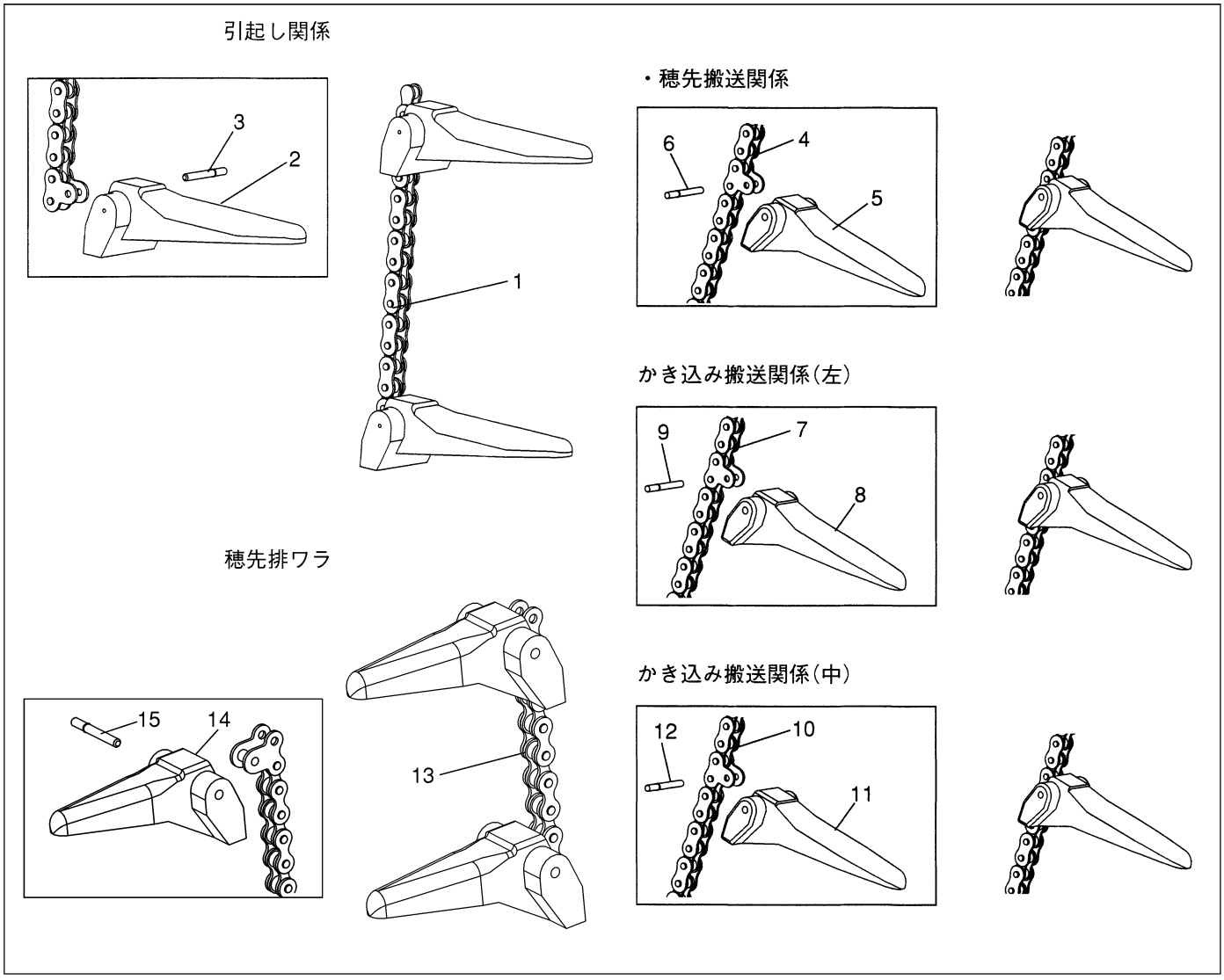
記号	伝動系統	本数	部品番号	仕様	
A	エンジン出力軸～トランスミッション入力軸	2	3553 0054 001	LB59	走行ベルト
B	エンジン出力軸～搬送HST入力軸	2	3583 6217 500	LB49	搬送HST駆動ベルト
C	搬送HST入力軸～トウミ軸	1	3583 6537 001	SC56	脱こく入力ベルト
D	トウミ軸～脱こく入力軸	1	3583 6107 001	SC77	こぎ胴伝動ベルト
E	こぎ胴駆動軸～こぎ胴軸	2	3553 6161 000	SB66	こぎ胴ベルト
F	エンジン出力軸～グレンカウンタ入力軸	1	3553 0054 001	LB59	グレン入力ベルト
G	カウンタ出力軸～横ラセン軸	1	3559 9023 000	SB69	横ラセン駆動ベルト
H	こぎ胴軸～排ワラ入力軸	1	0852 1500 036	SB36	排ワラ駆動ベルト
I	搬送HST入力軸～刈取駆動軸	1	3584 4012 000	SC40	刈取ベルト［5条型］
		1	3583 4012 000	LC39	刈取ベルト［4条型］
J	トウミ軸～ファン軸	1	0852 1500 139	SB139	選別ベルト
K	2番軸～カッタ軸	1	0852 1500 097	SB97	カッタベルト
L	1番軸～2番軸	1	3553 6625 000	SB46	1番ラセン駆動ベルト
M	エンジンPTO軸～エンジンファン軸	1	05910 10041	1060㎜	ファンベルト（オルタネータ）
N	エンジンPTO軸～エンジンファン軸	1	3606 0234 500	LA36	ファンベルト（ラジエータ）
P	コンプレッサ	1	3583 3959 000	FM37	コンプレッサベルト[キャビン仕様]



3．主な消耗部品

1．爪関係

［5条型］

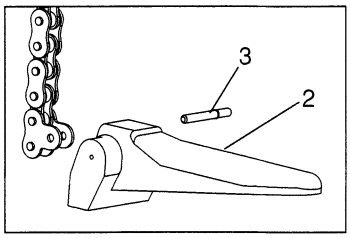


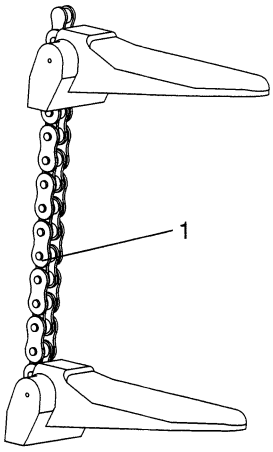
No.	部品名称	部品番号	備考
1	チェン（5本）	3520 4438 000	引起し搬送
2	ツメ（50本）	3586 4419 000	
3	ピン（50本）	3523 4428 000	
4	チェン（1本）	3584 5232 001	穂先搬送
5	ツメ（31本）	3193 3338 000	
6	ピン（31本）	3523 4428 000	
7	チェン（1本）	3518 5252 000	かき込み搬送（左）
8	ツメ（10本）	3193 3338 000	
9	ピン（10本）	3523 4428 000	
10	チェン（1本）	3584 4978 000	かき込み搬送（中）
11	ツメ（8本）	3193 3338 000	
12	ピン（8本）	3523 4428 000	
13	チェン（1本）	3583 7841 001	穂先排ワラ
14	ツメ（16本）	3579 5295 201	
15	ピン（16本）	3523 4428 000	

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

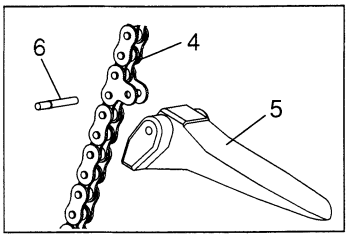
［4条型］

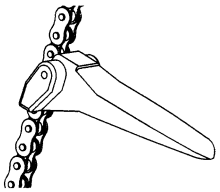
引起し関係



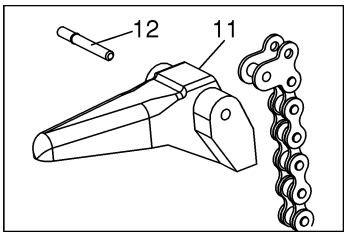


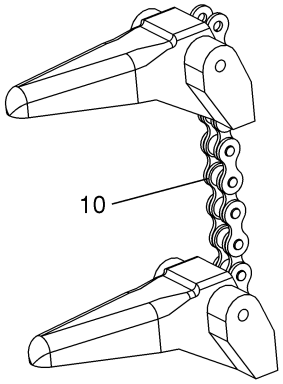
・穂先搬送関係



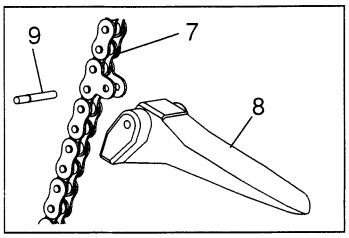


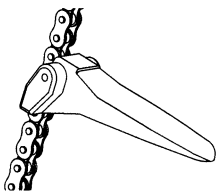
穂先排ワラ





かき込み搬送関係（左）

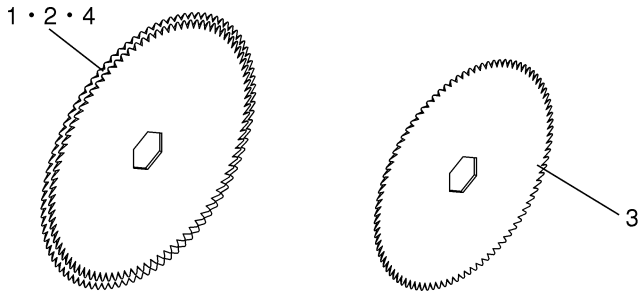




No.	部　品　名　称	部　品　番　号	備　　考
1	チェン（4本）	3520 4438 000	引起し搬送
2	ツ　メ（40本）	3586 4419 000	
3	ピ　ン（40本）	3523 4428 000	
4	チェン（1本）	3583 5232 001	穂先搬送
5	ツ　メ（31本）	3193 3338 000	
6	ピ　ン（31本）	3523 4428 000	
7	チェン（1本）	3583 4922 000	かき込み搬送（左）
8	ツ　メ（10本）	3193 3338 000	
9	ピ　ン（10本）	3523 4428 000	
10	チェン（1本）	3583 7841 001	穂先排ワラ
11	ツ　メ（16本）	3579 5295 201	
12	ピ　ン（16本）	3523 4428 000	

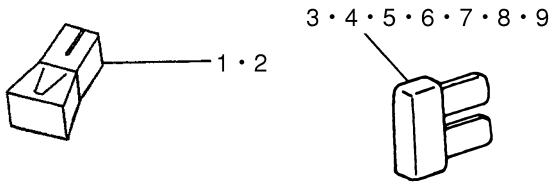
・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

2. カッタ関係



No.	部品名称	部品番号	個数（1セット分）	
			DMY463	DMY463S
1	ノコ刃（φ170）	3574 8785 000	10	17
2	ノコ刃（φ200）	3829 0414 000	6	6
3	スターホイル刃	3574 8808 000	16	23
4	ノコ刃（φ160）	3830 0415 000	−	−

3. ヒューズ

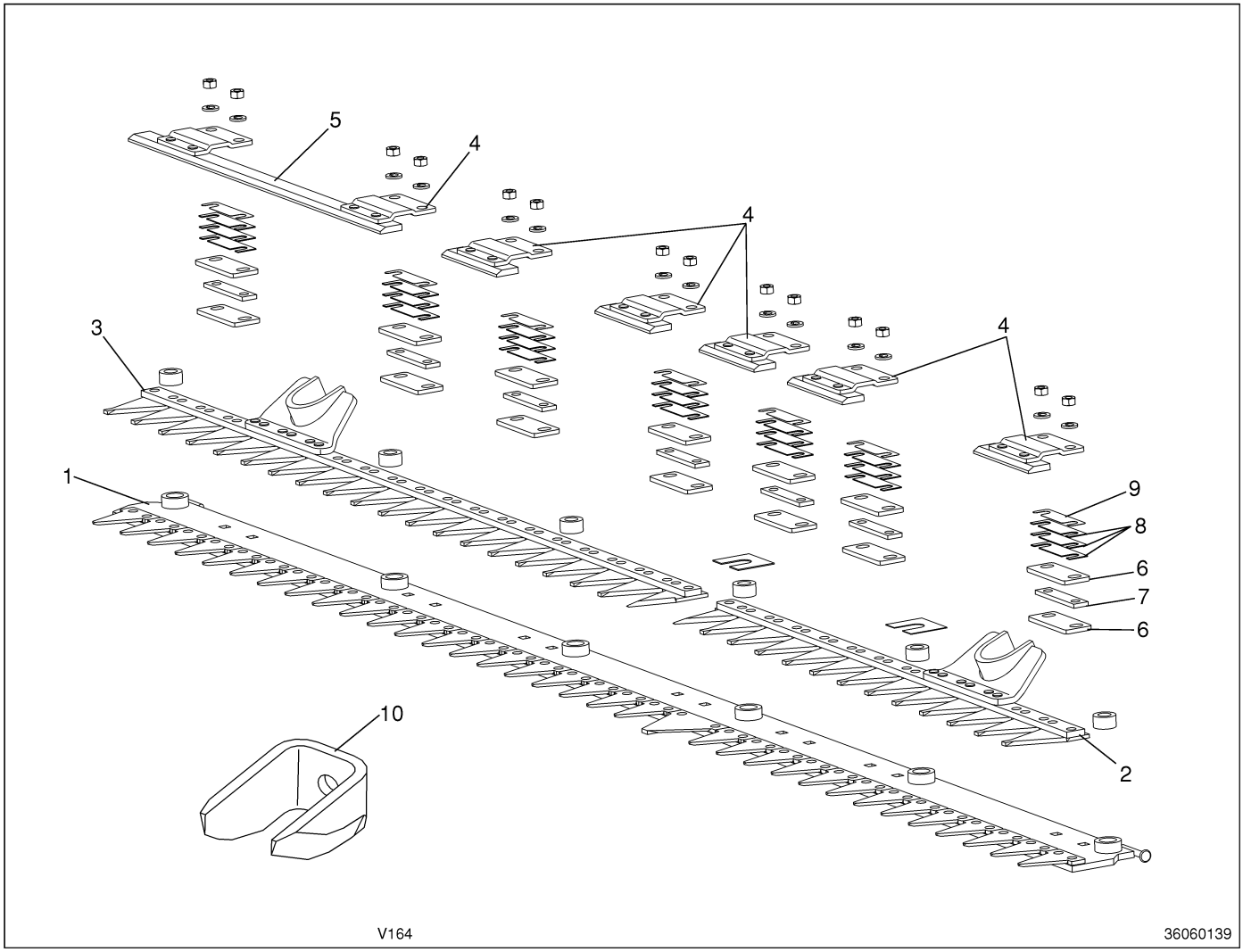


No.	部品名称	部品番号	備考
1	ヒューズ	3559 0861 200	40A（グレンオーガ旋回モータ用）
2	ヒューズ	1037 5502 200	60A（メイン）
3	ヒューズ	0980 1001 006	10A
4	ヒューズ	0980 1001 506	15A
5	ヒューズ	0980 1002 006	20A
6	ヒューズ	0980 1003 006	30A
7	ヒューズ	0980 1002 005	20A（ファンベルトクラッチ）
8	ヒューズ	0980 1003 005	30A（防塵電動ファン）
9	ヒューズ	0980 1003 505	5A（バックモニタ）

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

4. 刈刃・カマ関係

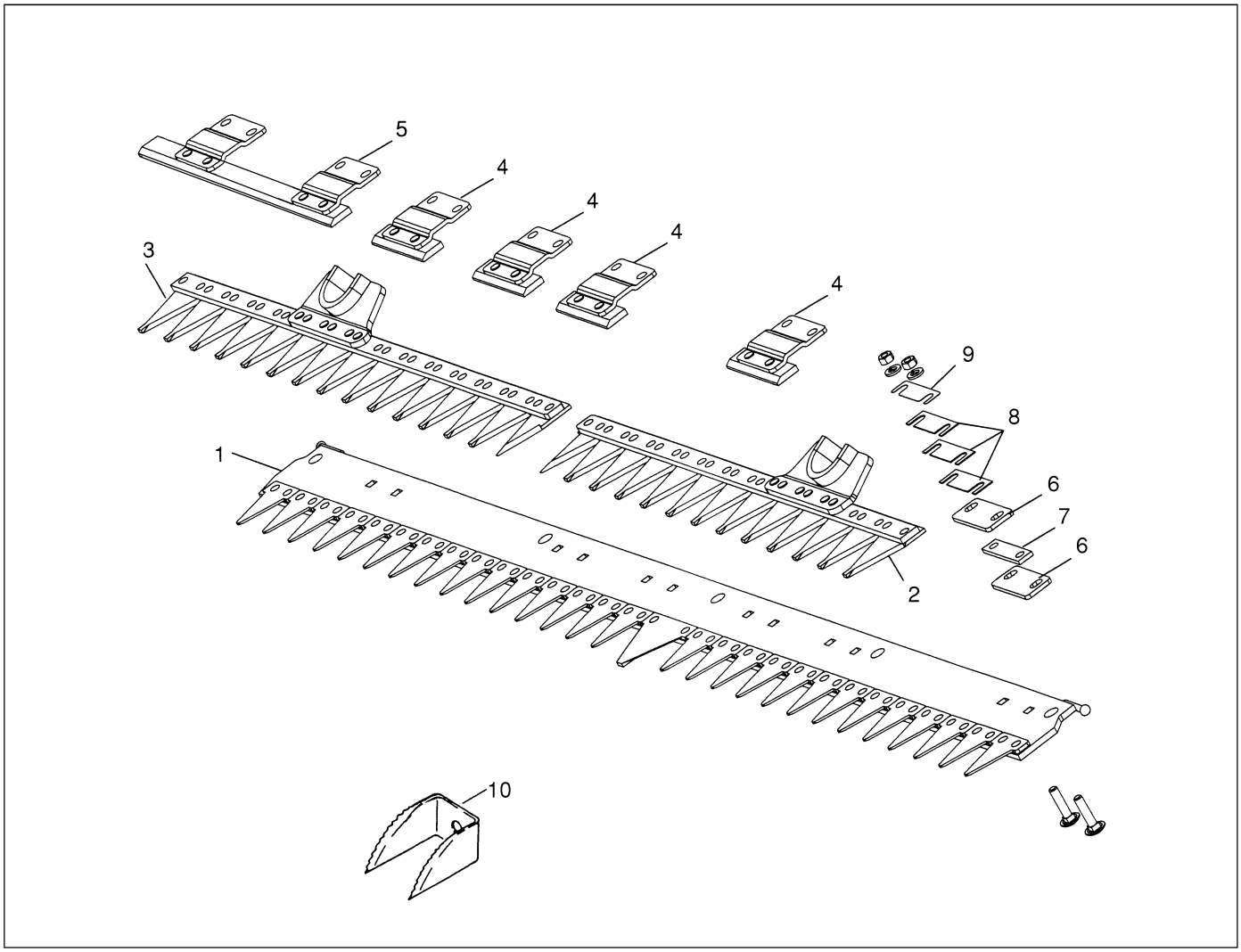
［5条型］



No.	部品名称	部品番号	備考
1~10	カリハアッセンブリ	3607 4351 000	
1	ウケハダイ	3607 4352 000	
2	ウエハヒダリアッシ	3595 4355 000	
3	ウエハミギアッシ	3607 4359 000	
4	ナイフクリップ（5個）	3583 4368 000	
5	ナイフクリップ（1個）	3584 4364 000	
6	スライドプレート（14個）	3532 4365 200	
7	ライナ（7個）	3532 4365 300	
8	シム（21個）	3532 4365 400	t ＝0.8㎜
9	シム	3532 4365 500	t ＝0.2㎜
10	ワラキリカマ（14個）	3735 7321 001	

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

［4条型］



No.	部品名称	部品番号	備考
1~10	カリハアッセンブリ	3595 4351 000	
1	ウケハダイアッシ	3595 4352 000	
2	ウエハヒダリアッシ	3595 4355 000	
3	ウエハミギアッシ	3595 4359 000	
4	ナイフクリップ（4個）	3583 4368 000	
5	ナイフクリップ（1個）	3583 4364 001	
6	スライドプレート（12個）	3532 4365 200	
7	ライナ（6個）	3532 4365 300	
8	シム（18個）	3532 4365 400	t＝0.8㎜
9	シム	3532 4365 500	t＝0.2㎜
10	ワラキリカマ（14個）	3735 7321 001	

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

4．付属品一覧表

No	品　　名	個　数	備　　考
1	取扱説明書	1	
2	バンパ（スナップピン付き）	1	
3	コンバインシート	1	
4	保証書	1	
5	メンテナンスノート	1	
6	キー（4 ×12）	4	引起し伝動部

5．アタッチメント（別売り）

	型　　式	品　　名	備　　考
基本作業機・部品	KN－Y463	自動スライドノッタ	株元・穂先結束両用，大玉バスケット付
	R－KSY60	スタンド装置	
	S－Y60D	ディスクカッタ用ドロッパ	
	D－KNVY1	ノッタ用ドロッパ	
	SP－Y60W	スーパーデバイダ	2 連
	SP－Y463TQ	スーパーデバイダ	3 連用追加キット
	SP－G563F	スーパーデバイダ	
	VY463－VG563	オーガ先端操作キット	
	CH－60	コンバインフード	
	Y463－H－KIT	方向自動キット	

6．潤滑油について

オイルは，三菱純正オイルをお奨めします。

1．エンジンオイル

メーカ	商品名
三菱農機純正油	スーパーマルチSTOUオイル（SAE・10W－30，SD/CD/GL－4） スーパーマルチGDオイル（SAE・10W－30，SL/CF）
全農	クミアイディーゼルオイルCFマルチ（SAE・10W－30）
JX日鉱日石エネルギー	ファームユニバーサルオイル

・やむをえず他メーカのオイルを使用される場合は，APIサービス分類CF級オイルをお使いください。

2．油圧作動油

メーカ	商品名
三菱農機純正油	スーパーマルチSTOUオイル（SAE・10W－30，SD／CD／GL－４）
JX日鉱日石エネルギー	スーパーハイランド46

3．ギヤオイル

メーカ	商品名
三菱農機純正油	マルチSHPギヤオイル（SAE90，GL－5）
JX日鉱日石エネルギー	スーパーハイポイドギヤ（SAE90，GL－５　SAE140，GL－5）

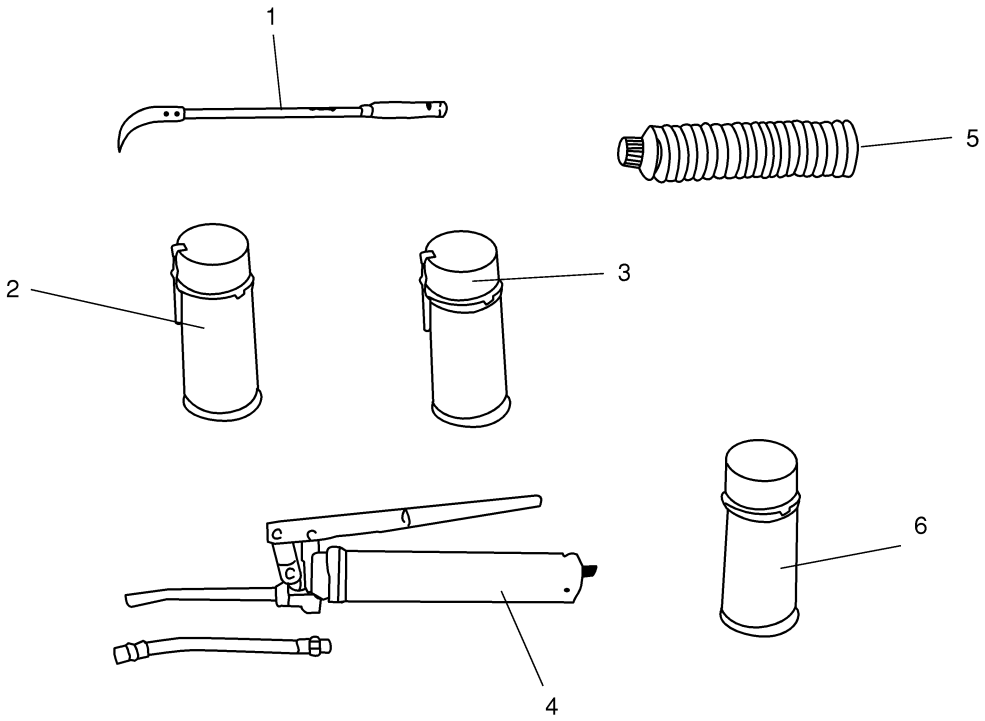
取扱いのポイント

● トランスミッションケースのオイルは，ギヤオイルAPI・GL－5，SAE・90を使用してください。

7．コンバイン関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No.	商　品　名	商　品　番　号		
1	万能鎌（ノコ刃）	S309DX	土，ワラの除去に最適	
2	ダイヤスプレー（防錆・潤滑）	K1－420DX	金属部品の防錆，潤滑	
3	スプレーグリス	SP300	金属部品の防錆，潤滑	
4	グリースポンプ	N850－666	フレキシブルパイプ付	
5	グリース	NMP400	グリースポンプ詰替え用	
6	カラースプレー（グレー）	0975　0000　690	（BN色）	補修用塗料
	〃　（ハイグレードグレー）	0975　0000　710	（BR色）	
	〃　（白）	0975　0000　650	（ZC色）	
	〃　（黒）	0975　0000　470	（AG色）	



・ご用命のときは，「商品番号」・「商品名」をお知らせください。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式

機械番号(製造番号)

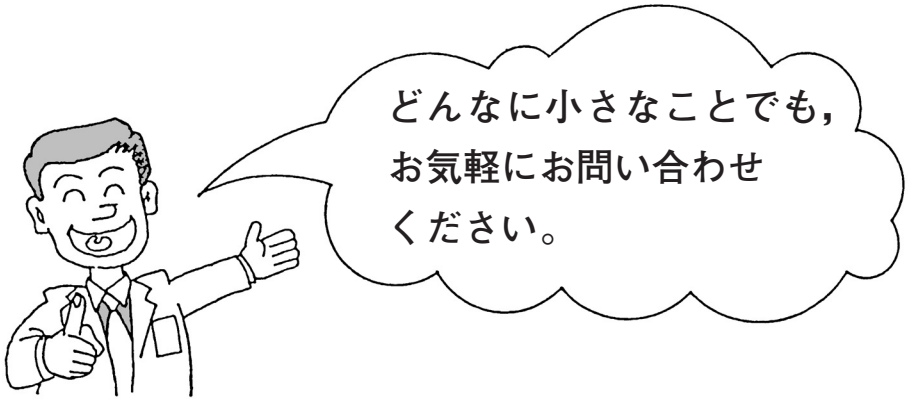
●ご使用状況は…？

(どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL　　(　　)